

新居浜市こども計画アンケート調査

結果報告書

令和7年 10月
新居浜市

I 調査概要	1
1 調査目的	1
2 調査設計	1
3 報告書の見方	1
4 回収数（率）	1
II 調査結果	2
1 自身のことについて	2
1 属性	2
2 家族構成	3
3 仕事について	4
4 経済状況	5
2 普段の生活について	6
1 自身にあてはまること	6
2 悩みについて	16
3 自身の居場所について	24
3 交際・恋愛・結婚に関する考え方について	36
1 恋愛に関する考え方について	36
2 結婚のきっかけについて	39
3 結婚や同棲の必要性について	42
4 結婚生活における不安	44
5 親としてこどもに伝えたいこと	47
4 出産や子育てに関する考え方について	53
1 希望するこどもの数と実際のこどもの数	53
2 子育てにおける経済的負担について	59
3 こどもを持つことについての考え方	62
4 少子化対策について	65
5 若者の意見の反映について	67
1 市政への参画について	67
2 意見の反映について	70
6 これからの生活について	71
1 生活の満足度	71
2 自身が生まれ育った場所	73
3 新居浜市への居住意向	74
4 情報の取得について	79
5 自身のこれからの生活について	81
6 自由意見	83
III 愛媛県こどもの生活に関する調査 調査結果	87
1 調査対象：保護者	87
2 調査対象：小学5年生・中学2年生・高校2年生	106
IV 調査結果のまとめ	126

1 18歳～39歳の市民	126
2 こども（県調査）	1288

I 調査概要

1 調査目的

本調査は、「新居浜市こども計画」の策定に向け、次代を担う 18 歳～39 歳の皆様の意見を伺い、得られた意見やデータを計画に反映させることを目的とし実施するものです。

2 調査設計

調査対象	市内在住の 18 歳～39 歳の方から無作為抽出
調査実施期間	令和 7 年 8 月 1 日～8 月 31 日
調査方法	郵送による配布・回収及び Web 回答
調査数	1,000 人
回収数（率）	374 人 (37.4%)

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=○○) と表示する。各比率はすべてを 100% として百分率で表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出している。そのために、百分率の合計が 100% にならないことがある。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答の合計は回答者数を上回ることがある。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。

4 回収数（率）

- (1) 計画策定の基礎資料として十分信頼性がある。
回収率 30% を超えると、統計的な隔たりが一定程度抑えられ、分析に耐えうる母集団として評価できます。
- (2) 属性別分析も可能な水準である。
37.4% であれば、性別・年代・地域などに分けてもある程度の傾向分析が可能です。

II 調査結果

1 自身のことについて

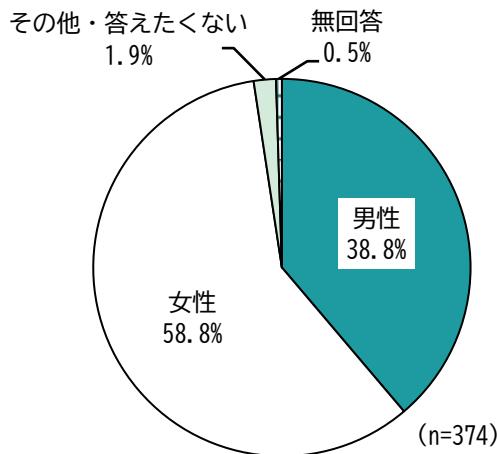
1 属性

問1 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

【全体の傾向】

「男性」が58.8%、「女性」が28.8%、「その他・答えたたくない」が1.9%となっています。

図表1 性別（全体）

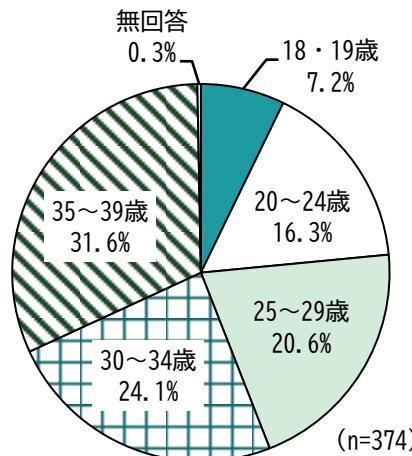


問2 あなたの年齢をお答えください。(○は1つ)

【全体の傾向】

「35～39歳」が31.6%で最も高く、次いで「30～34歳」(24.1%)、「25～29歳」(20.6%)となっています。

図表2 年齢（全体）



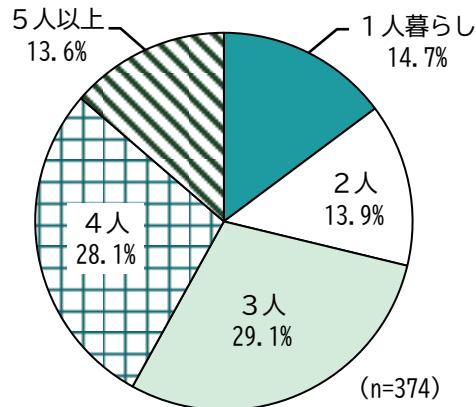
2 家族構成

問3 あなたが一緒に暮らしている人は、あなたを含めて何人ですか。

【全体の傾向】

「3人」が 29.1%で最も高く、次いで「4人」(28.1%)、「1人暮らし」(14.7%) となっています。

図表 3 同居人数（全体）



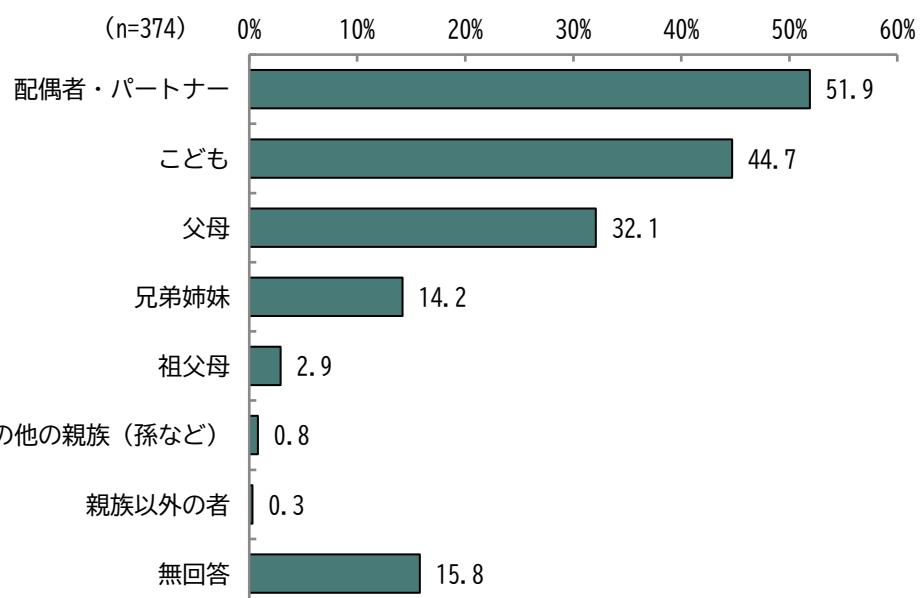
問3で「2人以上」と回答した方

問3-1 あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「配偶者・パートナー」が 51.9%で最も高く、次いで「こども」(44.7%)、「父母」(32.1%) となっています。

図表 4 続柄（全体／複数回答）



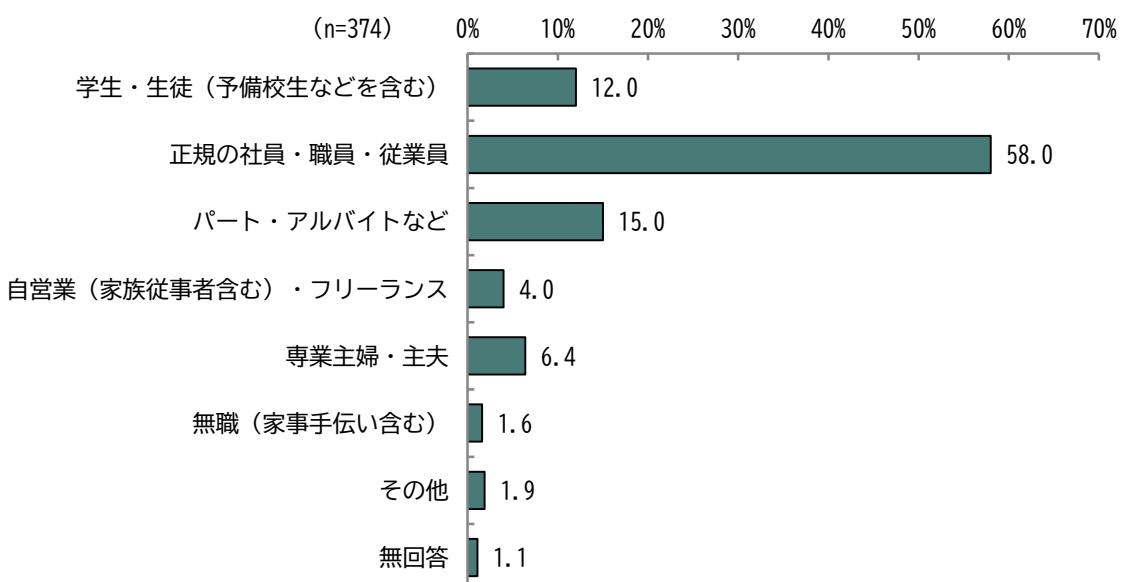
3 仕事について

問4 あなたの現在の仕事をお答えください。(○は1つ)

【全体の傾向】

「正規の社員・職員・従業員」が 58.0%で最も高く、次いで「パート・アルバイトなど」(15.0%)、「学生・生徒（予備校生などを含む）」(12.0%) となっています。

図表 5 職業（全体）



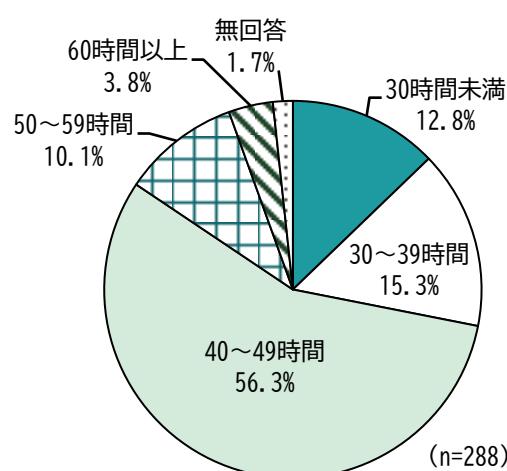
問4で「正規の社員・職員・従業員」～「自営業（家族従事者含む）・フリーランス」と回答した方

問4-1 あなたの現在（普段）のお仕事では、1週間に平均何時間働いていますか。1週あたりの合計時間でお答えください。(○は1つ)

【全体の傾向】

「40～49 時間」が 56.3%で最も高く、次いで「30～39 時間」(15.3%)、「30 時間未満」(12.8%) となっています。

図表 6 就労時間（全体）



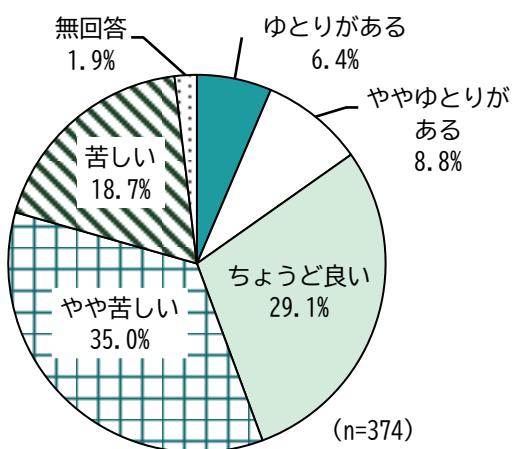
4 経済状況

問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

「やや苦しい」が35.0%で最も高く、「苦しい」(18.7%)を合わせると、53.7%が『経済的に苦しい』と感じています。一方、「ゆとりがある」(6.4%)と「ややゆとりがある」(8.8%)を合わせた、『経済的にゆとりがある』と感じている割合は15.2%となっています。また、「ちょうど良い」は29.1%となっています。

図表 7 経済状況（全体）



2 普段の生活について

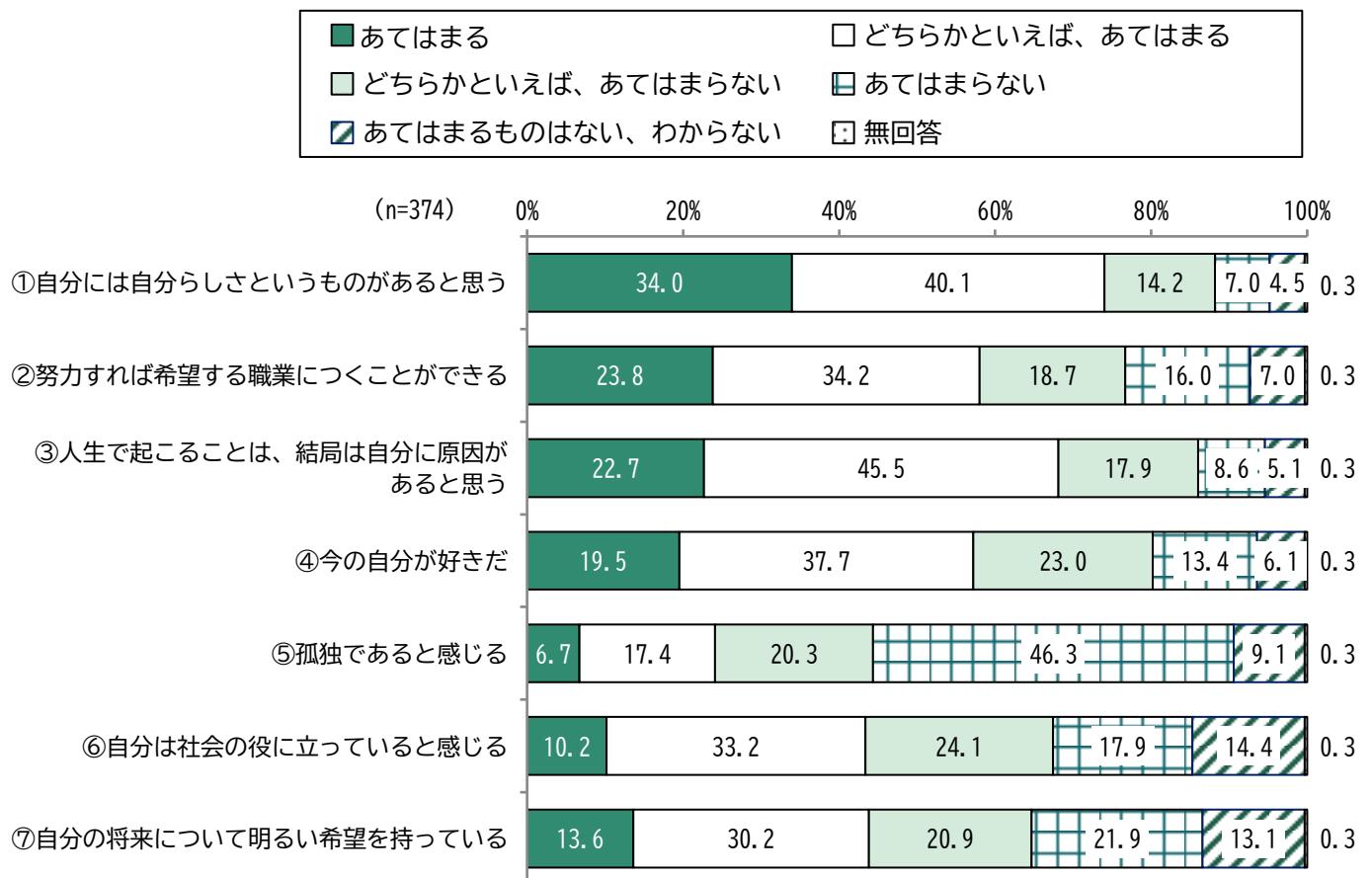
1 自身にあてはまること

問6 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか（それぞれ○は1つ）

【全体の傾向】

「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた『自身にあてはまる』割合が最も高いのは、①自分には自分らしさというものがあると思うで 74.1% となっています。また、②努力すれば希望する職業につくことができる、③人生で起こることは、結局自分に原因があると思う、④今の自分が好きだにおいても『自身にあてはまる』が半数以上を占めています。一方、⑤孤独であると感じるでは、『自身にあてはまる』割合が 24.1% と他に比べて低くなっています。

図表 8 自身にあてはまること（全体）



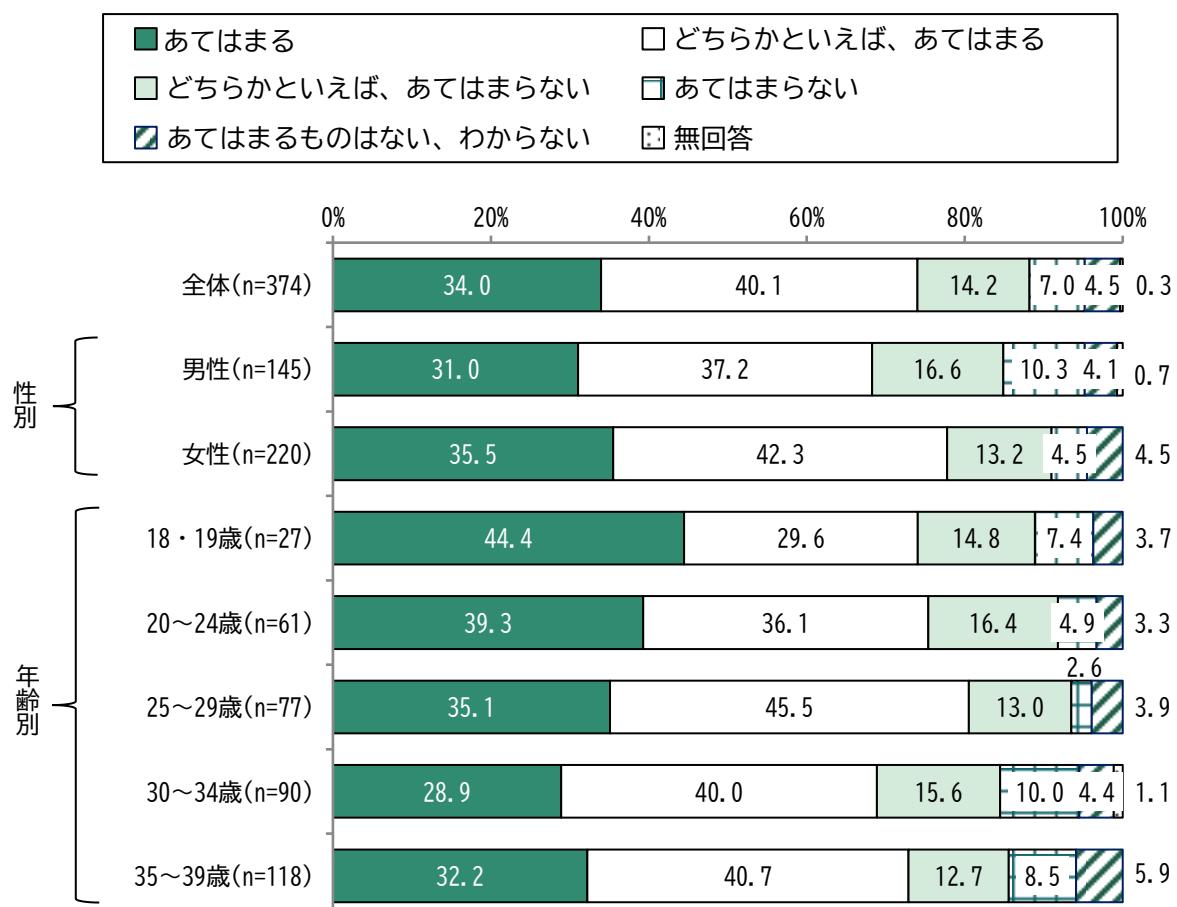
【属性別の傾向】

① 自分には自分らしさというものがあると思う

性別にみると、『自身にあてはまる』割合は、女性（77.8%）が男性（68.2%）を上回っています。

年齢別にみると、『自身にあてはまる』割合が最も高いのは、25～29歳（80.6%）となっていて、他の年齢でも6割以上を占めています。

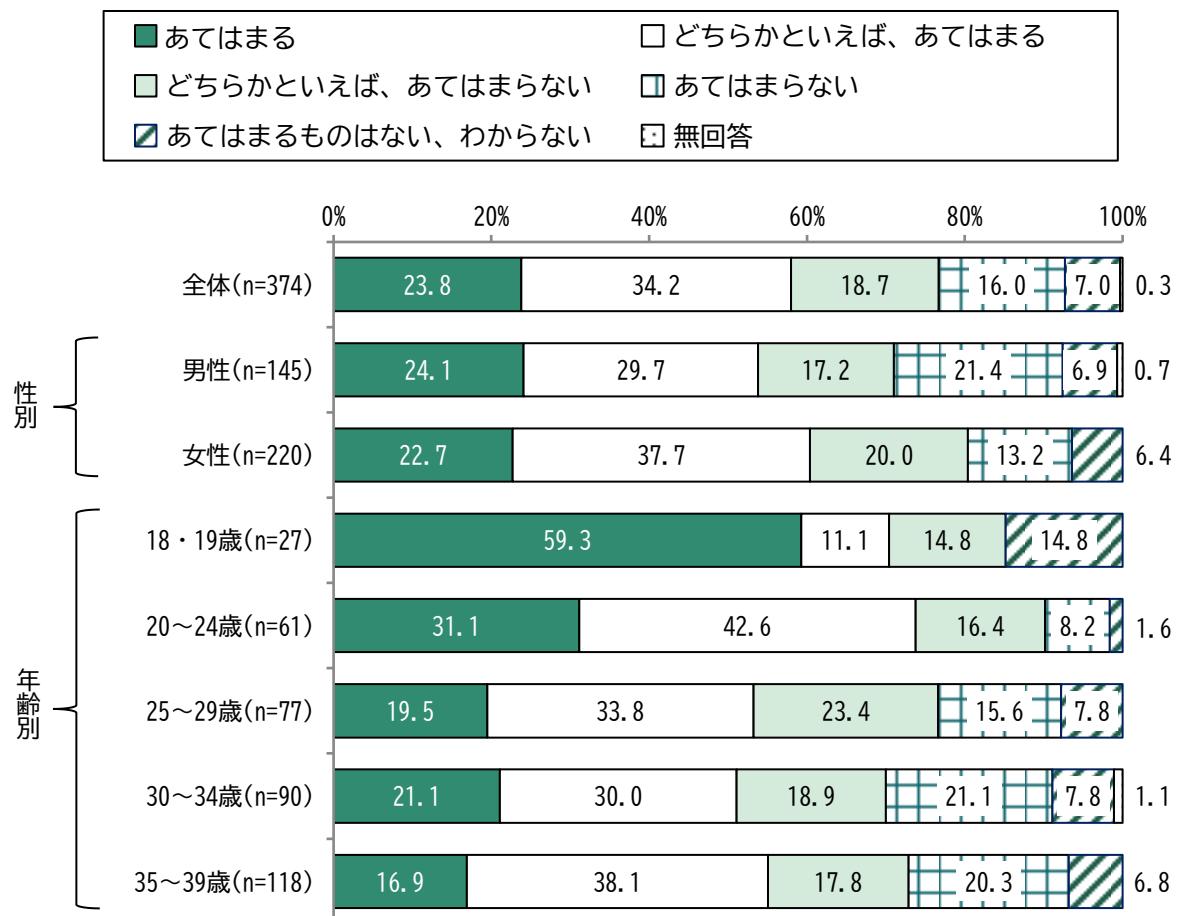
図表 9 ①自分には自分らしさというものがあると思う（全体、性別、年齢別）



② 努力すれば希望する職業につくことができる

性別にみると、『自身にあてはまる』割合は、女性（60.4%）が男性（53.8%）を上回っています。年齢別にみると、『自身にあてはまる』割合は、18～24歳で7割以上を占め特に高くなっています。また、18・19歳では「あてはまる」が59.3%と他の年齢に比べて高くなっています。

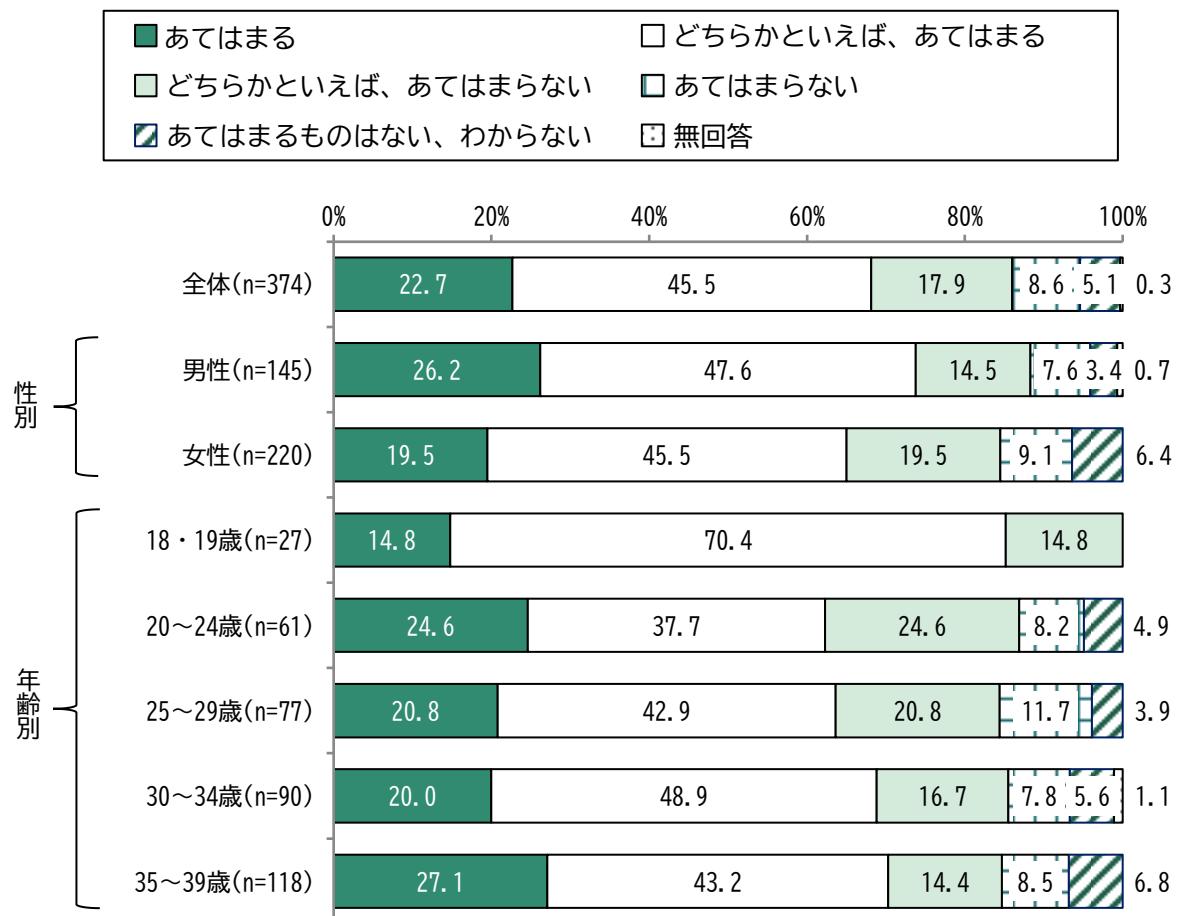
図表 10 ②努力すれば希望する職業につくことができる（全体、性別、年齢別）



③ 人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う

性別にみると、『自身にあてはまる』割合は、男性（73.8%）が女性（65.0%）を上回っています。年齢別にみると、『自身にあてはまる』割合は、いずれの年齢においても6割以上を占めていますが、18・19歳（85.2%）で特に高くなっています。

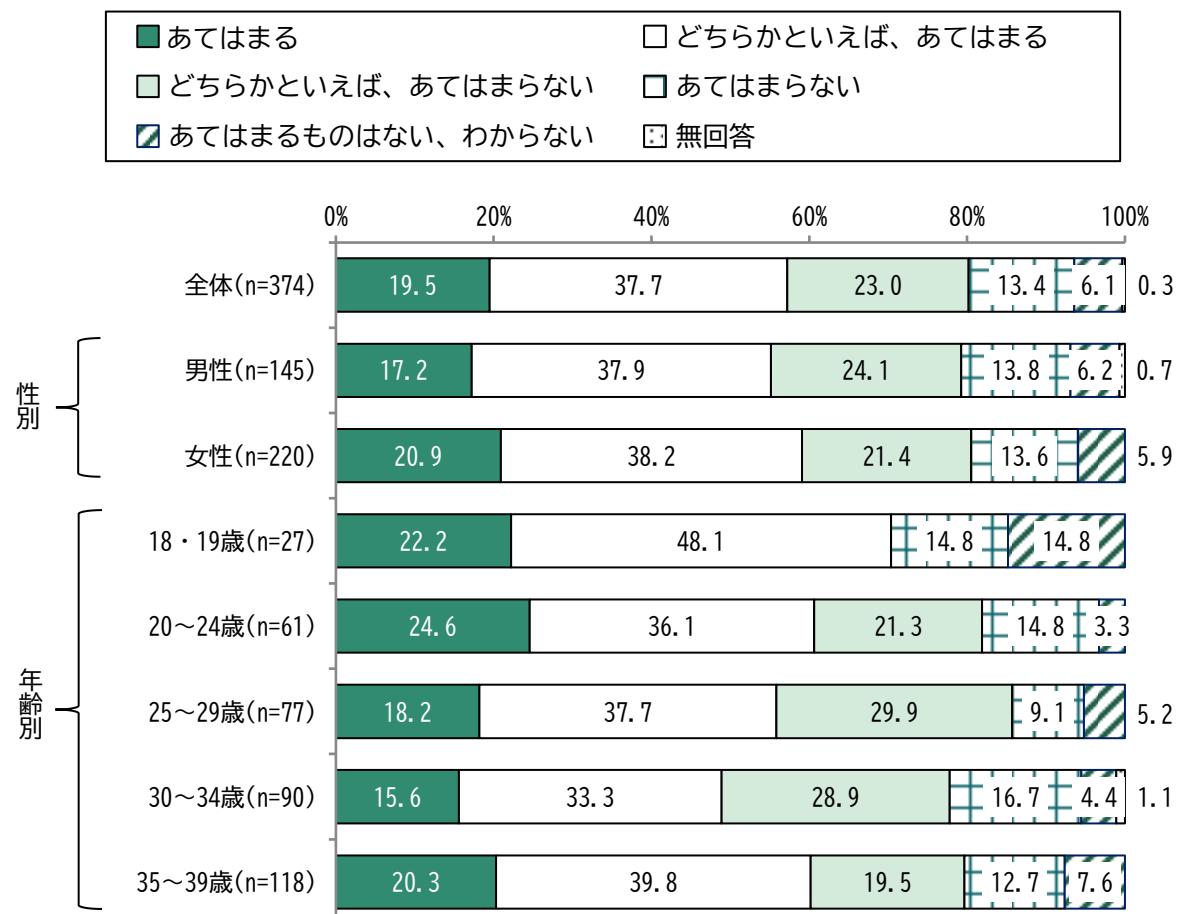
図表 11 ③人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う（全体、性別、年齢別）



④ 今の自分が好きだ

性別にみると、『自身にあてはまる』割合は、女性（59.1%）が男性（55.1%）を上回っています。年齢別にみると、『自身にあてはまる』割合が最も高いのは、18・19歳（70.3%）となっています。一方、30～34歳（48.9%）では半数以下となっています。

図表 12 ④今の自分が好きだ（全体、性別、年齢別）

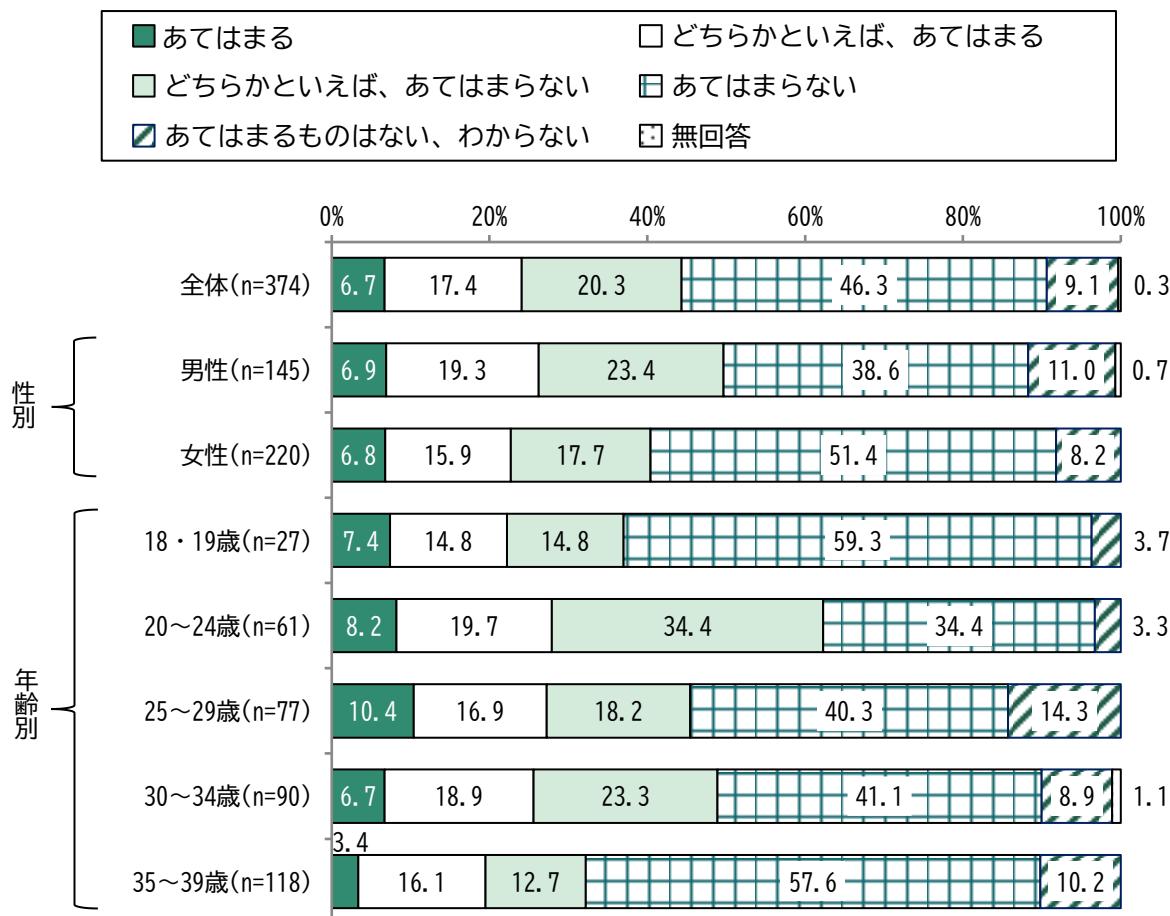


⑤ 孤独であると感じる

性別にみると、『自身にあてはまる』割合は、男性（26.2%）が女性（22.7%）を上回っています。

年齢別にみると、『自身にあてはまる』割合が最も高いのは、20～24歳（27.9%）となっています。

図表 13 ⑤孤独であると感じる（全体、性別、年齢別）

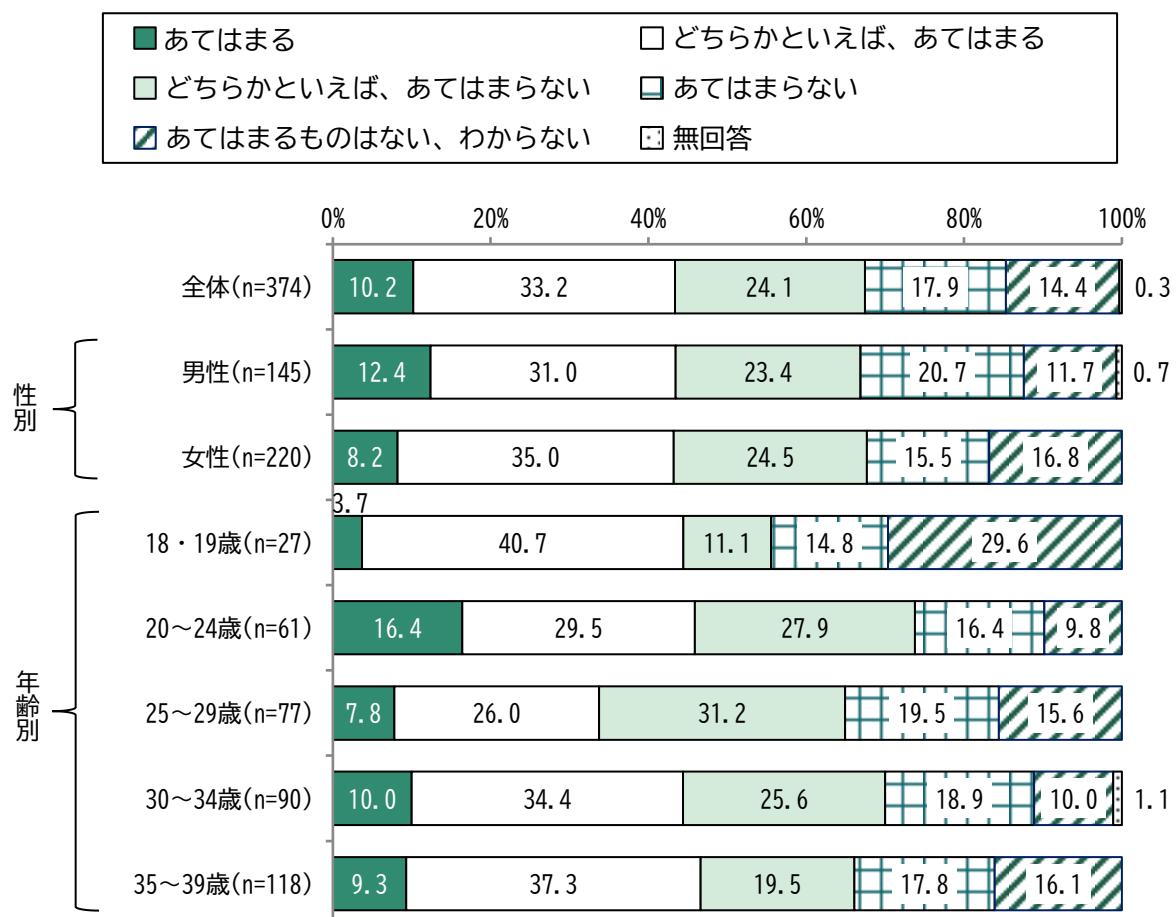


⑥ 自分は社会の役に立っていると感じる

性別にみると、『自身にあてはまる』割合は、男性（43.4%）と女性（43.2%）で大きな違いはみられません。

年齢別にみると、『自身にあてはまる』割合が最も高いのは、35～39歳（46.6%）となっています。

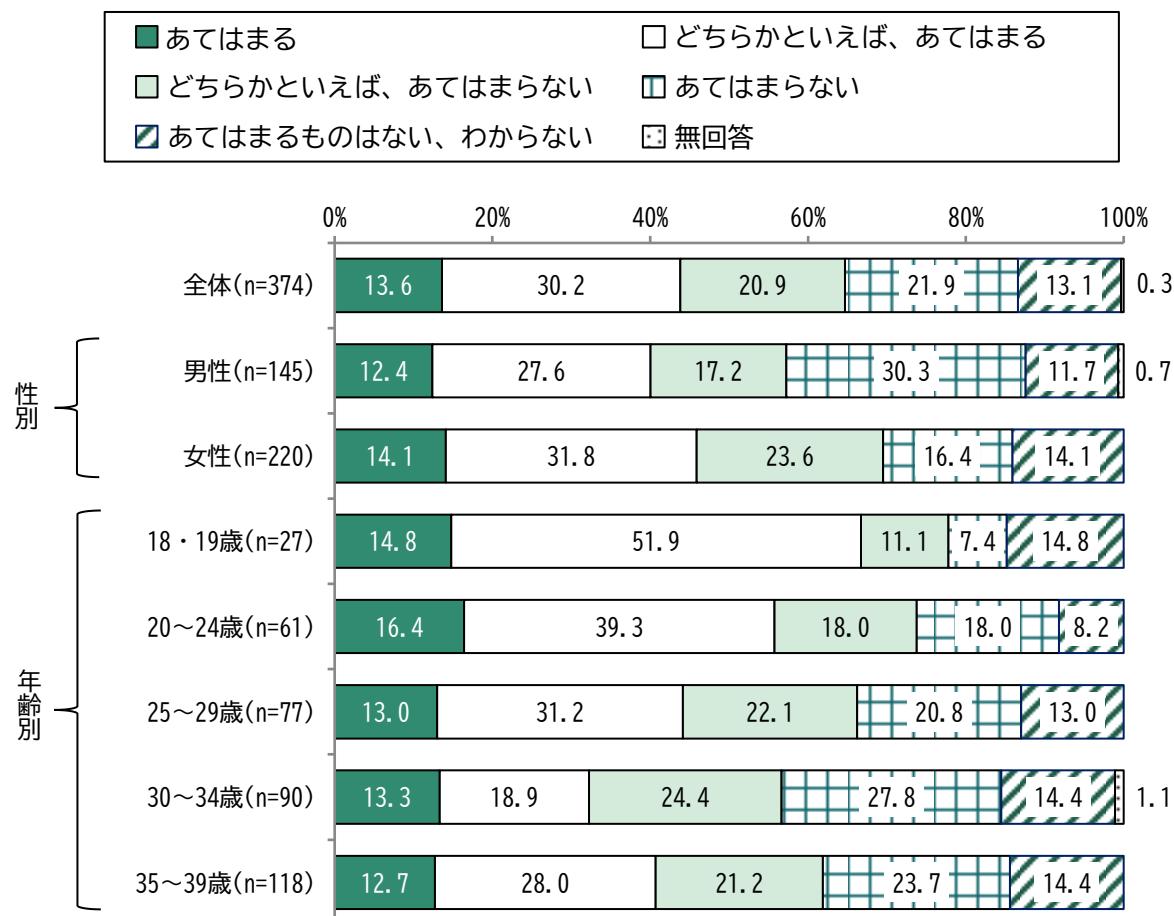
図表 14 ⑥自分は社会の役に立っていると感じる（全体、性別、年齢別）



⑦ 自分の将来について明るい希望を持っている

性別にみると、『自身にあてはまる』割合は、女性（45.9%）が男性（40.0%）を上回っています。年齢別にみると、『自身にあてはまる』割合が最も高いのは、18～19歳（66.7%）となっています。一方、30～34歳（32.2%）では4割以下となっています。

図表 15 ⑦自分の将来について明るい希望を持っている（全体、性別、年齢別）



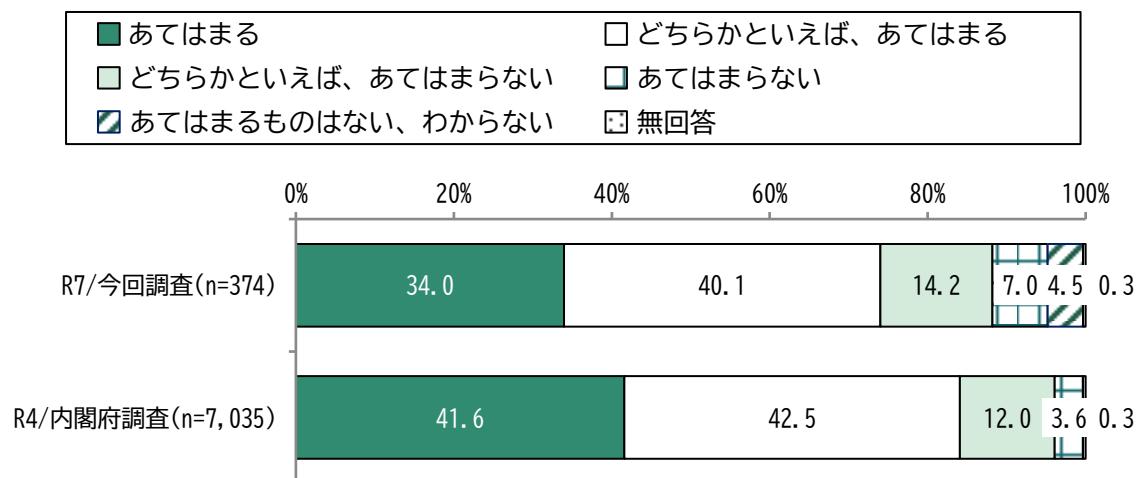
【内閣府調査との比較】

※新居浜市と共に項目のみ比較している。また、内閣府調査には「あてはまるものはない、わからない」の選択肢がない。

① 自分には自分らしさというものがあると思う

内閣府調査と比較すると、『自身にあてはまる』割合が 10.0 ポイント下回っています。

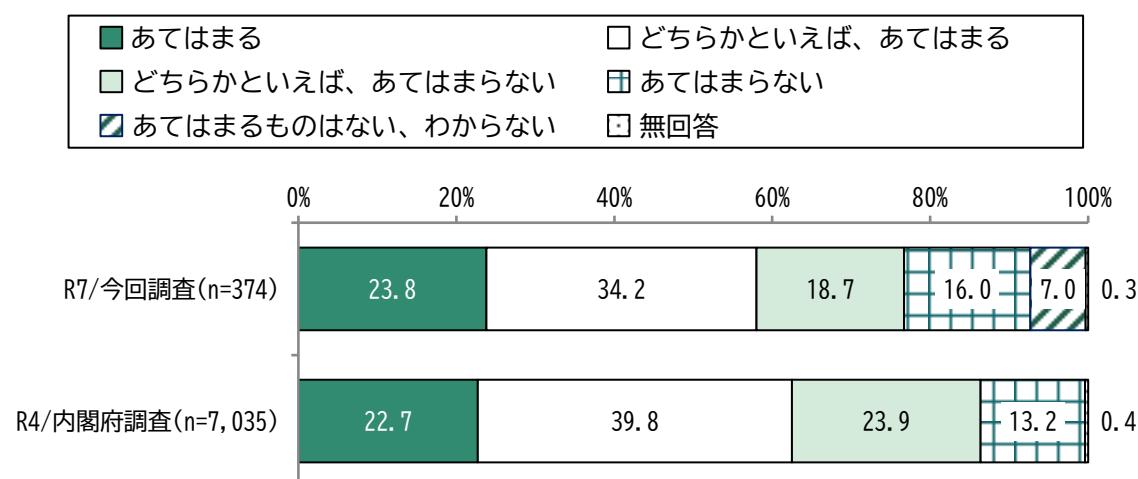
図表 16 ①自分には自分らしさというものがあると思う（全体、内閣府調査との比較）



② 努力すれば希望する職業につくことができる

内閣府調査と比較すると、『自身にあてはまる』割合が 4.5 ポイント下回っています。

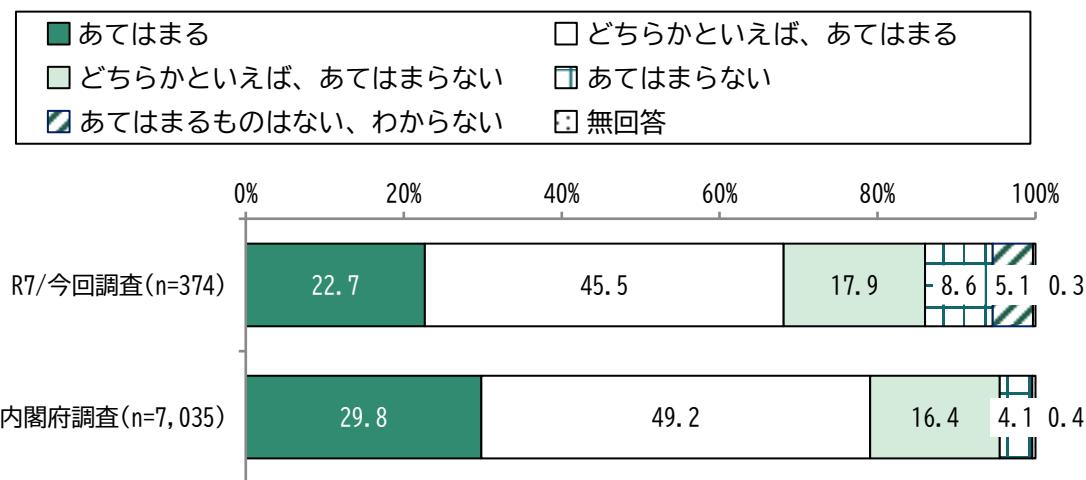
図表 17 ②努力すれば希望する職業につくことができる（全体、内閣府調査との比較）



③ 人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う

内閣府調査と比較すると、『自身にあてはまる』割合が10.8ポイント下回っています。

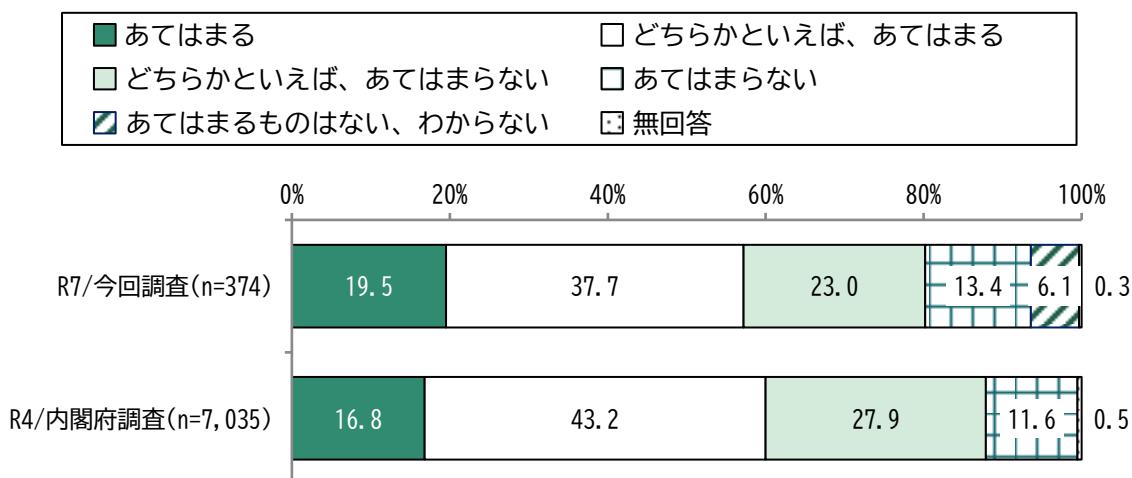
図表 18 ③人生で起こることは、結局は自分に原因があると思う（全体、内閣府調査との比較）



④ 今の自分が好きだ

内閣府調査と比較すると、『自身にあてはまる』割合が2.8ポイント下回っています。

図表 19 ④今の自分が好きだ（全体、内閣府調査との比較）



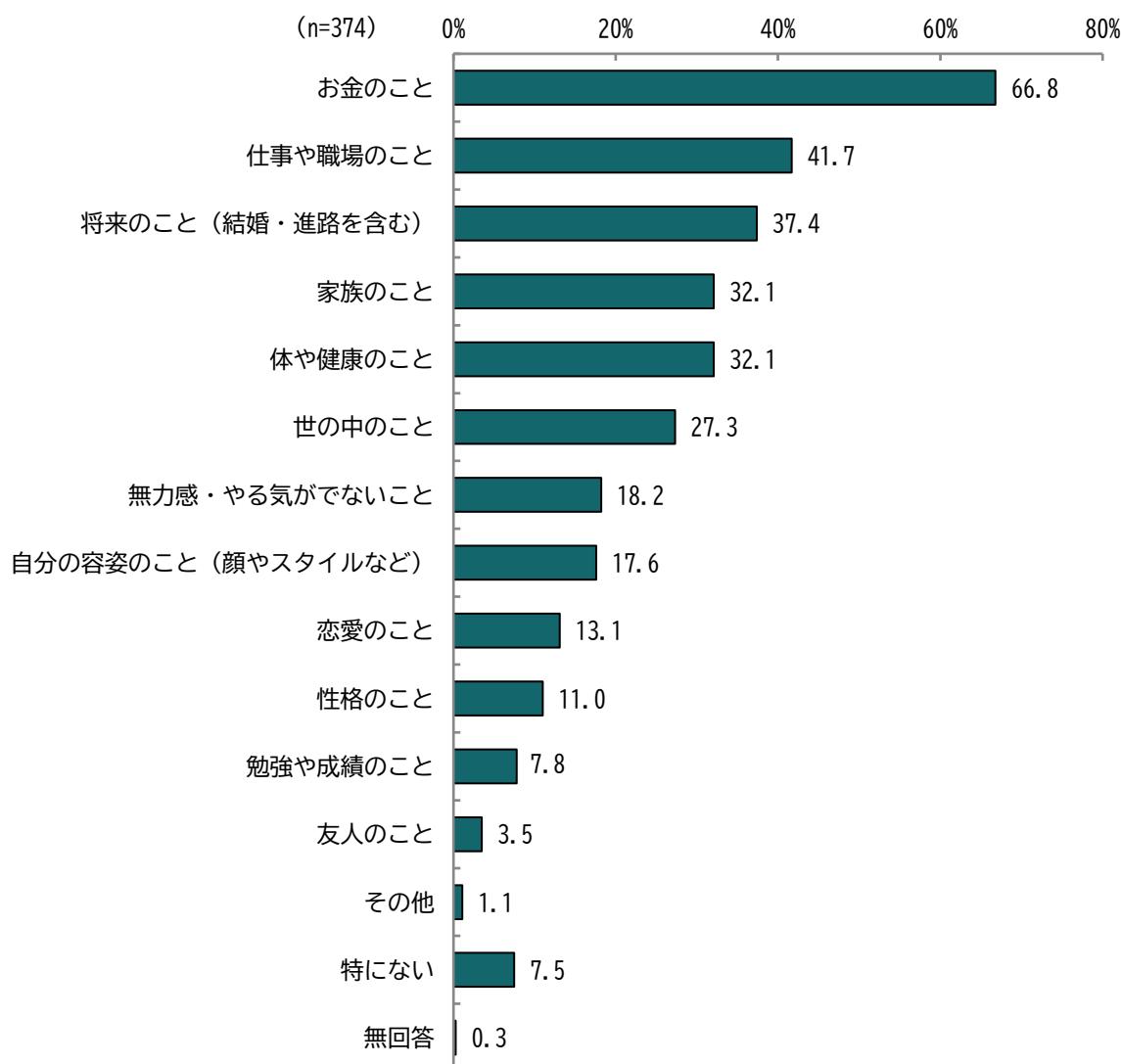
2 悩みについて

問7 あなたが今、悩んでいることは何ですか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「お金のこと」が 66.8%で最も高く、次いで「仕事や職場のこと」(41.7%)、「将来のこと（結婚・進路を含む）」(37.4%) となっています。

図表 20 現在の悩み（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男女で順位に差はみられませんが、「お金のこと」については女性のほうが高く、「仕事や職場のこと」については男性のほうが高くなっています。

年齢別にみると、18・19歳では「将来のこと（結婚・進路を含む）」が第1位となっていますが、20歳以上では「お金のこと」が第1位となっています。

図表 21 現在の悩み（全体、性別、年齢別／複数回答）

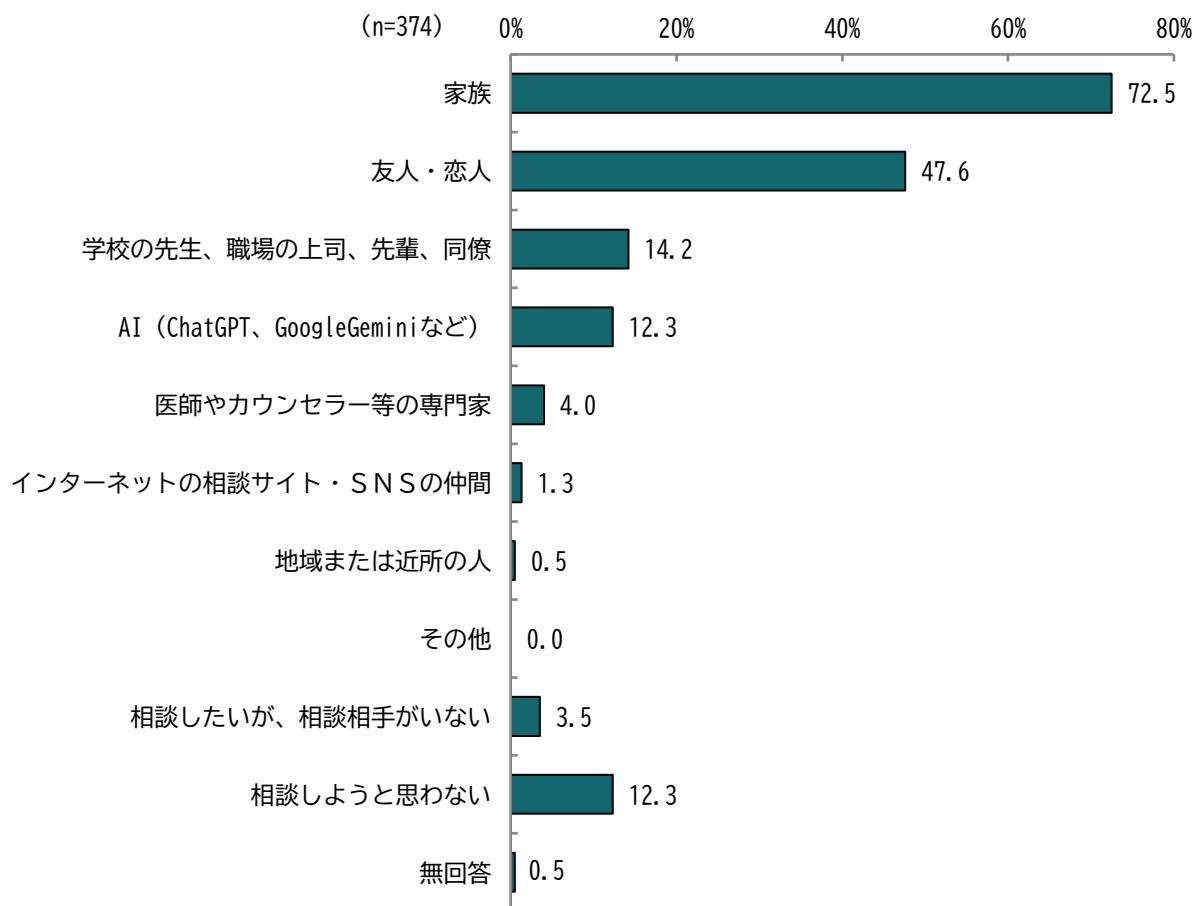
		上位3位 (%)		
		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=374)	お金のこと	仕事や職場のこと	将来のこと（結婚・進路を含む）
		66.8	41.7	37.4
	男性(n=145)	お金のこと	仕事や職場のこと	将来のこと（結婚・進路を含む）
		59.3	47.6	37.9
	女性(n=220)	お金のこと	仕事や職場のこと	将来のこと（結婚・進路を含む）
		71.8	37.7	36.8
年齢別	18・19歳(n=27)	将来のこと（結婚・進路を含む）	お金のこと	勉強や成績のこと
		51.9	40.7	29.6
	20～24歳(n=61)	お金のこと	将来のこと（結婚・進路を含む）／仕事や職場のこと	
		49.2		44.3
	25～29歳(n=77)	お金のこと	仕事や職場のこと	家族のこと
		63.6	40.3	32.5
	30～34歳(n=90)	お金のこと	仕事や職場のこと	将来のこと（結婚・進路を含む）
		83.3	48.9	41.1
	35～39歳(n=118)	お金のこと	家族のこと	仕事や職場のこと
		71.2	43.2	40.7

問8 あなたは、悩みや心配ごとを誰かに相談しますか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「家族」が 72.5%で最も高く、次いで「友人・恋人」(47.6%)、「学校の先生、職場の上司、先輩、同僚」(14.2%) となっています。

図表 22 悩みや心配ごとの相談相手 (全体／複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、第3位が、男性では「相談しようと思わない」となっているのに対し、女性では「AI (ChatGPT、GoogleGemini など)」となっています。

年齢別にみると、18～24歳では「友人・恋人」が第1位ですが、25歳以上では「家族」が第1位となっています。また、35～39歳では第3位に「学校の先生、職場の上司、先輩、同僚」が挙がっています。

図表 23 悩みや心配ごとの相談相手（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（%）

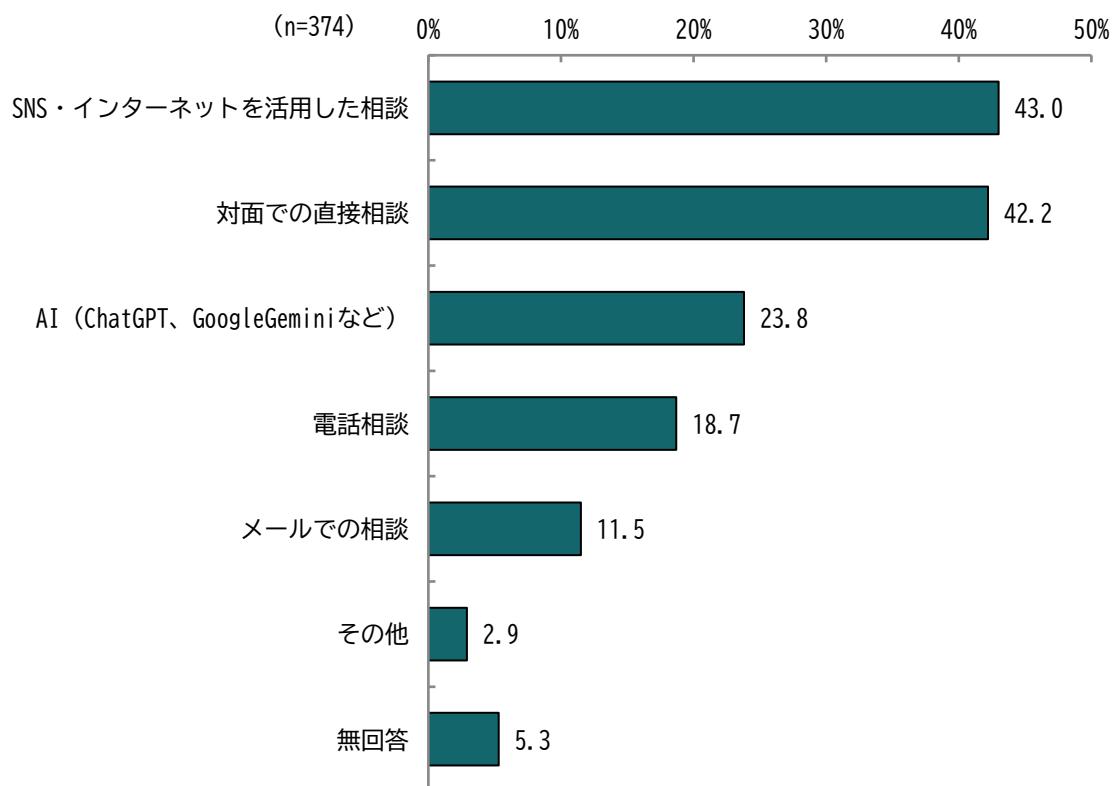
		第1位	第2位	第3位
全体(n=374)		家族	友人・恋人	学校の先生、職場の上司、先輩、同僚
		72.5	47.6	14.2
性別	男性(n=145)	家族	友人・恋人	相談しようと思わない
		60.0	34.5	19.3
	女性(n=220)	家族	友人・恋人	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		80.9	56.4	14.5
年齢別	18・19歳(n=27)	友人・恋人	家族	相談しようと思わない
		59.3	55.6	22.2
	20～24歳(n=61)	友人・恋人	家族	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)／相談しようと思わない
		70.5	65.6	13.1
	25～29歳(n=77)	家族	友人・恋人	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		77.9	51.9	18.2
	30～34歳(n=90)	家族	友人・恋人	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		72.2	36.7	13.3
	35～39歳(n=118)	家族	友人・恋人	学校の先生、職場の上司、先輩、同僚
		76.3	39.0	18.6

問9 どのような方法であれば相談しやすいと思いますか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「SNS・インターネットを活用した相談」が43.0%で最も高く、次いで「対面での直接相談」(42.2%)、「AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)」(23.8%)となっています。

図表 24 相談しやすいと思う方法（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男女で大差はみられません。

年齢別にみると、18～34歳では「SNS・インターネットを活用した相談」が第1位となっていますが、35～39歳では「対面での直接相談」が第1位となっています。また、25～29歳、35～39歳では「電話相談」が第3位に挙がっています。

図表 25 相談しやすいと思う方法（全体、性別、年齢別／複数回答）

		上位3位 (%)		
		第1位	第2位	第3位
全体(n=374)		SNS・インターネットを活用した相談	対面での直接相談	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		43.0	42.2	23.8
性別	男性(n=145)	SNS・インターネットを活用した相談	対面での直接相談	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		40.7	40.0	18.6
年齢別	女性(n=220)	SNS・インターネットを活用した相談	対面での直接相談	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		44.5	44.1	27.3
年齢別	18・19歳(n=27)	SNS・インターネットを活用した相談	対面での直接相談	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		48.1	40.7	29.6
	20～24歳(n=61)	SNS・インターネットを活用した相談	対面での直接相談	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		49.2	41.0	29.5
	25～29歳(n=77)	SNS・インターネットを活用した相談	対面での直接相談	電話相談／AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		49.4	48.1	19.5
年齢別	30～34歳(n=90)	SNS・インターネットを活用した相談	対面での直接相談	AI (ChatGPT、GoogleGeminiなど)
		45.6	34.4	30.0
年齢別	35～39歳(n=118)	対面での直接相談	SNS・インターネットを活用した相談	電話相談
		44.9	33.1	22.0

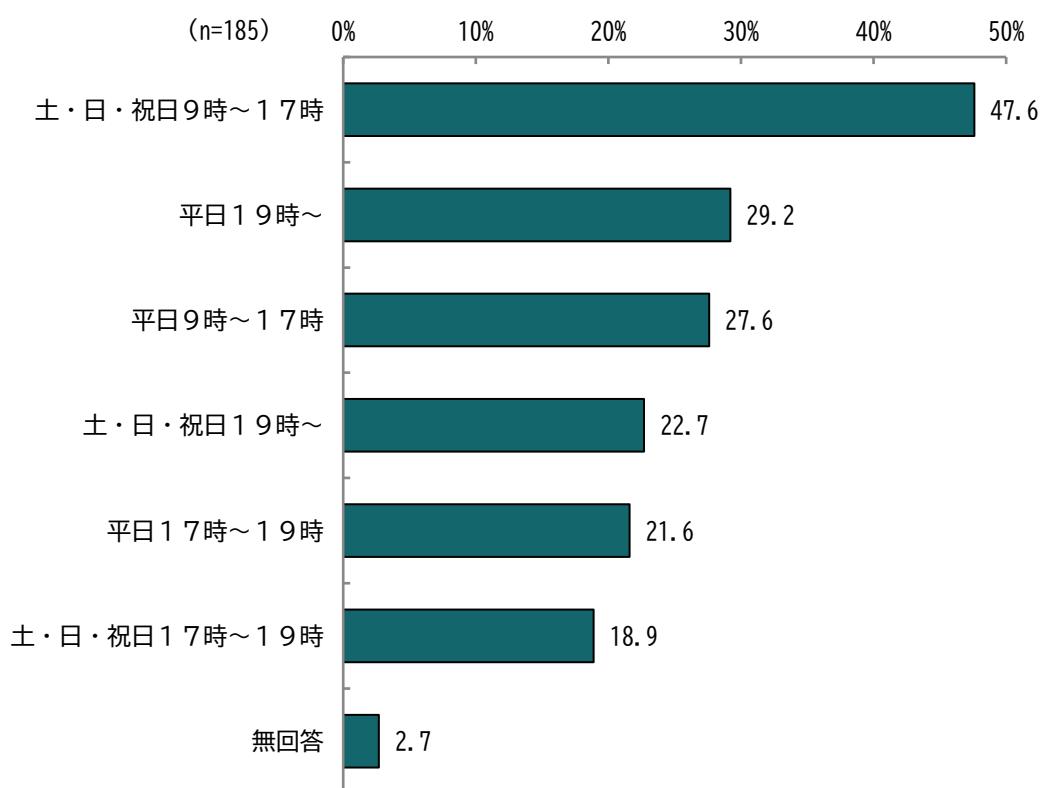
問9で「対面での直接相談」「電話相談」と回答した方

問9-1 利用したい時間帯は次の内どれになりますか？（○はいくつでも）

【全体の傾向】

「土・日・祝日9時～17時」が47.6%で最も高く、次いで「平日19時～」(29.2%)、「平日9時～17時」(27.6%)となっています。

図表 26 利用したい時間帯（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別でみると、第2位が、男性では「平日17時～19時」であるのに対し、女性では「平日19時～」となっています。

年齢別にみると、18・19歳、25歳以上では「土・日・祝日9時～17時」が第1位となっていますが、20～24歳では「平日19時～」が第1位となっています。また、18・19歳では「土・日・祝日19時～」も同率で第1位となっています。

図表 27 利用したい時間帯（全体、性別、年齢別／複数回答）

		上位3位 (%)		
		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=185)	土・日・祝日9時～17時	平日19時～	平日9時～17時
		47.6	29.2	27.6
年齢別	男性(n=67)	土・日・祝日9時～17時	平日17時～19時	平日9時～17時
		46.3	25.4	23.9
	女性(n=115)	土・日・祝日9時～17時	平日19時～	平日9時～17時
		49.6	33.0	29.6
	18・19歳(n=11)	土・日・祝日9時～17時／土・日・祝日19時～	平日19時～	
			45.5	36.4
	20～24歳(n=30)	平日19時～	土・日・祝日9時～17時	土・日・祝日17時～19時
		40.0	33.3	26.7
	25～29歳(n=38)	土・日・祝日9時～17時	平日19時～	土・日・祝日17時～19時／土・日・祝日19時～
		52.6	28.9	26.3
	30～34歳(n=40)	土・日・祝日9時～17時	平日9時～17時／平日17時～19時	
		52.5		30.0
	35～39歳(n=65)	土・日・祝日9時～17時	平日9時～17時	平日19時～／土・日・祝日19時～
		49.2	33.8	24.6

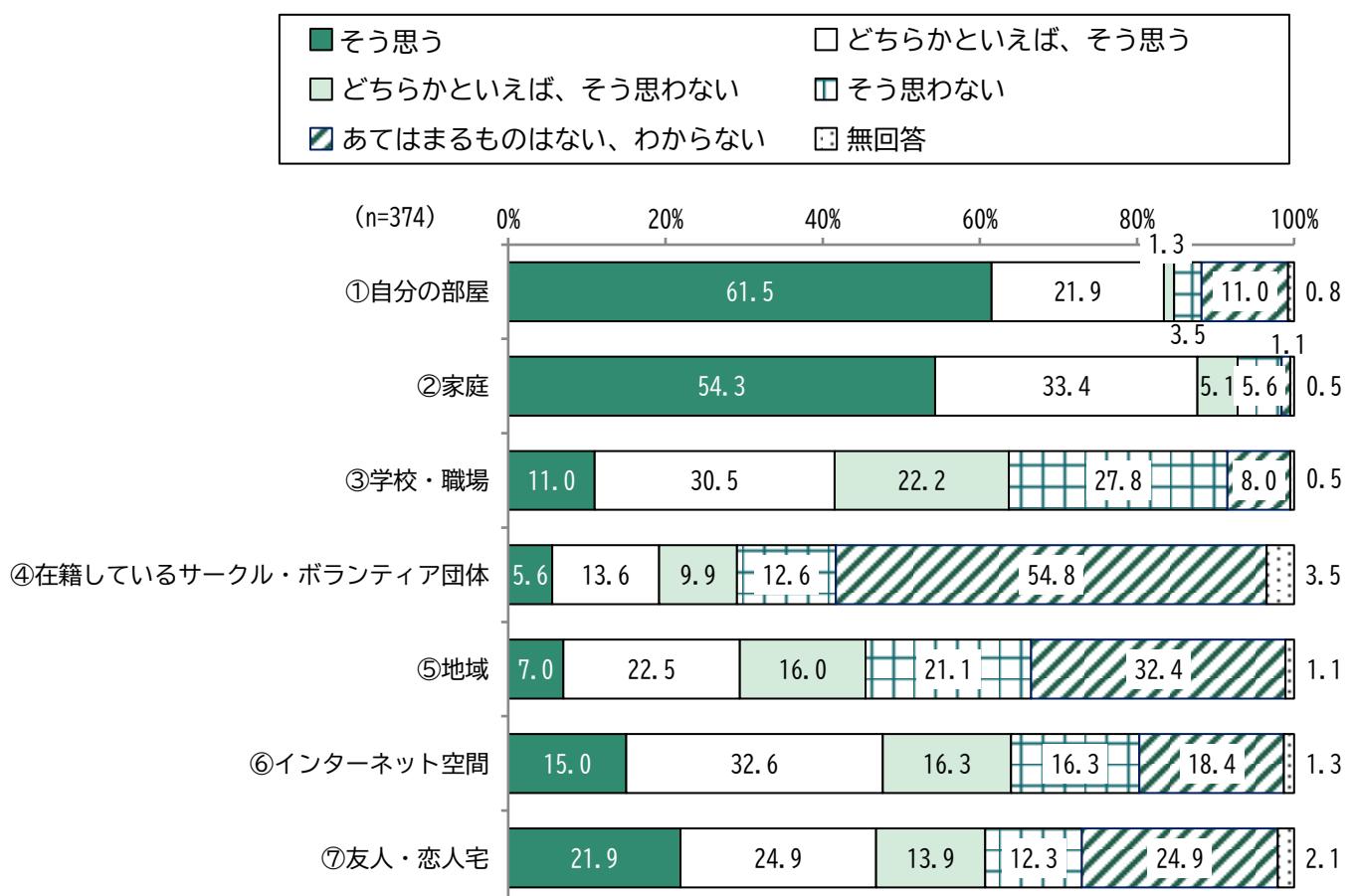
3 自身の居場所について

問10 次の場所は、今のあなたにとって居場所（ほっとできる場所、居心地の良い場所）になっていますか。（それぞれ○は1つ）

【全体の傾向】

「そう思う」と「どちらかといえば、そう思う」を合わせた『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは、②家庭で87.7%となっています。また、①自分の部屋も83.4%を占めており、この2つが突出しています。一方、③学校・職場、⑥インターネット空間、⑦友人・恋人宅では、『居場所になっていると思う』割合が4割以上、④在籍しているサークル・ボランティア団体、⑤地域では3割以下となっています。

図表 28 自身の居場所について（全体）



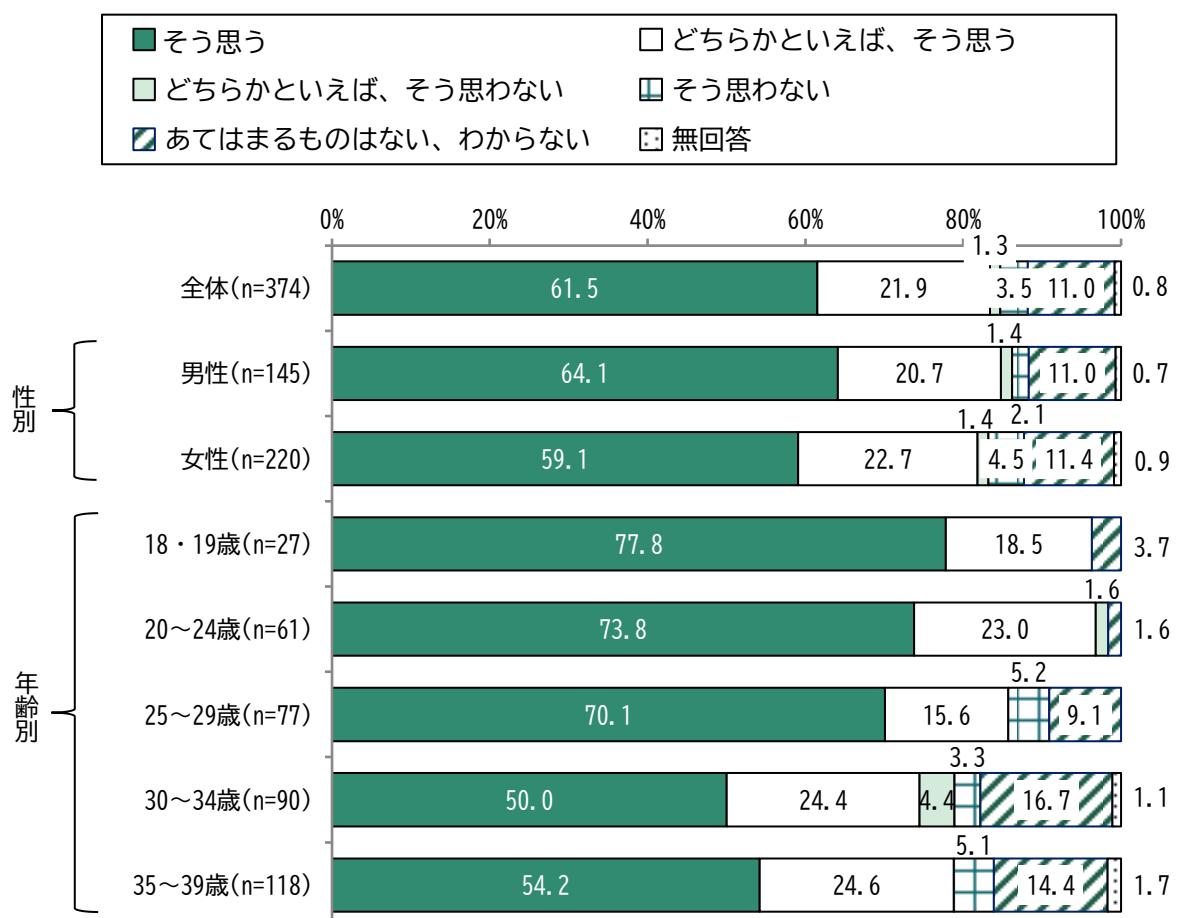
【属性別の傾向】

① 自分の部屋

性別にみると、『居場所になっていると思う』割合は、男性（84.8%）が女性（81.8%）を上回っています。

年齢別にみると、『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは20～24歳（96.8%）、次いで18・19歳（96.3%）となっており、この2つでは9割以上を占めています。また、25歳以上でも『居場所になっていると思う』割合は7割以上を占めています。

図表 29 ①自分の部屋（全体、性別、年齢別）

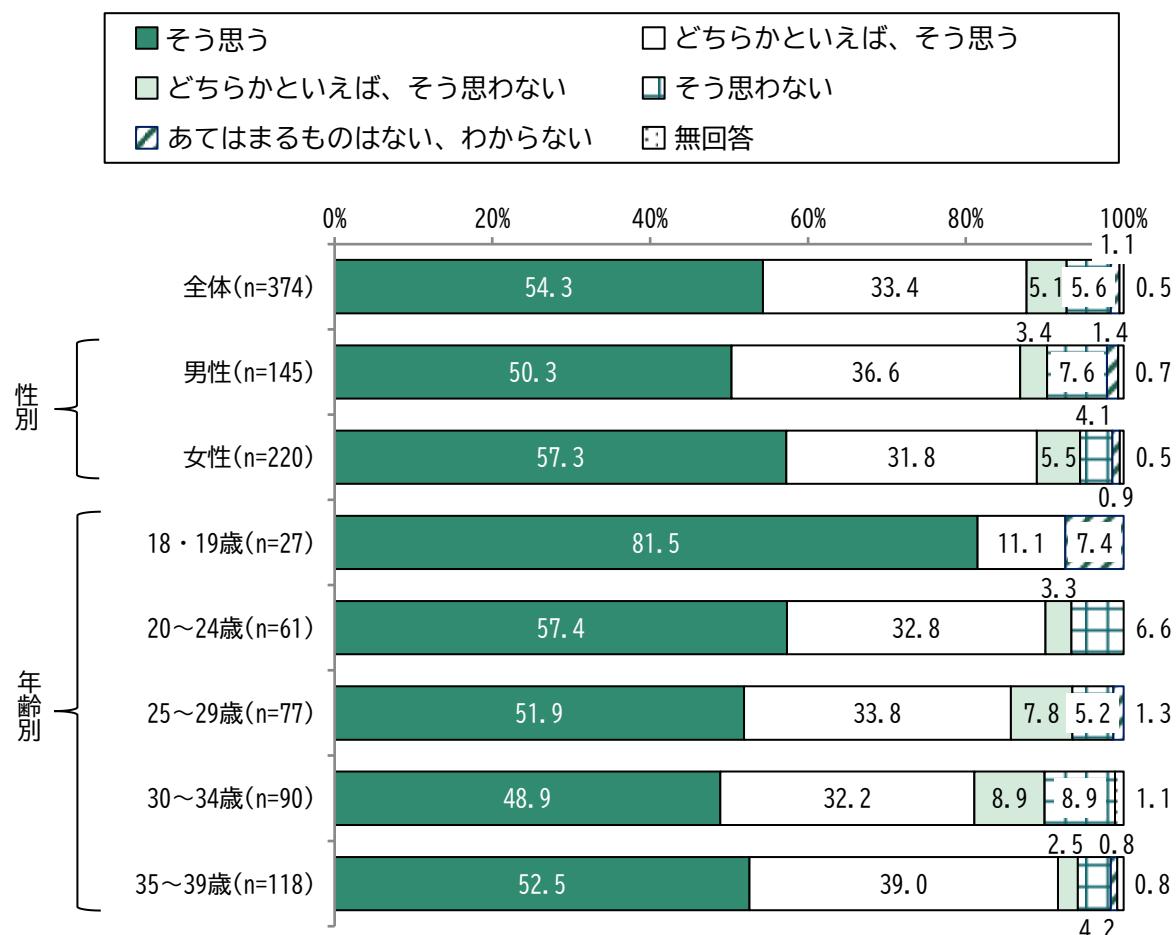


② 家庭（実家や親族の家を含む）

性別にみると、『居場所になっていると思う』割合は、女性（89.1%）が男性（86.9%）を上回っています。

年齢別にみると、『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは18・19歳（92.6%）となっています。また、20～24歳（90.2%）、35～39歳（91.5%）においても9割以上を占めて高くなっています。

図表 30 ②家庭（実家や親族の家を含む）（全体、性別、年齢別）

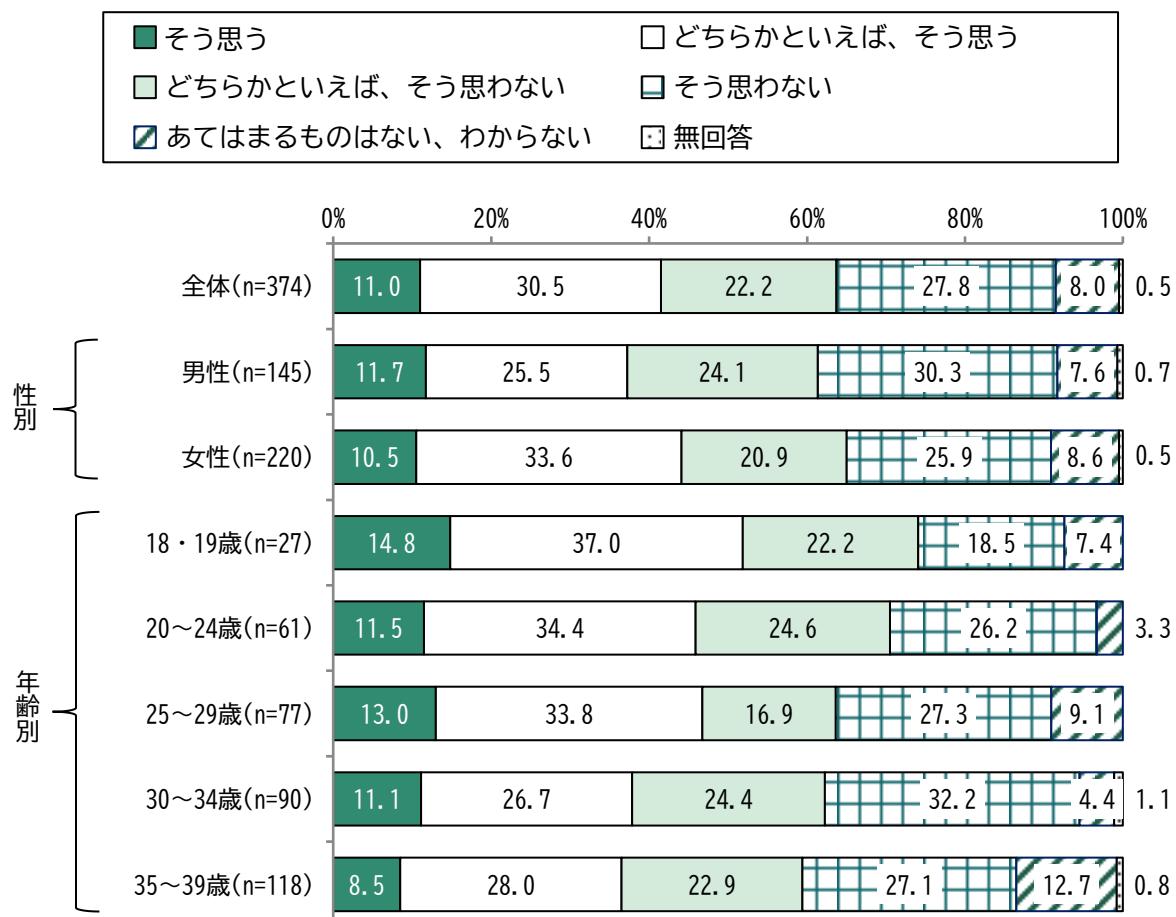


③ 学校・職場（過去に在籍した場所含む）

性別にみると、『居場所になっていると思う』割合は、女性（44.1%）が男性（37.2%）を上回っています。

年齢別にみると、『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは18・19歳（51.8%）となっています。また、『居場所になっていると思う』割合は、年齢が上がるにつれて低くなる傾向がみられます。

図表 31 ③学校（卒業した学校を含む）（全体、性別、年齢別）

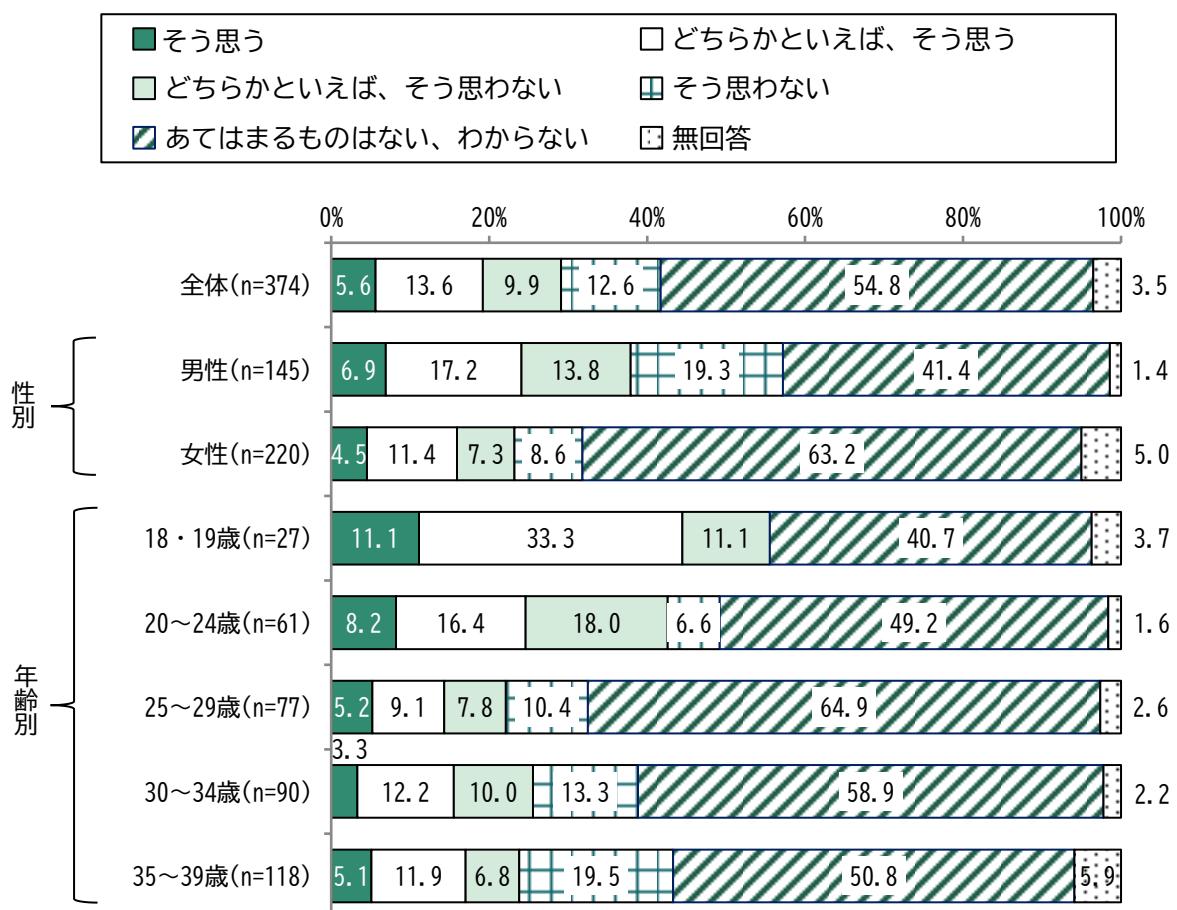


④在籍しているサークル・ボランティア団体（青年団・消防団・スポーツ少年団・スポーツクラブ・趣味のサークルなど）

性別にみると、『居場所になっていると思う』割合は、男性（24.1%）が女性（15.9%）を上回っています。

年齢別にみると、『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは18・19歳（44.4%）となっています。一方、25歳以上では『居場所になっていると思う』割合はいずれも2割以下にとどまっています。

図表 32 ④在籍しているサークル・ボランティア団体（全体、性別、年齢別）

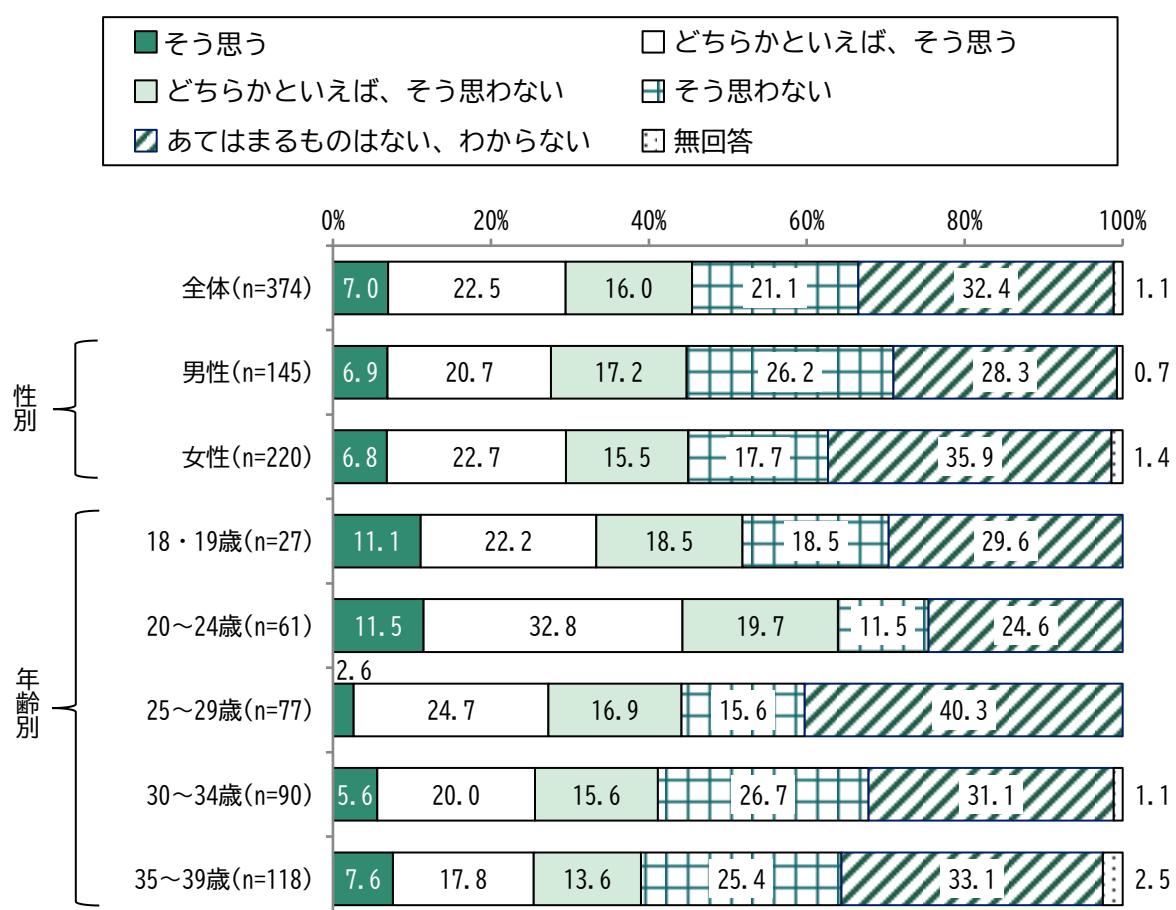


⑤ 地域（図書館や公民館、公園など、 現在住んでいる場所やそこにある建物）

性別にみると、『居場所になっていると思う』割合は、女性（29.5%）が男性（27.6%）を上回っています。

年齢別にみると、『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは20～24歳（44.3%）となっています。一方、25歳以上では『居場所になっていると思う』割合はいずれも3割以下となっています。

図表 33 ⑤地域（図書館や公民館、公園など、 現在住んでいる場所やそこにある建物）
(全体、性別、年齢別)

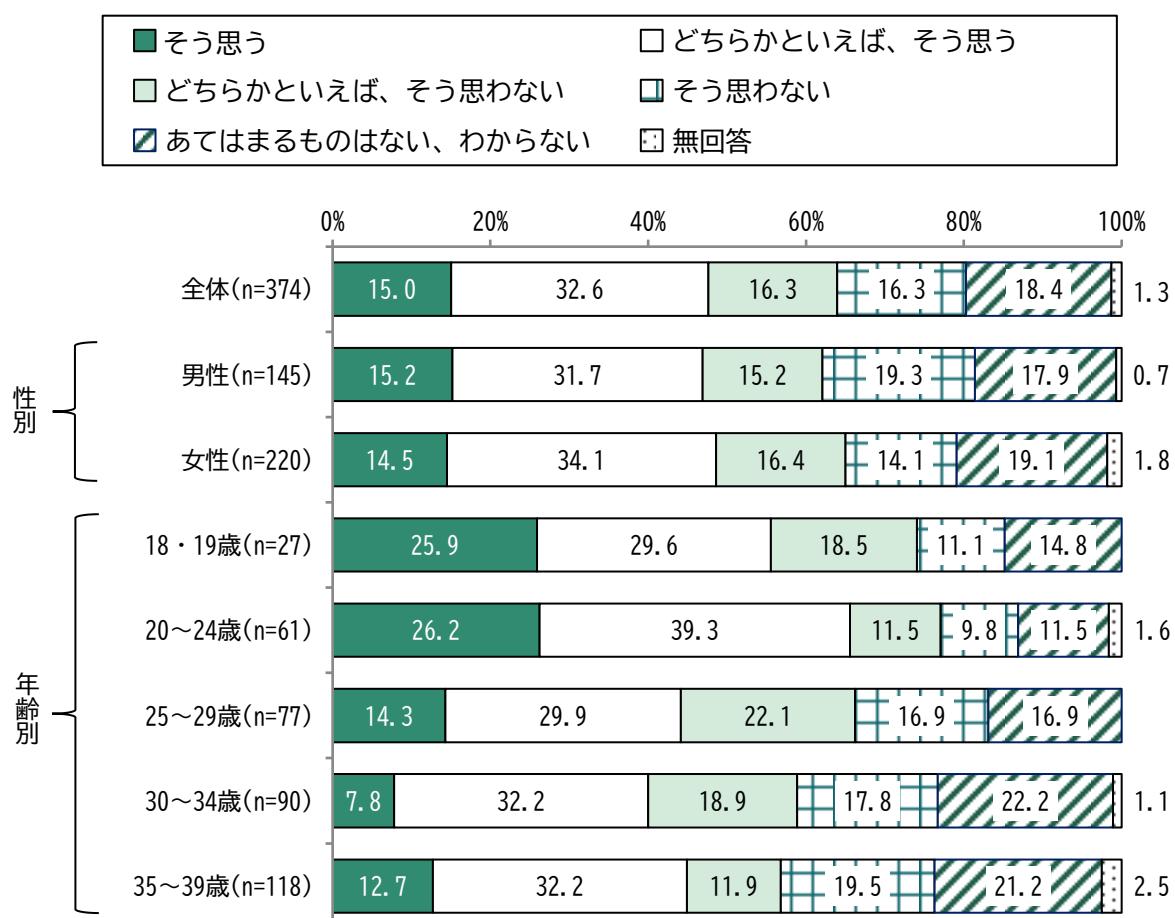


⑥ インターネット空間（SNS・YouTube・オンラインゲームなど）

性別にみると、『居場所になっていると思う』割合は、女性（48.6%）が男性（46.9%）を上回っています。

年齢別にみると、『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは20～24歳（65.5%）となっています。また、18・19歳（55.5%）でも半数以上を占めています。一方、25歳以上では『居場所になっていると思う』割合は、いずれも半数以下となっています。

図表 34 ⑥インターネット空間（SNS・YouTube・オンラインゲームなど）
(全体、性別、年齢別)

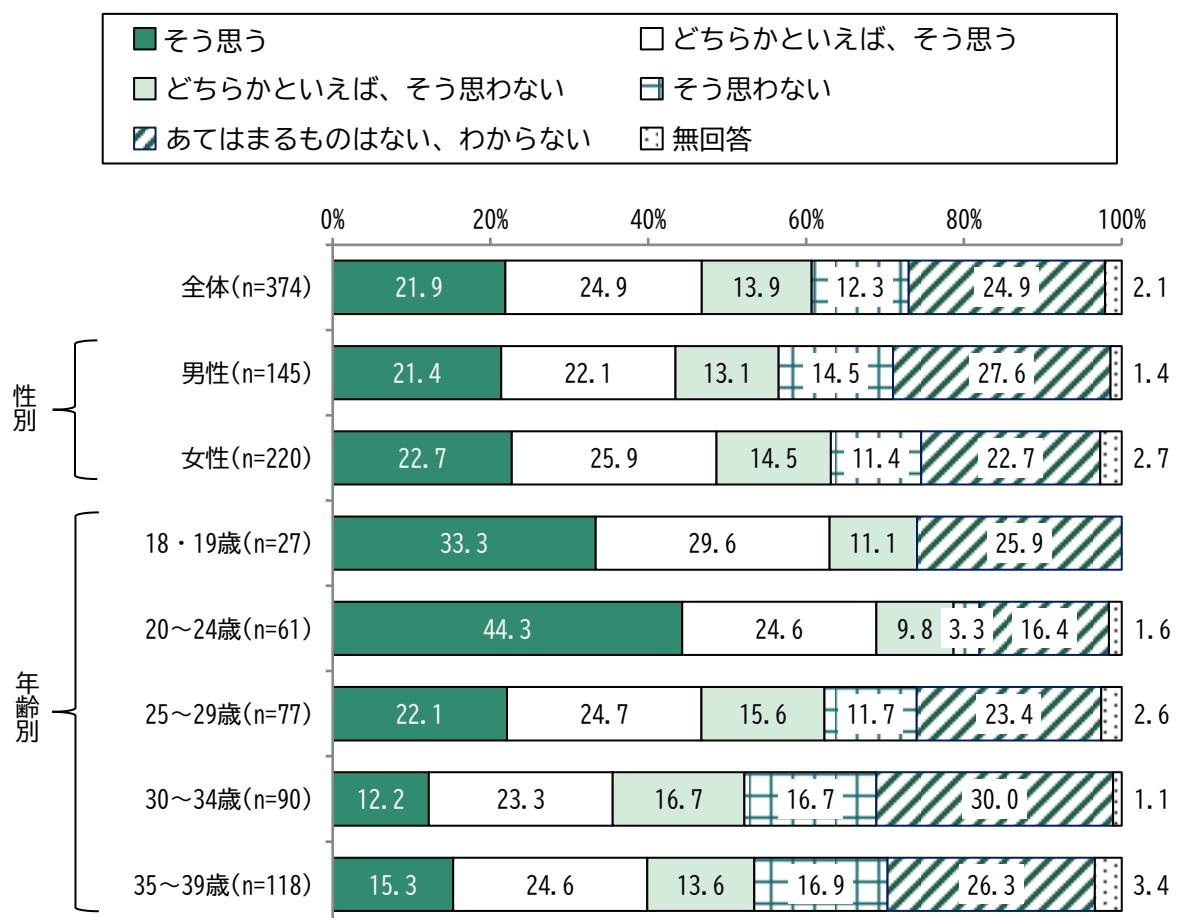


⑦ 友人・恋人宅

性別にみると、『居場所になっていると思う』割合は、女性（48.6%）が男性（43.5%）を上回っています。

年齢別にみると、『居場所になっていると思う』割合が最も高いのは20～24歳（68.9%）、次いで18・19歳（62.9%）となっており、いずれも6割以上を占めています。一方、25歳以上では『居場所になっていると思う』割合は、いずれも半数以下となっています。

図表 35 ⑦友人・恋人宅（全体、性別、年齢別）



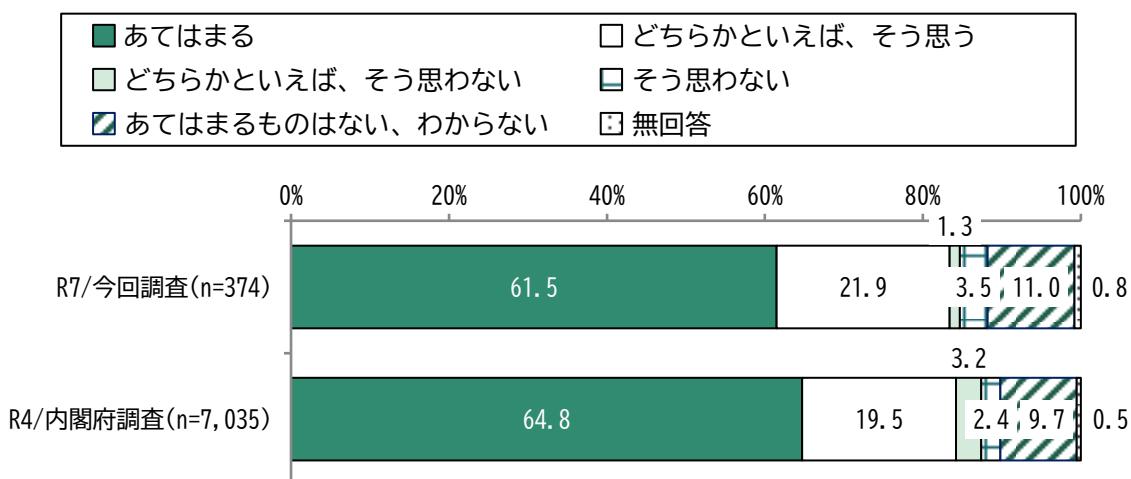
【内閣府調査との比較】

※新居浜市と共に項目のみ比較している。

① 自分の部屋

内閣府調査と比較すると、『居場所になっていると思う』割合に大差はみられません。

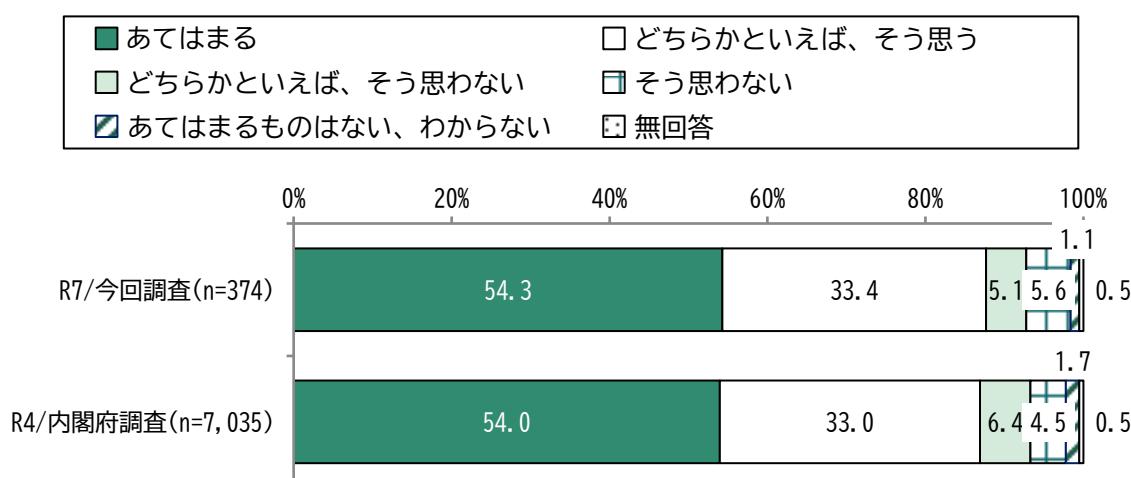
図表 36 ①自分の部屋（全体、内閣府調査との比較）



② 家庭（実家や親族の家を含む）

内閣府調査と比較すると、『居場所になっていると思う』割合に大差はみられません。

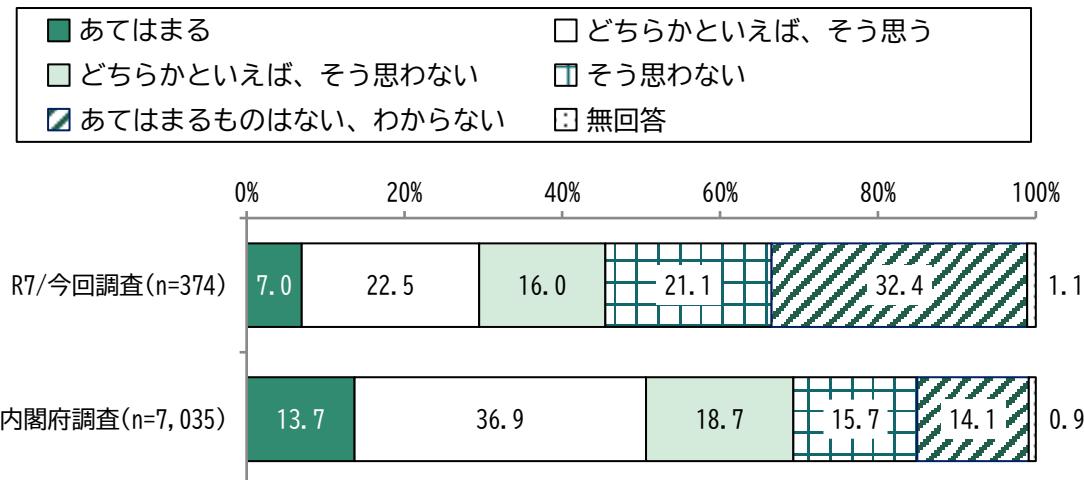
図表 37 ②家庭（実家や親族の家を含む）（全体、内閣府調査との比較）



⑤ 地域（図書館や公民館、公園など、 現在住んでいる場所やそこにある建物）

内閣府調査と比較すると、『居場所になっていると思う』割合が21.1ポイント下回っています。

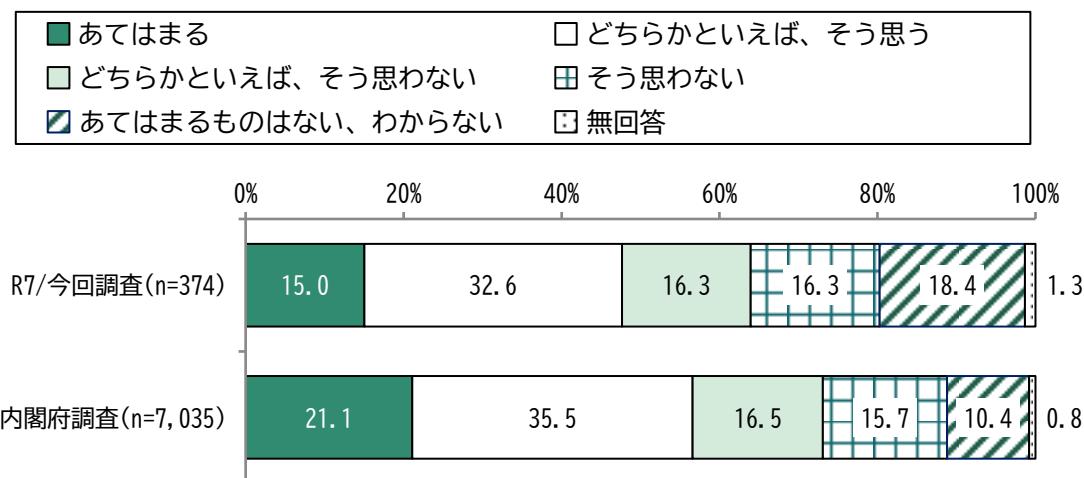
図表 38 ⑤地域（図書館や公民館、公園など、 現在住んでいる場所やそこにある建物）
(全体、内閣府調査との比較)



⑥ インターネット空間（SNS・YouTube・オンラインゲームなど）

内閣府調査と比較すると、『居場所になっていると思う』割合が9.0ポイント下回っています。

図表 39 ⑥インターネット空間（SNS・YouTube・オンラインゲームなど）
(全体、内閣府調査との比較)

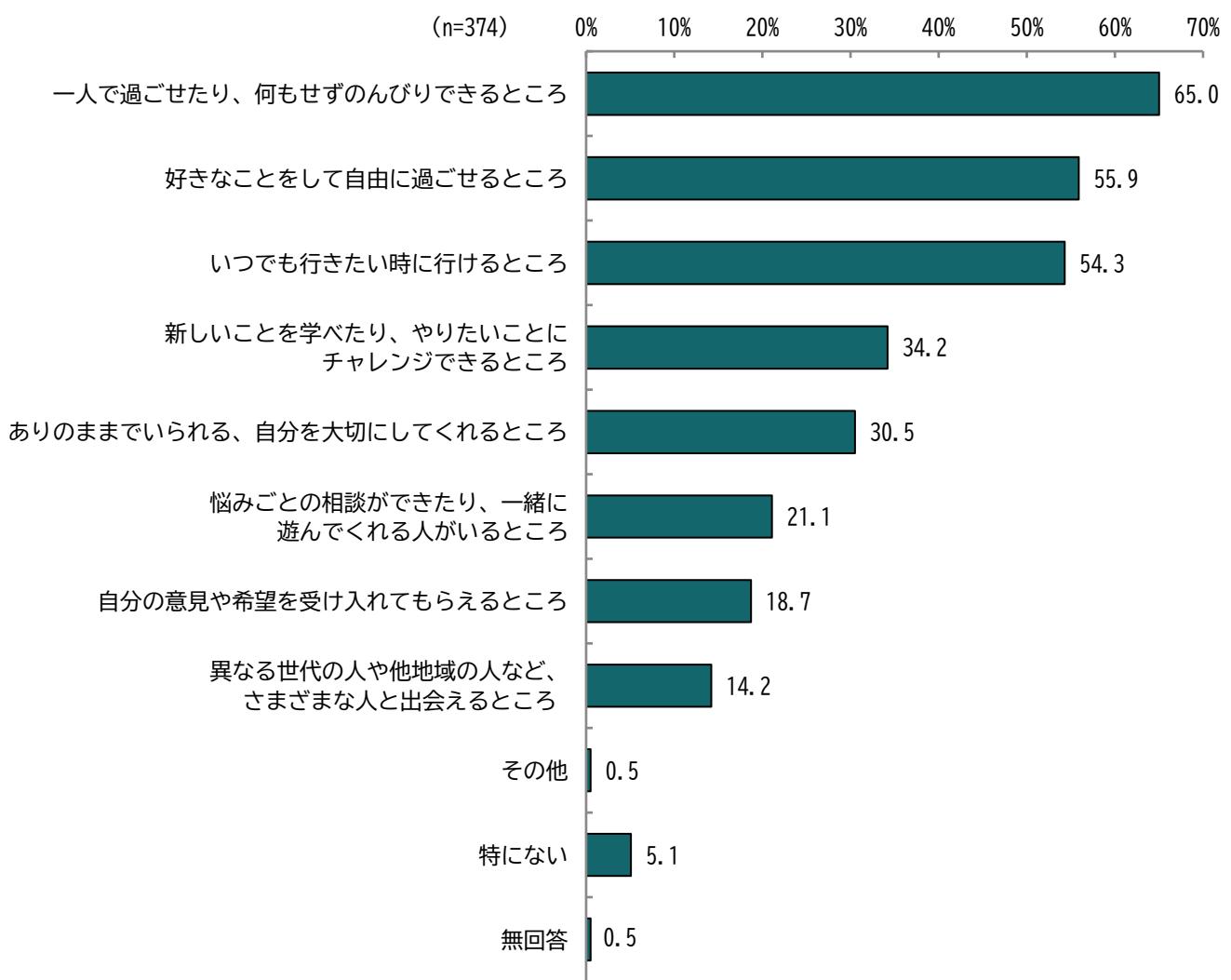


問11 家庭、学校、職場以外にどのような場所であれば行ってみたいと思いますか。
(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ」が 65.0%で最も高く、次いで「好きなことをして自由に過ごせるところ」(55.9%)、「いつでも行きたい時に行けるところ」(54.3%) となっています。

図表 40 行ってみたい場所（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第2位が、男性では「好きなことをして自由に過ごせるところ」となっているのに対し、女性では「いつでも行きたい時に行けるところ」となっています。

年齢別にみると、18・19歳は「好きなことをして自由に過ごせるところ」が第1位となっていますが、20歳以上では「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ」が第1位となっています。

図表 41 行ってみたい場所（全体、性別、年齢別／複数回答）

		上位3位 (%)		
		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=374)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	好きなことをして自由に過ごせるところ	いつでも行きたい時に行けるところ
		65.0	55.9	54.3
性別	男性(n=145)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	好きなことをして自由に過ごせるところ	いつでも行きたい時に行けるところ
		57.2	56.6	49.7
性別	女性(n=220)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	いつでも行きたい時に行けるところ	好きなことをして自由に過ごせるところ
		69.1	56.4	55.5
年齢別	18・19歳(n=27)	好きなことをして自由に過ごせるところ	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	いつでも行きたい時に行けるところ
		66.7	63.0	48.1
	20～24歳(n=61)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	いつでも行きたい時に行けるところ	好きなことをして自由に過ごせるところ
		65.6	60.7	49.2
	25～29歳(n=77)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	好きなことをして自由に過ごせるところ	いつでも行きたい時に行けるところ
		66.2	59.7	53.2
年齢別	30～34歳(n=90)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	いつでも行きたい時に行けるところ	好きなことをして自由に過ごせるところ
		72.2	60.0	55.6
年齢別	35～39歳(n=118)	一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ	好きなことをして自由に過ごせるところ	いつでも行きたい時に行けるところ
		58.5	54.2	48.3

3 交際・恋愛・結婚に関する考え方について

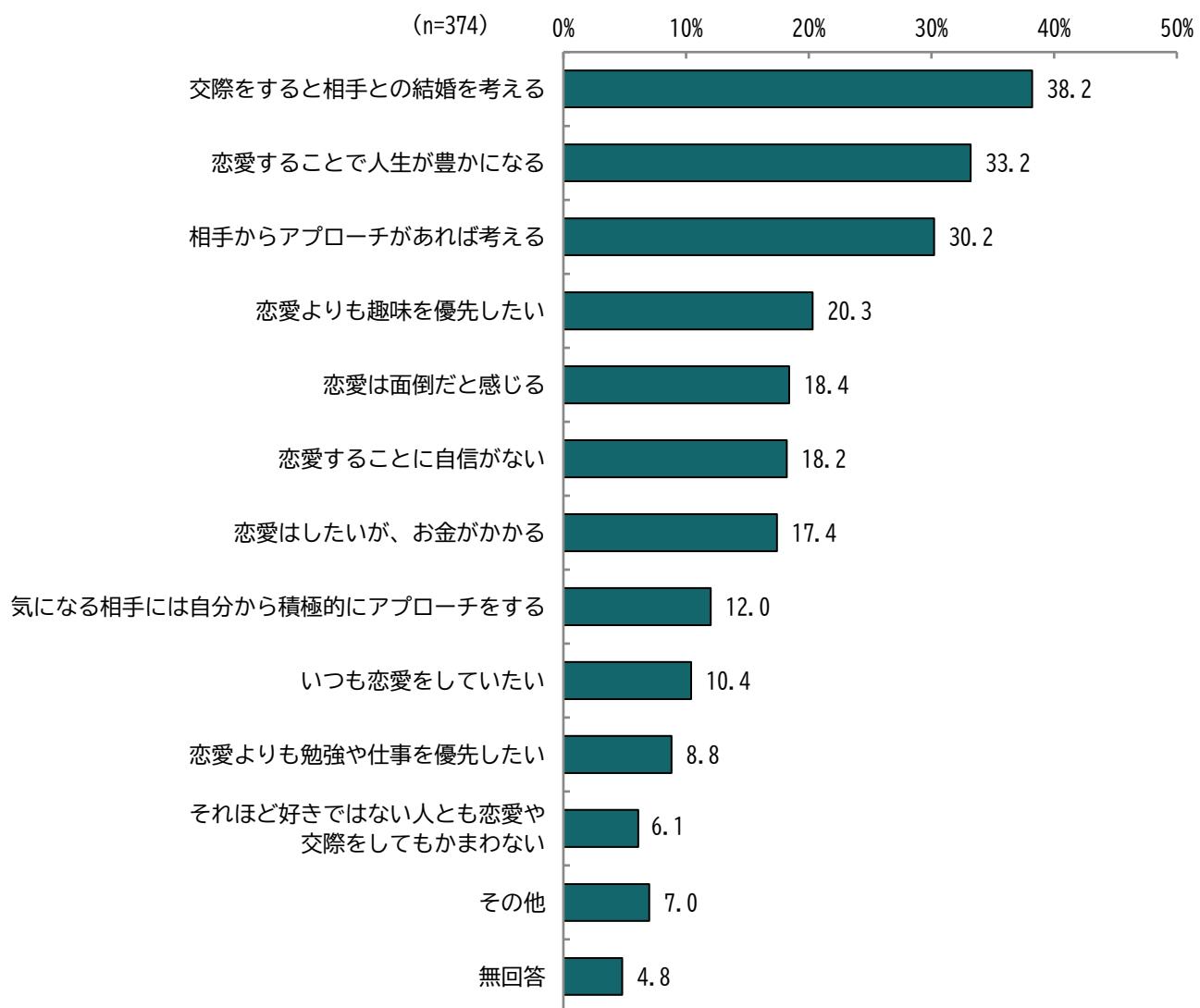
1 恋愛に関する考え方について

問12 恋愛に関するあなたの考え方について、あてはまるものを全てお選びください。
(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「交際をすると相手との結婚を考える」が38.2%で最も高く、次いで「恋愛することで人生が豊かになる」(33.2%)、「相手からアプローチがあれば考える」(30.2%)となっています。

図表 42 恋愛に関する考え方（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第2位が、男性では「相手からアプローチがあれば考える」となっているのに対し、女性では「恋愛することで人生が豊かになる」となっています。

年齢別にみると、18・19歳では「相手からアプローチがあれば考える」および「恋愛することで人生が豊かになる」、20～24歳では「相手からアプローチがあれば考える」、25～29歳、35～39歳では「交際をすると相手との結婚を考える」、30～34歳では「恋愛することで人生が豊かになる」がそれぞれ第1位となっています。また、20～24歳、30～34歳では、第3位に「恋愛は面倒だと感じる」が挙がっています。

図表 43 恋愛に関する考え方（全体、性別、年齢別／複数回答）

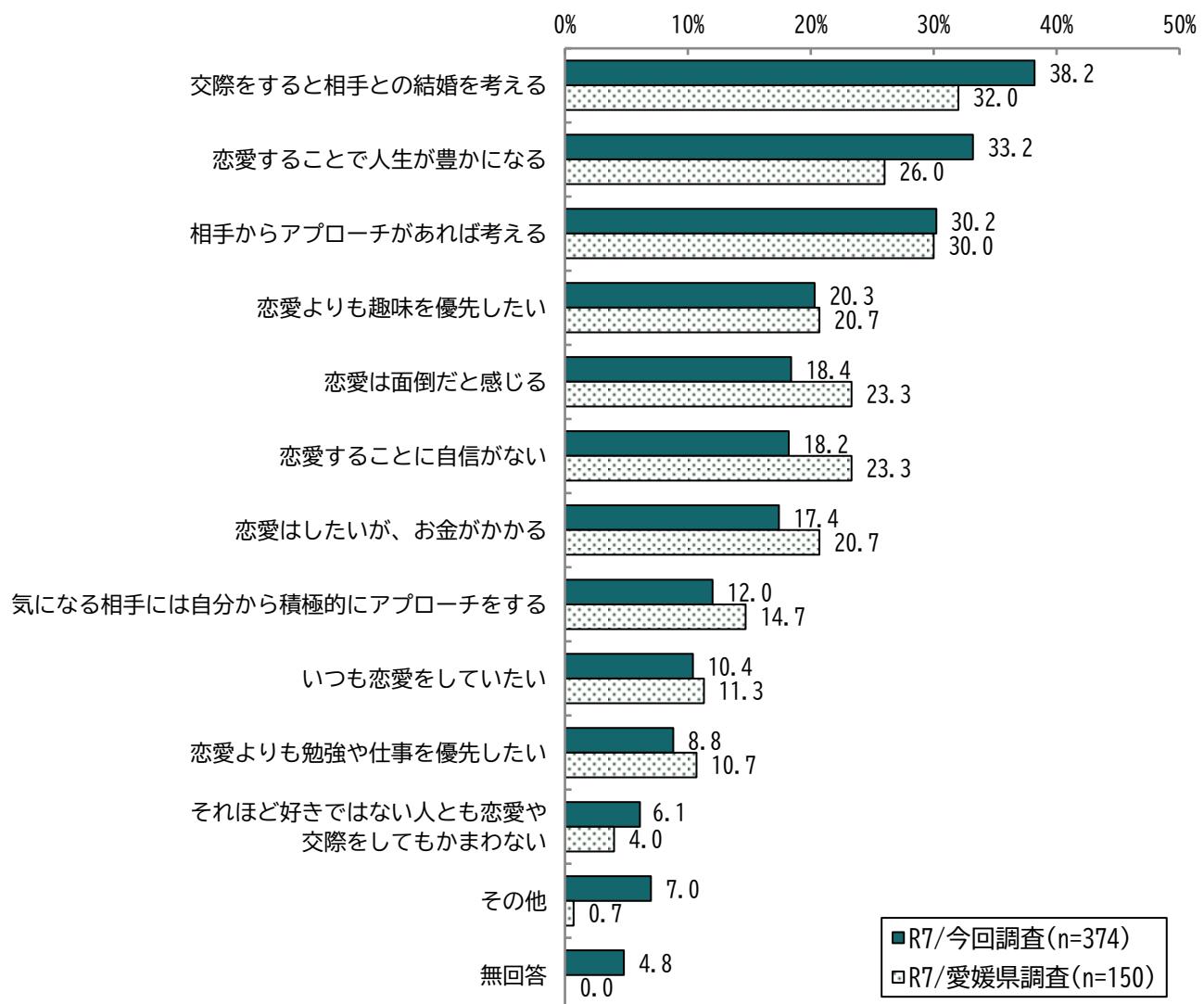
上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=374)		交際をすると相手との結婚を考える	恋愛することで人生が豊かになる	相手からアプローチがあれば考える
		38.2	33.2	30.2
性別	男性(n=145)	交際をすると相手との結婚を考える	相手からアプローチがあれば考える	恋愛することで人生が豊かになる
		36.6	31.0	30.3
女性(n=220)		交際をすると相手との結婚を考える	恋愛することで人生が豊かになる	相手からアプローチがあれば考える
		40.0	35.0	30.0
年齢別	18・19歳(n=27)	相手からアプローチがあれば考える／恋愛することで人生が豊かになる	交際をすると相手との結婚を考える	
			40.7	37.0
	20～24歳(n=61)	相手からアプローチがあれば考える	交際をすると相手との結婚を考える	恋愛は面倒だと感じる
		44.3	37.7	29.5
	25～29歳(n=77)	交際をすると相手との結婚を考える	恋愛することで人生が豊かになる	相手からアプローチがあれば考える
		41.6	32.5	28.6
30～34歳(n=90)		恋愛することで人生が豊かになる	交際をすると相手との結婚を考える	恋愛は面倒だと感じる
		40.0	33.3	26.7
35～39歳(n=118)		交際をすると相手との結婚を考える	恋愛することで人生が豊かになる	相手からアプローチがあれば考える
		39.8	29.7	25.4

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、上位2項目「交際をすると相手との結婚を考える」「恋愛することで人生が豊かになる」が6.0ポイント以上上回っています。

図表 44 恋愛に関する考え方（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



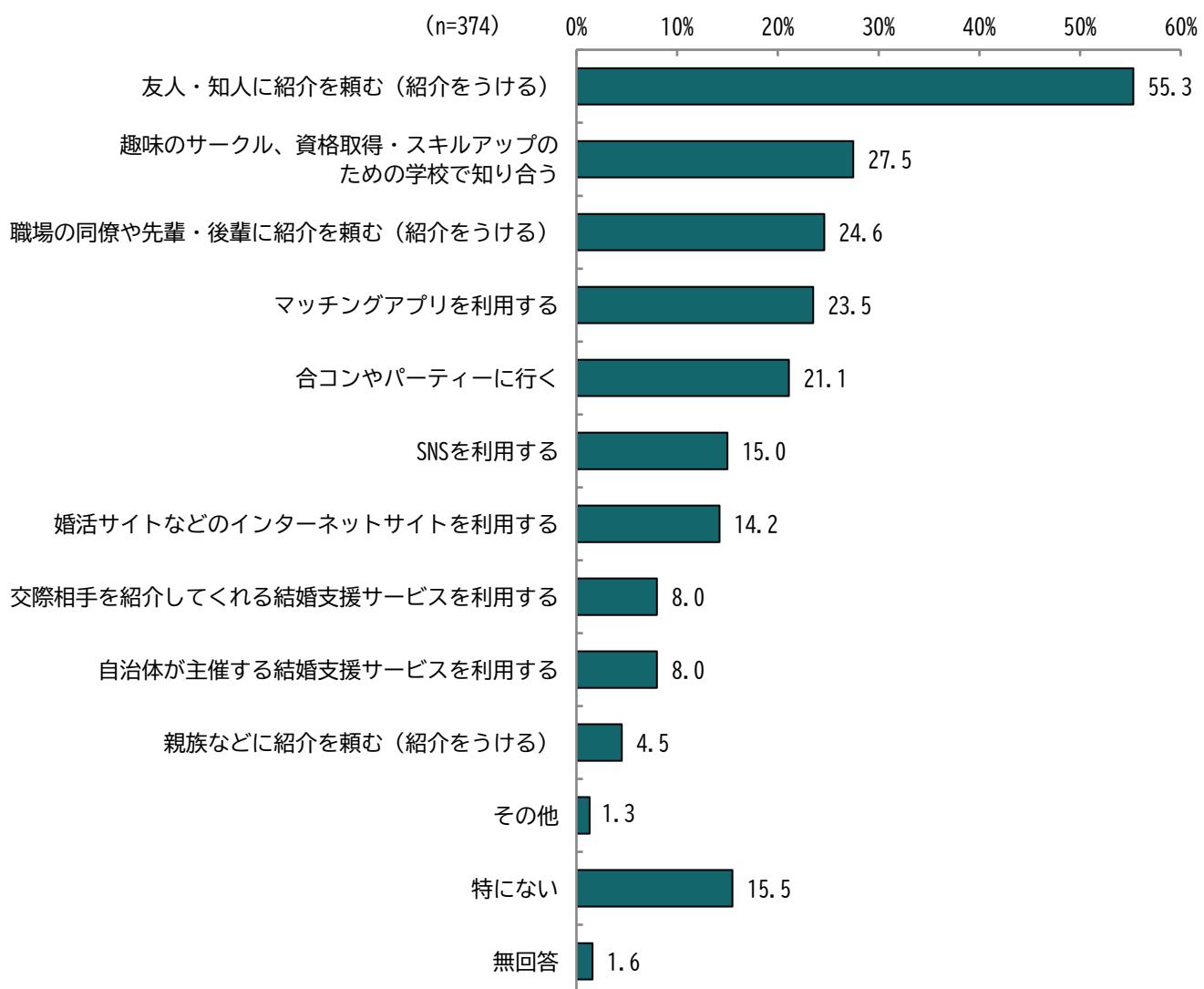
2 結婚のきっかけについて

問13 交際（結婚）相手との出会いを求めるしたら、どんな機会があるとよいですか。結婚されている方は配偶者と出会う前にどのような方法を利用したかでお答えください。（○はいくつでも）

【全体の傾向】

「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」が 55.3%で最も高く、次いで「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」(27.5%)、「職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）」(24.6%) となっています。

図表 45 出会いの機会であるとよいと思うもの（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第3位に、男性では「マッチングアプリを利用する」、女性では「合コンやパーティーに行く」が挙がっています。

年齢別にみると、18・19歳では「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」が第1位となっていますが、20歳以上では「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」が第1位となっています。また、20～29歳では「マッチングアプリを利用する」、35～39歳では「合コンやパーティーに行く」が上位に挙がっています。

図表 46 出会いの機会であるとよいと思うもの（全体、性別、年齢別／複数回答）

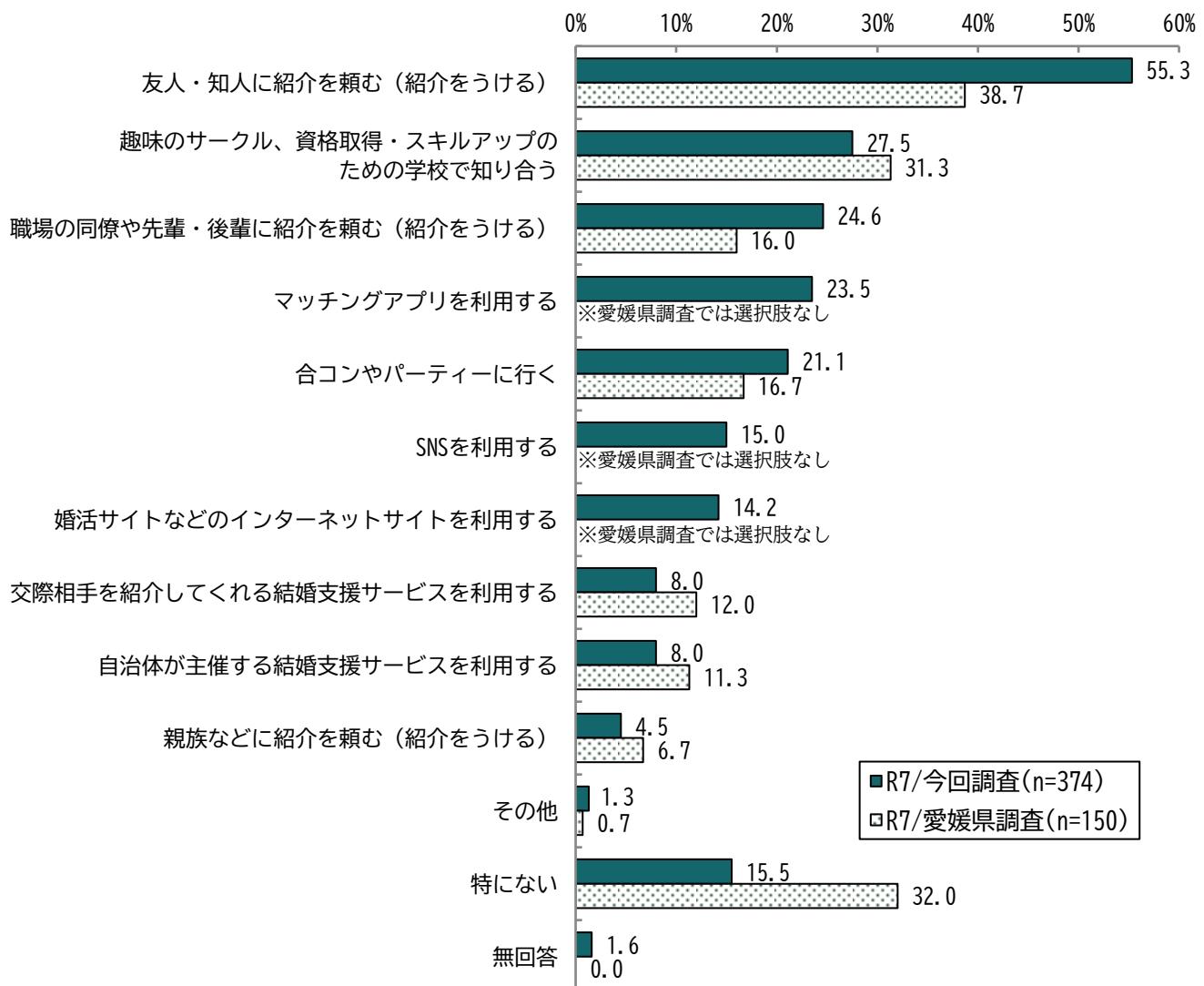
上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=374)		友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う	職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）
		55.3	27.5	24.6
性別	男性(n=145)	友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う	職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）／マッチングアプリを利用する
		51.0	31.7	30.3
年齢別	女性(n=220)	友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う	職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む／合コンやパーティーに行く
		58.2	25.0	20.5
年齢別	18・19歳(n=27)	趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う	友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	特にない
		40.7	37.0	29.6
	20～24歳(n=61)	友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う	マッチングアプリを利用する
		60.7	37.7	19.7
	25～29歳(n=77)	友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	マッチングアプリを利用する	職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）
性別		49.4	26.0	20.8
	30～34歳(n=90)	友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）／趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う	
		57.8		31.1
年齢別	35～39歳(n=118)	友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）	合コンやパーティーに行く	職場の同僚や先輩・後輩に紹介を頼む（紹介をうける）
		58.5	28.0	27.1

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「友人・知人に紹介を頼む（紹介をうける）」が16.6ポイント上回っています。一方、「趣味のサークル、資格取得・スキルアップのための学校で知り合う」「交際相手を紹介してくれる結婚支援サービスを利用する」「自治体が主催する結婚支援サービスを利用する」「親族などに紹介を頼む（紹介をうける）」は下回っています。

図表 47 出会いの機会であるとよいと思うもの（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



3 結婚や同棲の必要性について

問14 人生における結婚や同棲の必要性に対する以下のような考え方のうち、あなたの意見にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(○は1つ)

【全体の傾向】

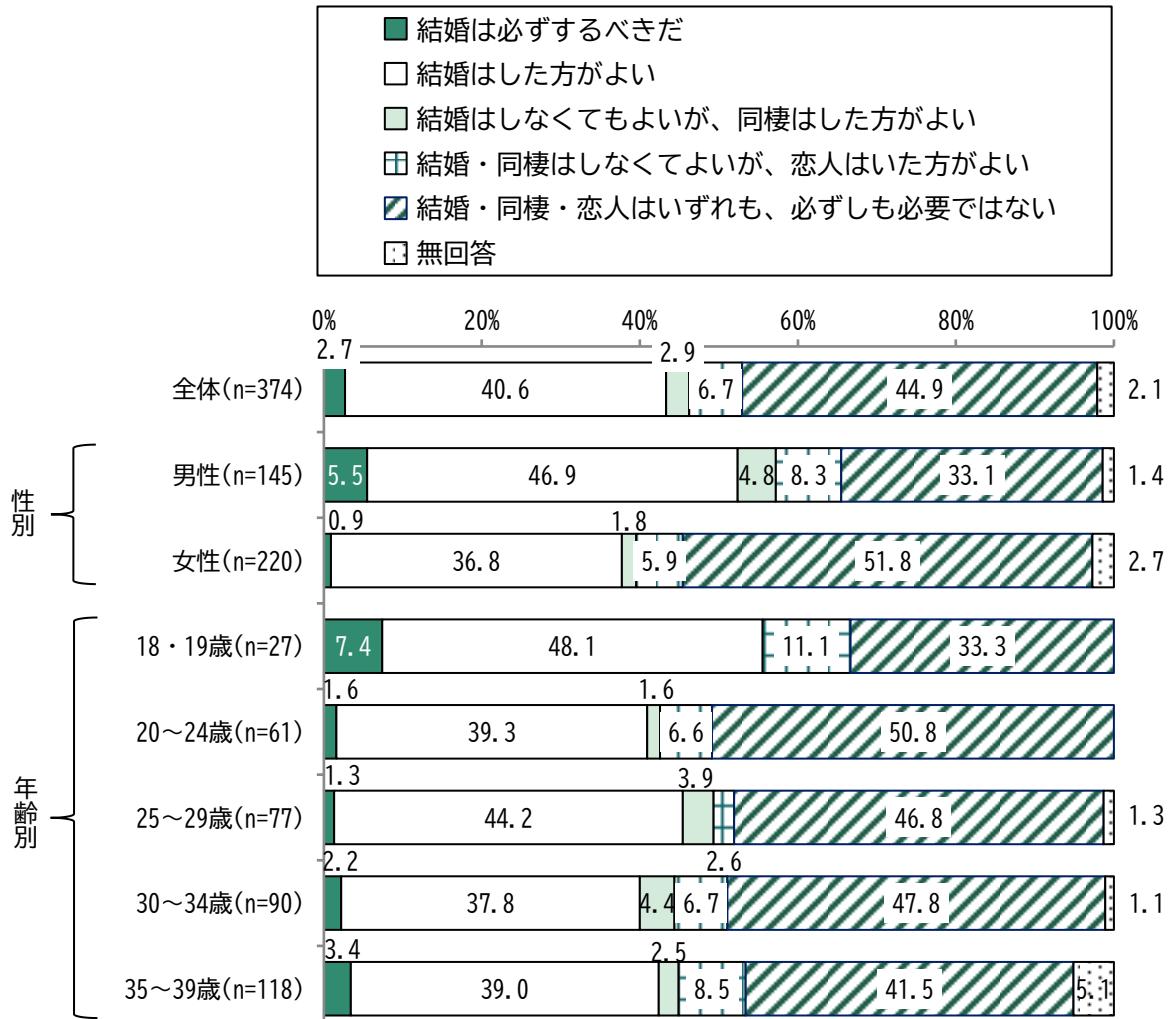
「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が44.9%で最も高く、次いで「結婚はした方がよい」(40.6%)、「結婚・同棲はしなくてよいが、恋人はいた方がよい」(6.7%)となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「結婚は必ずするべきだ」「結婚はした方がよい」は、いずれも男性が女性を上回っています。一方、女性では「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」(51.8%)が半数以上を占めています。

年齢別にみると、「結婚は必ずするべきだ」「結婚はした方がよい」は、18・19歳で最も高くなっています。一方、20歳以上では「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」が4割以上を占めており、特に20~24歳(50.8%)で最も高くなっています。

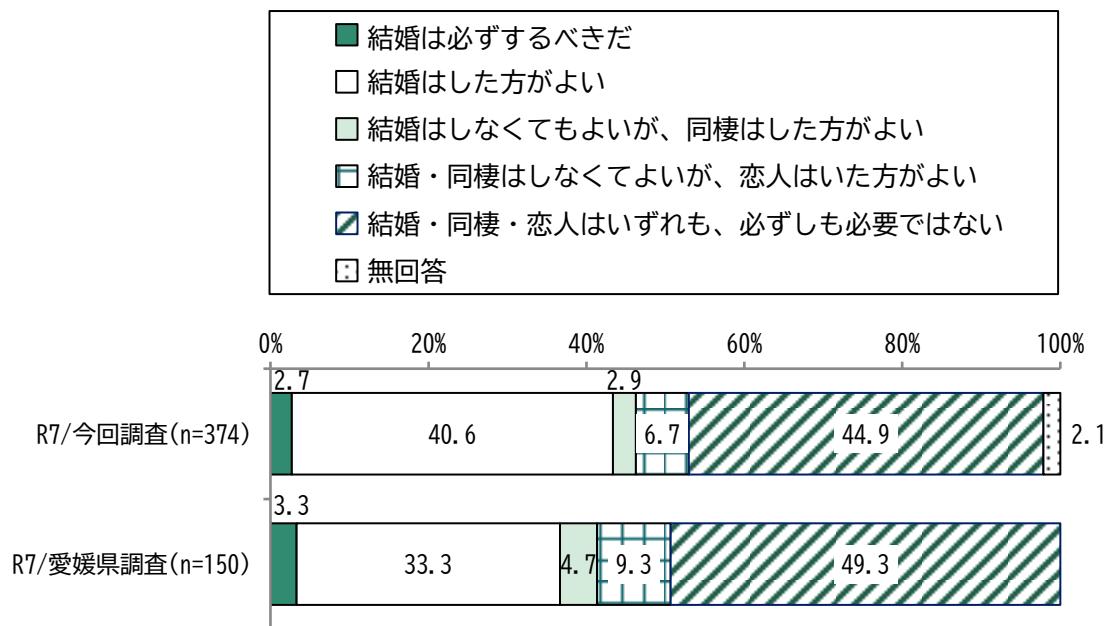
図表 48 結婚や同棲の必要性について（全体、性別、年齢別）



【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「結婚はした方がよい」が7.3 ポイント上回っています。

図表 49 結婚や同棲の必要性について（全体、愛媛県調査との比較）



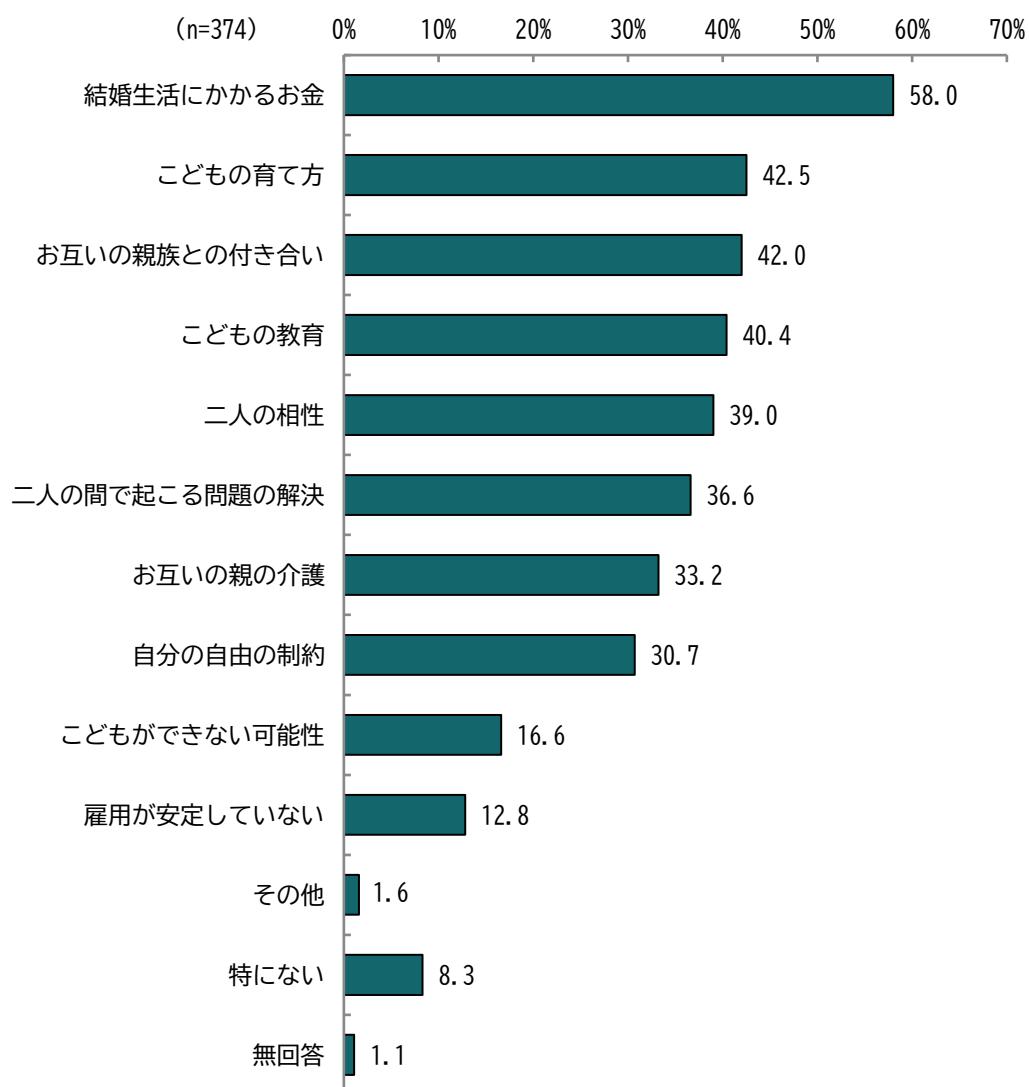
4 結婚生活における不安

問15 あなたが、結婚生活において不安に感じることは何ですか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「結婚生活にかかるお金」が 58.0%で最も高く、次いで「子どもの育て方」(42.5%)、「お互いの親族との付き合い」(42.0%) となっています。

図表 50 結婚生活における不安（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では、第2位が「二人の相性」、第3位が「子どもの教育」となっていますが、女性では、第2位が「お互いの親族との付き合い」、第3位が「子どもの育て方」となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢も「結婚生活にかかるお金」が最大の不安となっています。また、18～29歳までは「二人の相性」「二人の間で起こる問題の解決」「お互いの親族との付き合い」が上位となる傾向がみられますが、30歳以上では「子どもの教育」「子どもの育て方」と、子どもに関する不安が挙がっています。

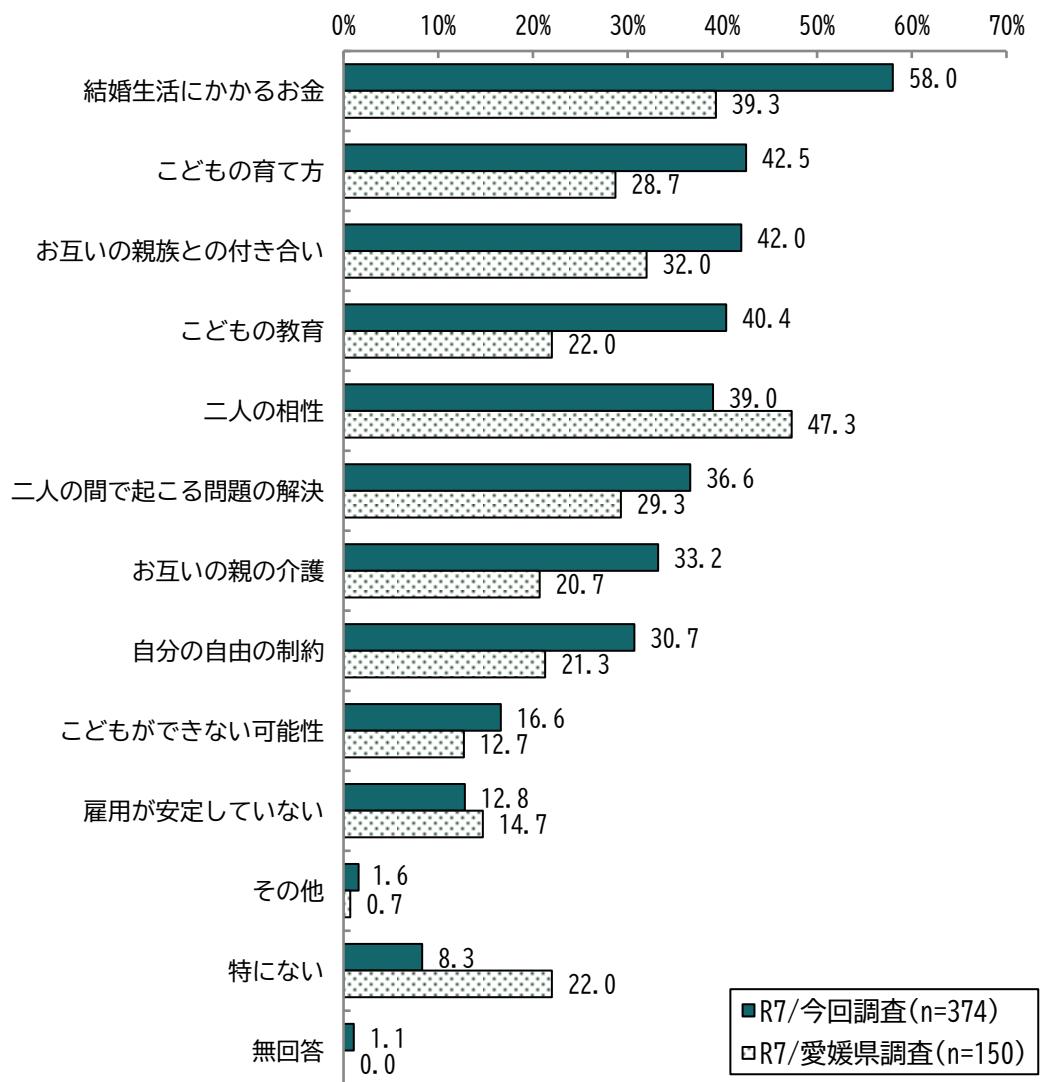
図表 51 結婚生活における不安（全体、性別、年齢別／複数回答）

				上位3位 (%)
		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=374)	結婚生活にかかるお金	子どもの育て方	お互いの親族との付き合い
		58.0	42.5	42.0
	男性(n=145)	結婚生活にかかるお金	二人の相性	子どもの教育
		53.8	36.6	34.5
	女性(n=220)	結婚生活にかかるお金	お互いの親族との付き合い	子どもの育て方
		62.3	52.3	49.1
年齢別	18・19歳(n=27)	結婚生活にかかるお金	二人の相性／二人の間で起こる問題の解決	
		55.6	51.9	
	20～24歳(n=61)	結婚生活にかかるお金	お互いの親族との付き合い	二人の間で起こる問題の解決
		47.5	45.9	44.3
	25～29歳(n=77)	結婚生活にかかるお金	お互いの親族との付き合い	子どもの育て方
		55.8	50.6	42.9
	30～34歳(n=90)	結婚生活にかかるお金	子どもの教育	子どもの育て方
		71.1	55.6	53.3
	35～39歳(n=118)	結婚生活にかかるお金	子どもの育て方	子どもの教育
		55.9	45.8	43.2

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「結婚生活にかかるお金」をはじめとして、ほとんどの項目で上回っていますが、「二人の相性」「雇用が安定しない」では県調査を下回っています。

図表 52 結婚生活における不安（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



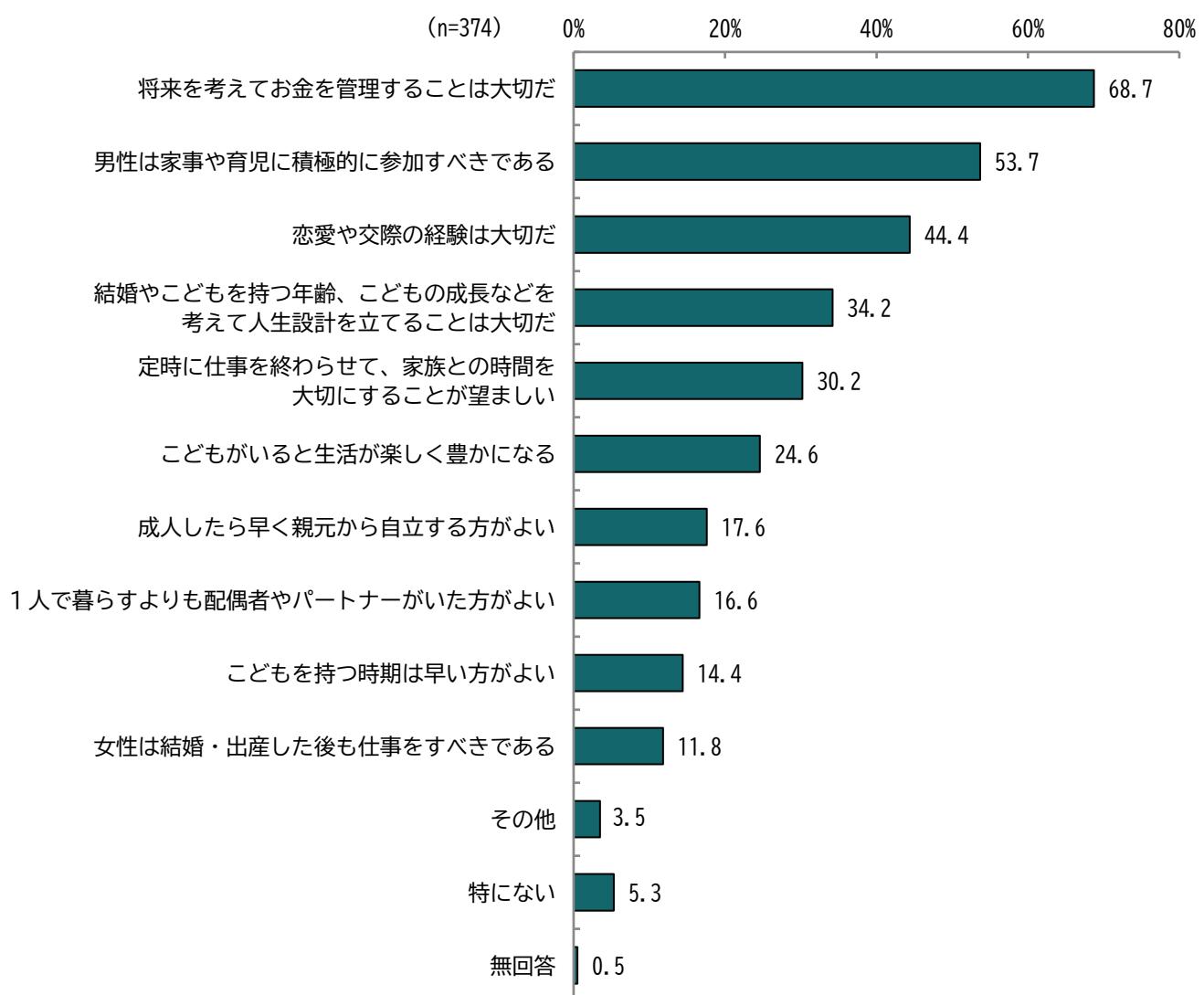
5 親としてこどもに伝えたいこと

問16 結婚や家族の在り方について、あなたが親として、自分のこどもに成人までに伝えたいと思うことはありますか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「将来を考えてお金を管理することは大切だ」が 68.7%で最も高く、次いで「男性は家事や育児に積極的に参加すべきである」(53.7%)、「恋愛や交際の経験は大切だ」(44.4%) となっています。

図表 53 親としてこどもに伝えたいこと（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第2位が、男性では「恋愛や交際の経験は大切だ」となっているのに対し、女性では「男性は家事や育児に積極的に参加すべきである」となっています。

年齢別にみると、18・19歳では「男性は家事や育児に積極的に参加すべきである」が第1位ですが、20歳以上では「将来を考えてお金を管理することは大切だ」が第1位となっています。また、18・19歳では「結婚や子どもを持つ年齢、子どもの成長などを考えて人生設計を立てることは大切だ」が第3位となっています。

図表 54 親として子どもに伝えたいこと（全体、性別、年齢別／複数回答）

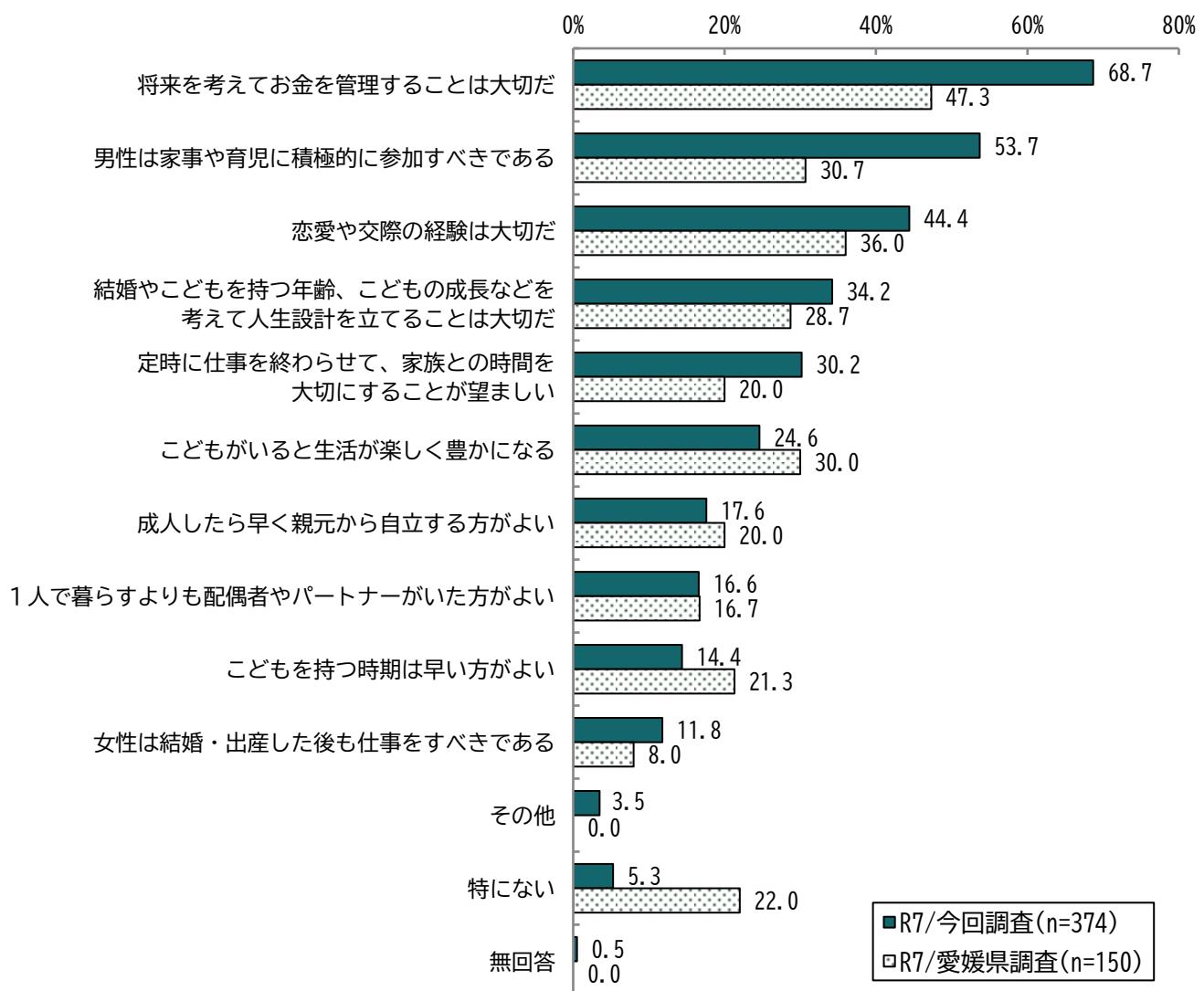
上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=374)	将来を考えてお金を管理することは大切だ	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである	恋愛や交際の経験は大切だ
		68.7	53.7	44.4
	男性(n=145)	将来を考えてお金を管理することは大切だ	恋愛や交際の経験は大切だ	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである
		59.3	44.8	42.8
	女性(n=220)	将来を考えてお金を管理することは大切だ	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである	恋愛や交際の経験は大切だ
		75.9	61.4	44.5
年齢別	18・19歳(n=27)	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである	結婚や子どもを持つ年齢、子どもの成長などを考えて人生設計を立てることは大切だ	
			55.6	37.0
	20～24歳(n=61)	将来を考えてお金を管理することは大切だ	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである	恋愛や交際の経験は大切だ
		63.9	50.8	37.7
	25～29歳(n=77)	将来を考えてお金を管理することは大切だ	恋愛や交際の経験は大切だ	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである
		71.4	45.5	42.9
	30～34歳(n=90)	将来を考えてお金を管理することは大切だ	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである	恋愛や交際の経験は大切だ
		73.3	60.0	52.2
	35～39歳(n=118)	将来を考えてお金を管理することは大切だ	男性は家事や育児に積極的に参加すべきである	恋愛や交際の経験は大切だ
		68.6	56.8	44.1

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「将来を考えてお金を管理することは大切だ」「男性は家事や育児に積極的に参加すべきである」が20ポイント以上上回っています。

図表 55 親としてこどもに伝えたいこと（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



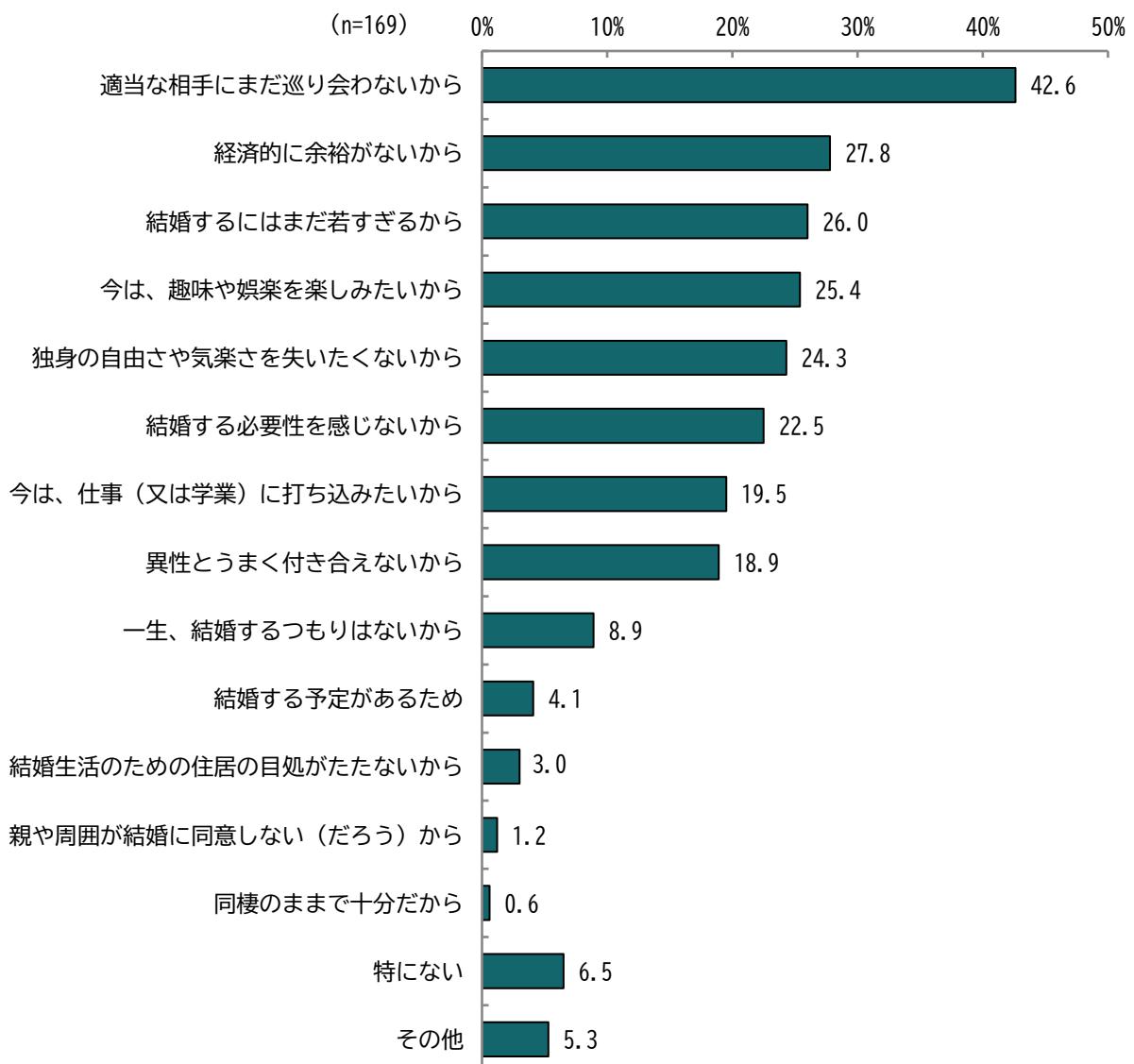
未婚の方のみ

問 17 現在結婚していない理由を、次の中から選ぶとすればどれですか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「適当な相手にまだ巡り会わないから」が 42.6%で最も高く、次いで「経済的に余裕がないから」(27.8%)、「結婚するにはまだ若すぎるから」(26.0%) となっています。

図表 56 現在結婚していない理由（全体／複数回答）



※無回答を除いた集計（無回答に既婚の人も含まれるため、また、県調査では、既婚の人は除外されており、比較の際に可能な限り条件を近づけるため）

【属性別の傾向】

性別にみると、第2位、第3位に違いがみられ、男性は「経済的に余裕がないから」、「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」と続いているのに対し、女性は「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」、「結婚するにはまだ若すぎるから」および「今は仕事（又は学業）に打ち込みたいから」と続いています。

年齢別にみると、18・19歳では「結婚するにはまだ若すぎるから」が第1位となっていますが、25歳以上では「適当な相手にまだ巡り会わないから」が第1位となっています。20～24歳では「結婚するにはまだ若すぎるから」および「適当な相手にまだ巡り会わないから」が同率で第1位となっています。また、30～34歳では「異性とうまく付き合えないから」が第2位となっています。

図表 57 現在結婚していない理由（全体、性別、年齢別／複数回答）

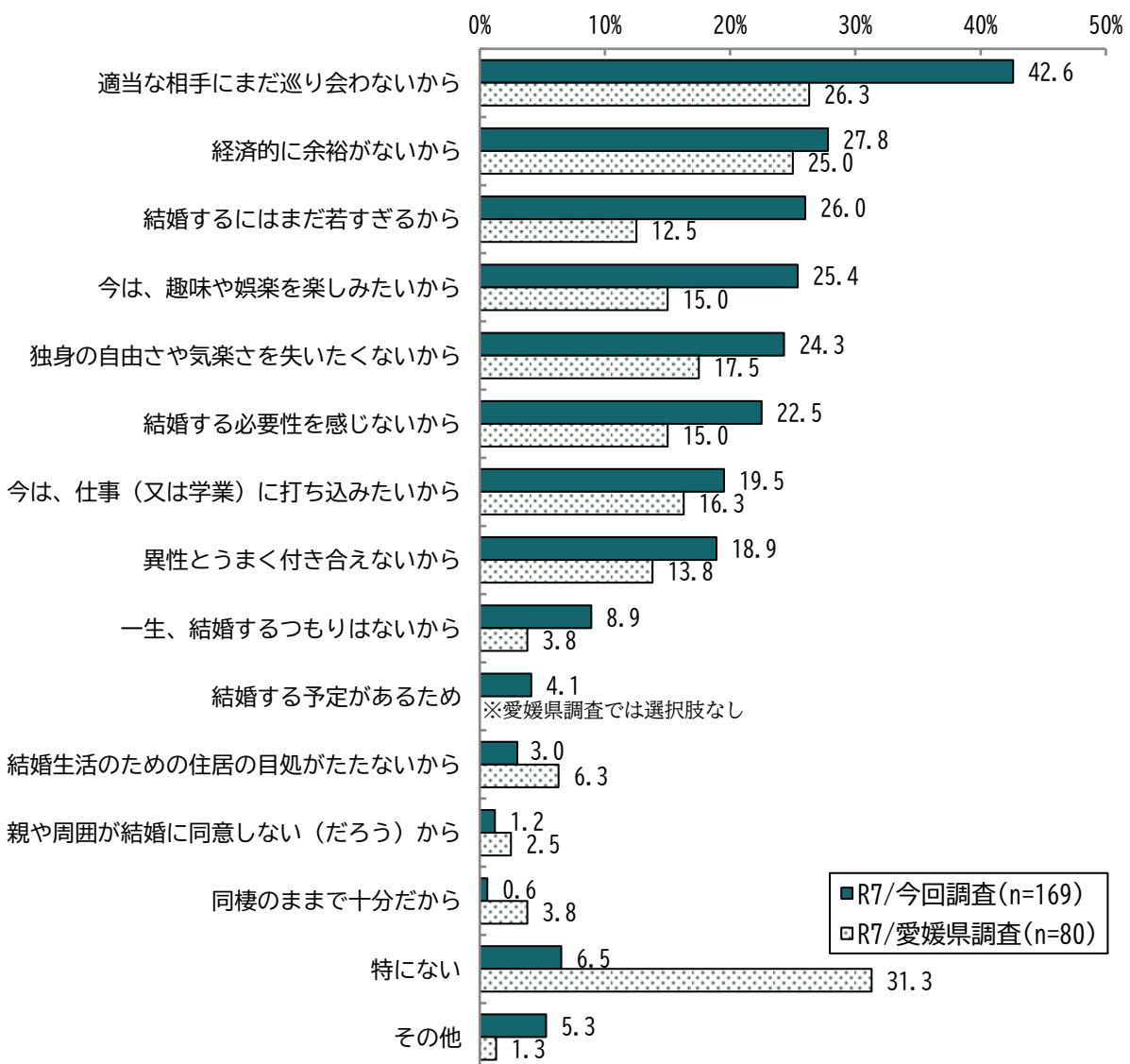
上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=169)		適当な相手にまだ巡り会わないから	経済的に余裕がないから	結婚するにはまだ若すぎるから
		42.6	27.8	26.0
性別	男性(n=77)	適当な相手にまだ巡り会わないから	経済的に余裕がないから	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから
		45.5	33.8	28.6
年齢別	女性(n=87)	適当な相手にまだ巡り会わないから	独身の自由さや気楽さを失いたくないから	結婚するにはまだ若すぎるから／今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから
		41.4	28.7	27.6
年齢別	18・19歳(n=26)	結婚するにはまだ若すぎるから	適当な相手にまだ巡り会わないから	今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから
		76.9	30.8	26.9
	20～24歳(n=55)	結婚するにはまだ若すぎるから／適当な相手にまだ巡り会わないから		結婚する必要性を感じないから／今は、仕事（又は学業）に打ち込みたいから
			36.4	29.1
	25～29歳(n=38)	適当な相手にまだ巡り会わないから	経済的に余裕がないから	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから／独身の自由さや気楽さを失いたくないから
		39.5	28.9	26.3
年齢別	30～34歳(n=25)	適当な相手にまだ巡り会わないから	異性とうまく付き合えないから／経済的に余裕がないから	
		68.0		44.0
年齢別	35～39歳(n=25)	適当な相手にまだ巡り会わないから	経済的に余裕がないから	独身の自由さや気楽さを失いたくないから
		48.0	44.0	32.0

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「適当な相手にまだ巡り会わないから」「結婚するにはまだ若すぎるから」「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」が10ポイント以上上回っています。

図表 58 現在結婚していない理由（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



4 出産や子育てに関する考え方について

1 希望することもの数と実際のこともの数

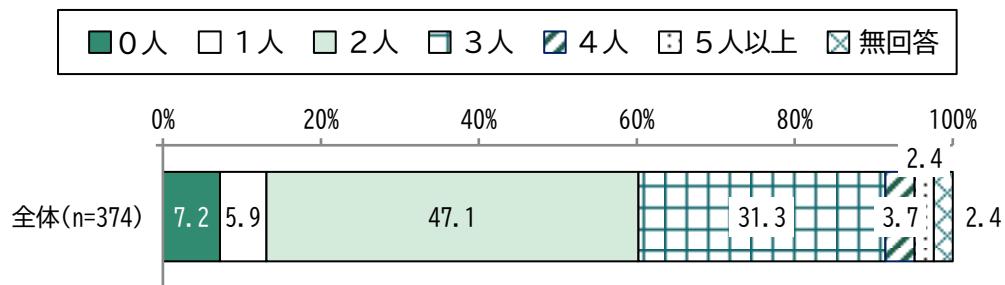
問18 あなたにとって「①理想とすることもの人数」と「②実際に持つつもりのこともの人数」は何人ですか。(それぞれ○は1つ)

【全体の傾向】

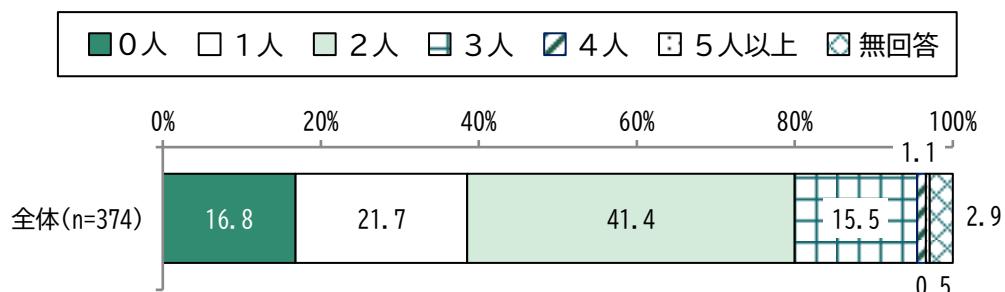
理想とすることもの人数では、「2人」が47.1%で最も高く、次いで「3人」(31.3%)、「0人」(7.2%)となっています。

実際に持つつもりのこともの人数では、「2人」が41.4%で最も高く、次いで「1人」(21.7%)、「0人」(16.8%)となっており、理想よりも「0人」「1人」の割合が高くなっています。

図表 59 ①理想とすることもの人数（全体）



図表 60 ②実際に持つつもりのこともの人数（全体）



【属性別の傾向】

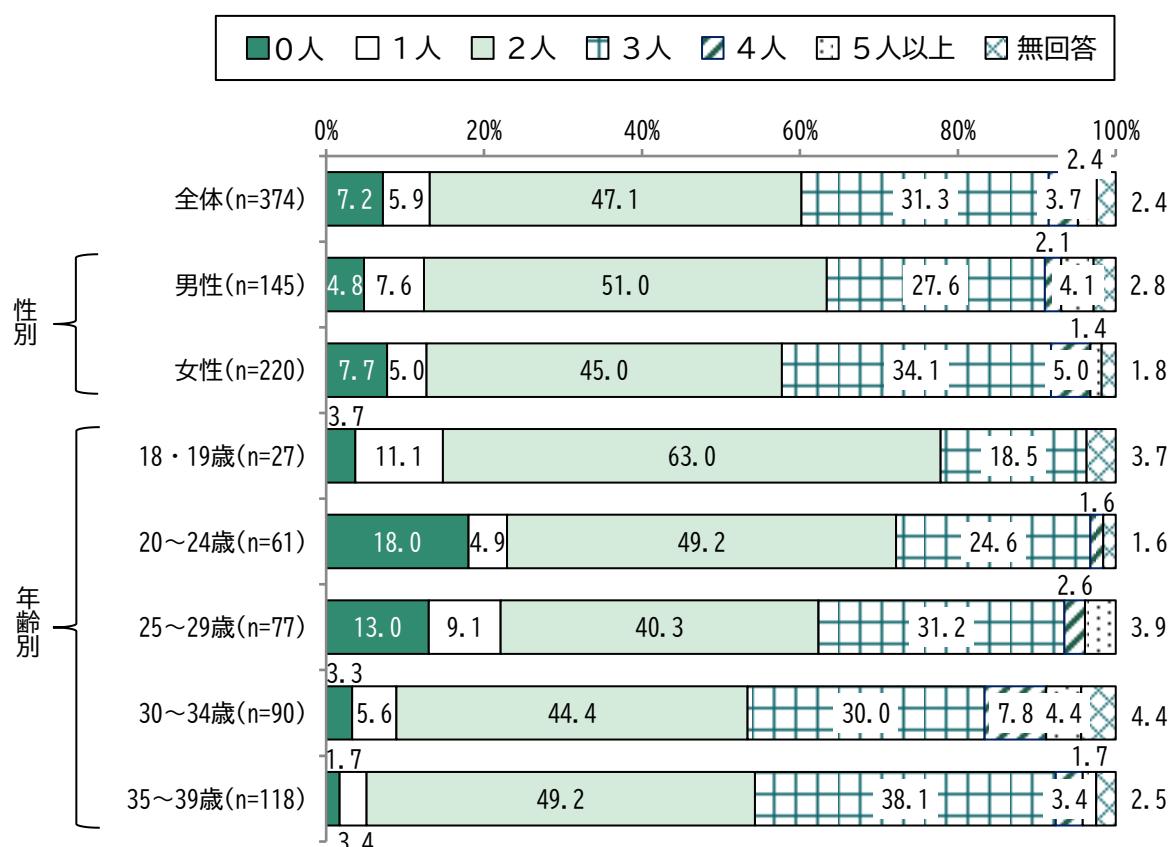
理想とする子どもの人数を性別にみると、「1人」「2人」「5人以上」は男性の方が高く、「0人」「3人」「4人」は女性の方が高くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢も「2人」が最も高く、次いで「3人」となっています。また、20～29歳では「0人」が1割以上を占めています。

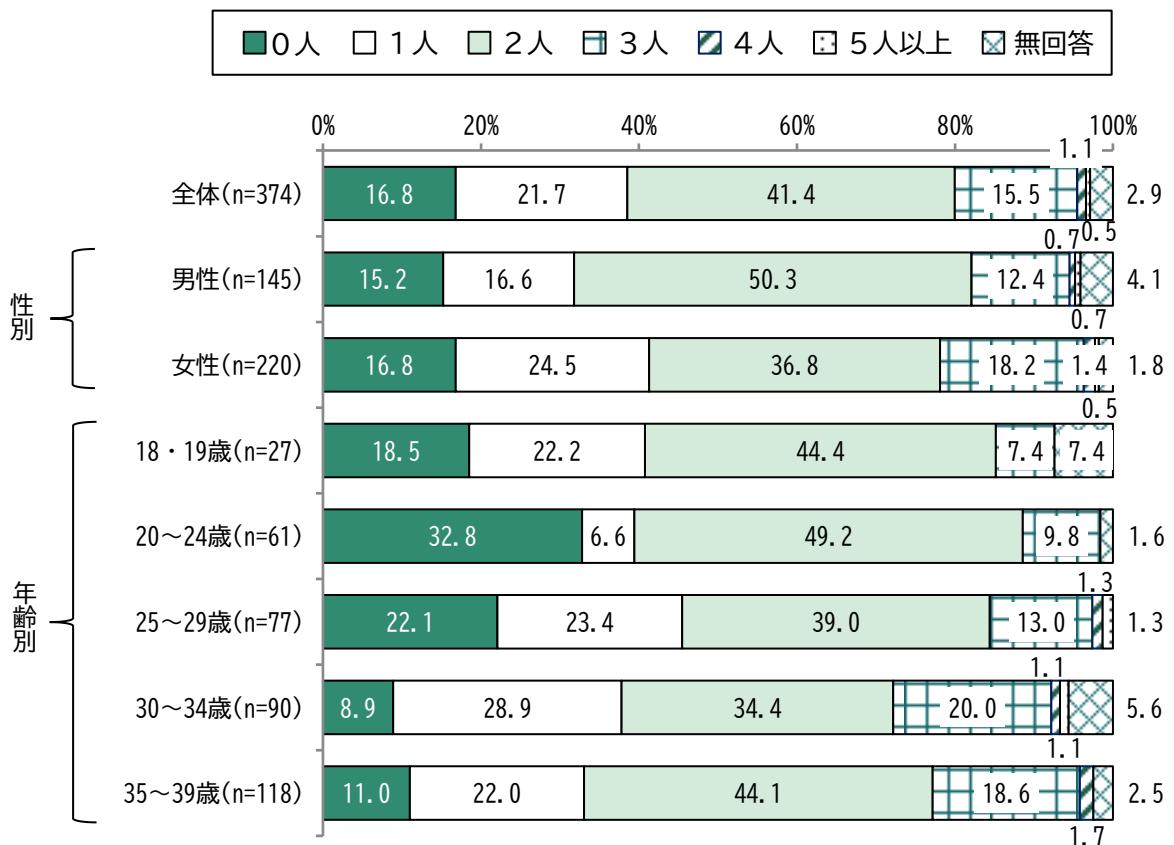
実際に持つつもりの子どもの人数を性別にみると、「2人」は男性の方が高く、「0人」「1人」「3人」は女性の方が高くなっています。

年齢別にみると、いずれの年齢も「2人」が最も高くなっていますが、20～24歳では「0人」が3割以上を占めています。また、理想と比較すると、いずれの年齢も「0人」「1人」が高くなっています。

図表 61 ①理想とする子どもの人数（全体、性別、年齢別）



図表 62 ②実際に持つつもの子どもの人数（全体、性別、年齢別）

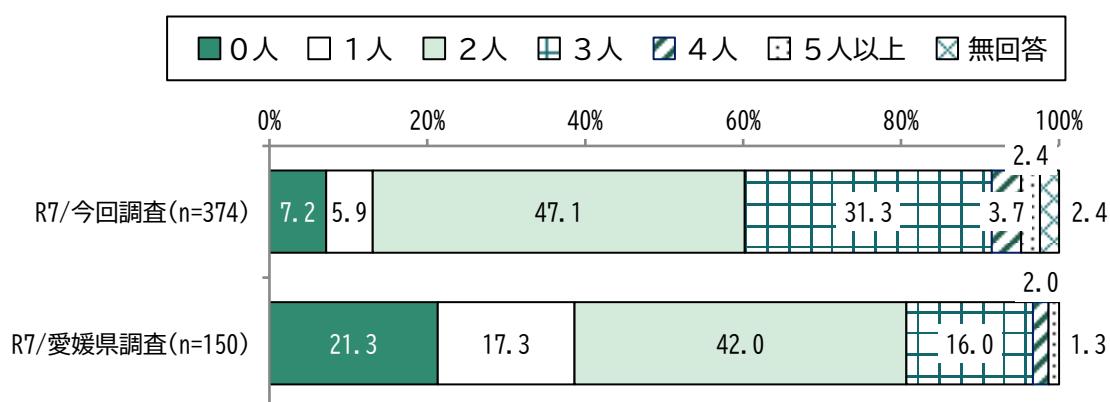


【愛媛県調査との比較】

※愛媛県調査では、②について実際の人数となっているため比較はしていない

愛媛県調査と比較すると、理想とする子どもの人数では「0人」「1人」が下回り、2人以上がいずれも上回っています。

図表 63 ①理想とすることの子どもの人数（全体、愛媛県調査との比較）



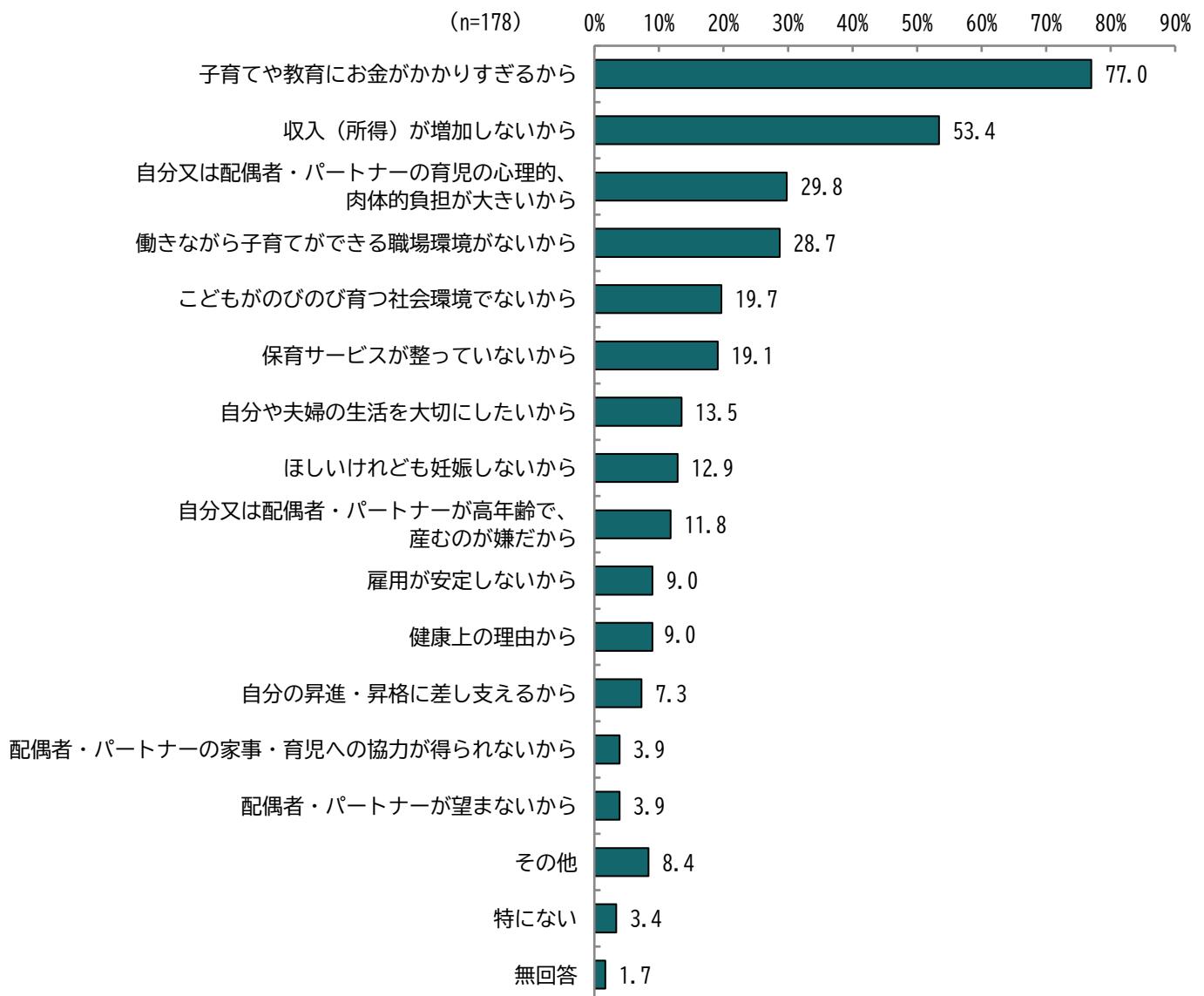
問18で「①理想の数」より「②実際の数」を少なく回答した方

問18-1 理想の数までこどもを持たない、又は、持てない理由は何ですか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が77.0%で最も高く、次いで「収入（所得）が増加しないから」(53.4%)、「自分又は配偶者・パートナーの育児の心理的、肉体的負担が大きいから」(29.8%)となっています。

図表 64 理想の数までこどもを持たない理由（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第3位が、男性では「働きながら子育てできる職場環境がないから」となっているのに対し、女性では「自分又は配偶者・パートナーの育児の心理的、肉体的負担が大きいから」となっています。

年齢別にみると、第1位、第2位はいずれの年齢も「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「収入（所得）が増加しないから」の順となっていますが、第3位に違いがみられ、18・19歳では「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」、20～24歳、30～34歳では「働きながら子育てできる職場環境がないから」、25～29歳、35～39歳では「自分又は配偶者・パートナーの育児の心理的、肉体的負担が大きいから」となっています。

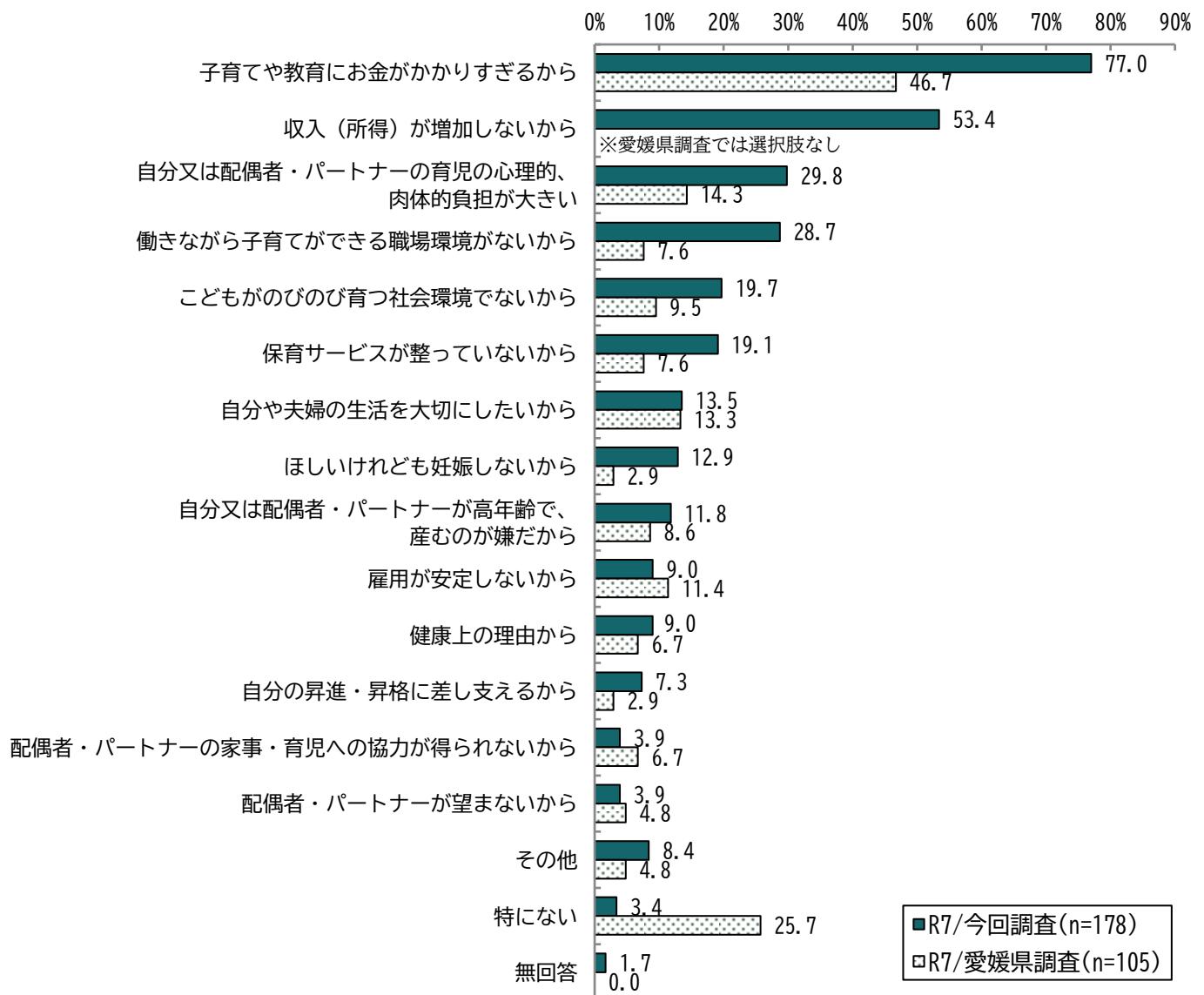
図表 65 理想の数までこどもを持たない理由（全体、性別、年齢別／複数回答）

		上位3位 (%)		
		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=178)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	自分又は配偶者・パートナーの育児の心理的、肉体的負担が大きいから
		77.0	53.4	29.8
	男性(n=58)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	働きながら子育てができる職場環境がないから
		77.6	55.2	34.5
	女性(n=115)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	自分又は配偶者・パートナーの育児の心理的、肉体的負担が大きいから
		75.7	52.2	28.7
年齢別	18・19歳(n=9)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから／特にない
		66.7	33.3	22.2
	20～24歳(n=20)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	働きながら子育てができる職場環境がないから
		70.0	50.0	40.0
	25～29歳(n=37)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	自分又は配偶者・パートナーの育児の心理的、肉体的負担が大きいから
		73.0	48.6	29.7
	30～34歳(n=48)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	働きながら子育てができる職場環境がないから
		83.3	60.4	37.5
	35～39歳(n=63)	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	収入（所得）が増加しないから	自分又は配偶者・パートナーの育児の心理的、肉体的負担が大きいから
		77.8	55.6	31.7

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「働きながら子育てできる職場環境がないから」が20ポイント以上上回っています。

図表 66 理想の数までこどもを持たない理由（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



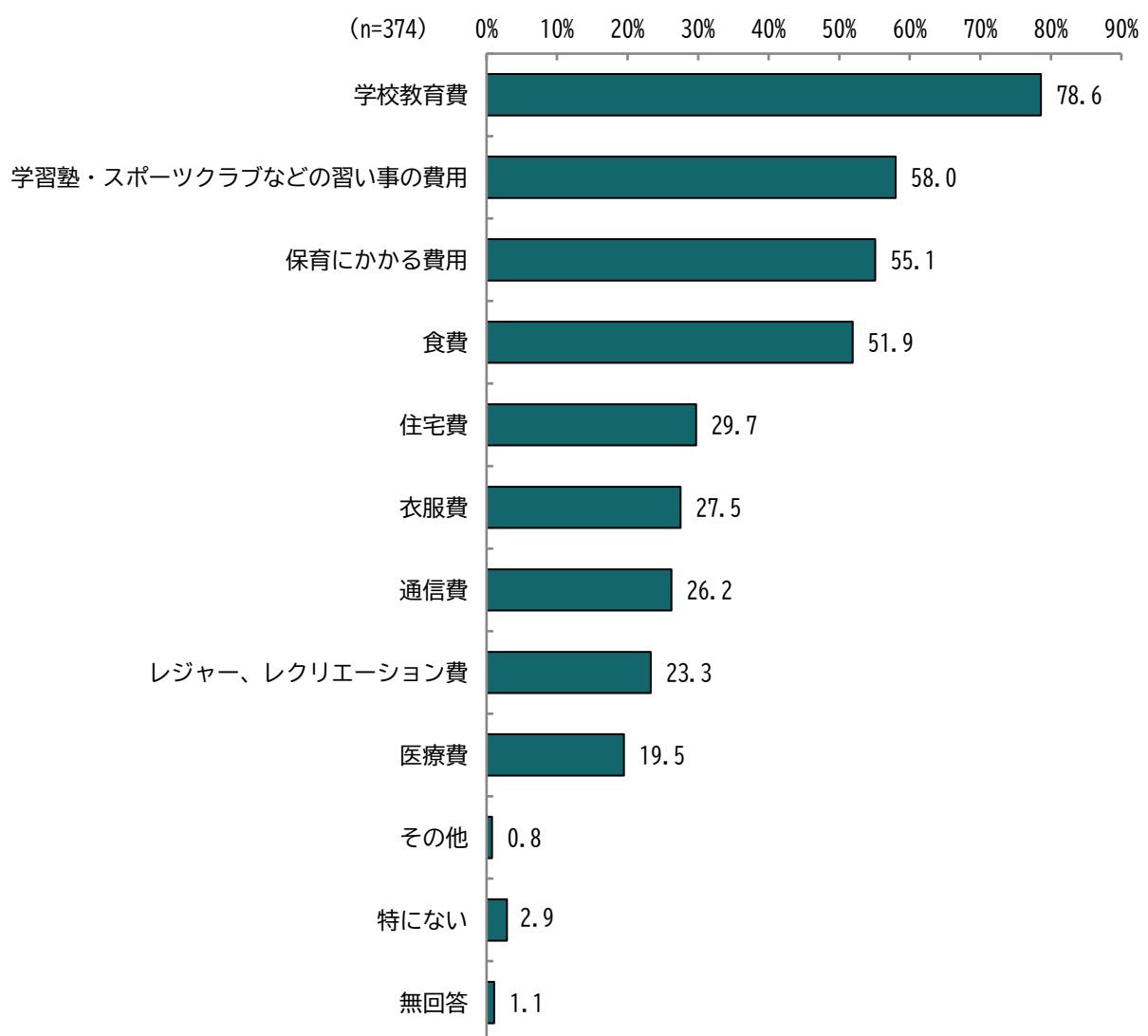
2 子育てにおける経済的負担について

問19 あなたにとって、子育てにかかる経済的な負担として大きなものは何ですか。
(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「学校教育費」が78.6%で最も高く、次いで「学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用」(58.0%)、「保育にかかる費用」(55.1%)となっています。

図表 67 子育てにおける経済的負担について（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男女で大きな違いはみられません。

年齢別にみると、第1位は、いずれの年齢も「学校教育費」となっていますが、第2位は、18～29歳では「保育にかかる費用」、30～34歳では「食費」、35～39歳では「学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用」となっています。

図表 68 子育てにおける経済的負担について（全体、性別、年齢別／複数回答）

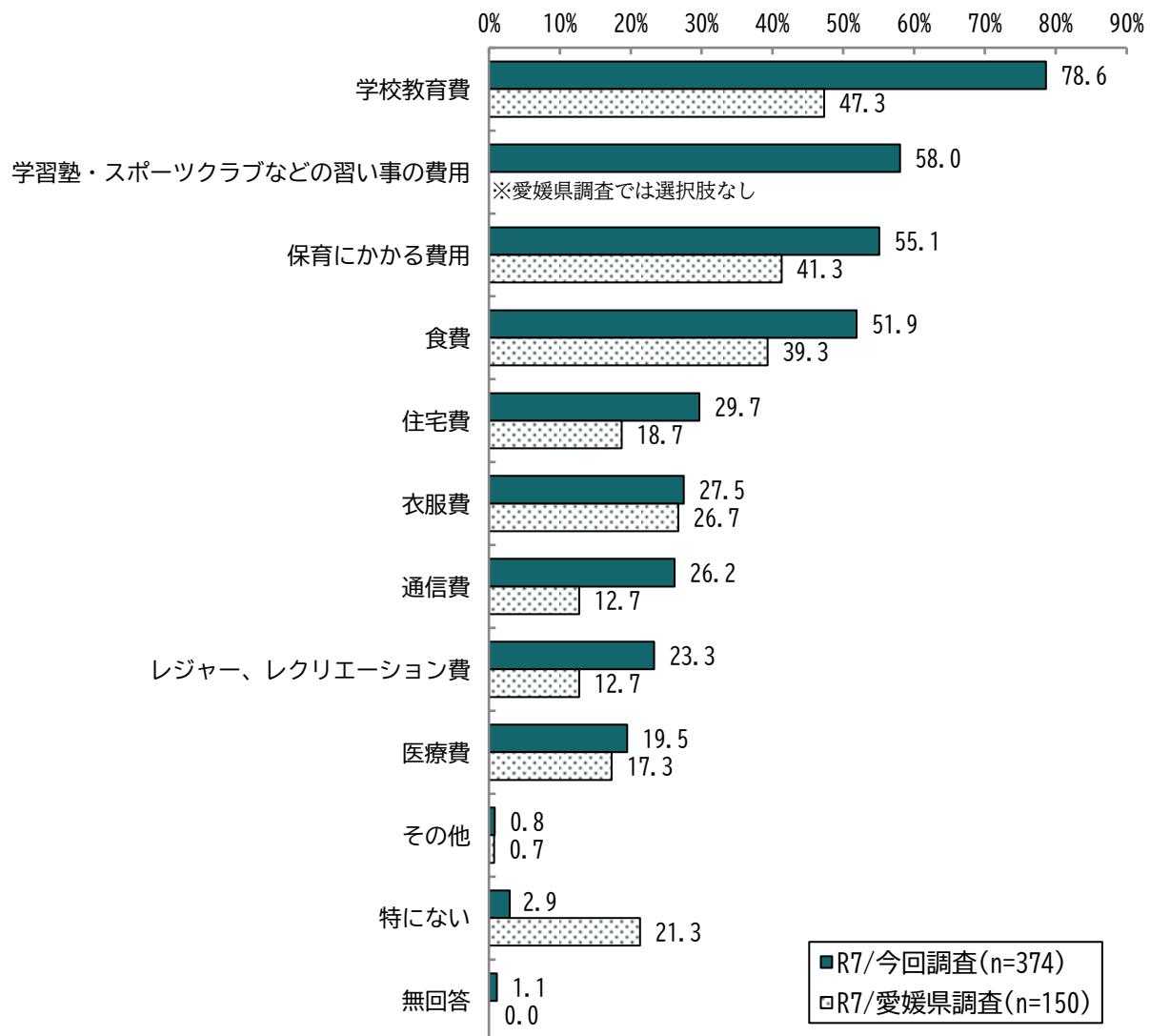
上位3位 (%)

		第1位	第2位	第3位
全体(n=374)		学校教育費	学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用	保育にかかる費用
		78.6	58.0	55.1
性別	男性(n=145)	学校教育費	学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用	保育にかかる費用
		74.5	57.9	53.8
年齢別	女性(n=220)	学校教育費	学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用	保育にかかる費用
		82.3	58.2	54.5
18・19歳(n=27)	学校教育費	保育にかかる費用	学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用	
		85.2	70.4	59.3
20～24歳(n=61)	学校教育費	保育にかかる費用	学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用	
		77.0	59.0	50.8
25～29歳(n=77)	学校教育費	保育にかかる費用	食費	
		76.6	61.0	55.8
30～34歳(n=90)	学校教育費	食費	学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用	
		84.4	62.2	58.9
35～39歳(n=118)	学校教育費	学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用	食費	
		74.6	65.3	53.4

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、ほとんどの項目で上回っており、特に「学校教育費」では30ポイント以上の差がみられます。

図表 69 子育てにおける経済的負担について（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



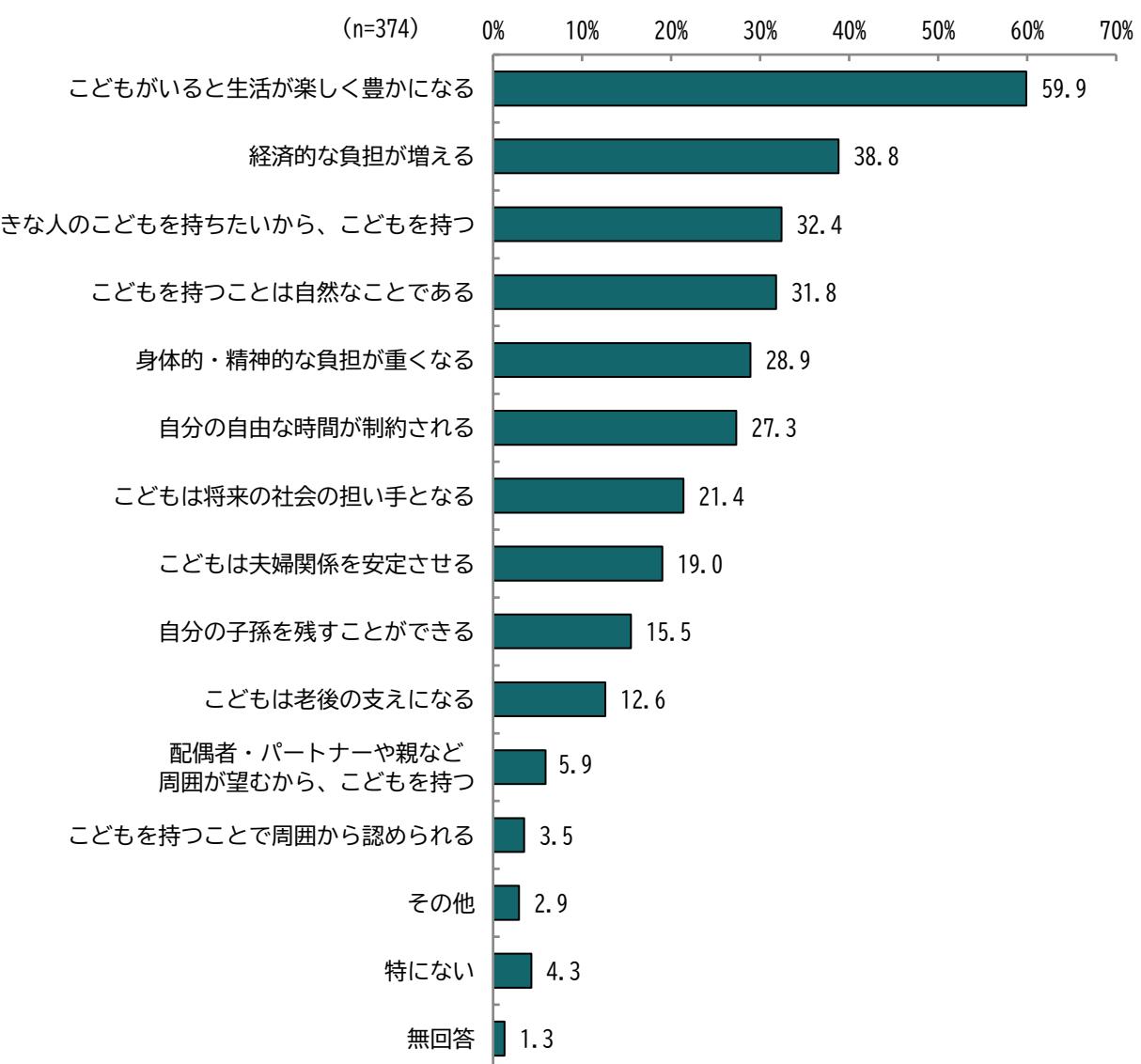
3 こどもを持つことについての考え方

問20 あなたは、自分のこどもを持つことに対して、どのように考えていますか。既にお子さんがいらっしゃる方は、今現在どのように考えているかお答えください。(○は3つまで)

【全体の傾向】

「こどもがいると生活が楽しく豊かになる」が 59.9%で最も高く、次いで「経済的な負担が増える」(38.8%)、「好きな人のこどもを持ちたいから、こどもを持つ」(32.4%) となっています。

図表 70 こどもを持つことについての考え方（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「子どもをもつことは自然なことである」が第2位に、女性では「好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ」が第3位にそれぞれ挙がっています。

年齢別にみると、いずれの年齢も第1位は「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」ですが、第2位が、18～24歳では「子どもをもつことは自然なことである」、25歳以上では「経済的な負担が増える」となっており、違いがみられます。また、30～34歳では「身体的・精神的な負担が重くなる」が第3位となっています。

図表 71 こどもを持つことについての考え方（全体、性別、年齢別／複数回答）

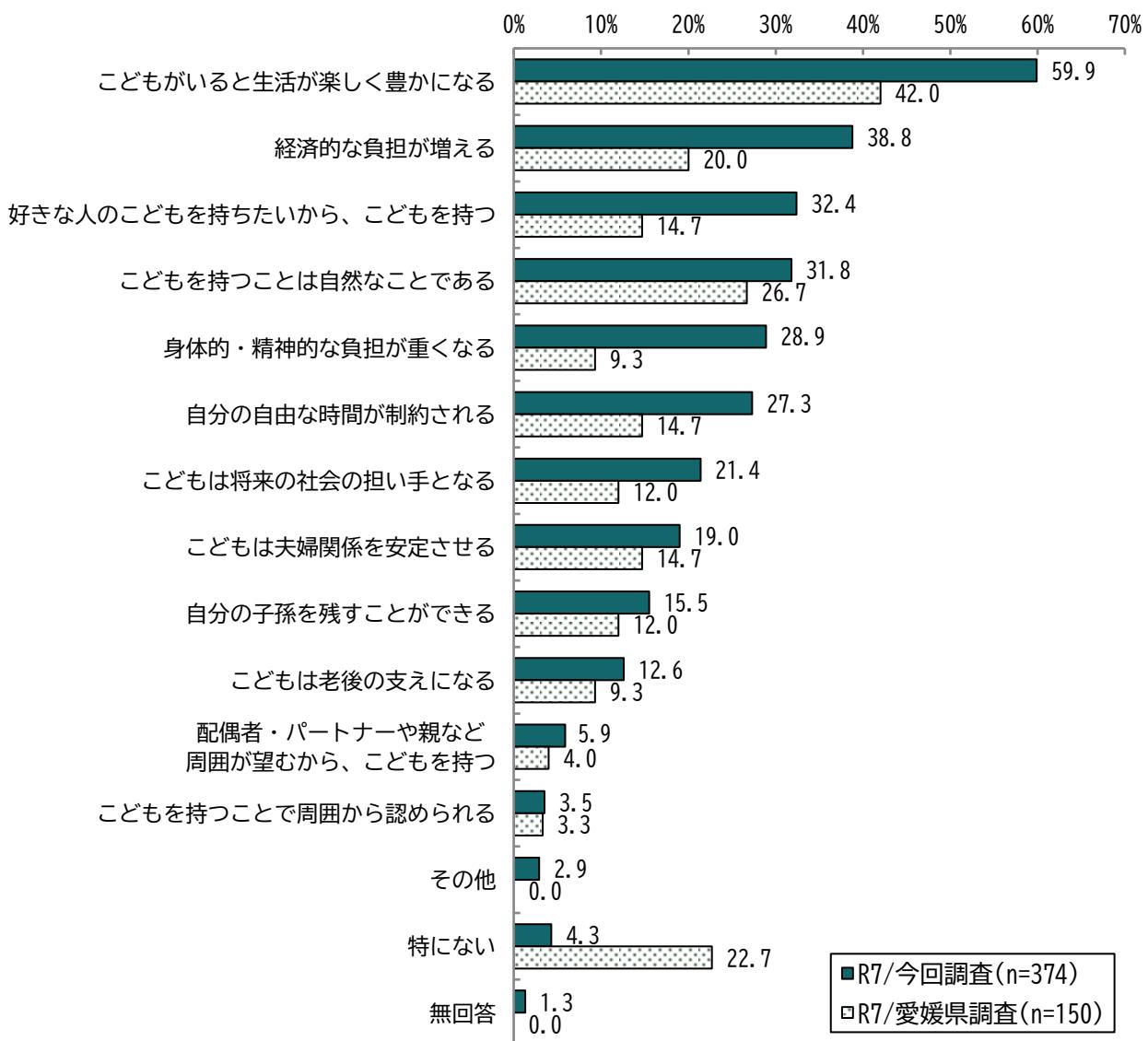
上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=374)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	経済的な負担が増える	好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ
		59.9	38.8	32.4
性別	男性(n=145)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	子どもを持つことは自然なことである	経済的な負担が増える
		53.8	37.9	34.5
年齢別	女性(n=220)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	経済的な負担が増える	好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ
		63.6	40.9	39.1
年齢別	18・19歳(n=27)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	子どもを持つことは自然なことである	子どもは将来の社会の担い手となる／好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ
		48.1	33.3	29.6
	20～24歳(n=61)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	子どもを持つことは自然なことである	好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ
		49.2	39.3	21.3
	25～29歳(n=77)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	経済的な負担が増える	好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ
		51.9	39.0	37.7
年齢別	30～34歳(n=90)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	経済的な負担が増える	身体的・精神的な負担が重くなる
		61.1	48.9	37.8
年齢別	35～39歳(n=118)	子どもがいると生活が楽しく豊かになる	経済的な負担が増える	好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ
		72.0	44.1	34.7

【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「子どもがいると生活が楽しく豊かになる」「経済的な負担が増える」「好きな人の子どもを持ちたいから、子どもを持つ」「身体的・精神的な負担が重くなる」「自分の自由な時間が制約される」がいずれも 10 ポイント以上上回っています。

図表 72 こどもを持つことについての考え方（全体、愛媛県調査との比較／複数回答）



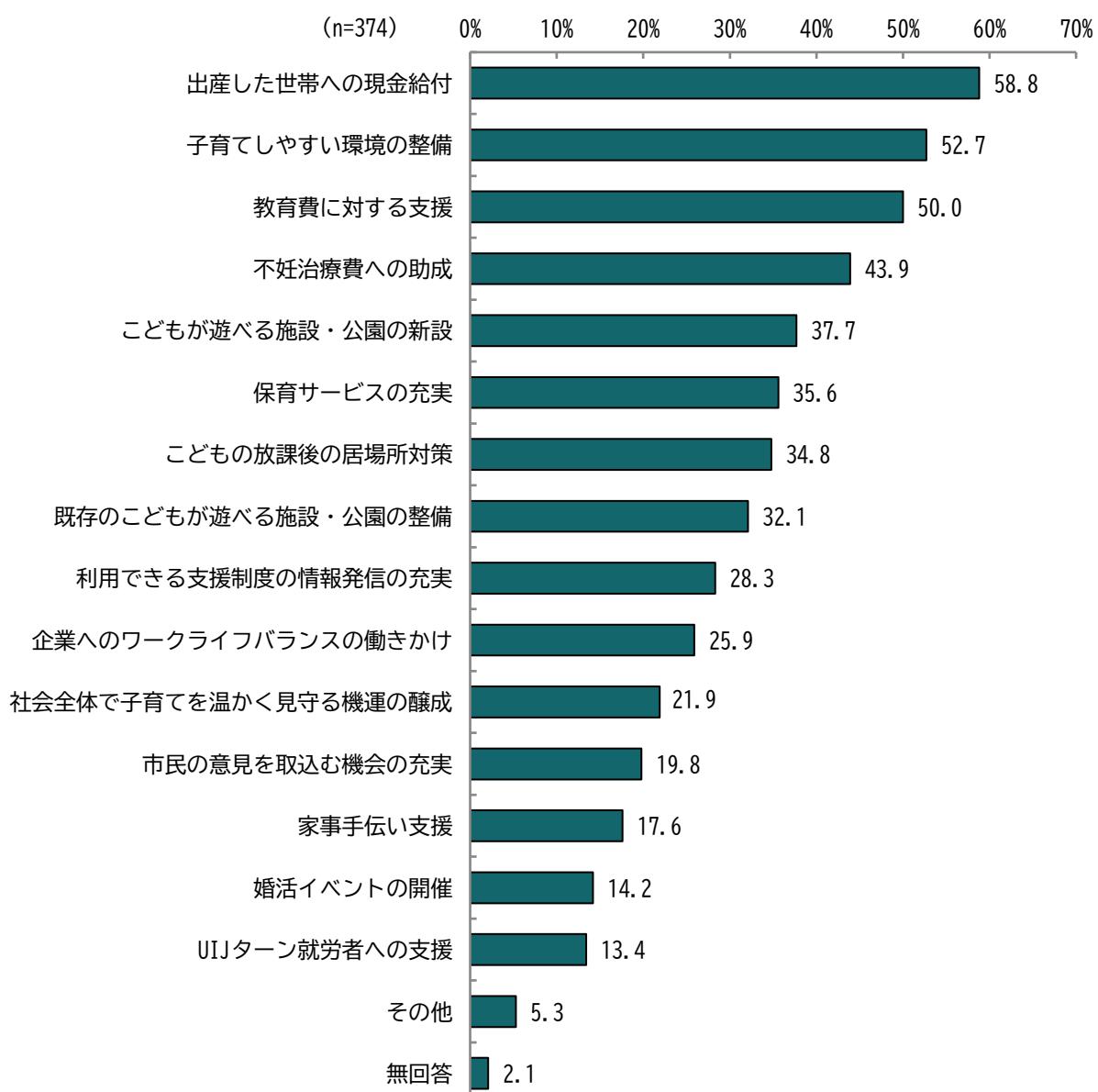
4 少子化対策について

問 21 少子化対策として、新居浜市が実施した方がいいと考える支援はどれですか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「出産した世帯への現金給付」が 58.8% で最も高く、次いで「子育てしやすい環境の整備」(52.7%)、「教育費に対する支援」(50.0%) となっています。

図表 73 少子化対策として新居浜市に望む支援（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男女で大きな差はみられません。

年齢別にみると、第1位が、18・19歳では「子育てしやすい環境の整備」、20～34歳では「出産した世帯への現金給付」、35～39歳では「教育費に対する支援」となっており、違いがみられます。また、25～29歳では「不妊治療への助成」が第2位となっています。

図表 74 少子化対策として新居浜市に望む支援（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=374)		出産した世帯への現金給付	子育てしやすい環境の整備	教育費に対する支援
		58.8	52.7	50.0
性別	男性(n=145)	出産した世帯への現金給付	教育費に対する支援／子育てしやすい環境の整備	
		59.3		51.7
年齢別	女性(n=220)	出産した世帯への現金給付	子育てしやすい環境の整備	教育費に対する支援
		58.6	54.1	49.1
年齢別	18・19歳(n=27)	子育てしやすい環境の整備	出産した世帯への現金給付	教育費に対する支援
		66.7	55.6	51.9
年齢別	20～24歳(n=61)	出産した世帯への現金給付	教育費に対する支援	子育てしやすい環境の整備
		67.2	50.8	49.2
年齢別	25～29歳(n=77)	出産した世帯への現金給付	不妊治療費への助成	子育てしやすい環境の整備
		64.9	49.4	48.1
年齢別	30～34歳(n=90)	出産した世帯への現金給付	子育てしやすい環境の整備	教育費に対する支援
		54.4	51.1	48.9
年齢別	35～39歳(n=118)	教育費に対する支援	子育てしやすい環境の整備	出産した世帯への現金給付
		57.6	55.9	54.2

5 若者の意見の反映について

1 市政への参画について

問22 あなたは、新居浜市へ意見を伝えたり、その意見の実現に向けて一緒に取り組む機会に積極的に参画したいと思いますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

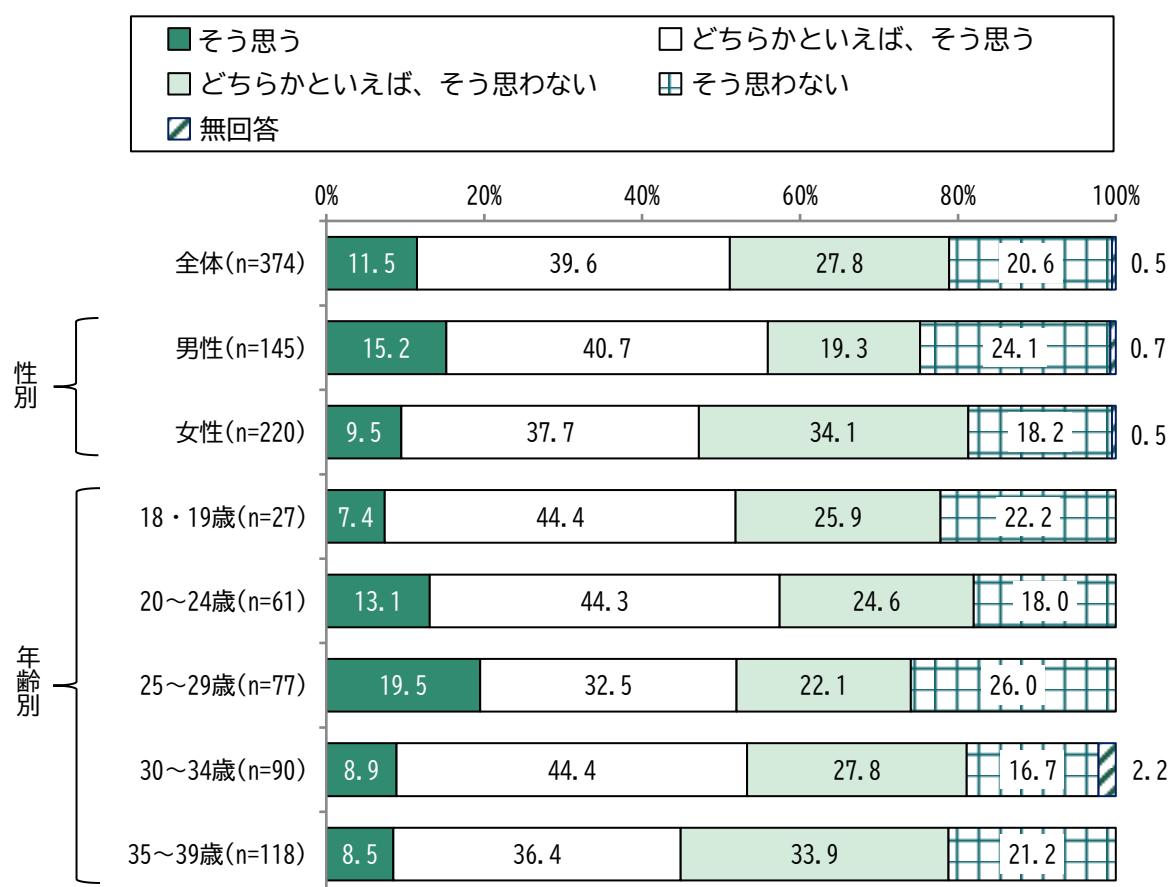
「どちらかといえば、そう思う」が39.6%で最も高く、「そう思う」(11.5%)を合わせると、51.1%が『参画したいと思う』と回答しています。一方、「どちらかといえばそう思わない」(27.8%)と「そう思わない」(20.6%)を合わせた『参画したいと思わない』は48.4%となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、『参画したいと思う』割合は、男性(55.9%)が女性(47.2%)を上回っています。

年齢別にみると、『参画したいと思う』割合は、20~24歳(57.4%)が最も高くなっています。また、18~34歳では『参画したいと思う』割合が『参画したいと思わない』割合を上回っていますが、35~39歳では『参画したいと思わない』割合の方が高くなっています。

図表 75 市政に積極的に参画したいと思うか（全体、性別、年齢別）

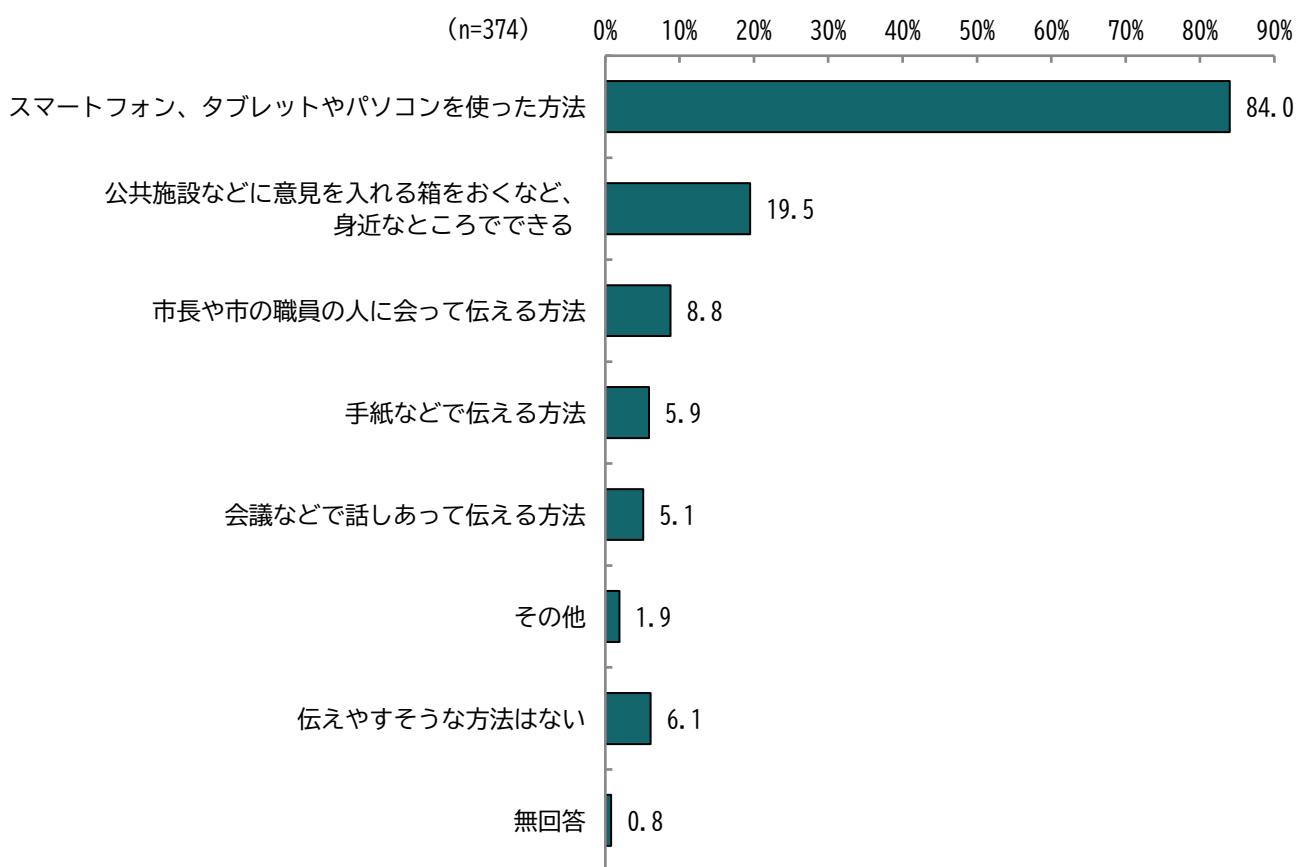


問23 どのような方法や手段があれば、自分の希望や思いを新居浜市に伝えやすいですか。
(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法」が84.0%で最も高く、その割合は突出しています。次いで「公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる」(19.5%)、「市長や市の職員の人に会って伝える方法」(8.8%)となっています。

図表 76 自身の希望や思いを伝えやすい手段（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法」が第1位となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢も「スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法」が第1位となっています。

図表 77 自身の希望や思いを伝えやすい手段（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=374)		スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	市長や市の職員の人に会って伝える方法
		84.0	19.5	8.8
性別	男性(n=145)	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	市長や市の職員の人に会って伝える方法
		80.7	14.5	11.0
	女性(n=220)	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	市長や市の職員の人に会って伝える方法
		86.8	22.3	6.8
年齢別	18・19歳(n=27)	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	手紙などで伝える方法／市長や市の職員の人に会って伝える方法／会議などで話しあって伝える方法／伝えやすそうな方法はない
		85.2	29.6	3.7
	20～24歳(n=61)	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	市長や市の職員の人に会って伝える方法／伝えやすそうな方法はない
		83.6	18.0	6.6
	25～29歳(n=77)	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	市長や市の職員の人に会って伝える方法
		89.6	13.0	9.1
	30～34歳(n=90)	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	市長や市の職員の人に会って伝える方法
		85.6	18.9	13.3
	35～39歳(n=118)	スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法	公共施設などに意見を入れる箱をおくなど、身近なところでできる	伝えやすそうな方法はない
		78.8	22.0	8.5

2 意見の反映について

問24 主に子育て支援や少子化対策について、新居浜市の施策に対して自身の意見が反映されている実感がありますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

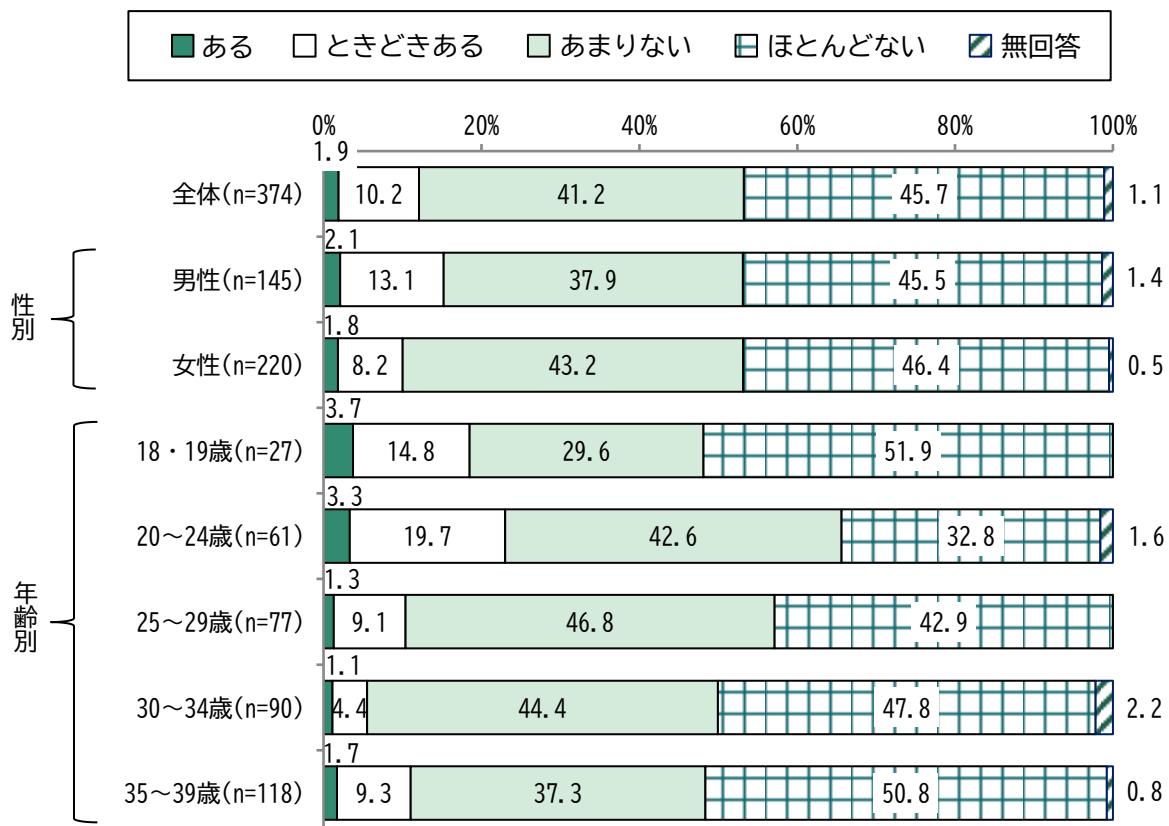
「ほとんどない」が45.7%で最も高く、「あまりない」(41.2%)を合わせると、86.9%が『反映されていると感じない』と回答しています。一方、「ある」(1.9%)と「ときどきある」(10.2%)を合わせた『反映されていると感じる』割合は12.1%にとどまっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、『反映されていると感じる』割合は、男性(15.2%)が女性(10.0%)を上回っています。

年齢別にみると、『反映されていると感じる』割合は、20~24歳(23.0%)が最も高く、次いで18・19歳(18.5%)となっています。一方、30~34歳(5.5%)では、1割未満と他の年齢と比べて低くなっています。

図表 78 自身の意見が反映されている実感はあるか（全体、性別、年齢別）



6 これからの生活について

1 生活の満足度

問25 あなたは、全体として、現在の生活にどの程度満足していますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

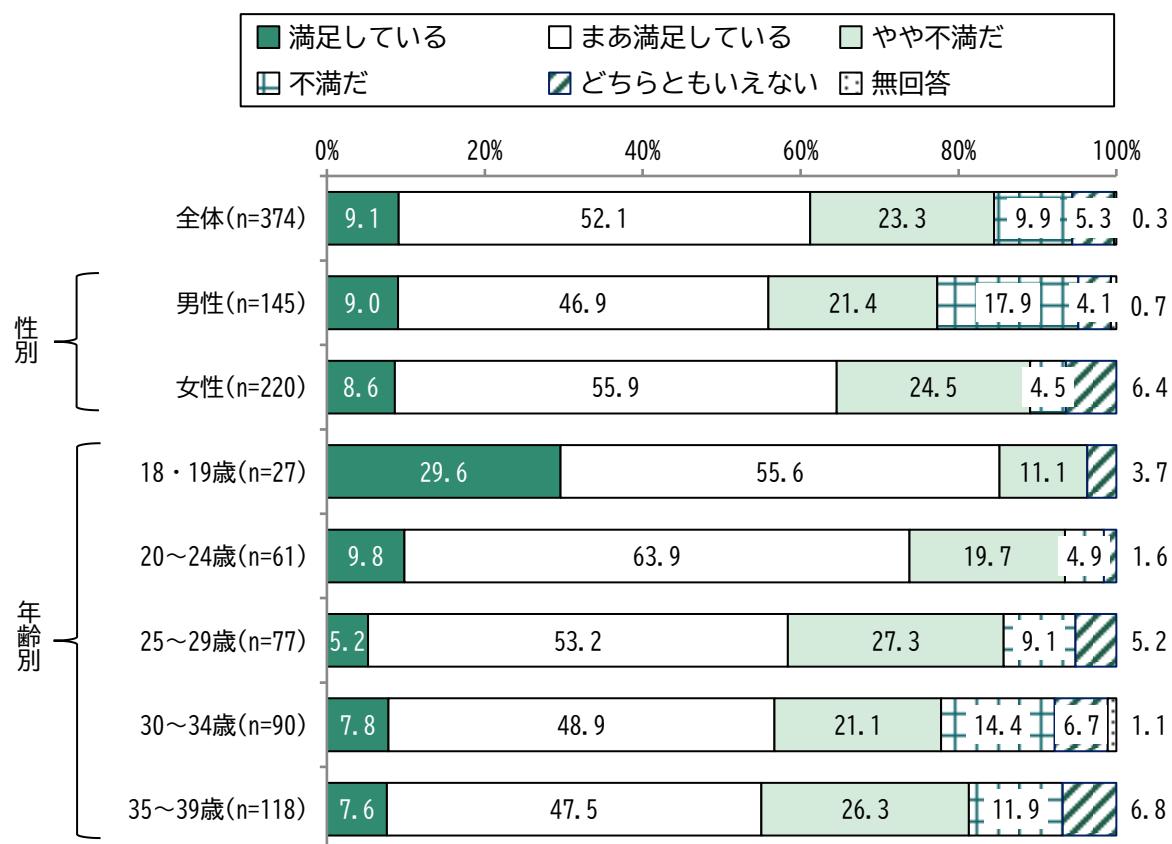
「まあ満足している」が52.1%で最も高く、「満足している」(9.1%)を合わせると、61.2%が『現在の生活に満足している』と回答しています。一方、「やや不満だ」(23.3%)と「不満だ」(9.9%)を合わせた『現在の生活に満足していない』割合は33.2%となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、『現在の生活に満足している』割合は、女性(64.5%)が「男性」(55.9%)を上回っています。

年齢別にみると、『現在の生活に満足している』割合は、18・19歳(85.2%)が最も高く、次いで20～24歳(73.7%)となっていますが、年齢が上がるにつれてその割合は減少しています。

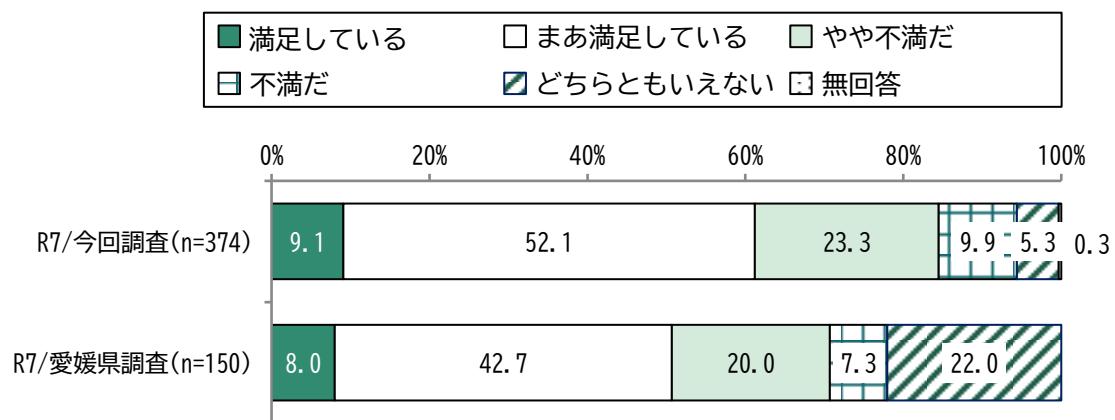
図表 79 現在の生活に満足しているか（全体、性別、年齢別）



【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、『現在の生活に満足している』割合が 10.5 ポイント上回っています。

図表 80 現在の生活に満足しているか（全体、愛媛県調査との比較）



2 自身が生まれ育った場所

問26 あなたが生まれ育った場所はどちらですか。(○は1つ)

【全体の傾向】

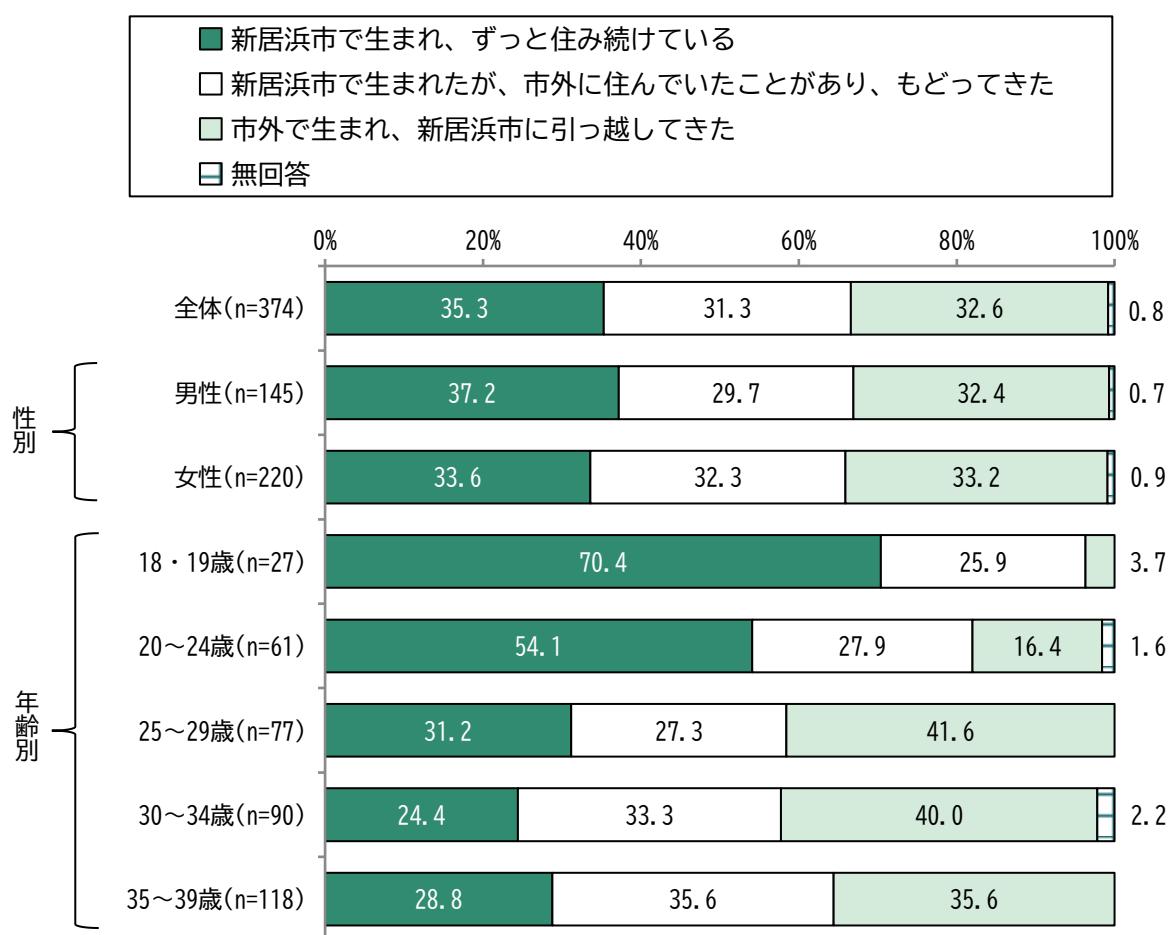
「新居浜市で生まれ、ずっと住み続けている」が35.3%で最も高く、次いで「市外で生まれ、新居浜市に引っ越してきた」(32.6%)、「新居浜市で生まれたが、市外に住んでいたことがあり、もどってきた」(31.3%)となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「新居浜市で生まれ、ずっと住み続けている」は男性の方が高くなっていますが、「新居浜市で生まれたが、市外に住んでいたことがあり、もどってきた」および「市外で生まれ、新居浜市に引っ越してきた」は女性の方が高くなっています。

年齢別にみると、18~24歳では「新居浜市で生まれ、ずっと住み続けている」が最も高くなっていますが、25歳以上では「市外で生まれ、新居浜市に引っ越してきた」が最も高くなっています。

図表 81 生まれ育った場所（全体、性別、年齢別）



3 新居浜市への居住意向

問27 あなたは、今後も新居浜市に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

【全体の傾向】

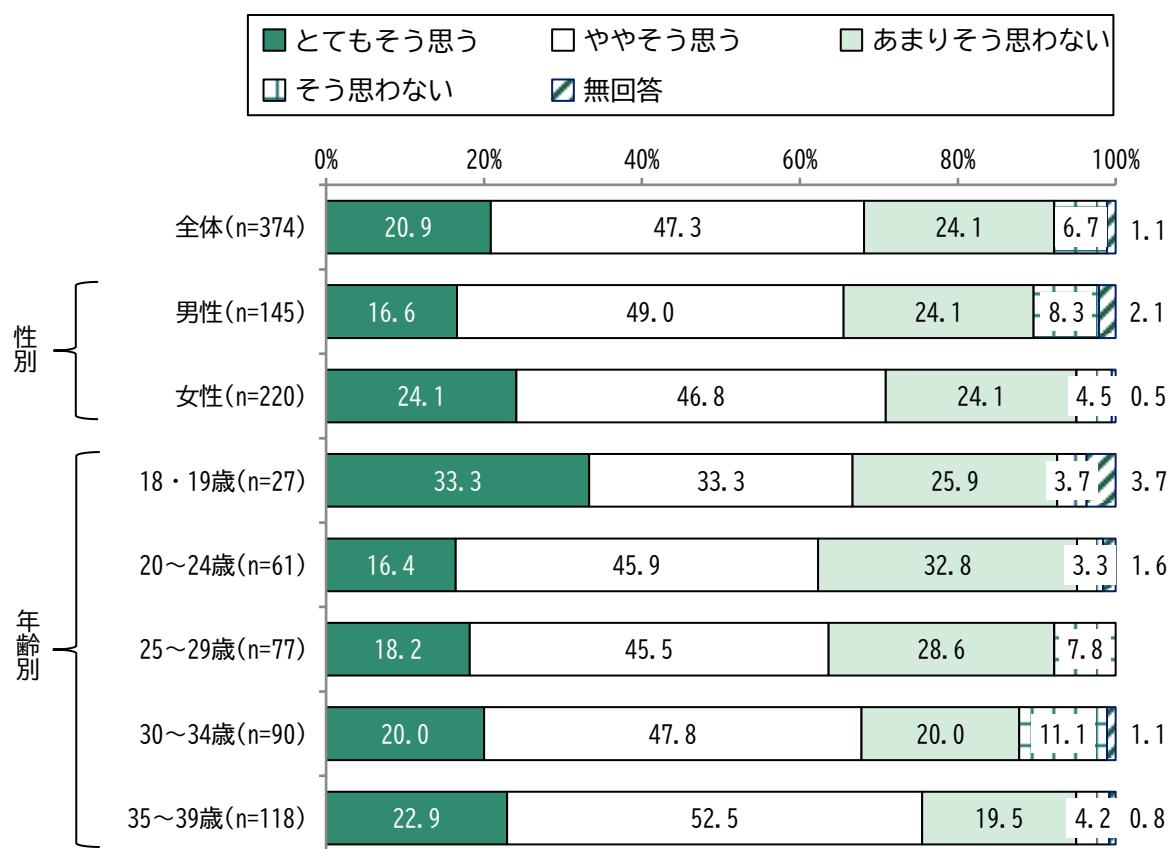
「ややそう思う」が47.3%で最も高く、「とてもそう思う」(20.9%)を合わせると、68.2%が『今後も住み続けたい』と回答しています。一方、「あまりそう思わない」(24.1%)と「そう思わない」(6.7%)を合わせた『今後も住み続けたいと思わない』割合は30.8%となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、『今後も住み続けたい』割合は、女性(70.9%)が「男性」(65.6%)を上回っています。

年齢別にみると、『今後も住み続けたい』割合は、35~39歳(75.4%)が最も高く、他の年齢においても6割以上を占めています。

図表 82 今後も新居浜市に住み続けたいか（全体、性別、年齢別）



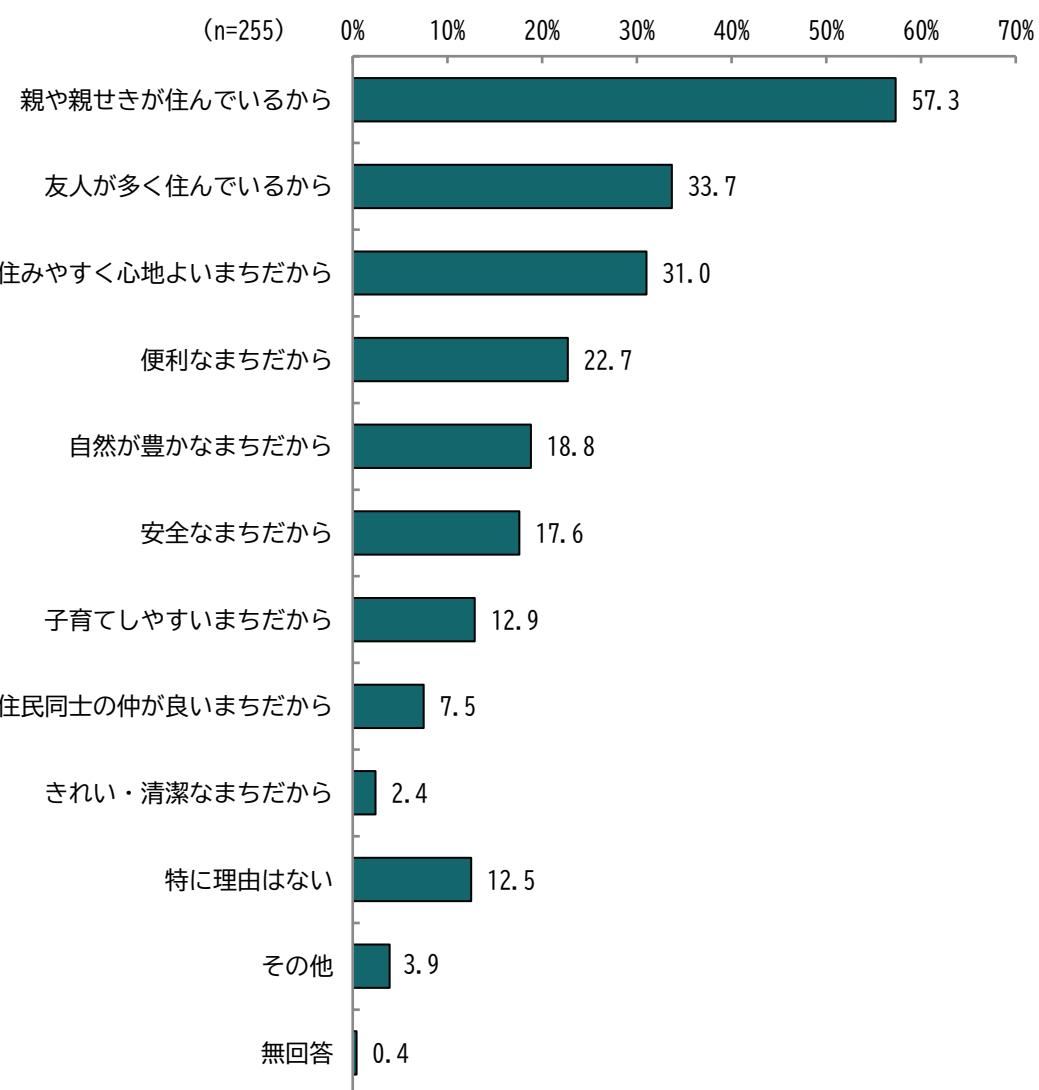
問27で「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答した方

問27-1 そう思う（住み続けたい）理由をお答えください。（○はいくつでも）

【全体の傾向】

「親や親せきが住んでいるから」が57.3%で最も高く、次いで「友人が多く住んでいるから」(33.7%)、「住みやすく心地よいまちだから」(31.0%)となっています。

図表 83 新居浜市に住み続けたい理由（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、大きな違いはみられません。

年齢別にみると、「親や親せきが住んでいるから」「友人が多く住んでいるから」「住みやすく心地よいまちだから」が主な理由となっていますが、18・19歳では「自然が豊かなまちだから」、30～34歳では「便利なまちだから」がそれぞれ第3位となっています。

図表 84 新居浜市に住み続けたい理由（全体、性別、年齢別／複数回答）

		上位3位 (%)		
		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=255)	親や親せきが住んでいるから	友人が多く住んでいるから	住みやすく心地よいまちだから
		57.3	33.7	31.0
	男性(n=95)	親や親せきが住んでいるから	友人が多く住んでいるから	住みやすく心地よいまちだから
		55.8	32.6	27.4
	女性(n=156)	親や親せきが住んでいるから	友人が多く住んでいるから	住みやすく心地よいまちだから
		59.0	34.6	33.3
年齢別	18・19歳(n=18)	親や親せきが住んでいるから	友人が多く住んでいるから	自然が豊かなまちだから／住みやすく心地よいまちだから
		88.9	55.6	44.4
	20～24歳(n=38)	親や親せきが住んでいるから	友人が多く住んでいるから	住みやすく心地よいまちだから
		57.9	50.0	44.7
	25～29歳(n=49)	親や親せきが住んでいるから	住みやすく心地よいまちだから	友人が多く住んでいるから
		49.0	32.7	26.5
	30～34歳(n=61)	親や親せきが住んでいるから	友人が多く住んでいるから	便利なまちだから
		63.9	26.2	24.6
	35～39歳(n=89)	親や親せきが住んでいるから	友人が多く住んでいるから	住みやすく心地よいまちだから
		50.6	31.5	29.2

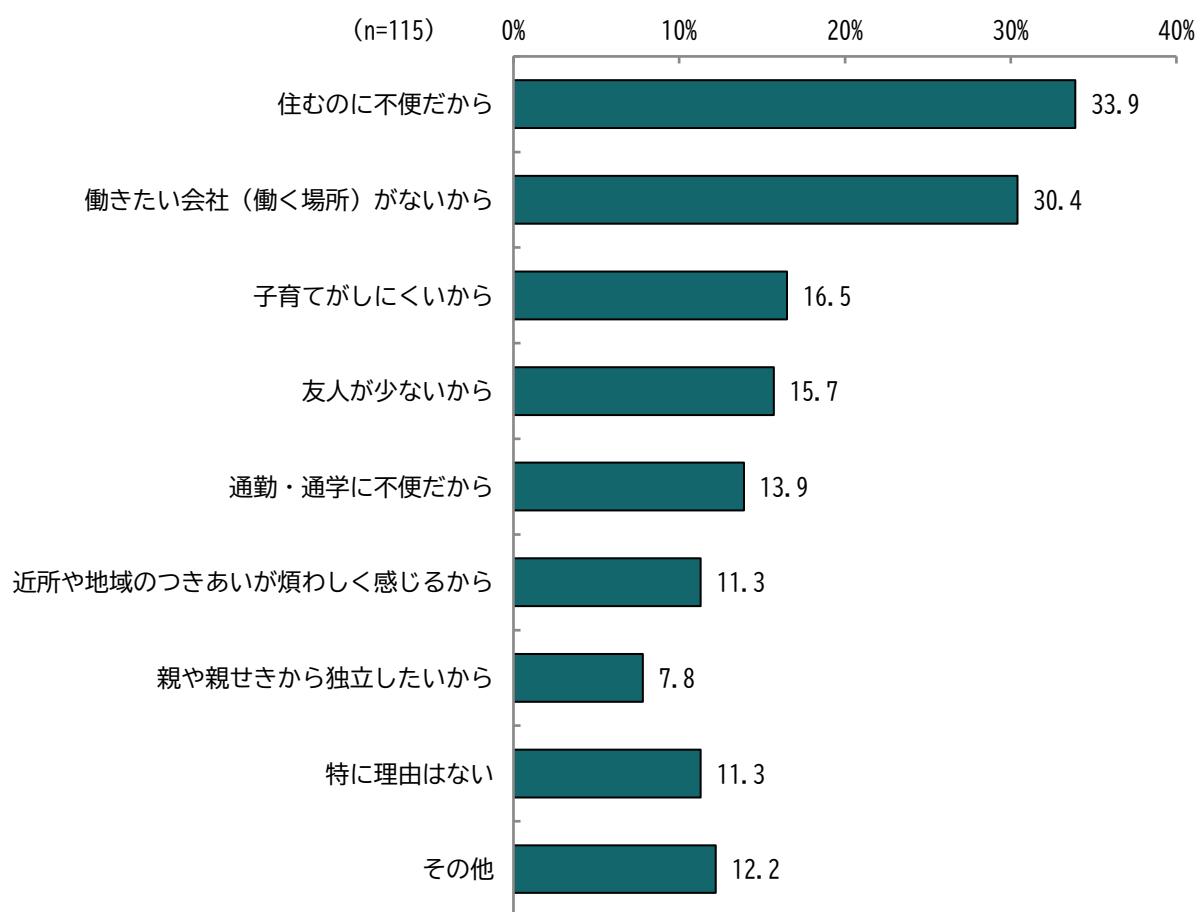
問27で「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した方

問27-2 そう思わない（市外に住みたい）理由をお答えください。（○はいくつでも）

【全体の傾向】

「住むのに不便だから」が33.9%で最も高く、次いで「働きたい会社（働く場所）がないから」(30.4%)、「子育てがしにくいから」(16.5%)となっています。

図表 85 市外に住みたい理由（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第1位が、男性では「住むのに不便だから」となっているのに対し、女性では「働きたい会社（働く場所）がないから」となっています。また、第3位が、男性では「子育てがしにくいから」、女性では「友人が少ないから」となっています。

年齢別にみると、18～24歳では「働きたい会社（働く場所）がないから」が第1位となっていますが、25歳以上では「住むのに不便だから」が第1位となっています。また、18～24歳では「通勤・通学に不便だから」「親や親せきから独立したいから」、35～39歳では「近所や地域のつきあいが煩わしく感じるから」が上位に挙がっています。

図表 86 市外に住みたい理由（全体、性別、年齢別／複数回答）

上位3位（%）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=115)		住むのに不便だから	働きたい会社（働く場所）がないから	子育てがしにくいから
		33.9	30.4	16.5
性別	男性(n=47)	住むのに不便だから	働きたい会社（働く場所）がないから	子育てがしにくいから
		36.2	25.5	23.4
性別	女性(n=63)	働きたい会社（働く場所）がないから	住むのに不便だから	友人が少ないから
		33.3	31.7	17.5
年齢別	18・19歳(n=8)	働きたい会社（働く場所）がないから	特に理由はない	住むのに不便だから／通勤・通学に不便だから／親や親せきから独立したいから／友人が少ないから
		75.0	25.0	12.5
	20～24歳(n=22)	働きたい会社（働く場所）がないから	住むのに不便だから	通勤・通学に不便だから／親や親せきから独立したいから
		45.5	27.3	18.2
	25～29歳(n=28)	住むのに不便だから	働きたい会社（働く場所）がないから	子育てがしにくいから
		35.7	28.6	17.9
年齢別	30～34歳(n=28)	住むのに不便だから	働きたい会社（働く場所）がないから／友人が少ないから	
		35.7		25.0
年齢別	35～39歳(n=28)	住むのに不便だから	近所や地域のつきあいが煩わしく感じるから	子育てがしにくいから
		39.3	28.6	25.0

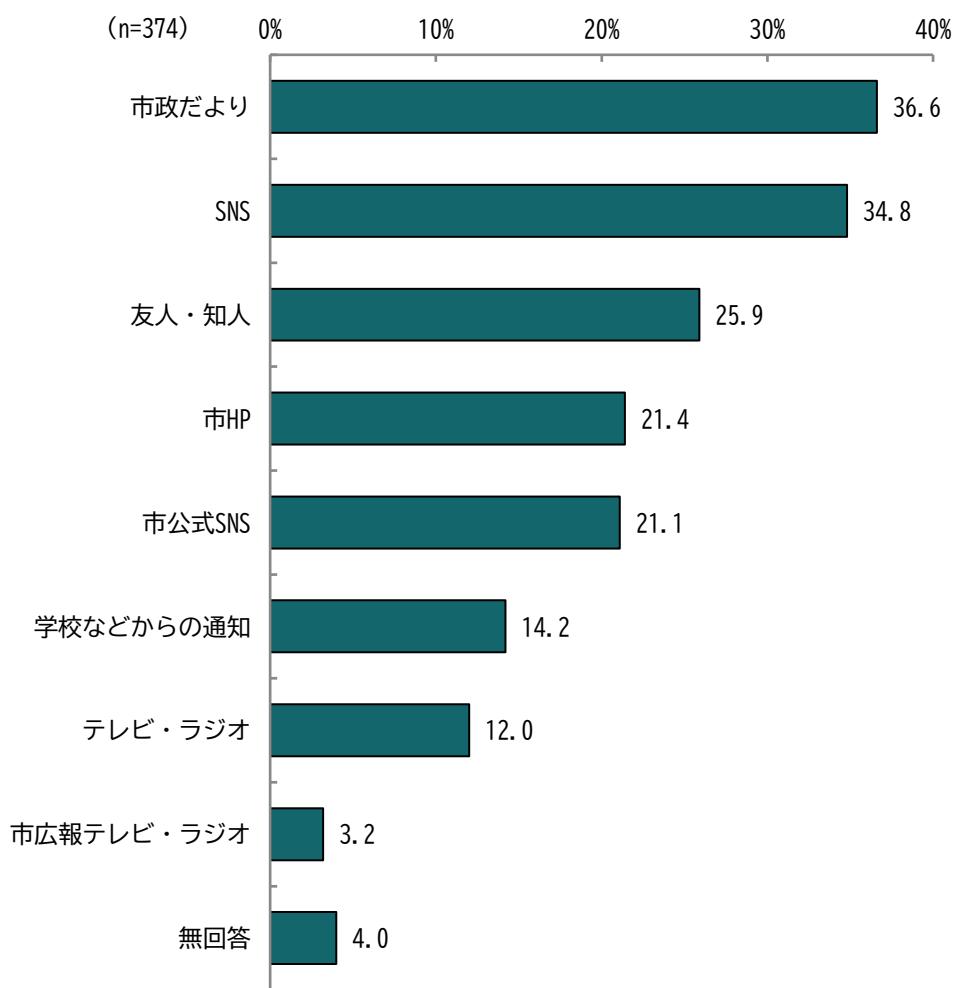
4 情報の取得について

問28 あなたは新居浜市の情報をどのようにして知りますか。(○はいくつでも)

【全体の傾向】

「市政だより」が36.6%で最も高く、次いで「SNS」(34.8%)、「友人・知人」(25.9%)となっています。

図表 87 情報の取得手段（全体／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、大きな違いはみられません。

年齢別にみると、18～29歳では「SNS」が第1位となっていますが、30歳以上では「市政だより」が第1位となっています。また、20～24歳では「市HP」、25～34歳では「市公式SNS」、35～39歳では「学校などからの通知」が上位に挙がっています。

図表 88 情報の取得手段（全体、性別、年齢別／複数回答）

		上位3位 (%)		
		第1位	第2位	第3位
性別	全体(n=374)	市政だより	SNS	友人・知人
		36.6	34.8	25.9
	男性(n=145)	市政だより	SNS	友人・知人
年齢別	女性(n=220)	35.2	33.8	22.1
		市政だより	SNS	友人・知人
	18・19歳(n=27)	友人・知人／SNS		市政だより
	20～24歳(n=61)	40.7		25.9
		SNS	市HP／友人・知人	
	25～29歳(n=77)	49.2		23.0
		SNS	市政だより	市公式SNS
	30～34歳(n=90)	33.8	32.5	23.4
		市政だより	市公式SNS／SNS	
	35～39歳(n=118)	46.7		33.3
		市政だより	友人・知人／学校などからの通知	
		43.2		28.8

5 自身のこれから的生活について

問29 あなたの生活は、これから先、どうなっていくと思いますか。(○は1つ)

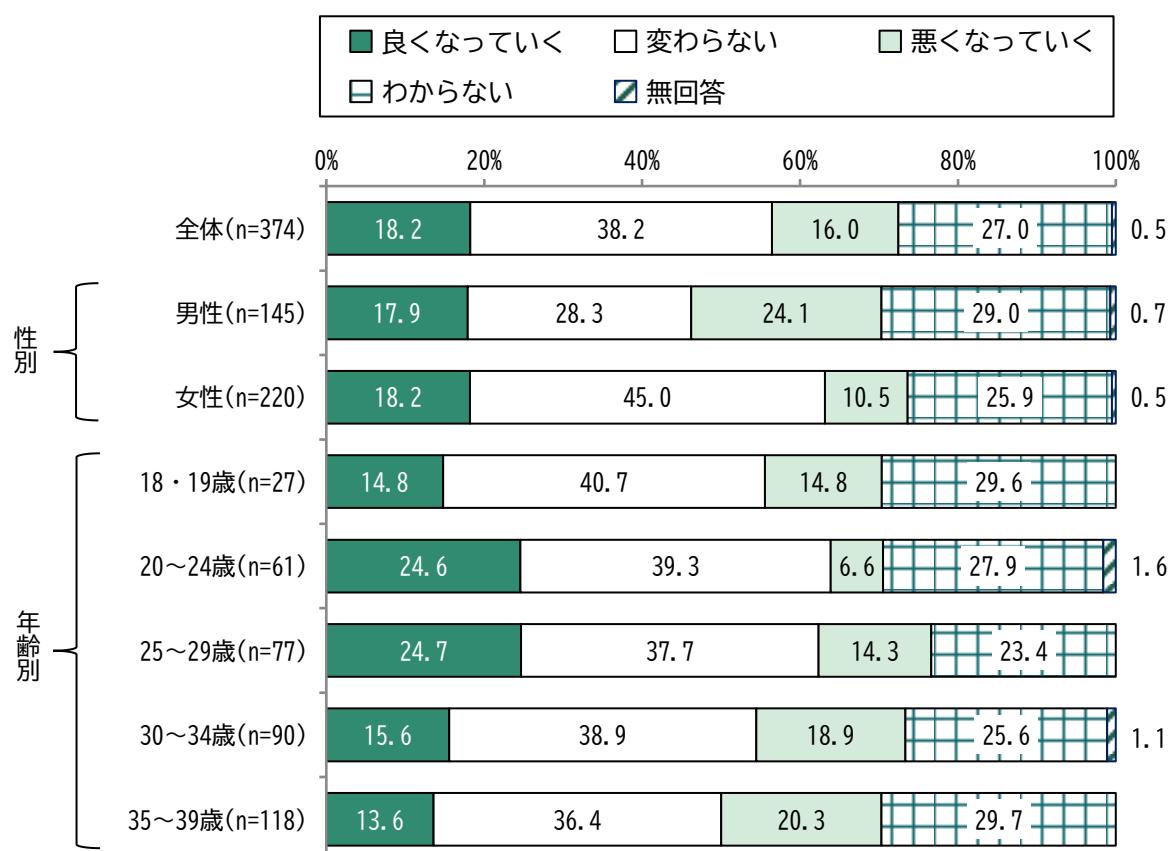
【全体の傾向】

「変わらない」が38.2%で最も高く、次いで「わからない」27.0%、「良くなっていく」(18.2%)となっています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「良くなっていく」に大差はみられませんが、「変わらない」は女性(45.0%)が男性(28.3%)を上回り、「悪くなっていく」は男性(24.1%)が女性(10.5%)を上回っています。

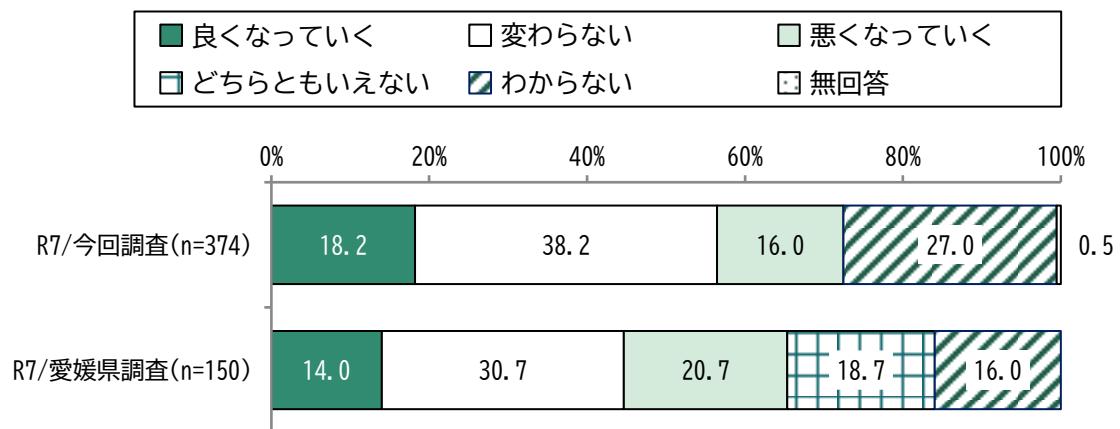
図表 89 これからの生活はどうなっていくと思うか（全体、性別、年齢別）



【愛媛県調査との比較】

愛媛県調査と比較すると、「良くなっていく」「変わらない」は上回り、「悪くなっていく」は下回っています。

図表 90 これからの生活はどうなっていくと思うか（全体、愛媛県調査との比較）



※愛媛県調査では、選択肢に「どちらともいえない」があるため、追加している。

6 自由意見

問30 新居浜市が子どもを安心して産み育てることができるまちづくりや少子化対策を進めるために、どのような取組が必要と考えますか。何か意見があればご記入ください。

自由記述については、合計185件の意見が寄せられました。内容については、「経済的支援について」が49件、「子育て・就労支援について」が47件、「地域活動・まちづくりについて」が46件、「道路・交通整備について」が22件、「行政について」が12件、「情報提供について」が9件となっており、代表的な意見を抜粋して掲載しています。

経済的支援について

No.	意見	性別	年齢
1	給食費を無償にする。習い事に助成金を出す。	男性	20～24歳
2	子ども手当の金額を上げてほしい。お米券を配布してほしい。	男性	30～34歳
3	あかがねの還元事業を復活させてほしいです。	女性	35～39歳
4	子育て世帯への現金給付。子ども1人につき数万円など、人数が増えるごとに増やすと、次産もうと希望になる。	男性	30～34歳
5	扶養範囲内で働きたいが上限がある。時給が上がったなら税金がかかるラインを上げてくれないと意味がない。働きたくても働けない。通学にJRの定期を利用するが、特急を利用しないといけないから定期でも高い。何か支援があると嬉しい。	女性	20～24歳
6	税金を下げる。	男性	35～39歳
7	子ども手当の増額。義務教育の無償化。	男性	30～34歳
8	小学校・中学校の給食の無償化。	女性	25～29歳
9	観光名所を作る→観光客が増え、お金が回る。食料品などの価格高騰に対して、各家庭にお金を配布する→暮らしが楽になる人が増えるかも。	女性	20～24歳
10	1人目の子どもからの支援、児童手当のアップ。	女性	25～29歳
11	あかがねポイントの還元率アップ。	男性	35～39歳
12	生活していて、金銭面が苦しい。将来も不安。	女性	30～34歳
13	産後、育休中の手当などの支援をもう少し増やしてほしい。	女性	20～24歳
14	子育て支援、不妊治療費などの支援、申請の拡充。わかりやすい広報や説明があれば気軽にできるようになる。工都らしい賃金ベース、賃金格差が均一になれば労働者の懐の潤いから市の収益にも繋がると思う。	男性	30～34歳
15	現役世代への支援が必要だと考えます。いちばん働き、子育てし、費用も必要な世代だと思います。	女性	35～39歳
16	不妊治療や子どもがいる人や子どもを今から持つ人に、もう少しお金を配ると良いと思う。	女性	25～29歳
17	引っ越しや結婚助成金をするべき。新居浜で育った人間と単身赴任などの人間しか住まなくなります。	男性	30～34歳
18	子育て支援をもっと充実させる。産む前(健診等)も産んだ後もお金がかかりすぎるので、現行のおむつ券以外にももっとお金の支援があればいいと思う。	女性	30～34歳
19	子育て支援の充実(出産費用を実質無料にしてほしい)	女性	25～29歳
20	金銭的に厳しいので、ひとり親世帯などはもちろん、大学進学で市外に出ている人たちを対象とした給付や奨学金制度などがあるとUターンしやすいと思う。	女性	20～24歳
21	がんなどの病気で、新居浜市の病院で治療できないと言わされた時、遠方へ行く際の交通費などを助成してほしい。	男性	35～39歳
22	市に住んで働いている、20～30後半の青年層に対してのヒアリングや意見の取り込み。働き盛り・子育て世代に対する税負担の控除や補助金、支援政策。	男性	30～34歳
23	少子高齢化が進んでいるので、子どもを産むことよりも、育てる過程で何か補助が出るとありがたい。中高生になるに連れ、お金がかかるので。	女性	35～39歳
24	最低賃金を上げて、市民が生活しやすい町にしてほしいです。	女性	35～39歳
25	子育て世代や若年層への経済的支援の充実。安定した雇用機会の創出。	男性	25～29歳

子育て・就労支援について

No.	意見	性別	年齢
1	子どもを産み育てやすい環境を目指して少子化対策に力を入れる。	女性	35～39歳
2	防災対策、新居浜市は備蓄が少ないと知り、驚きました。公共の施設の充実、子どもの遊び場を増やしてほしいです。	女性	35～39歳
3	子どもの頃から接する大人が身内のように優しく、温かい心で接していけば、自然に優しい大人に育っていき、それが住みやすい新居浜につながっていくと思います。心を育てる取組が必要だと思います。	女性	18・19歳
4	保育園の就業時間の規定を緩和してほしい。学童の一時利用サービスがあると助かります。低学年の留守番はまだ厳しい家庭も多く、下の子の病院など家族全員で行かないといけないなど負担が大きい。	女性	35～39歳
5	多様な職種と働く場所がもっとあればいいと思う。病気等で職を失った時に、もっとサポートがあればチャレンジしやすいと思う。	女性	25～29歳
6	学童にお弁当配布する制度を取り入れてほしい。（有料でもいいので）学童は働く親が利用するのに、長期休暇に毎日弁当を作るのは負担でしかない。	女性	30～34歳
7	待機児童対策。仕事復帰できないため、経済的に厳しいです。	女性	35～39歳
8	無料で遊べる屋内の施設がほしい。夏は水遊びができる、冬は、暖かい場所。さぬきこどもの国のような施設。	女性	30～34歳
9	働きながらでも出産や子育てが安心してできる町にしてほしいです。	女性	18・19歳
10	教育の質の向上。	男性	35～39歳
11	ワークライフバランスの働きかけ。残業の削減や残業代を出すことの働きかけ。職場環境の改善。	女性	20～24歳
12	共働きが多くなる中フルタイムで働くとなると園や学校の時間の拡大が必要だと感じる。	女性	35～39歳
13	もっと子育て世帯に目を向けて、支援していく取り組みが必要。	男性	35～39歳
14	障がい者雇用の会社をつくってほしい。特に、クリエイター向けの在宅勤務のできる会社です。（例えば、イラスト制作、動画編集、声あて等）	女性	30～34歳
15	子どもたちが体を動かして遊べる場所を整えてほしいです。保護者の子育てや仕事など色々な悩みを気軽に話せる場所があると嬉しいです。	女性	20～24歳
16	高卒後新居浜を離れた者が新居浜で就職しやすい様、働き場の斡旋。	男性	35～39歳
17	大学を出た後の働き口がない、若者が帰ってきた際に遊ぶ場所がイオンしかない。	男性	20～24歳
18	子どもの遊ぶ場所を増やす。観光名所の確保。	男性	20～24歳
19	未就学児が利用できる場所は多いが、小学生以上の遊べる場所を増やしてほしいです。	女性	35～39歳
20	小中学生へのスクールバス導入。昔の暑さと今の暑さは違うので命の危険もある。送迎で親の仕事をセーブすると家計が苦しいです。	男性	30～34歳
21	働きたくても子どもを預けられず働けない先輩がいるのを見て、新居浜では子育てしながら働く環境が十分に整っていないと感じている。地域の子育て支援はもちろん、企業へ企業内保育園などの拡充を支援してはどうでしょうか。	女性	25～29歳
22	病児保育場所の拡大。	女性	25～29歳
23	幼児、小学生など遊べる場所が少なく、夏休み、休日に困る。	女性	30～34歳
24	不妊、妊娠のサポート→家事手伝い等、精神的サポートも含む。（働く女性が増えてきた時ひとりで産む方も増えるかと思います。ひとりで育てる女性へのサポート等してもらえると安心して住めると思います。）	女性	35～39歳

地域活動・まちづくりについて

No.	意見	性別	年齢
1	障がいを持った子ども、障がいを持った大人の方が今以上に住みやすい環境を整えてほしい。もっと支援が必要です。みんなと平等に生活できるようにしてほしい。バリアフリーが必要である。車いすの方がより良い生活を送れるように段差をなくす。	女性	35～39歳
2	商業施設が少ない。	その他	20～24歳
3	新居浜市は工業系が多いです。もっとファミリーが楽しくなるまちづくりを求めます。	男性	25～29歳
4	様々な場所で交流できるアミューズメントパーク、テーマパークを作っていき、県内外からでも地域活性化できるまちづくり。	男性	35～39歳
5	もう少し地域の方と交流できる場所があったら嬉しいです。出会いの場がもう少しほしいです。イベントしてほしいです。SNSのような出会い系方は危ないから、自然な出会い系方がしたいです。	女性	20～24歳
6	児童館や支援センターがあり、医療費がかからないので子育てしやすい。ただ、小児科が少ない。近くにあっても予約制なので、遠くまで行くのが大変。小児科の増設があればありがたいと思う。	女性	35～39歳
7	住みよさランキングは、安心度、利便度、快適度、富裕度の4つの観点から20項目のデータに基づいて算出されるのでそれを参考に住みやすいまちにしてほしい。	女性	30～34歳
8	若者も楽しめるイベントをもう少し増やしてほしい（食べ物フェス、音楽フェスなど）。	女性	30～34歳
9	イオン以外に人が集まるようなキャラクターイベントや場所を希望します。	男性	20～24歳
10	スポーツ施設をもっと増やし、色々なスポーツに挑戦できるようなまちにしてほしい。健康になれます。	男性	18・19歳
11	もっと気軽に遊べるところ作ってほしい。	女性	25～29歳
12	文化活動等充実してほしい。	女性	30～34歳
13	公共施設の老朽化への対応。	女性	25～29歳
14	若者が遊びたいと思えるような商業施設を作ってほしい。商店街を復興させてほしいと思う。	女性	20～24歳
15	ドラッグストアばかり作らずに、他のお店(新居浜にないお店、飲食店、若者が行きたいくなるお店など)を作ってほしいです。特に、川東地区につくってほしい。	女性	18・19歳
16	友人やパートナーと会える季節ごとの交流イベントの開催。市街地における市営住宅の新設。	男性	25～29歳
17	市が栄えるような、栄えるまでいかなくとも衰退することがないよう市を盛り上げるような取り組み。新居浜が好きだと実感できるような土地であってほしい。	女性	30～34歳
18	治安維持。	女性	35～39歳
19	ある程度の人が集まることができる場所があると便利だと思う。	男性	30～34歳
20	独居の方や様々な事情がある方のためにルームシェアできる施設を作ってほしい。(サ高住の一歩手前のような)	女性	30～34歳
21	学校、保育園の建て替えなど安全な町づくり。	女性	35～39歳
22	公園の普及。健康増進空間。	男性	30～34歳
23	隣町と比べて企業の新規出店が少ないので、頑張ってもらいたい。	男性	35～39歳

道路・交通整備について

No.	意見	性別	年齢
1	車と自転車以外の交通手段の充実。	女性	20~24歳
2	車がないと他の交通手段がないので選択肢がもう少し増えてほしい。新居浜インターの近くにバス停がほしい。	女性	20~24歳
3	自転車走行帯があってないような道が非常に多いので、道路の整備。	女性	25~29歳
4	通学路での見守り活動をもう少し強化したい。不審者情報が出るといつも不安になる。	女性	30~34歳
5	高齢者が増えているので、交通機関(乗り合いバス)等が増えると買い物に行きやすいかと思います。	女性	35~39歳
6	通学路の外灯を増やして頂きたいです。私が知っている限りでは、南中の通学路は外灯が少なく、冬場は日も短くなるし、帰りが危険だと感じます。	女性	18・19歳
7	安心して暮らせるようなまちづくり。交通マナーなど危険だと思うことが多くあるので警察の見回りが必要。	女性	30~34歳
8	交通事故をもっと減らしてほしい。子どもの安全を含め。信号などのインフラ整備。	男性	35~39歳
9	道路を広くしてほしい。	女性	25~29歳
10	新居浜市にも、関西圏や名古屋等の中部地方への夜行バス、広島へのバス、松山（高松）空港へのバス等交通アクセスを良くしていただきたい。	女性	30~34歳
11	高齢の人の運転が危ないため、その方たちが使える交通手段の増加。	女性	25~29歳

行政について

No.	意見	性別	年齢
1	夫婦別姓を認めてほしい。事実婚をもっとオープンにすることで結婚へのハーダルを下げる事ができたり、生きづらい世の中を変えることができると思う。	女性	30~34歳
2	障がい者支援を充実してほしい。	女性	30~34歳
3	古いままでではなく、市自体が新しいことにどんどんチャレンジしてほしいです。	男性	35~39歳
4	市民の声に耳を傾ける。	女性	25~29歳
5	特に無いが、住む人達の状況を知ることは大事だと思う。すべての要望を叶えるのは不可能だし、そこまでを望んでいるわけではないが、そこをしっかり悩んでくれるなら、信頼に足ると思える。	男性	25~29歳
6	市民が意見を出しやすい環境づくり。	女性	30~34歳

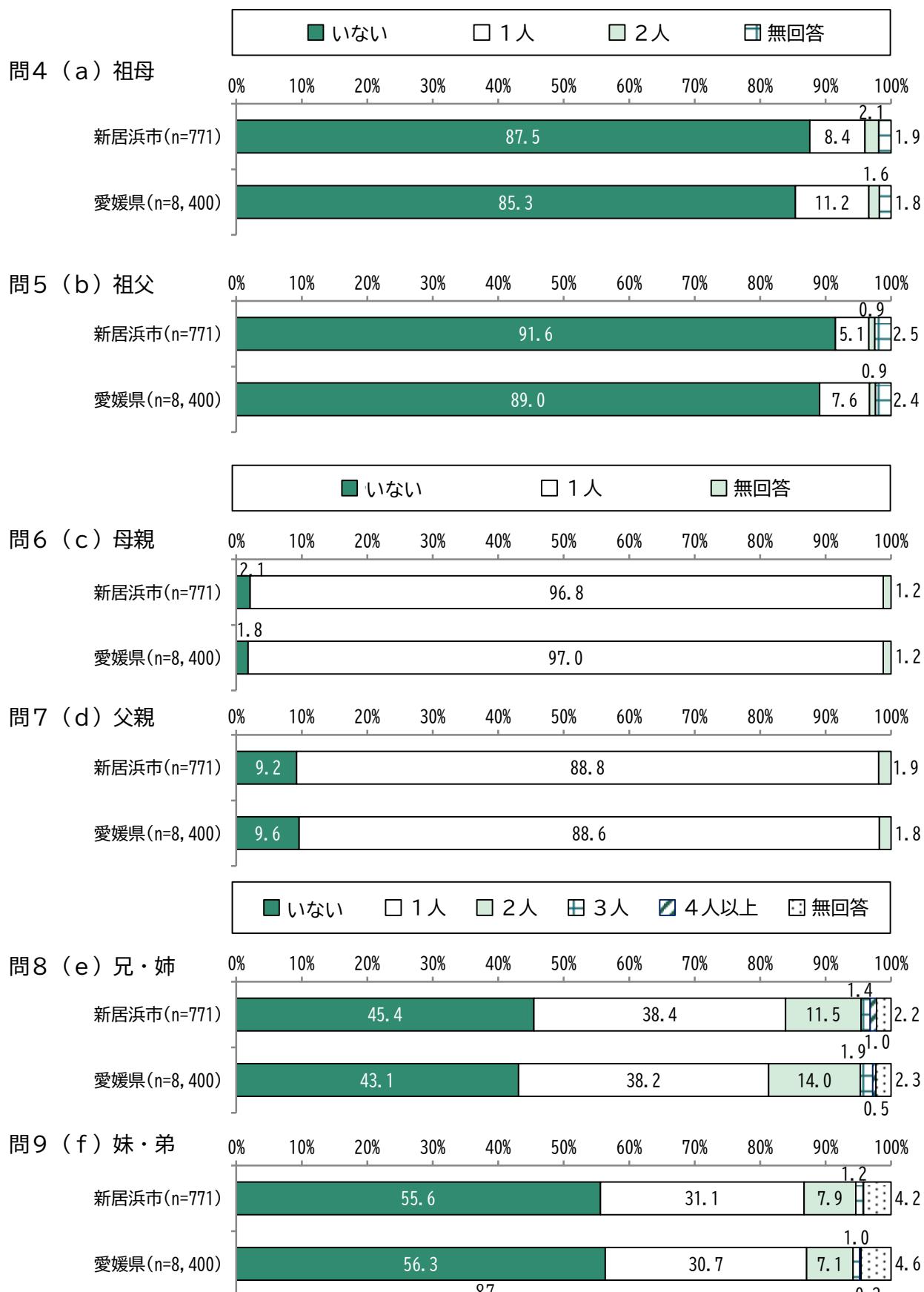
情報提供について

No.	意見	性別	年齢
1	新居浜市で子育てる時、実家が近くにない、サポートを得られない家庭へのサポートや情報提供をしてほしかった。	女性	35~39歳
2	多くの人が目にするとこに必要な情報の発信を定期的にする。一般市民が知り得ないお得・助成金の種類・使用方法など。	男性	30~34歳
3	新居浜市がどんな取り組みをしているのかあまり知らないので、もっとSNSや市報で伝えてほしい。子育て支援のことなど、もっと簡単に知ることができたら嬉しい。ホームページをみたが、わかりにくかった。LINEなどすぐ見れたらしいと思う。	女性	25~29歳
4	意見を集約し、掲示、実行の有無の公表。	男性	35~39歳
5	既存施設の発信(県外から遊びに来た友達より、滝の宮公園が無料で遊べるのはすごいと言っていました。必要な施設やイベントの発信を必要としている世代、層へのお知らせを強化できたらいいなと思います。)	女性	35~39歳

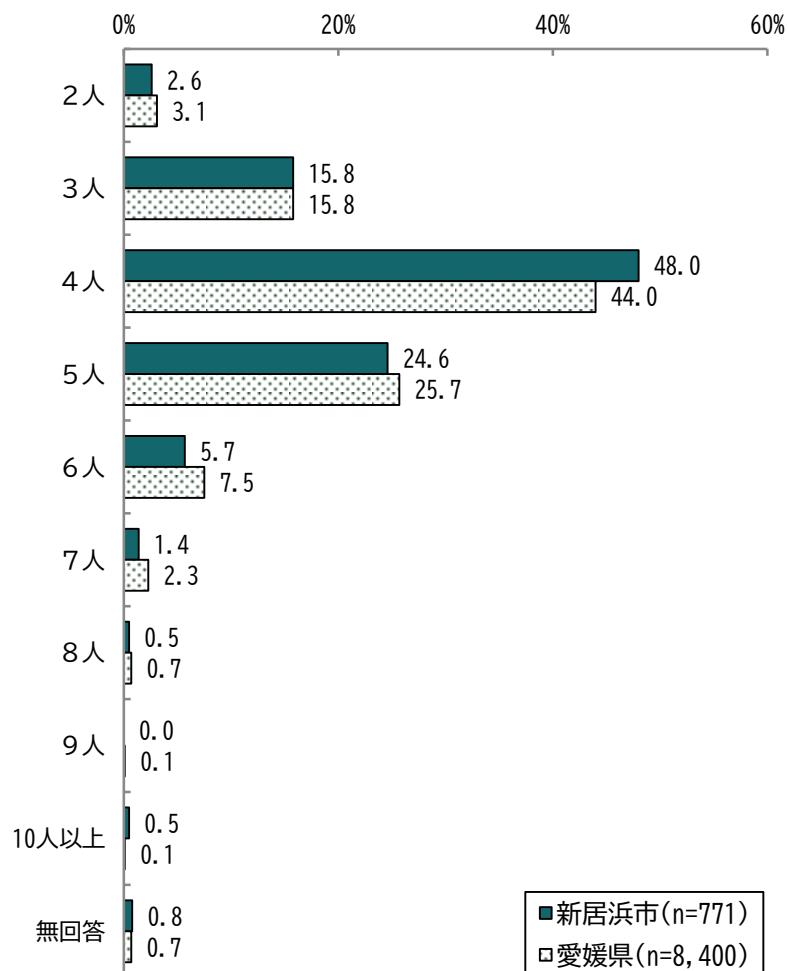
III 愛媛県子どもの生活に関する調査 調査結果

1 調査対象：保護者

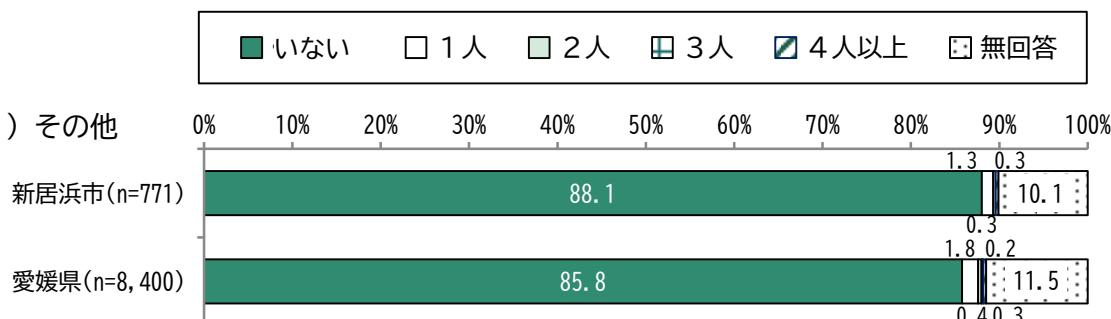
【問4～11 生計を同一にしている家族構成（単数回答）】



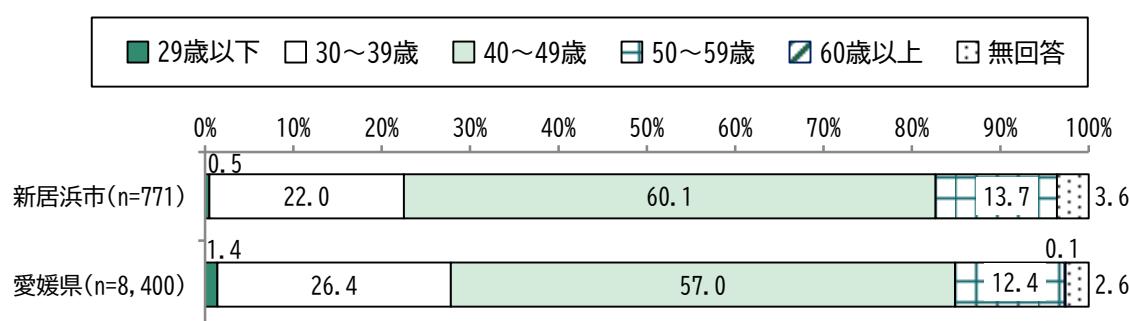
問10 (g) 合計家族人数



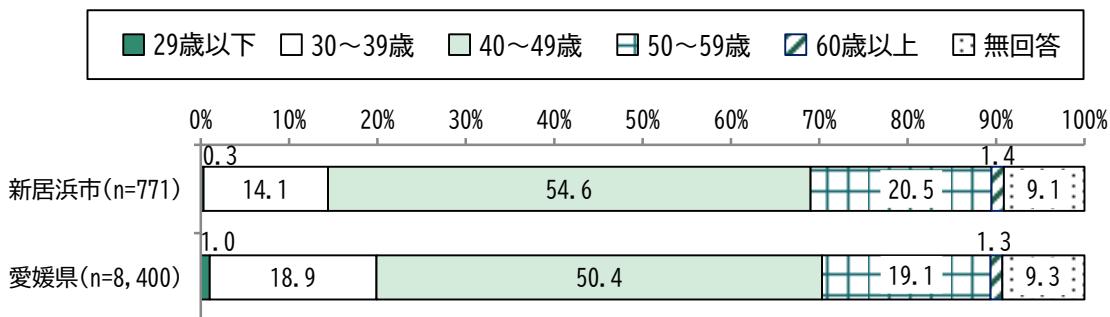
問11 (h) その他



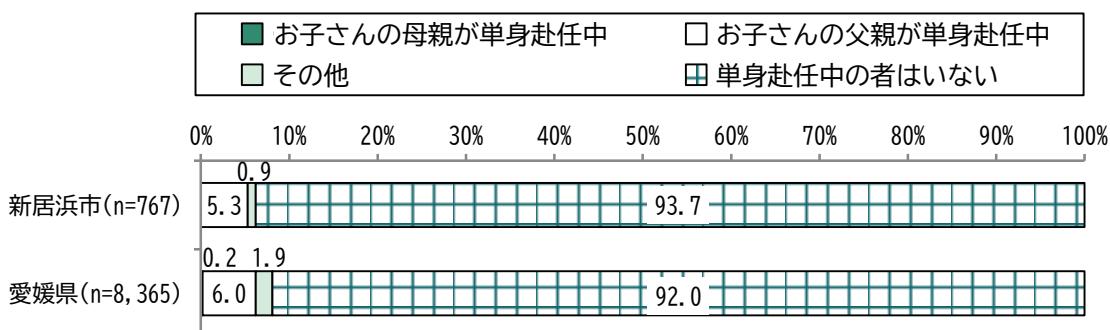
【問12 母親の年齢 (単数回答)】



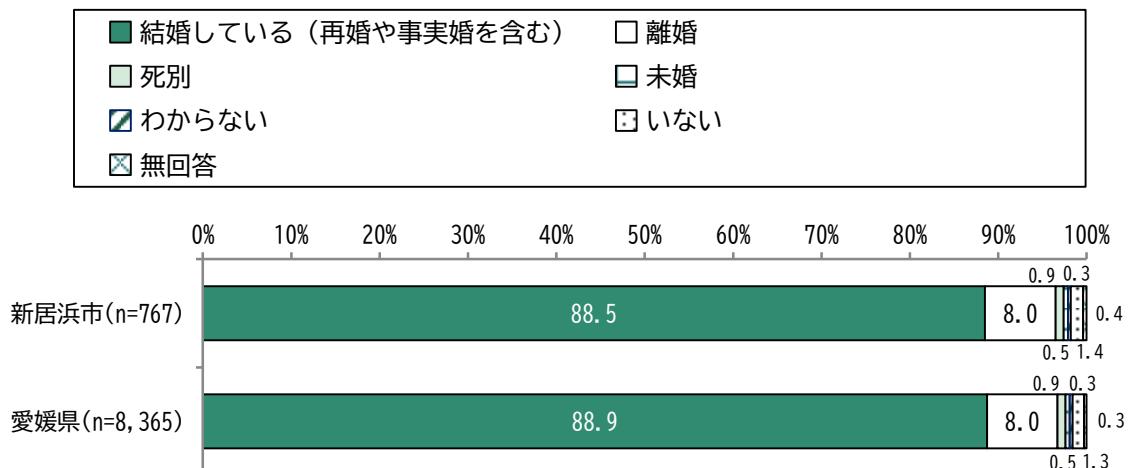
【問13 父親の年齢（単数回答）】



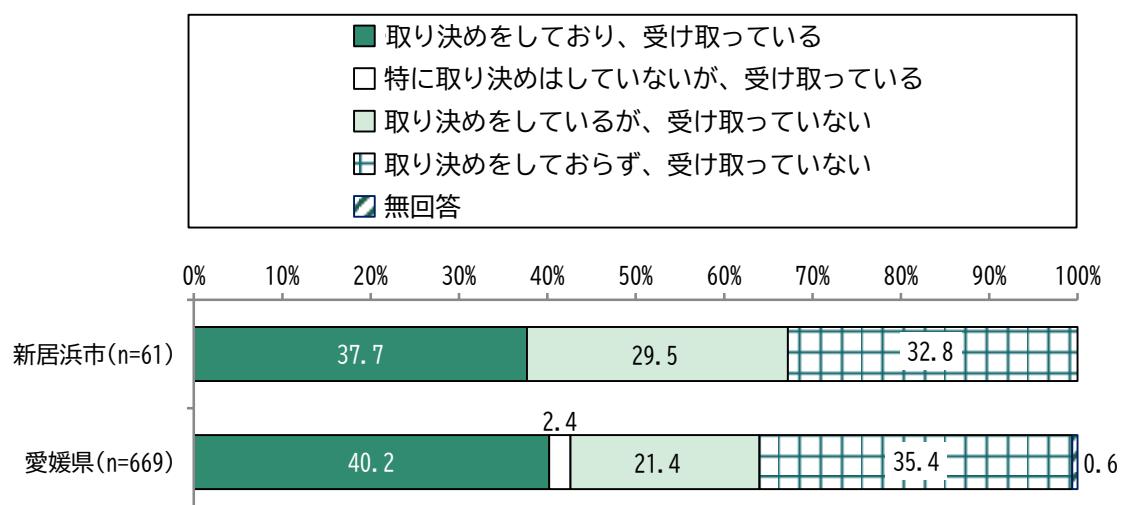
【問14 単身赴任者の有無（単数回答）】



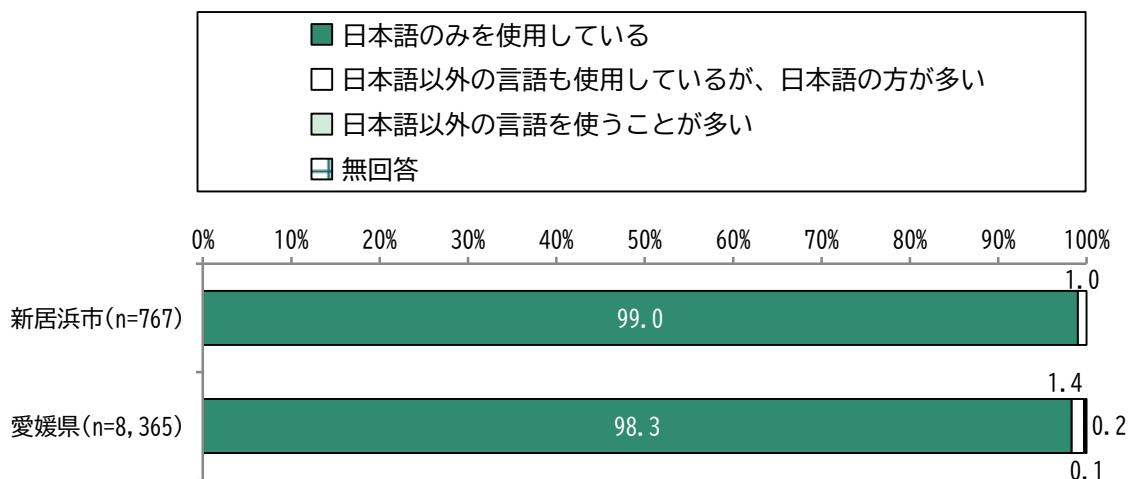
【問15 親の婚姻状況（単数回答）】



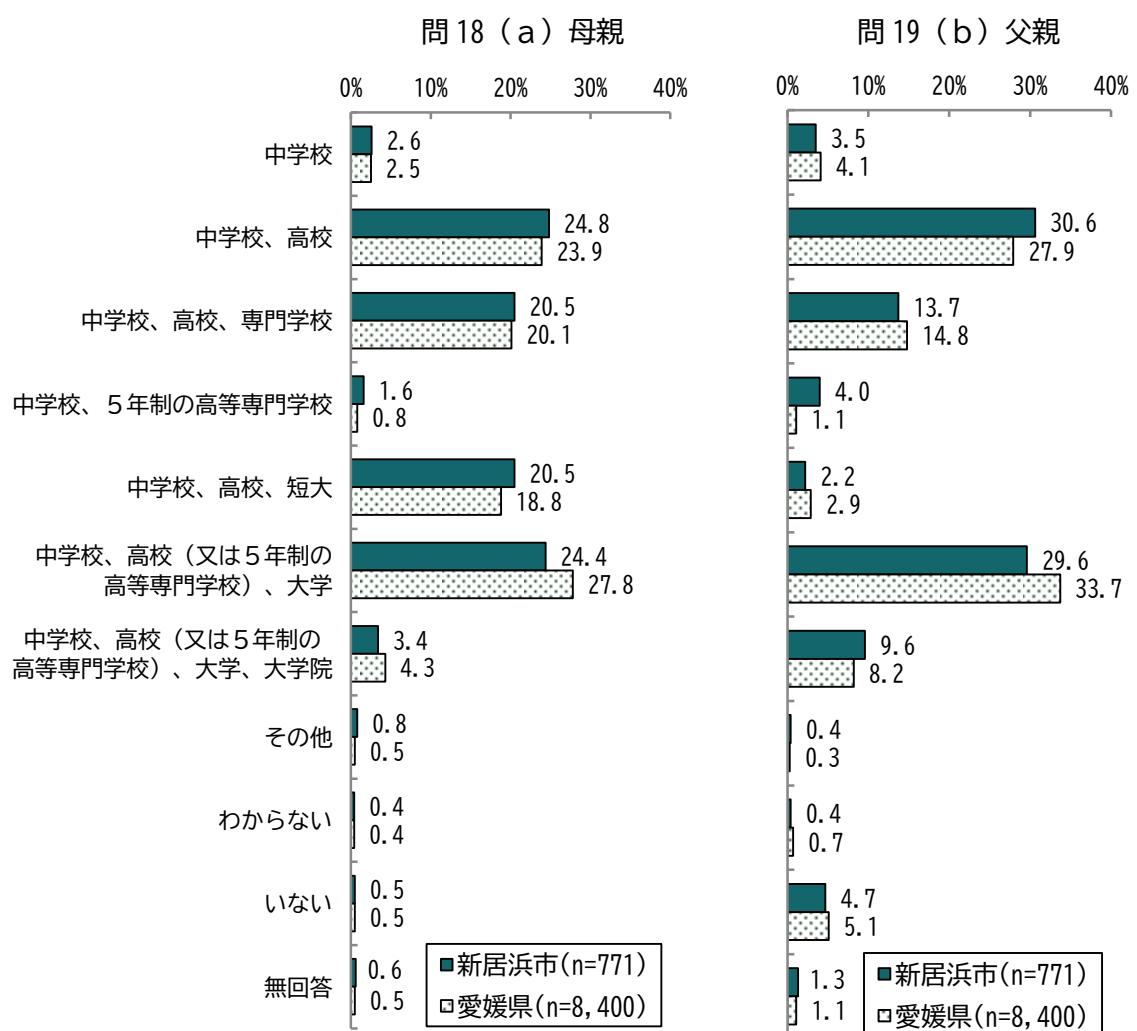
【問16 離婚相手と子どもの養育費の取り決め（単数回答）】



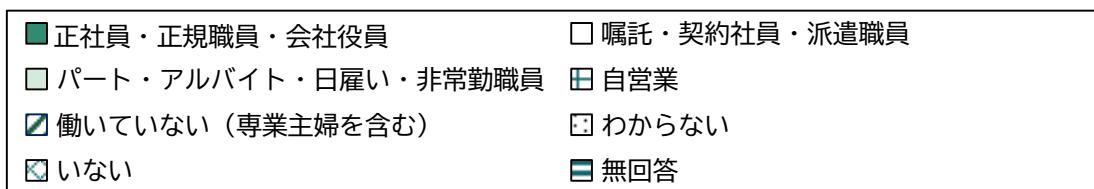
【問17 家庭環境における言語について（単数回答）】



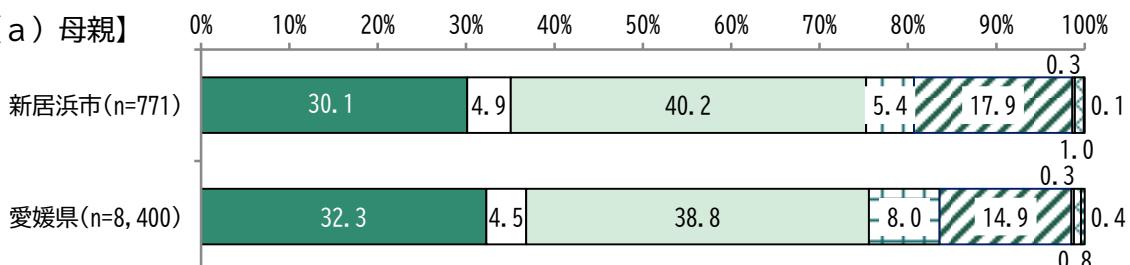
【問18～19 両親が卒業・修了した学校（単数回答）】



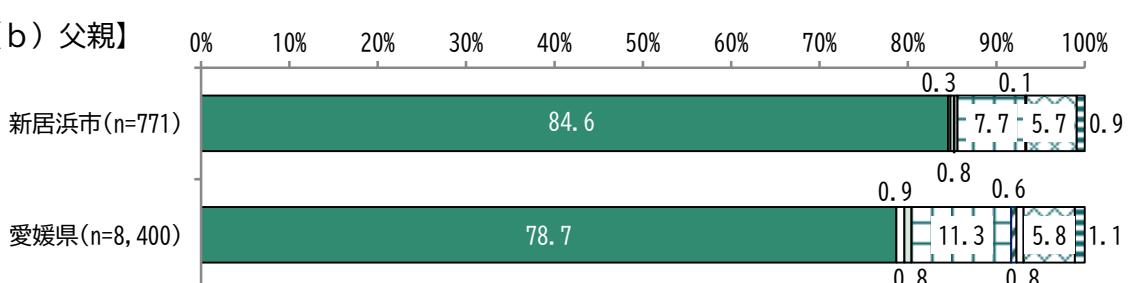
【問20～21 両親の就労状況（単数回答）】



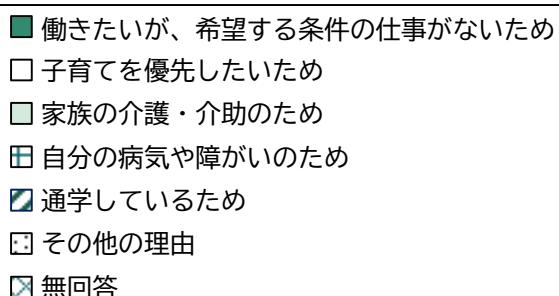
【問20 (a) 母親】



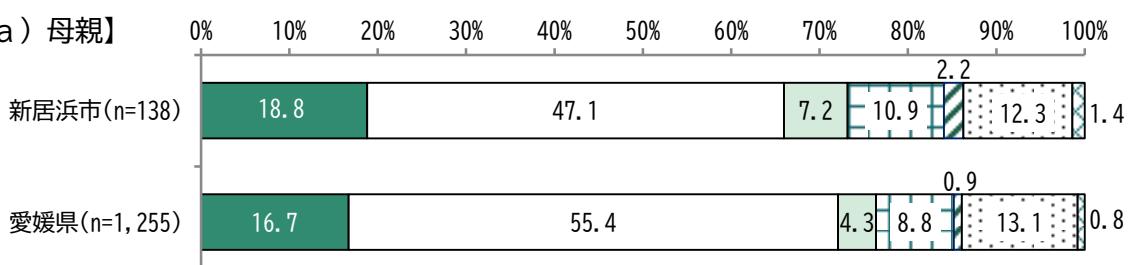
【問21 (b) 父親】



【問22～23 働いていない理由（単数回答）】

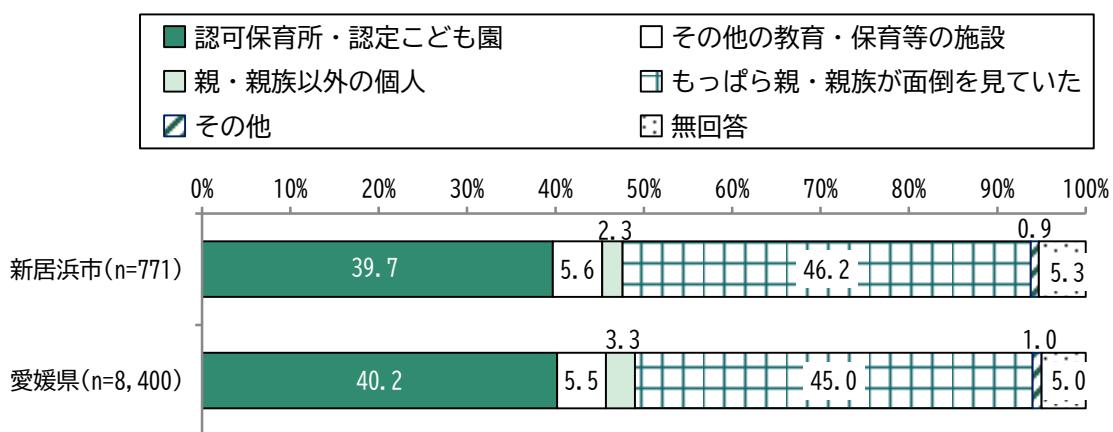


【問22 (a) 母親】

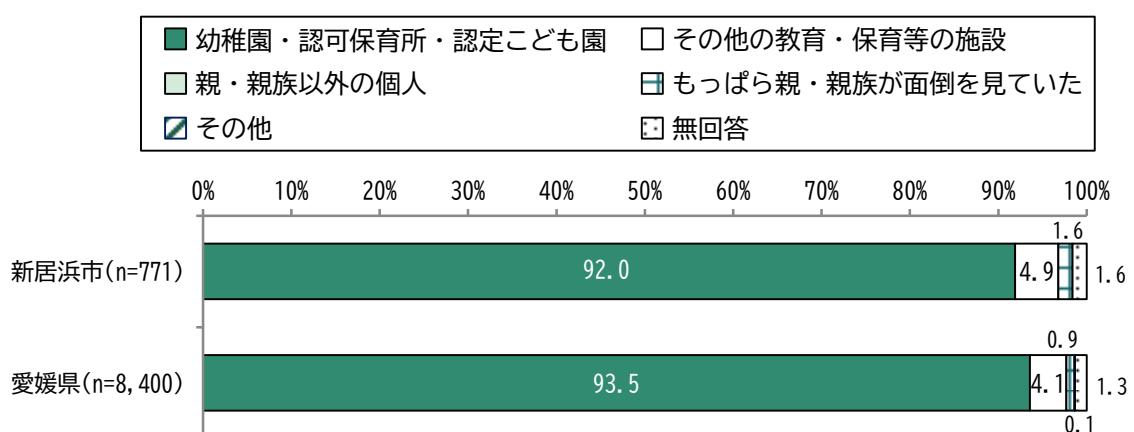


【※新居浜市：問23 (b) 父親「働いていない」は 0.0%】

【問24 こどもが0～2歳の間に通っていた施設等で最も主なもの（単数回答）】

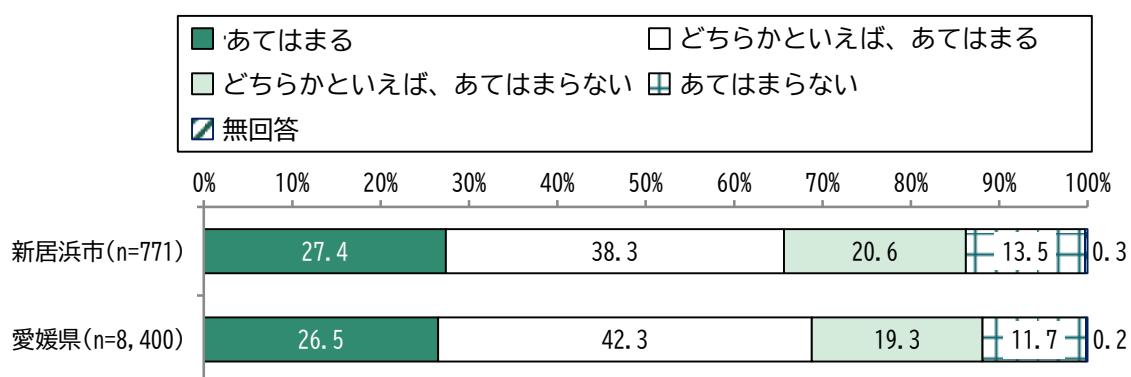


【問25 こどもが3～5歳の間に通っていた施設等で最も主なもの（単数回答）】



【問26～29 こどもの関わり方（単数回答）】

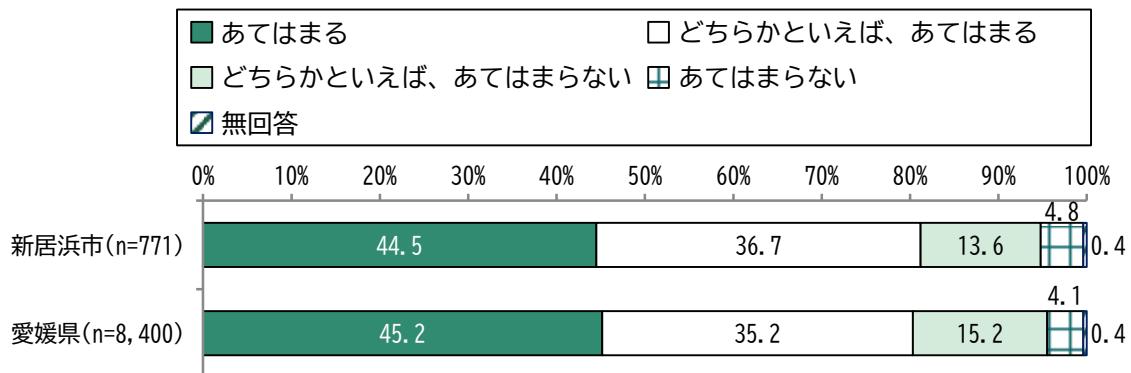
【問26（a）テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている】



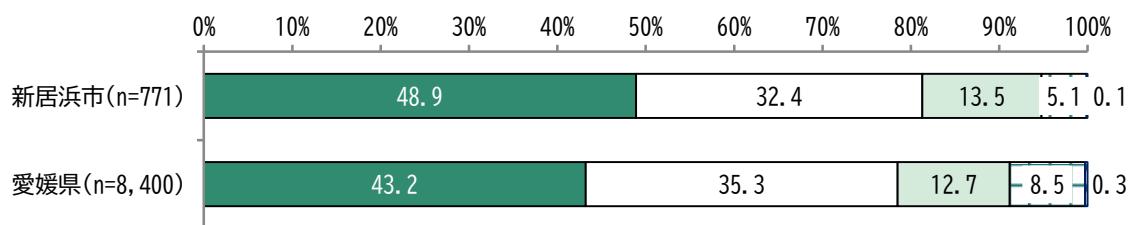
【問27（b）お子さんに本や新聞を読むように勧めている】



【問28（c）お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた】

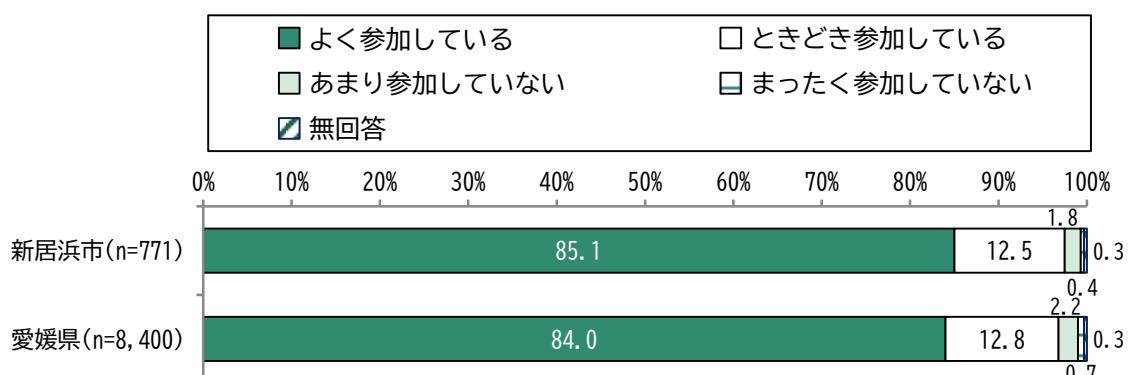


【問29（d）お子さんから、勉強や成績のことについて話してくれる】



【問30～31 学校・地域活動への参加状況（単数回答）】

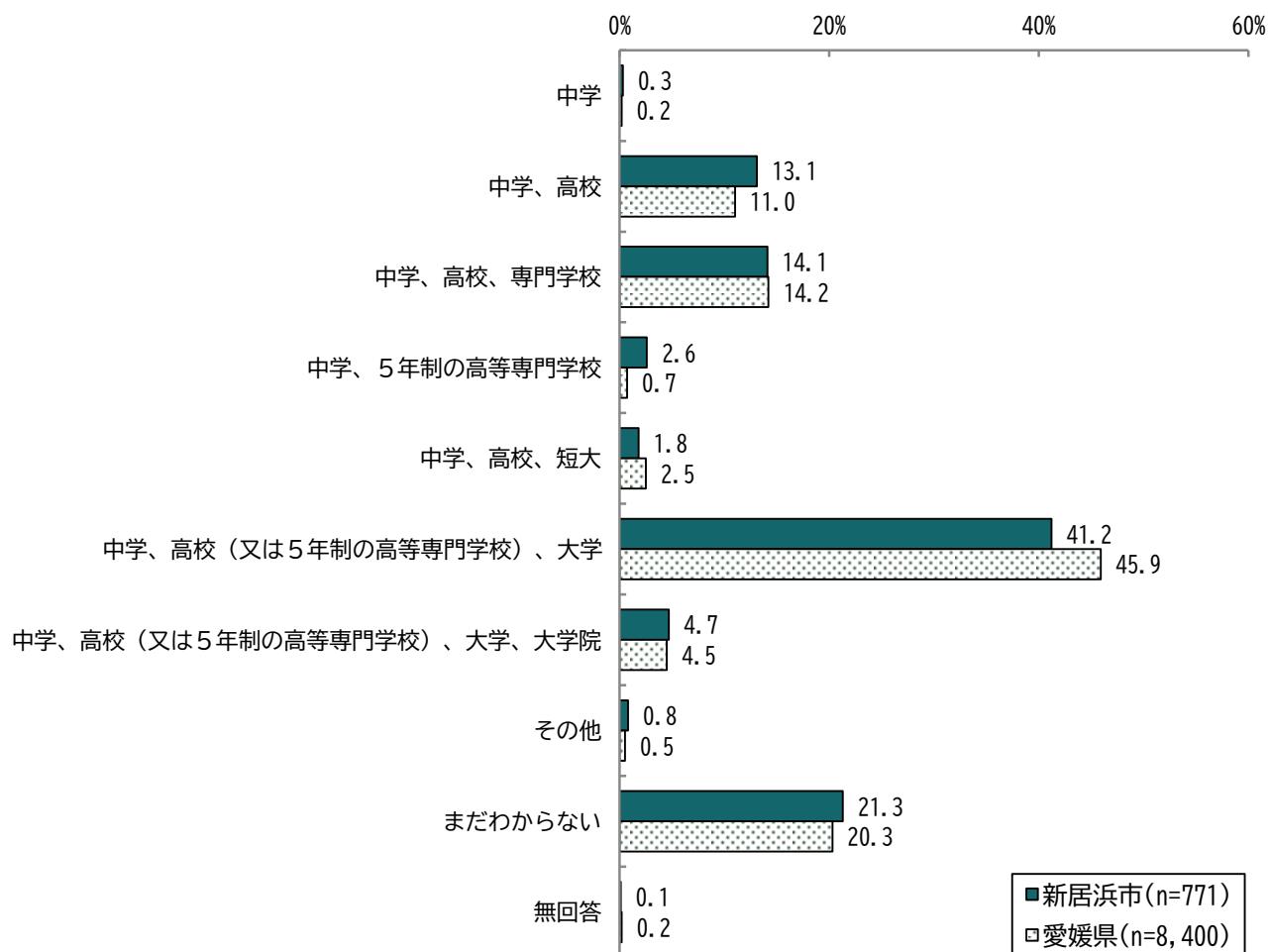
【問30（a）授業参観や運動会などの学校行事への参加】



【問31（b）PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加】

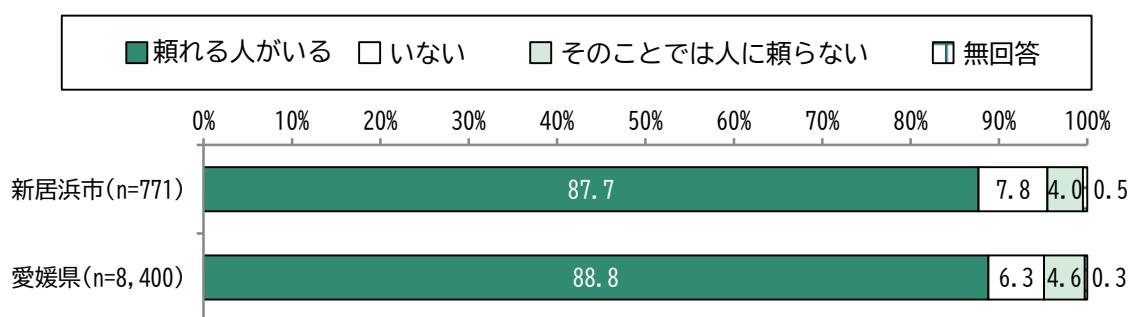


【問32 こどもが将来、現実的に見て選ぶと思う進路（単数回答）】

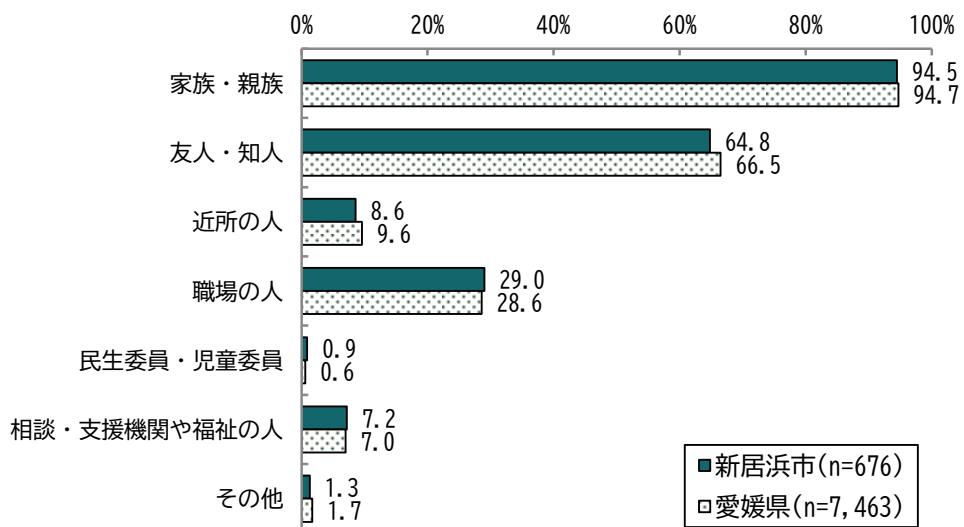


【問34～43 頼れる人の有無（単数回答）、誰に頼れるか（複数回答）】

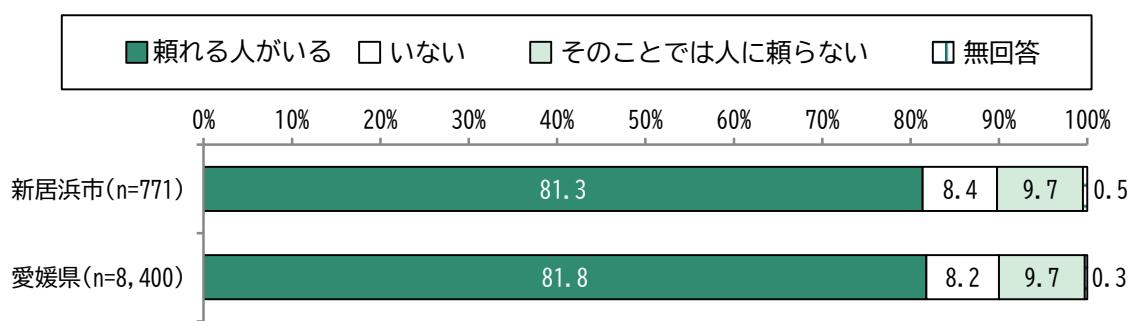
【問34（a）子育てに関する相談】



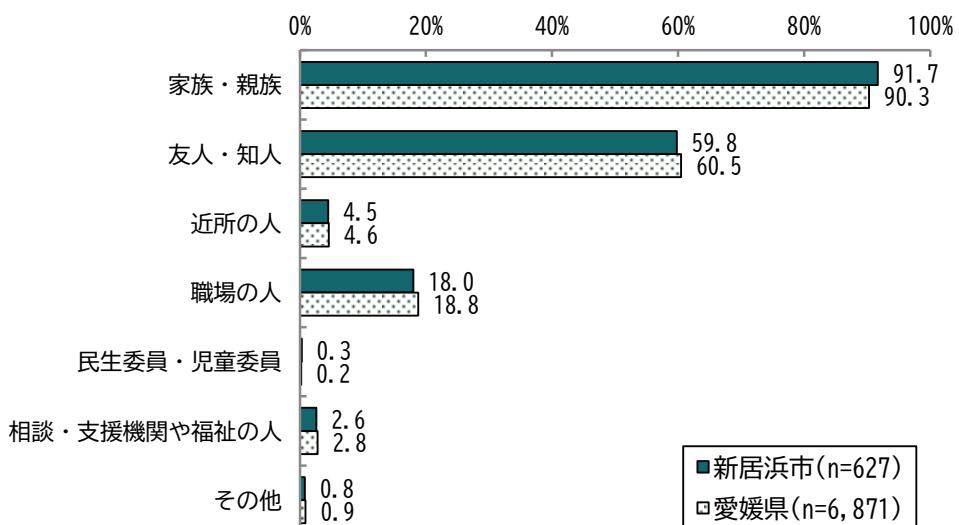
【問35（a）子育てに関する相談で頼れる人】



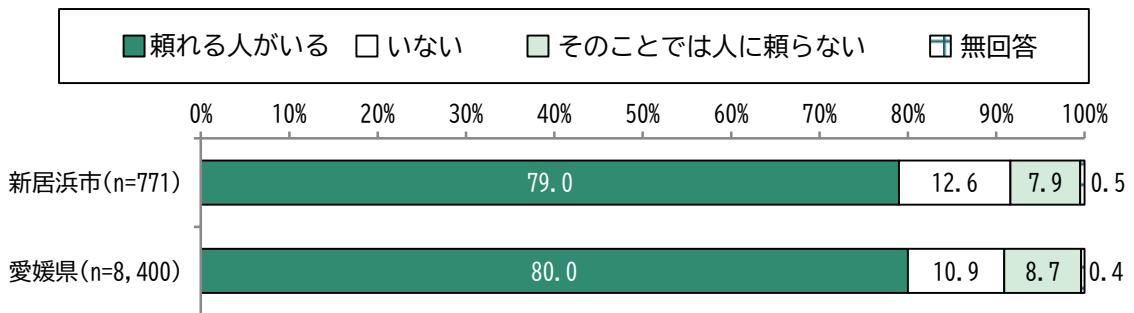
【問36（b）家族関係に関する相談】



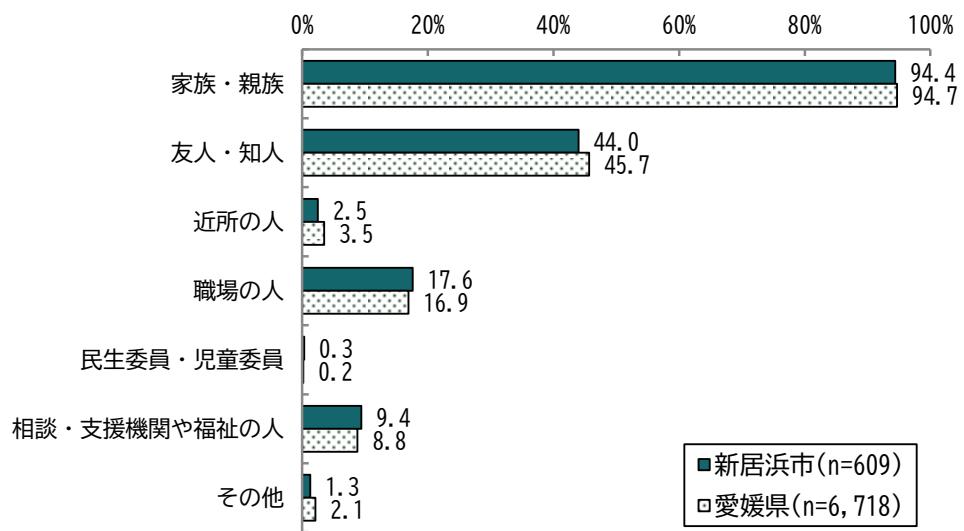
【問37（b）家族関係に関する相談で頼れる人】



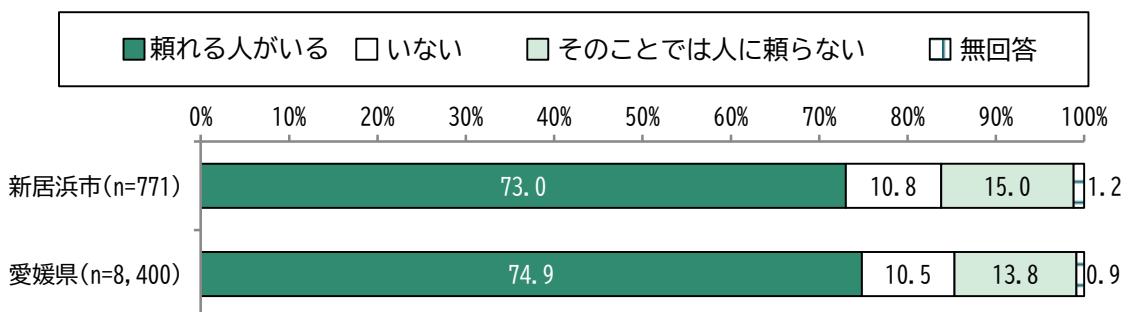
【問38（c）自分や家族の病気や障がいに関する相談】



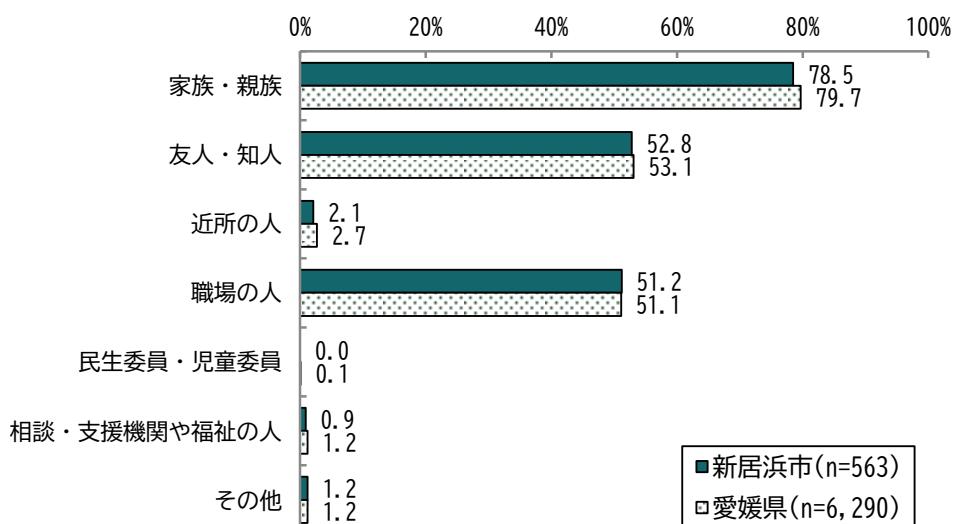
【問39（c）自分や家族の病気や障がいに関する相談で頼れる人】



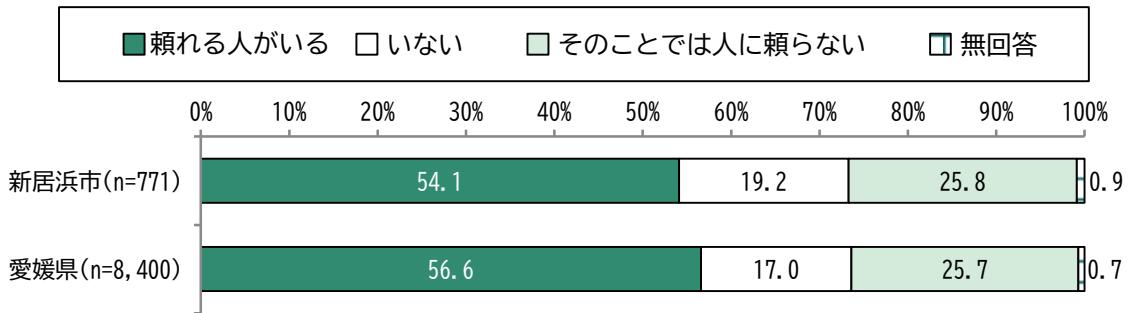
【問40（d）仕事に関する相談】



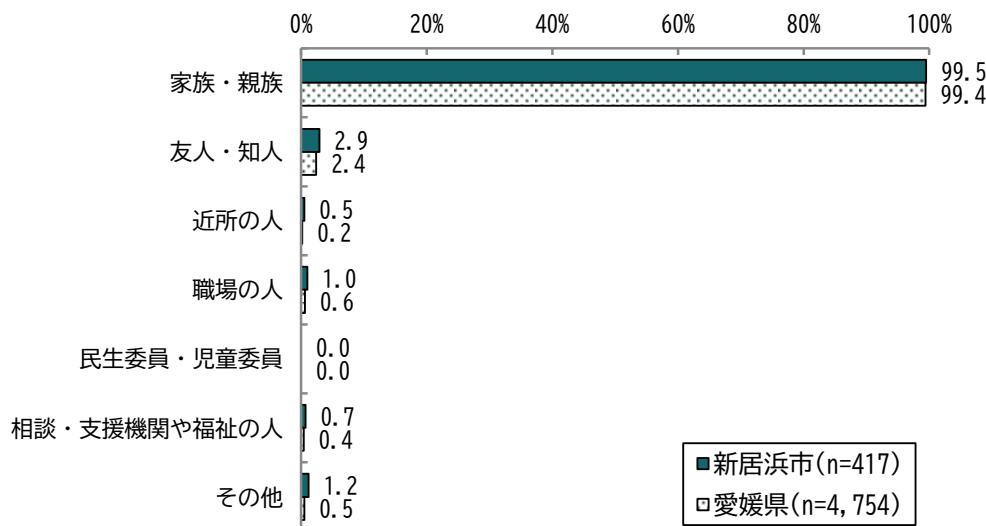
【問41（d）仕事に関する相談で頼れる人】



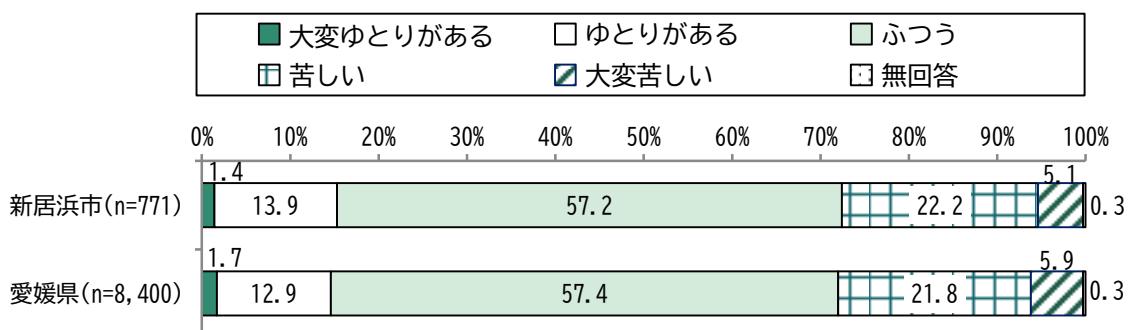
【問42（e）いざという時のお金の援助】



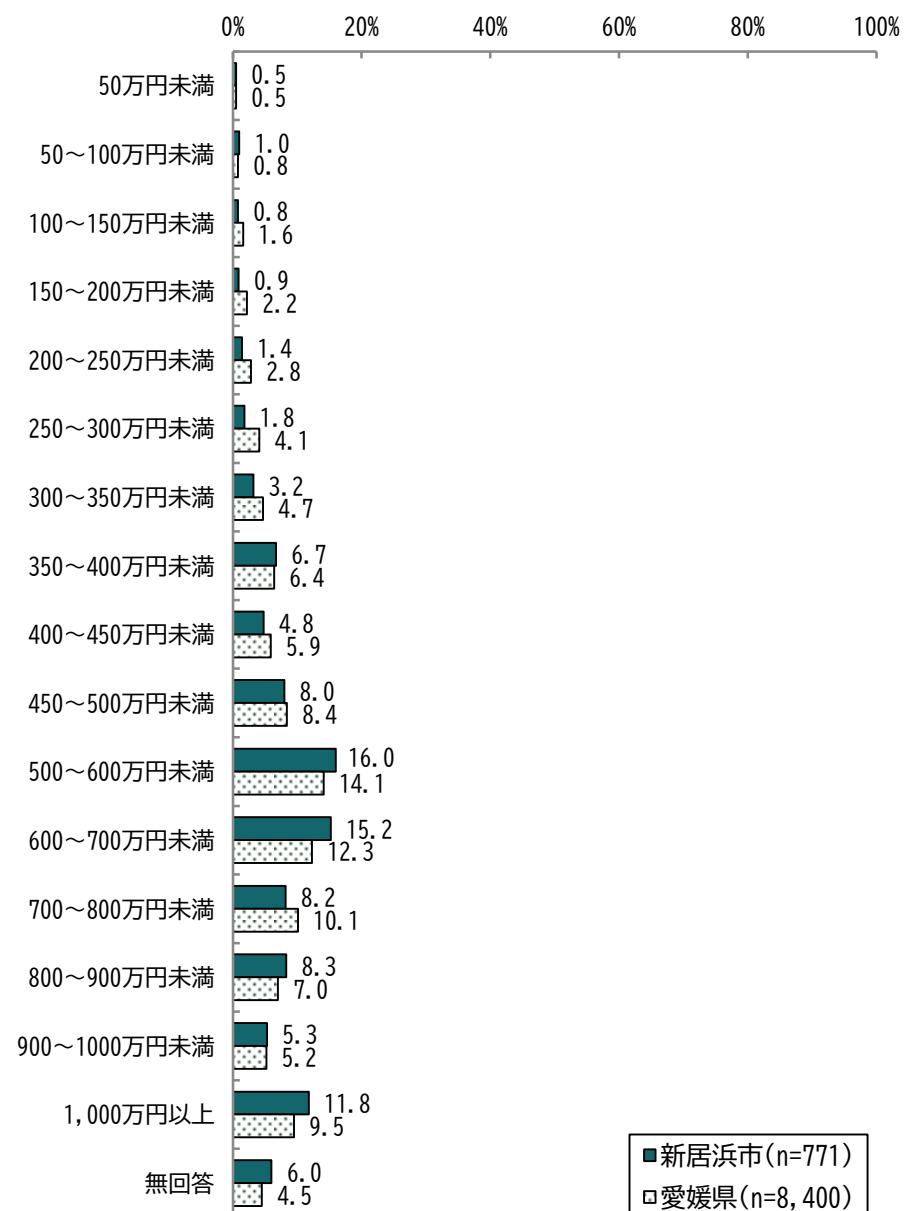
【問43（e）いざという時のお金の援助で頼れる人】



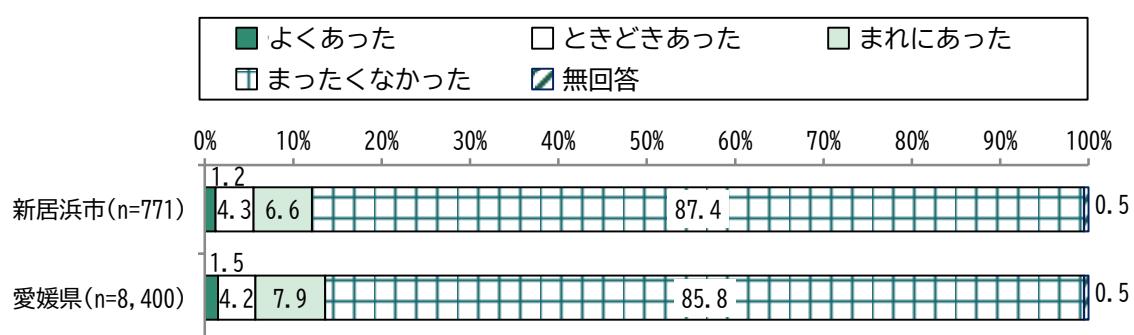
【問44 現在の暮らしの状況（単数回答）】



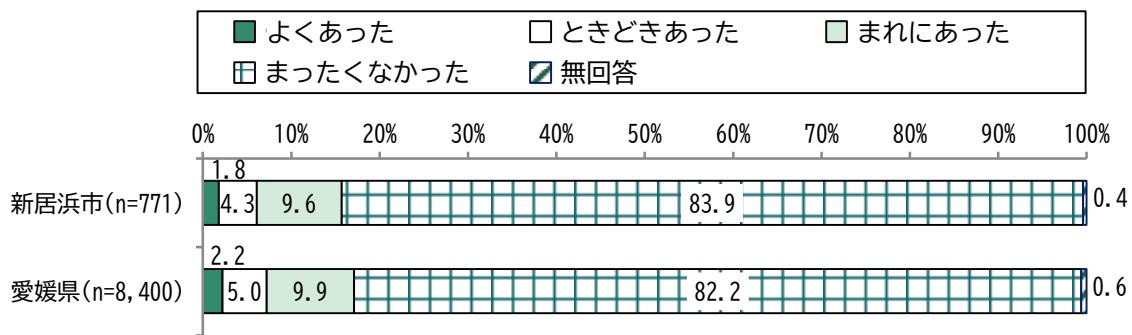
【問45 世帯全体のおおよその年間収入（税込み）（単数回答）】



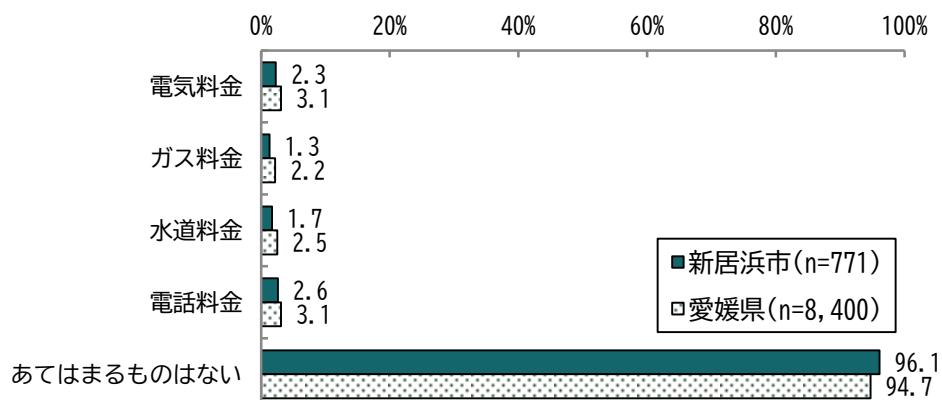
【問46 過去1年に、家族が必要とする食料が買えなかつたこと（単数回答）】



【問47 過去1年に、家族が必要とする衣服が買えなかつたこと（単数回答）】

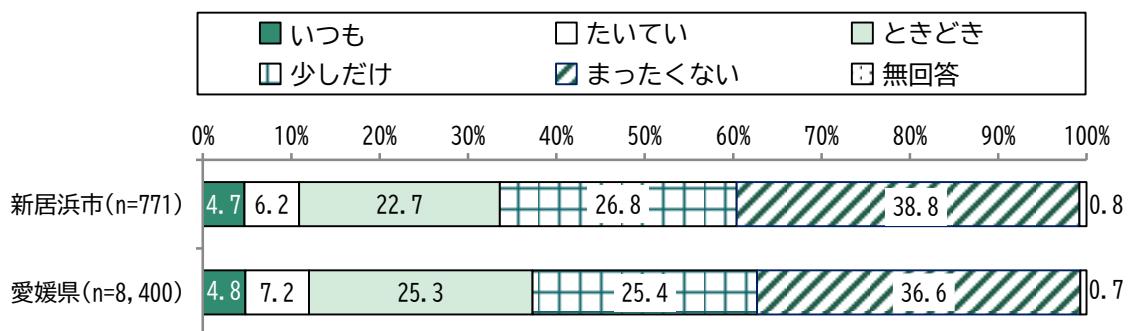


【問48 過去1年に、経済的な理由で未払いになったもの（複数回答）】

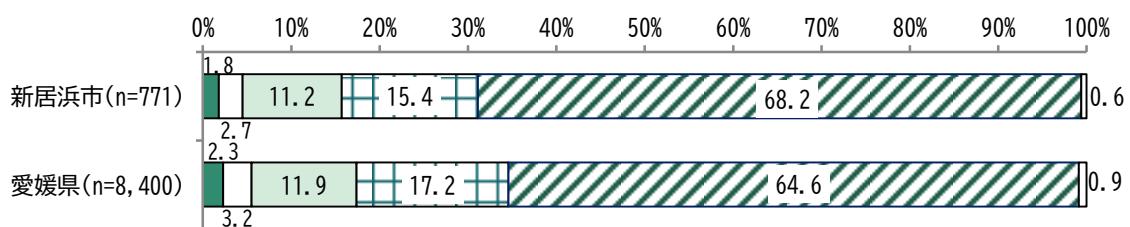


【問49～54 この1か月間の気持ち（単数回答）】

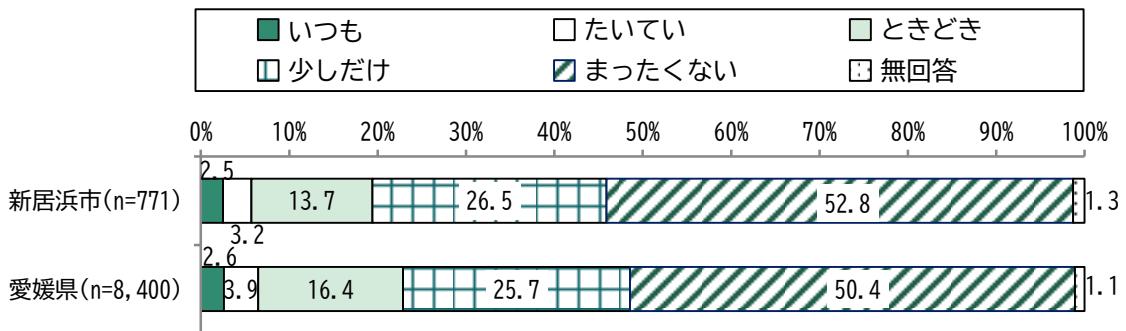
【問49（a）神経過敏に感じた】



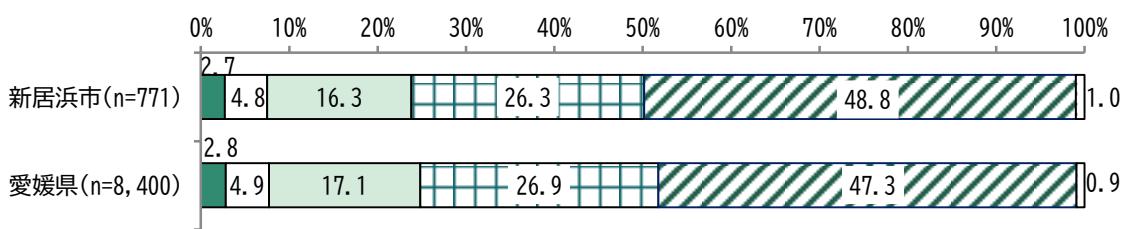
【問50（b）絶望的だと感じた】



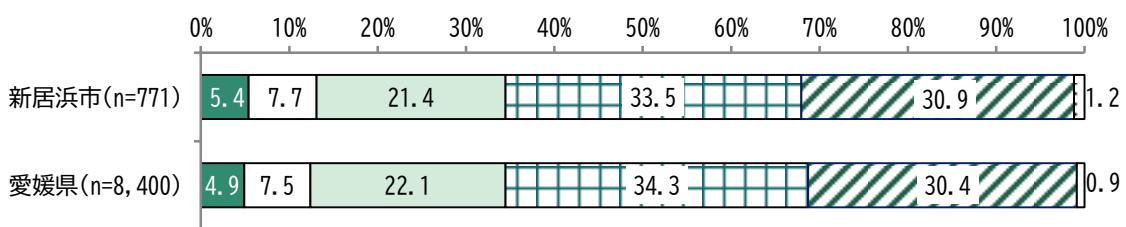
【問51（c）そわそわ、落ち着かなく感じた】



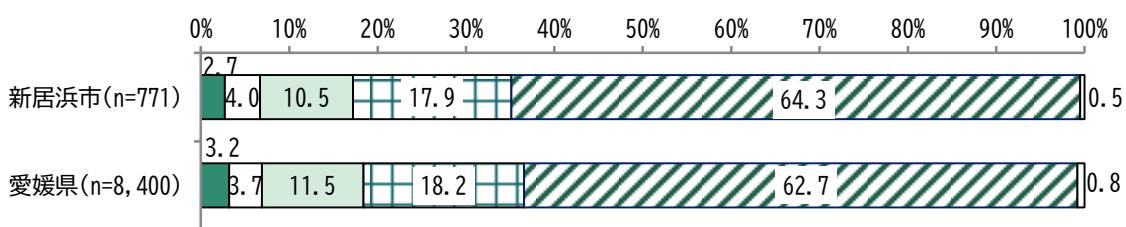
【問52（d）気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた】



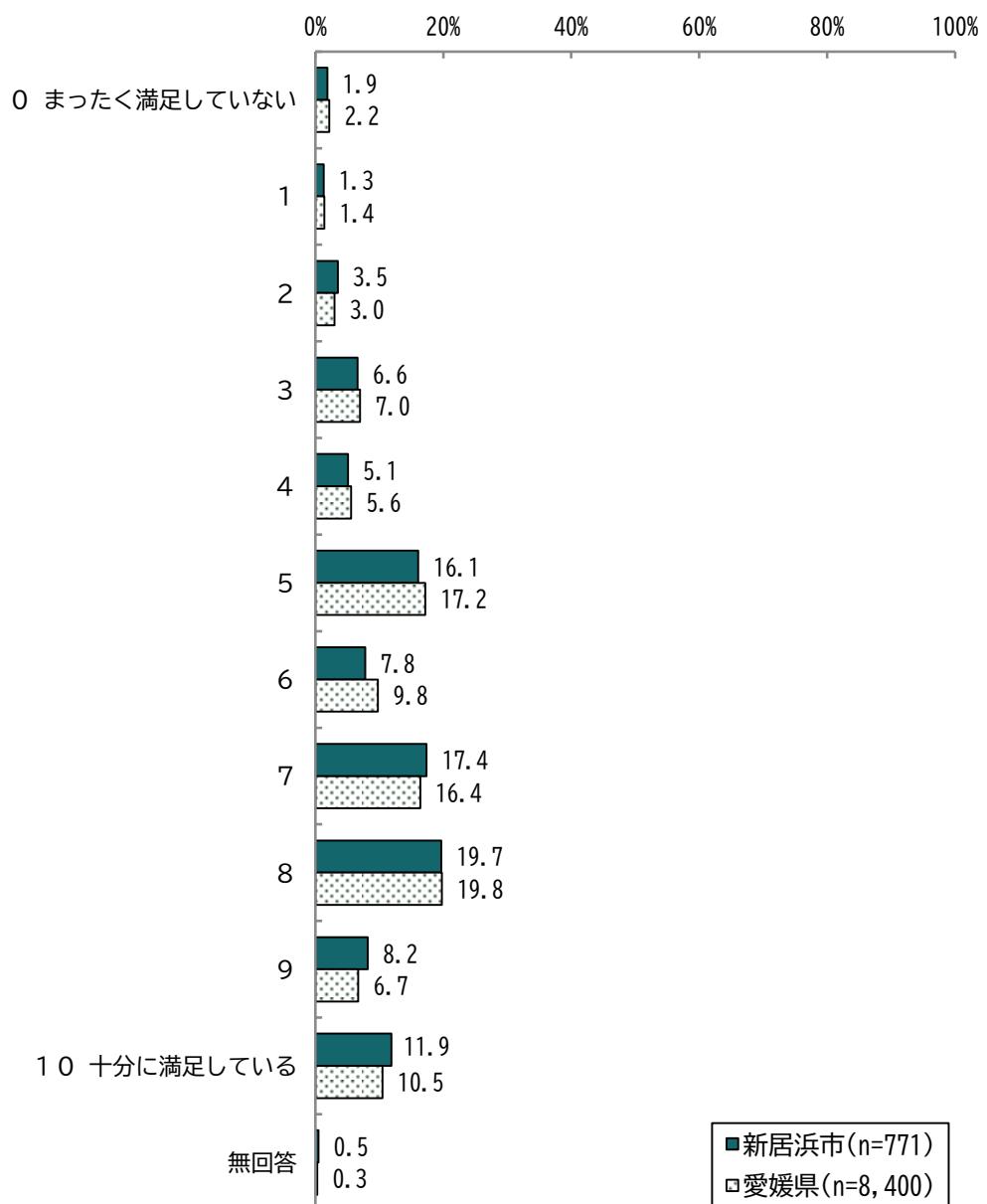
【問53（e）何をするのも面倒だと感じた】



【問54（f）自分は価値のない人間だと感じた】

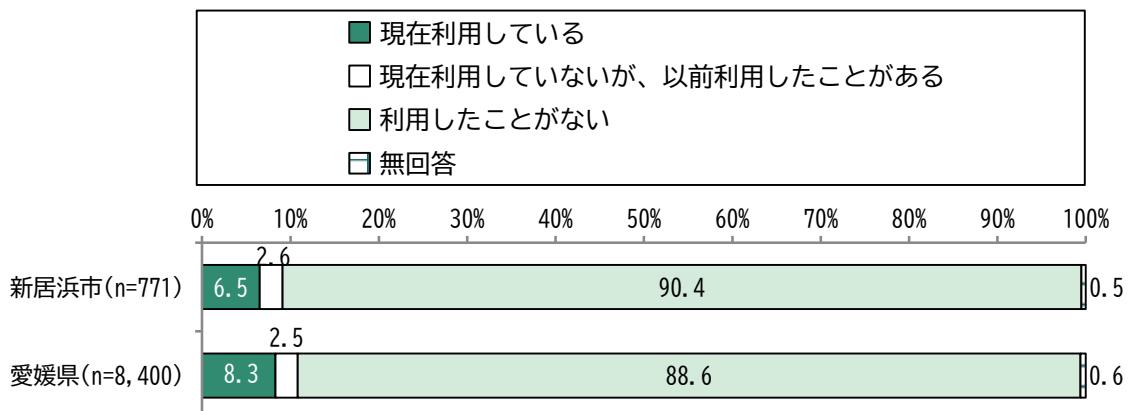


【問55 全体として、最近の生活満足度（単数回答）
(0=まったく満足していない～10=十分に満足している)】

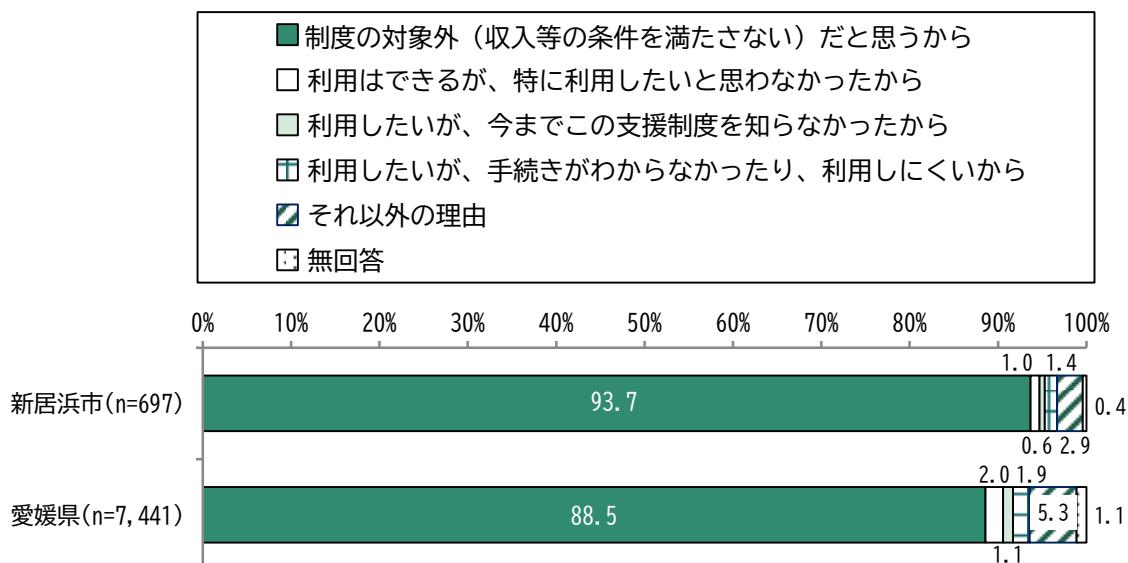


【問 56～65 支援制度利用状況（単数回答）、制度を利用したことのない理由（単数回答）】

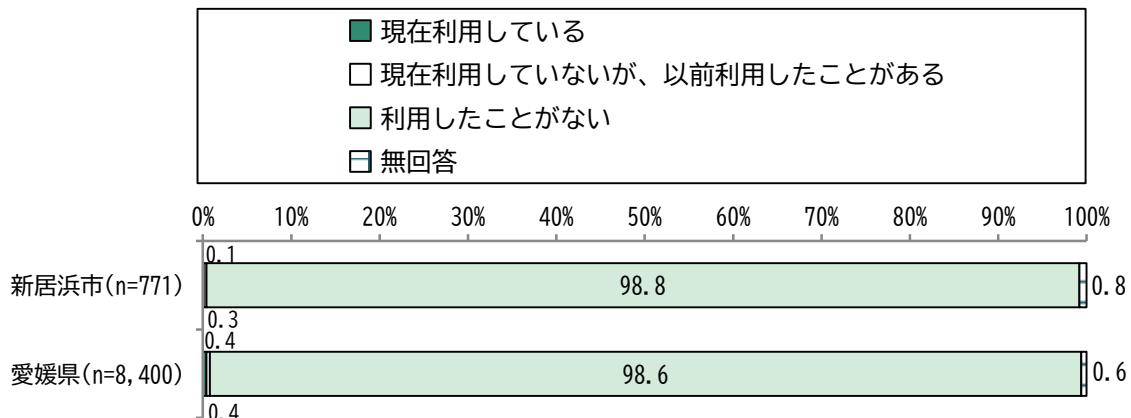
【問 56（a）就学援助】



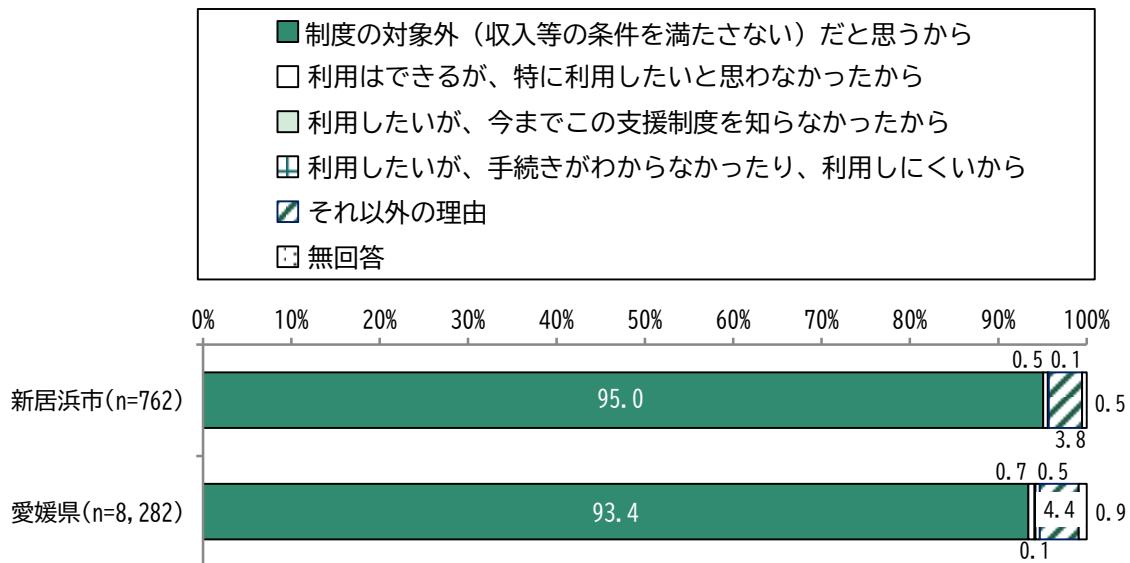
【問 57（a）就学援助を利用したことのない理由】



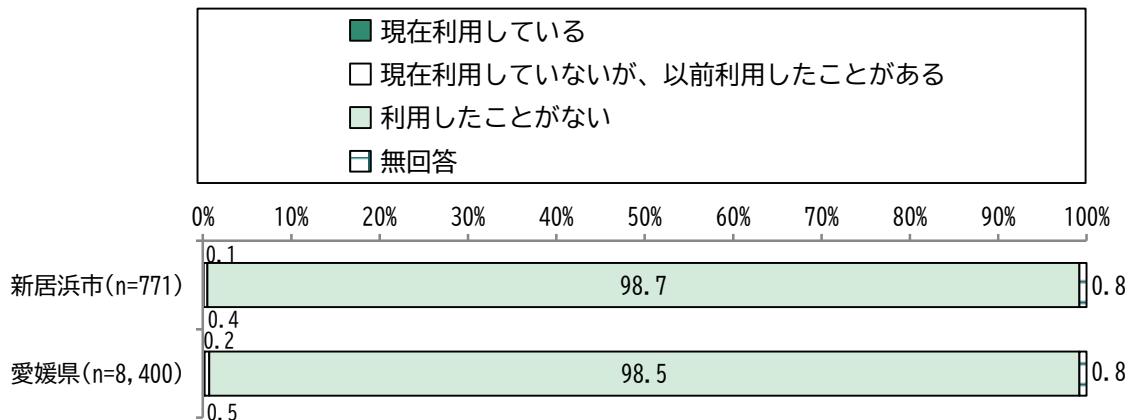
【問 58（b）生活保護】



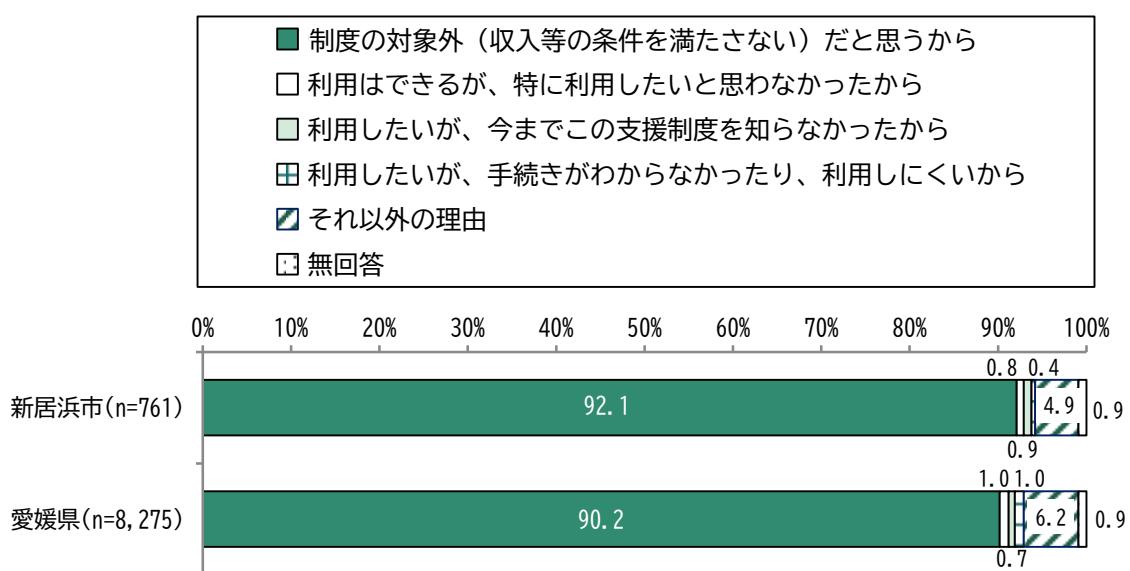
【問 59 (b) 生活保護を利用したことがない理由】



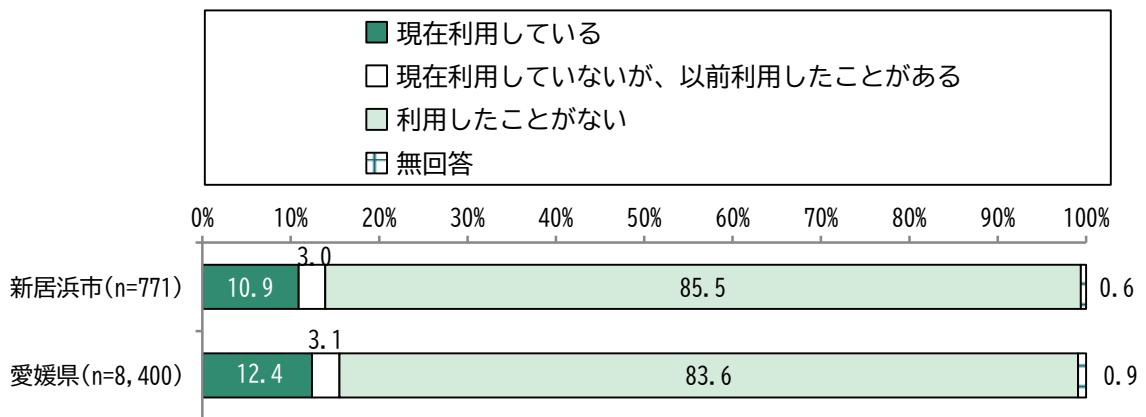
【問 60 (c) 生活困窮者の自立支援相談窓口】



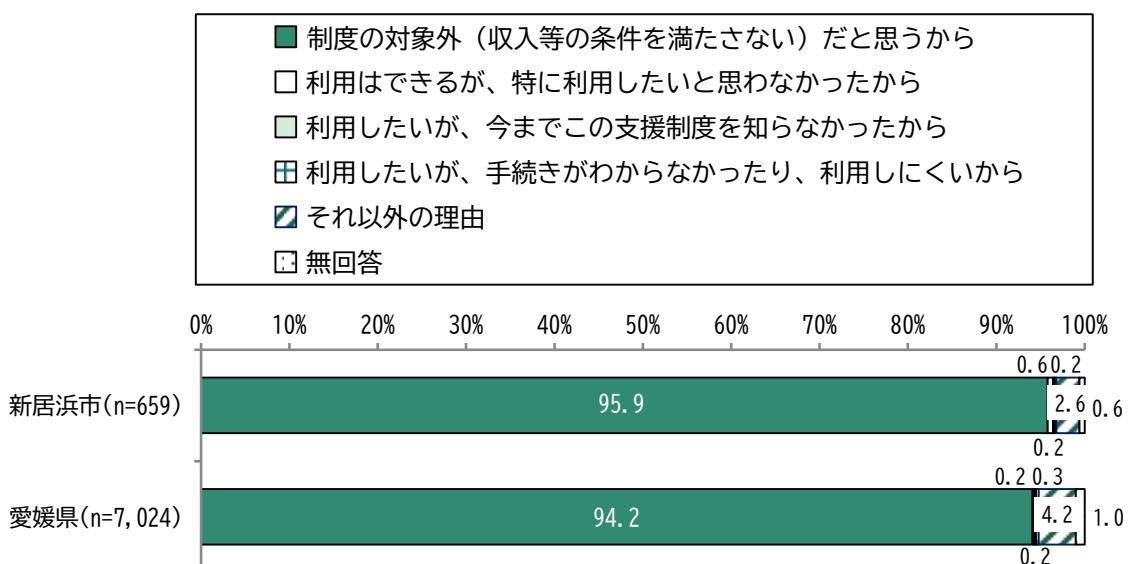
【問 61 (c) 生活困窮者の自立支援相談窓口を利用したことのない理由】



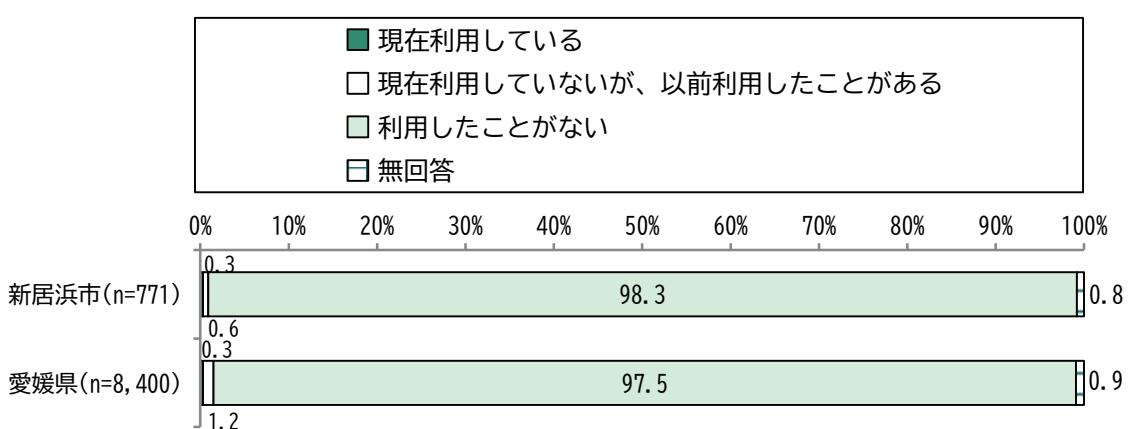
【問62（d）児童扶養手当】



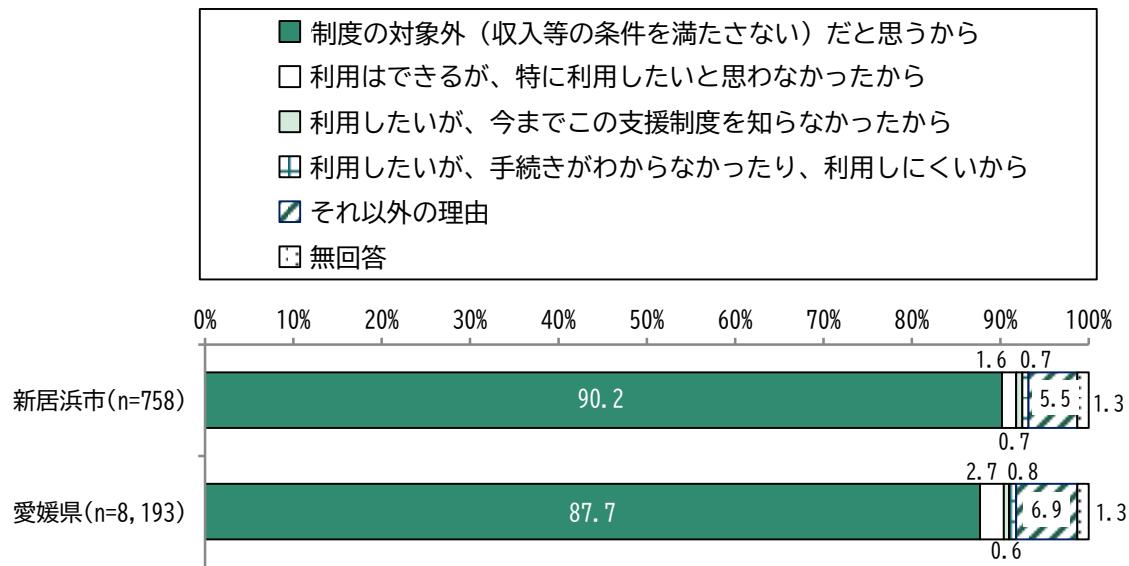
【問63（d）児童扶養手当を利用したことがない理由】



【問64（e）母子家庭等就業・自立支援センター】

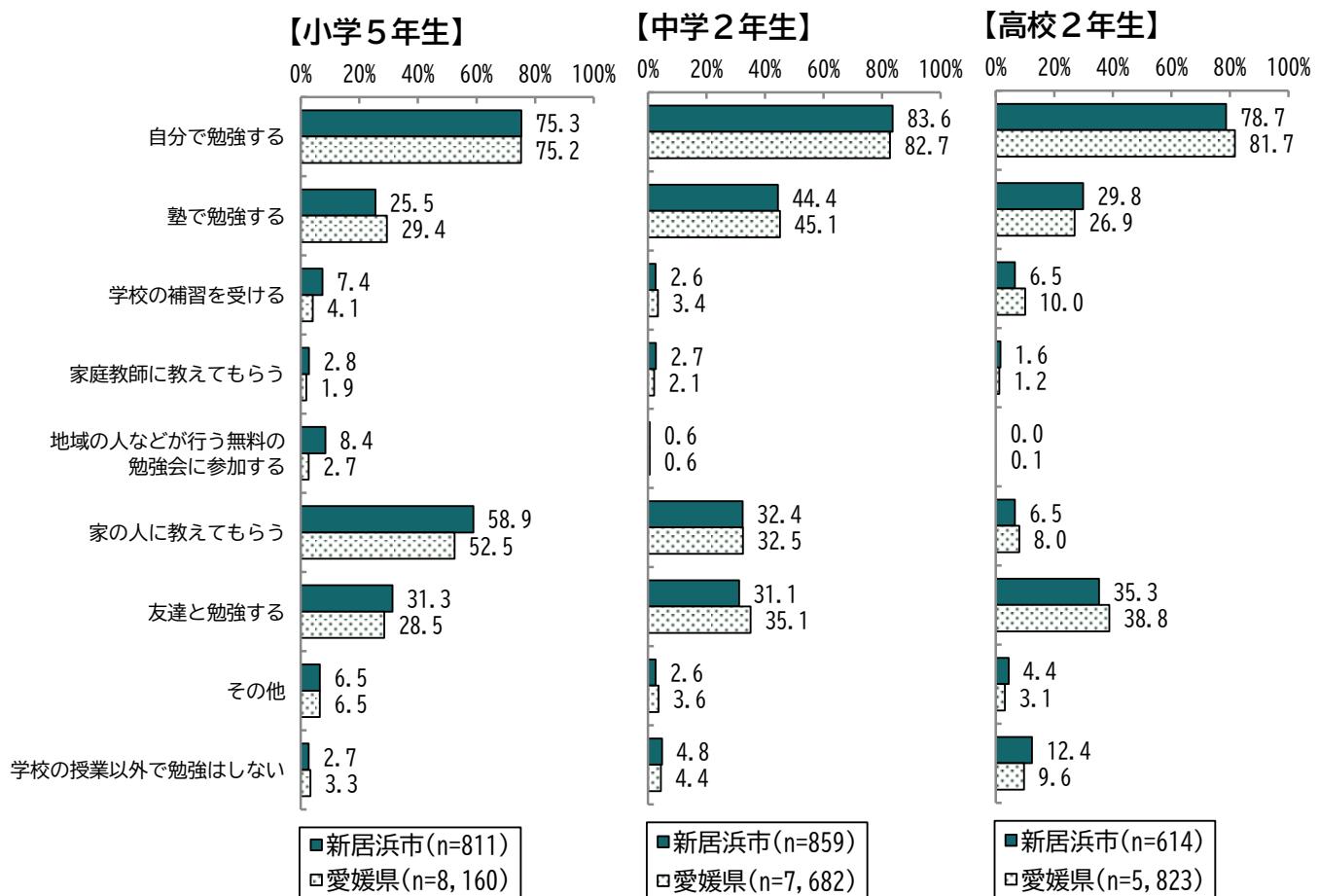


【問65（e）母子家庭等就業・自立支援センターを利用したことがない理由】



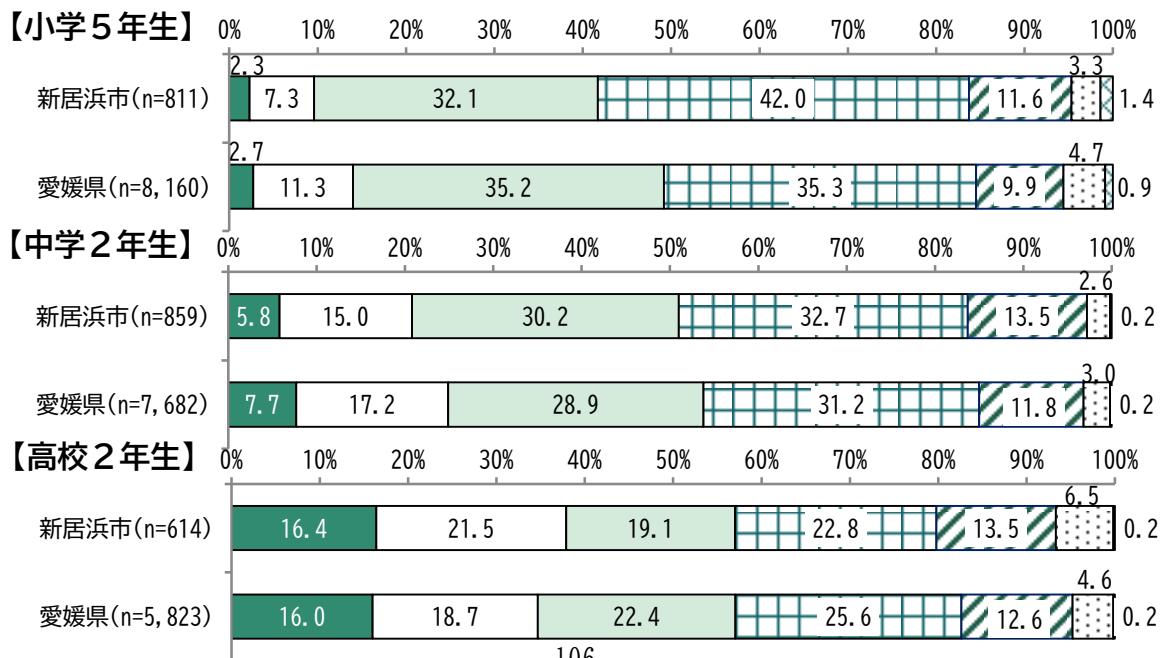
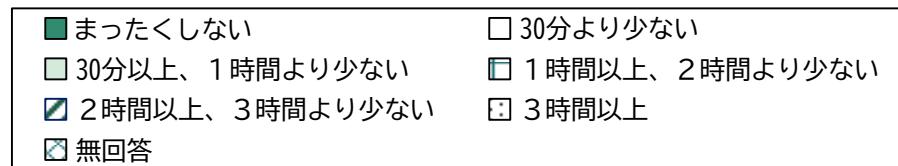
2 調査対象：小学5年生・中学2年生・高校2年生

【問3 学校の授業以外での勉強方法（複数回答）】

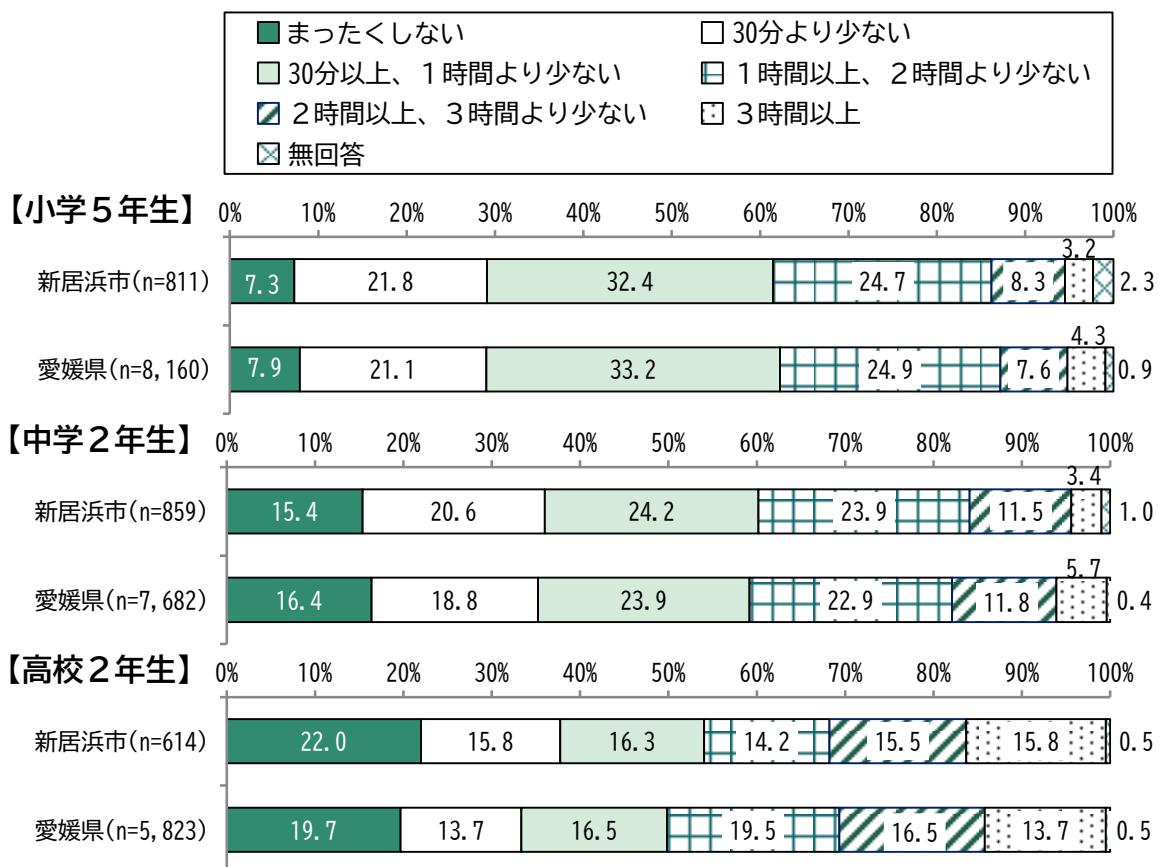


【問4～5 授業以外の勉強方法（単数回答）】

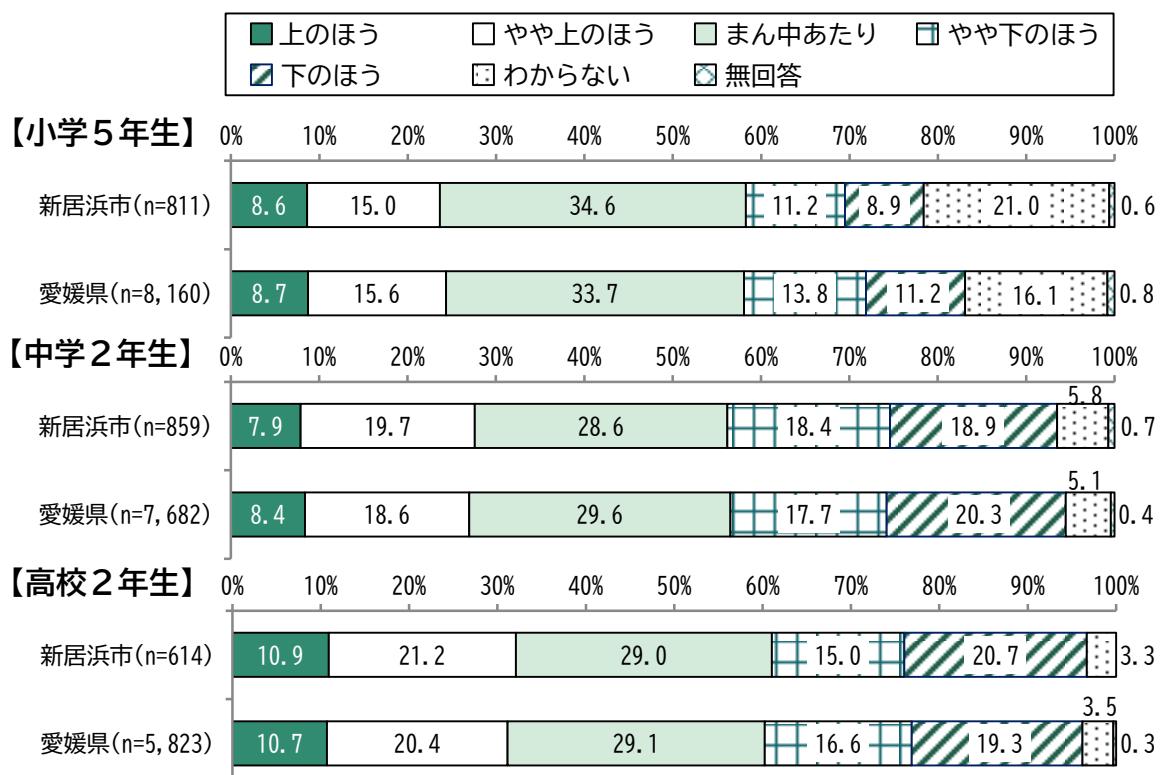
問4 (a) 学校がある日（月～金曜日）



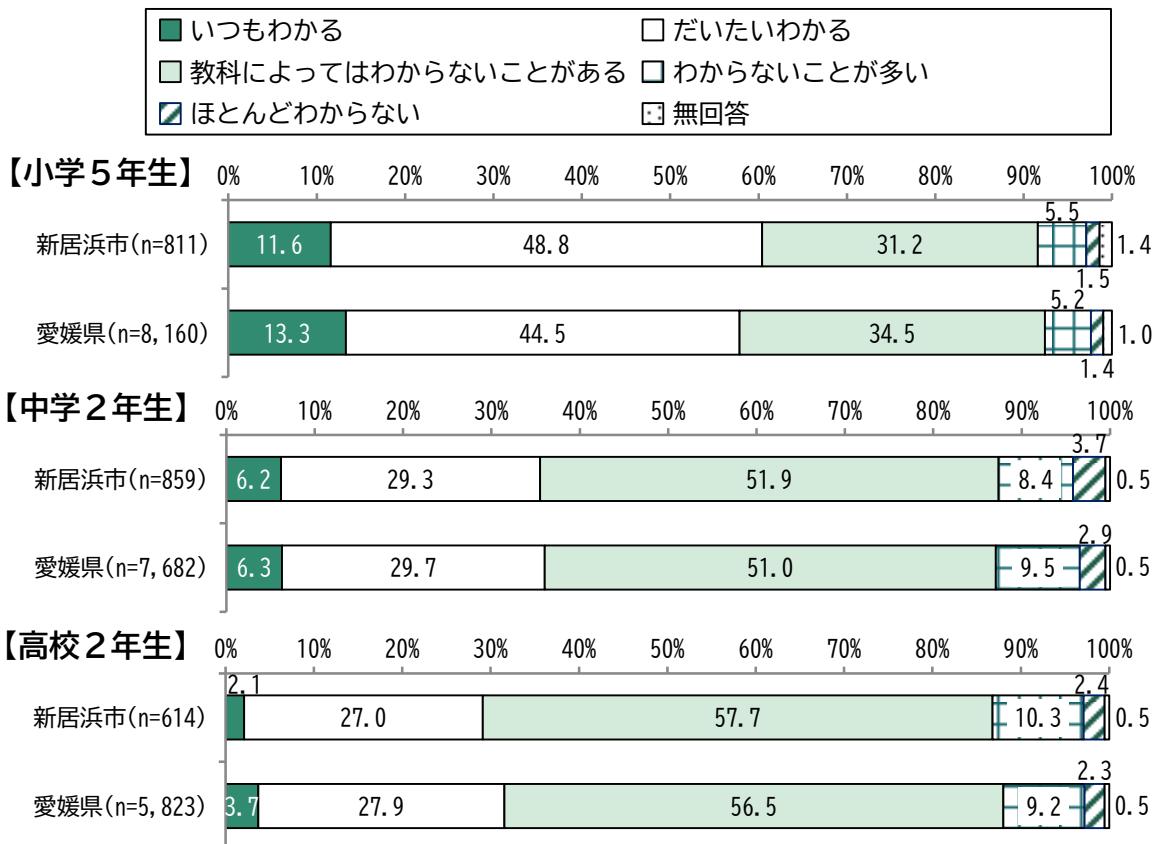
問5 (b) 学校がない日（土・日曜日・祝日）



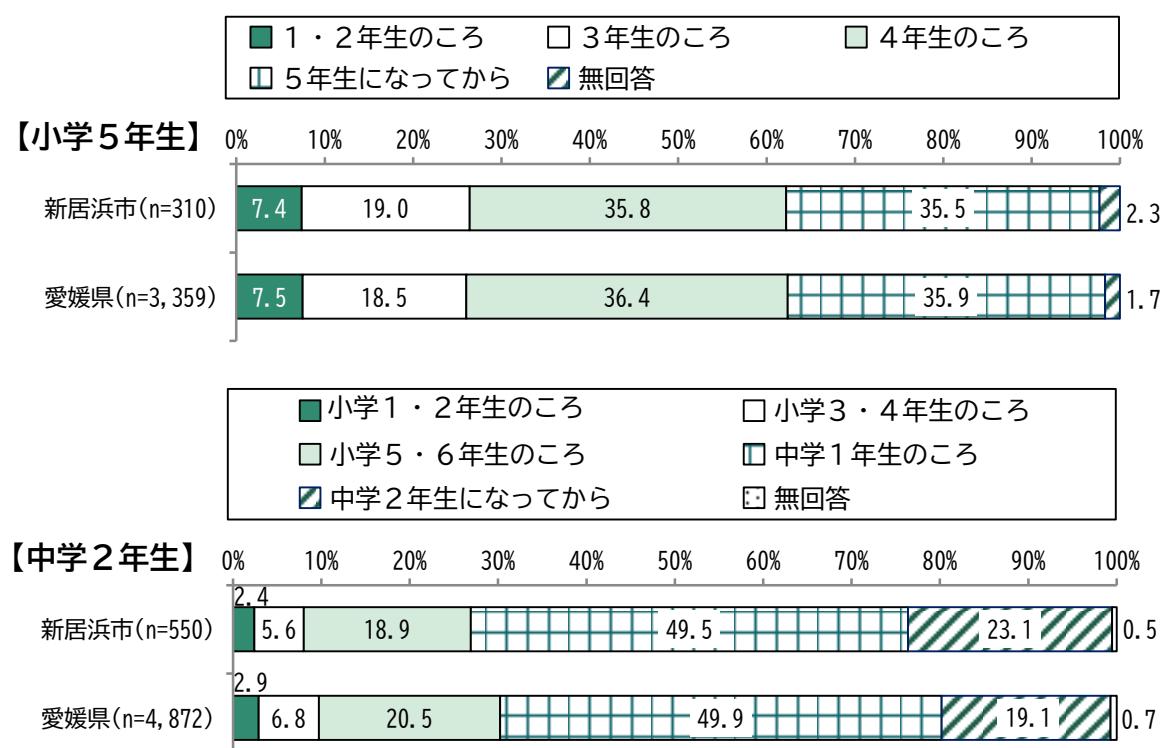
【問6 クラスでの成績（単数回答）】

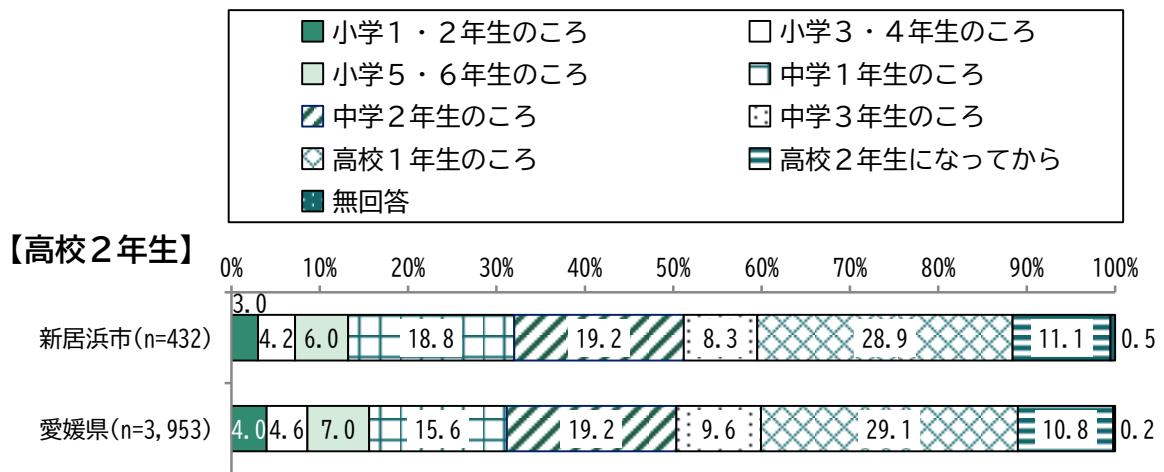


【問7 学校の授業がわからないこと（単数回答）】

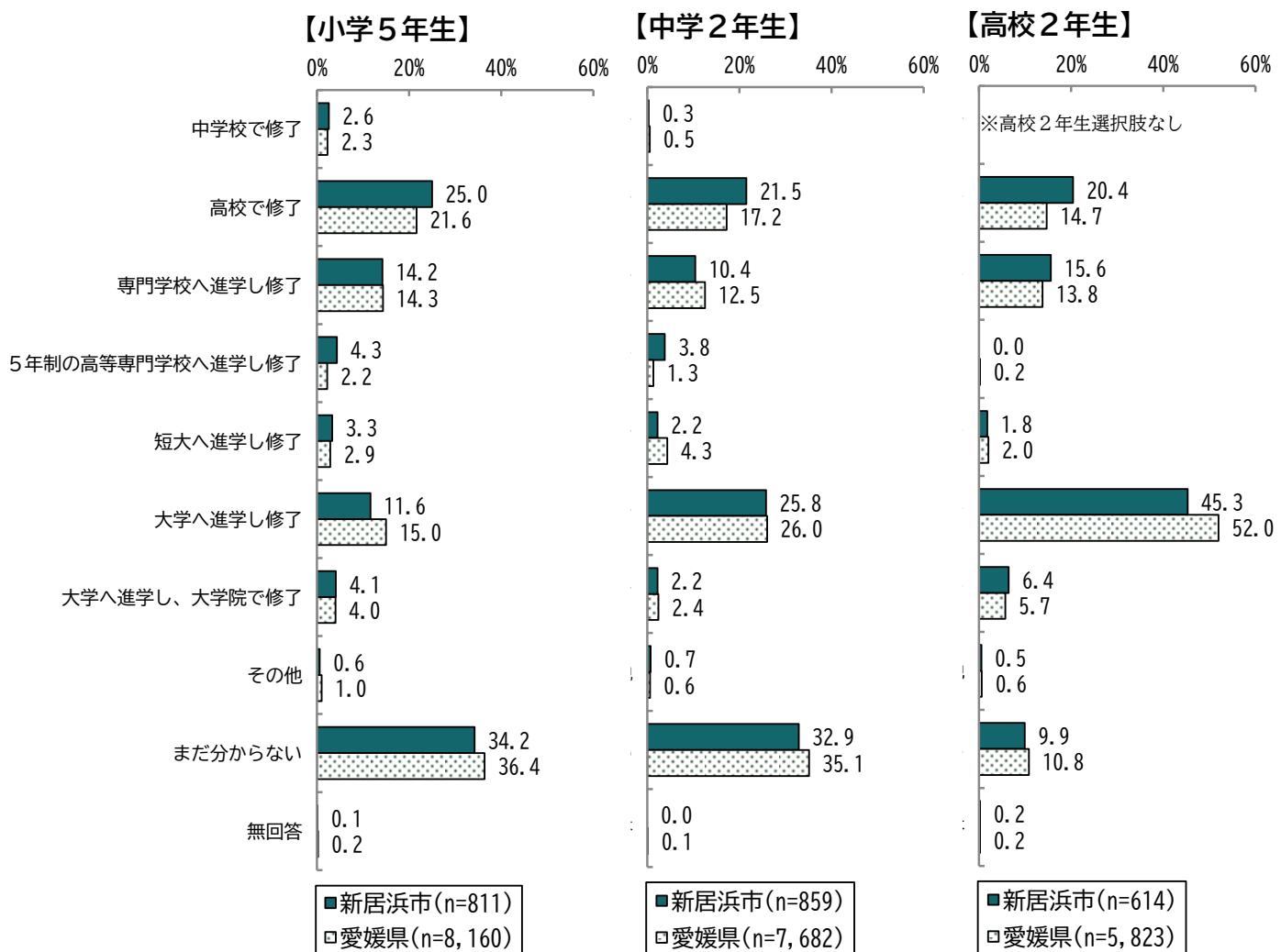


【問8 授業がわからないことがあるようになった学年（単数回答）】

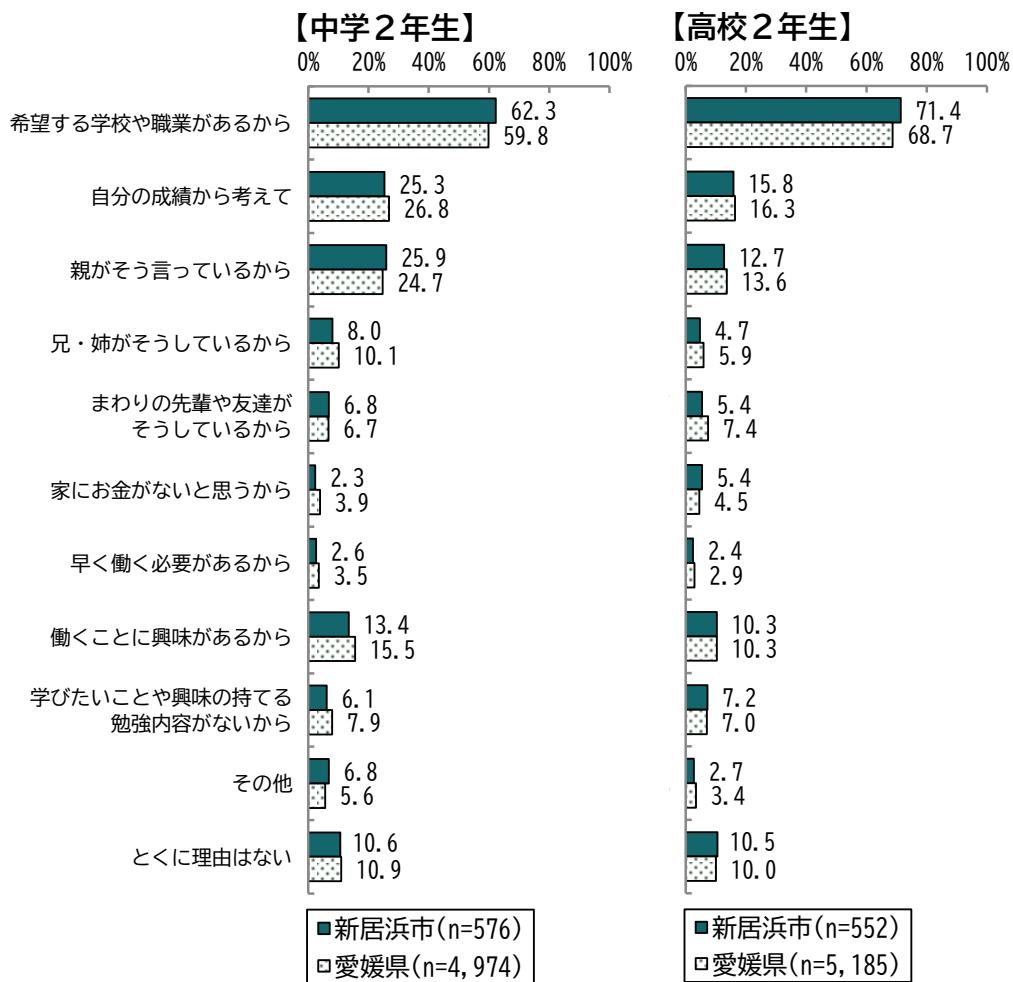




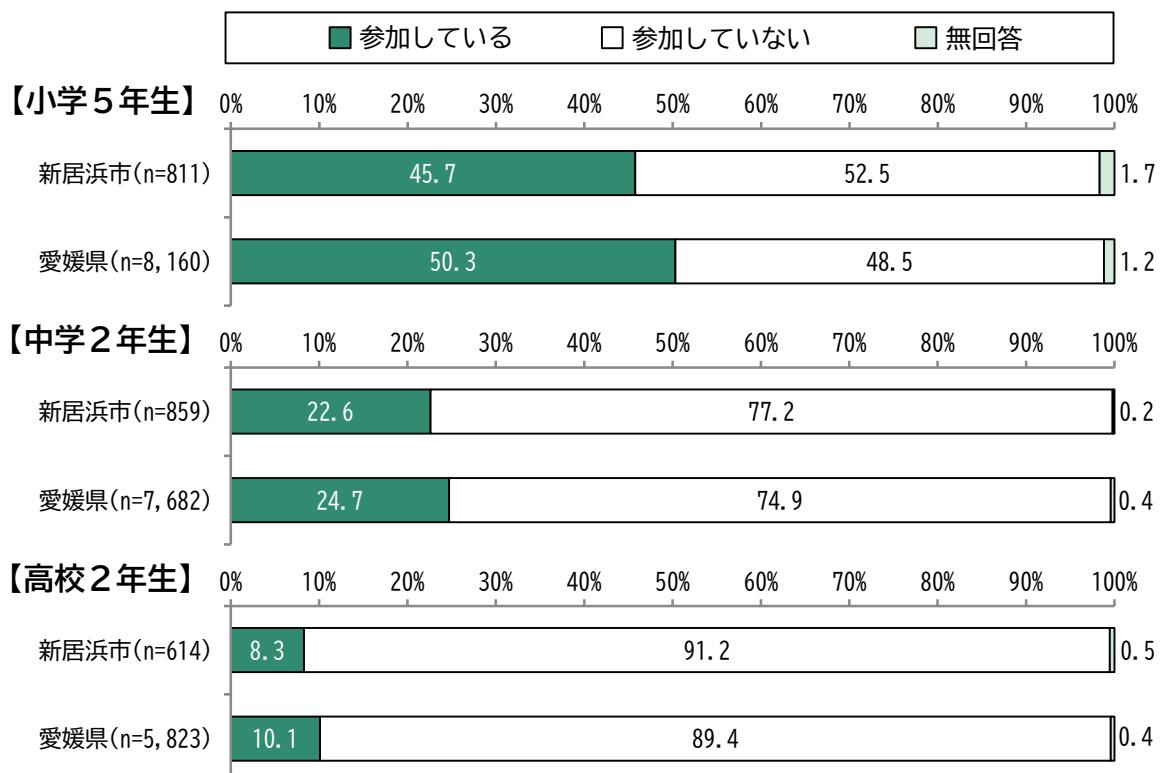
【問9 予定進路（単数回答）】



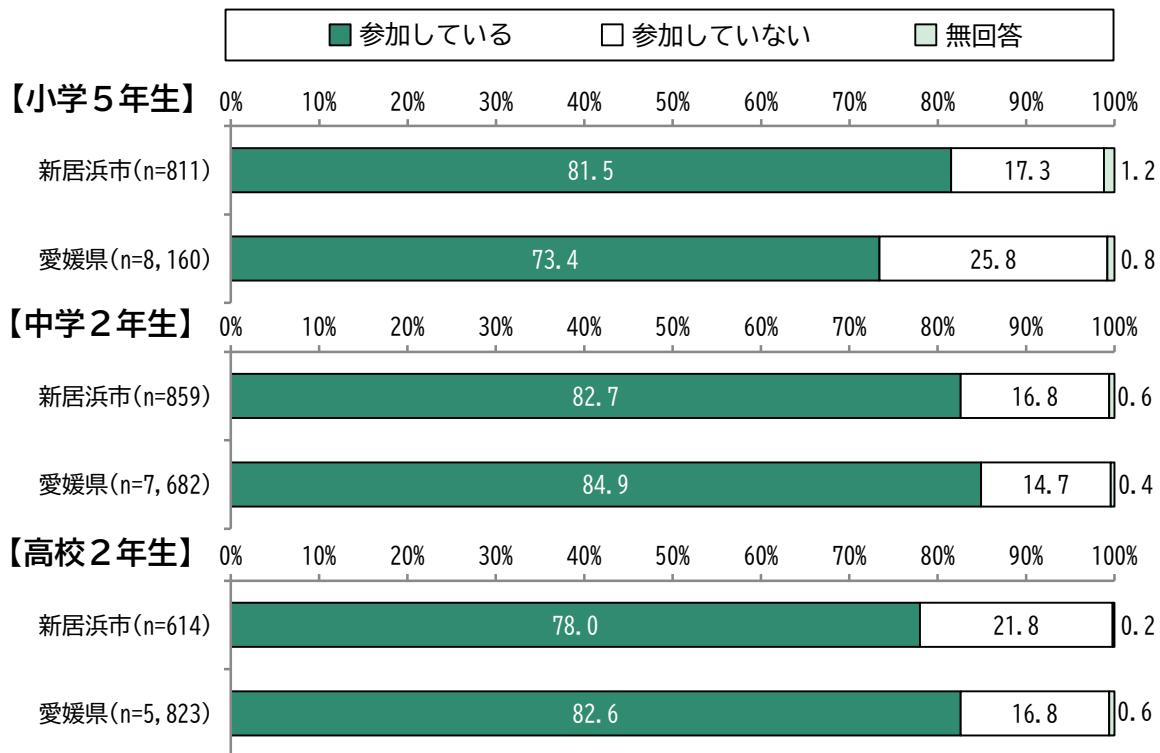
【問10 その進路を選んだ理由（複数回答）】



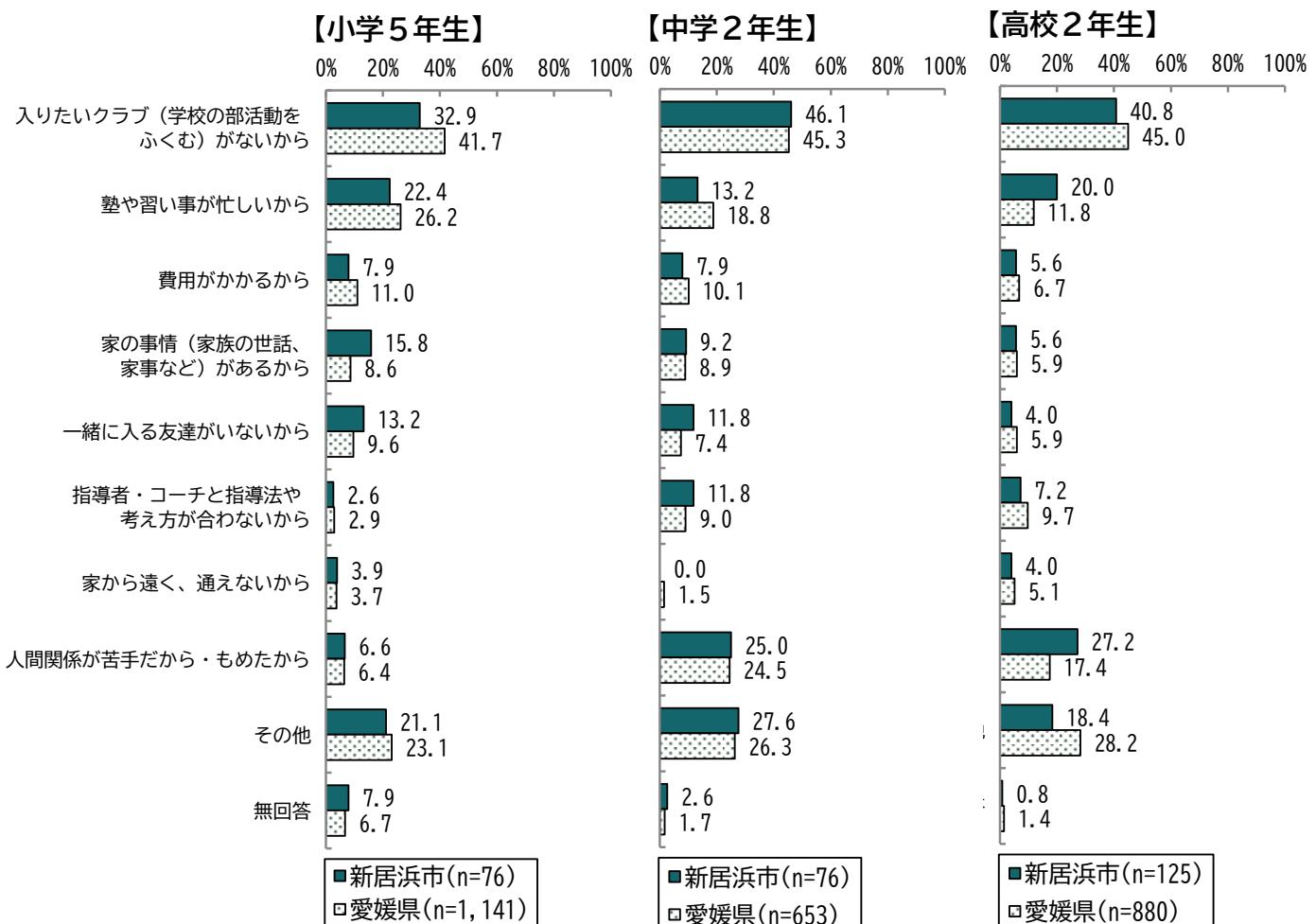
【問11 学外の地域のスポーツクラブや文化クラブへの参加（単数回答）】



【問12 学校の部活動への参加（単数回答）】

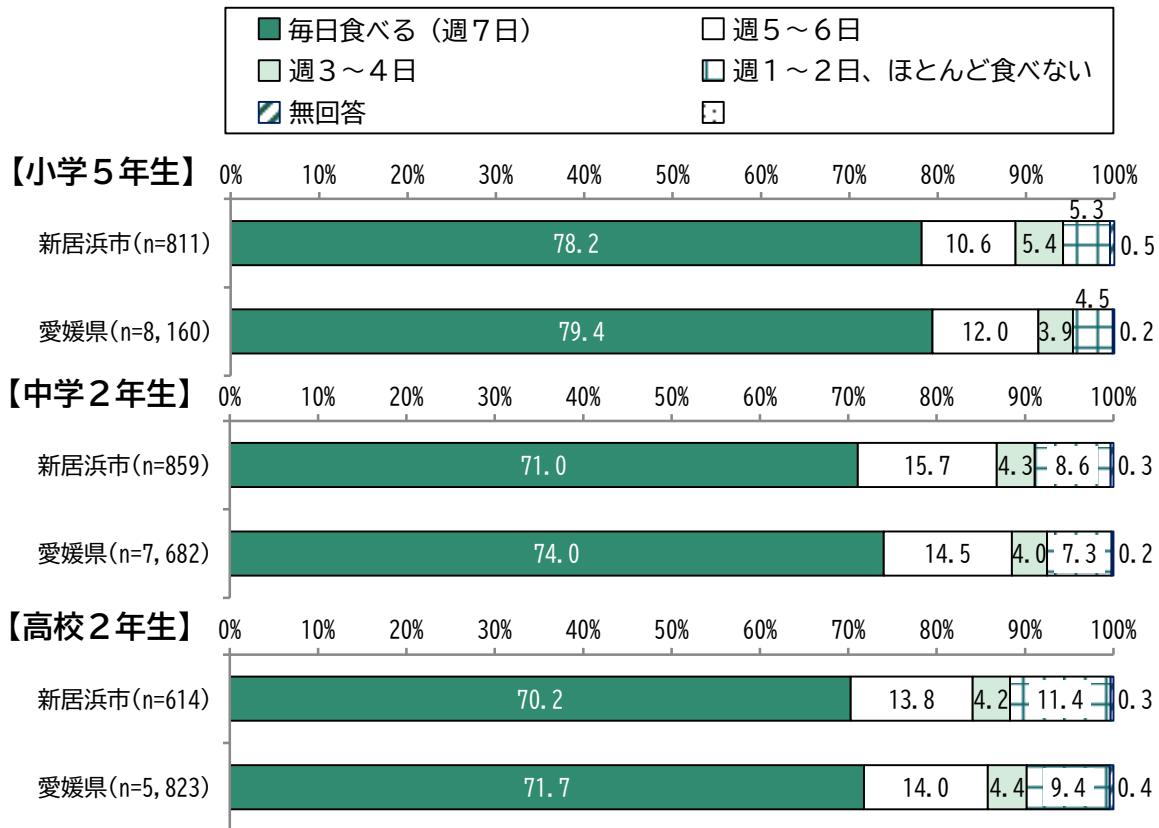


【問13 参加していない理由（複数回答）】

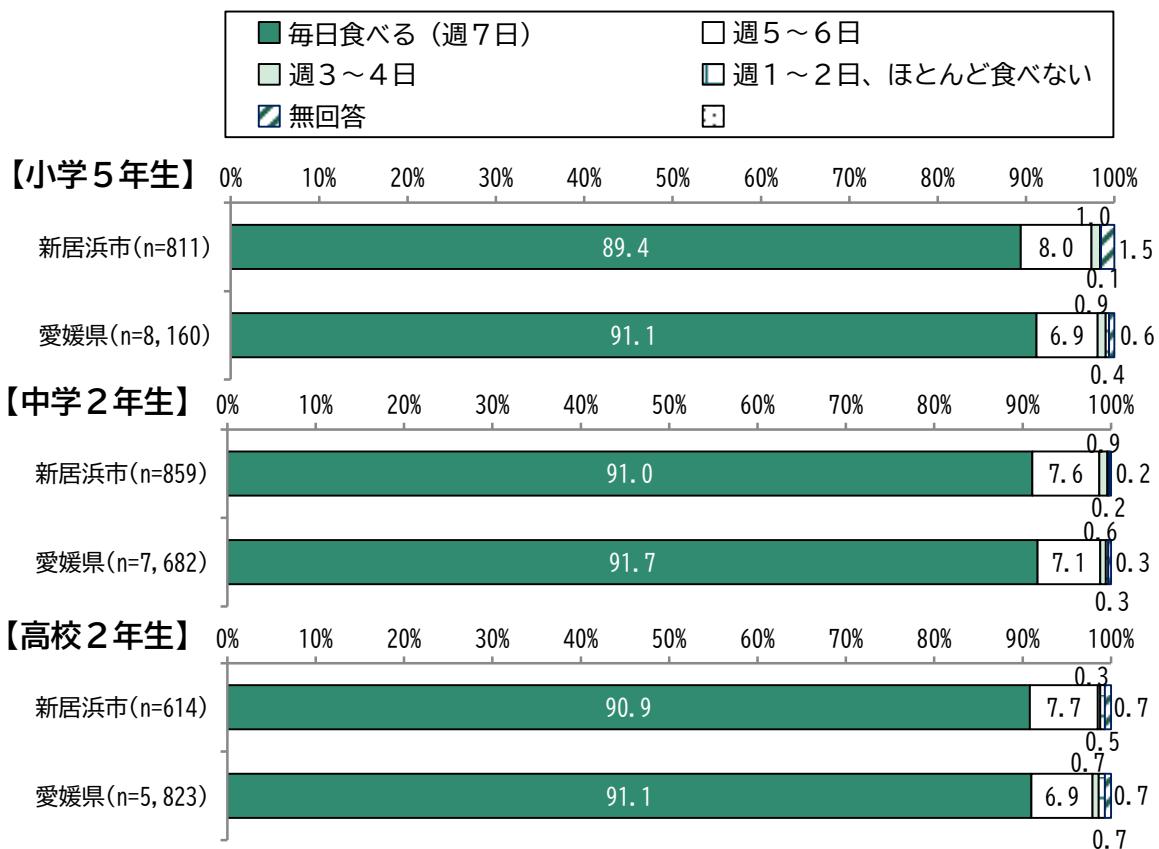


【問14～16 食事の頻度（単数回答）】

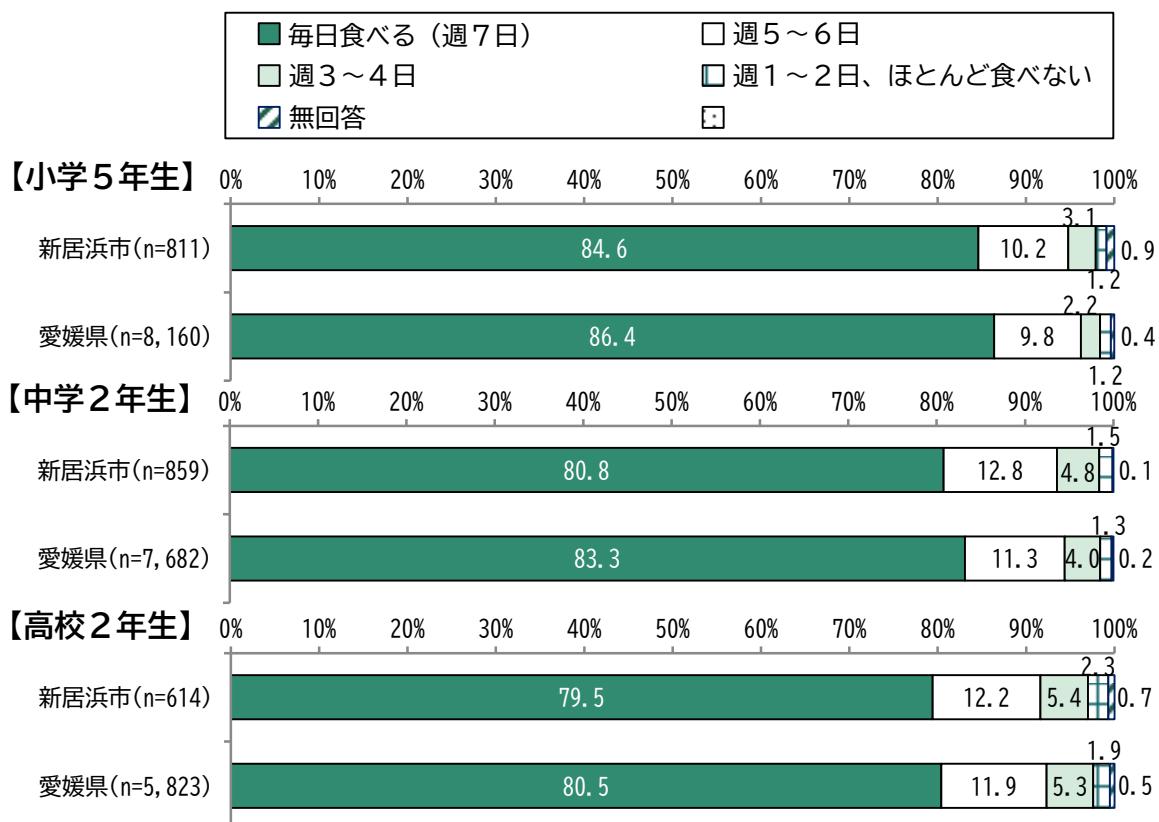
問14（a）朝食



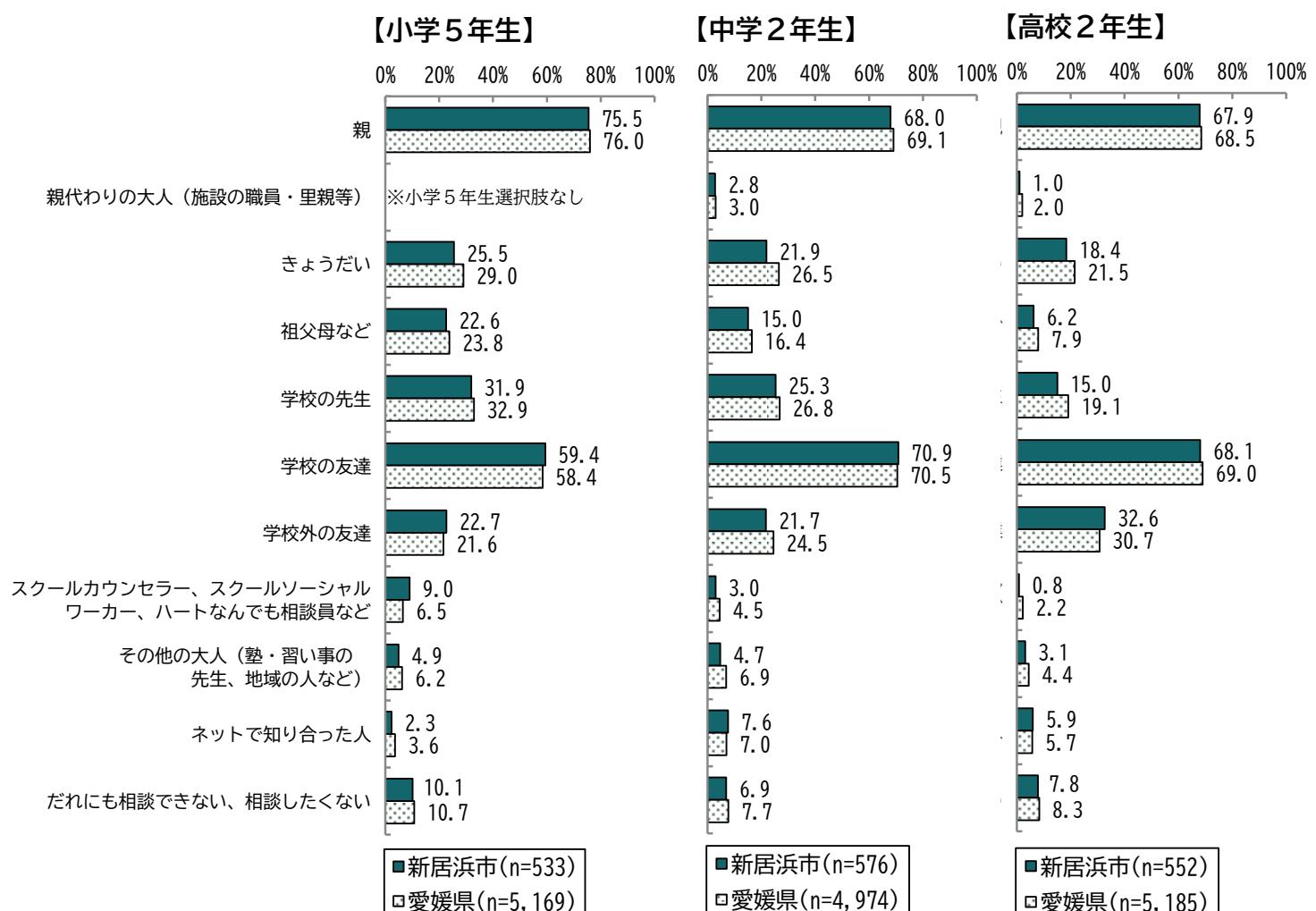
問15（b）昼食



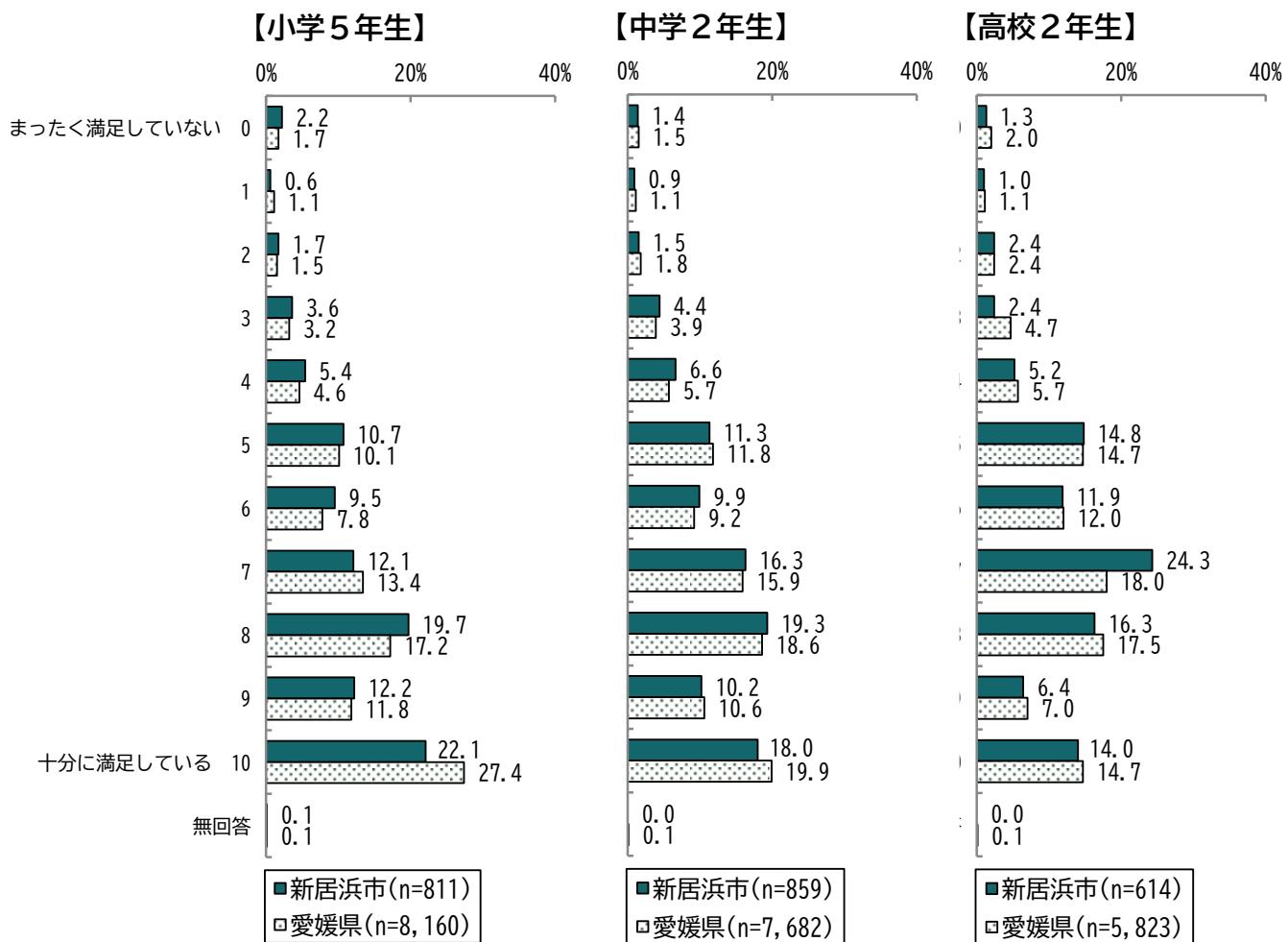
問16 (c) 夏休みや冬休みなどの期間の昼食



【問17 困っていることや悩みごとがあるとき、相談できる人（複数回答）】

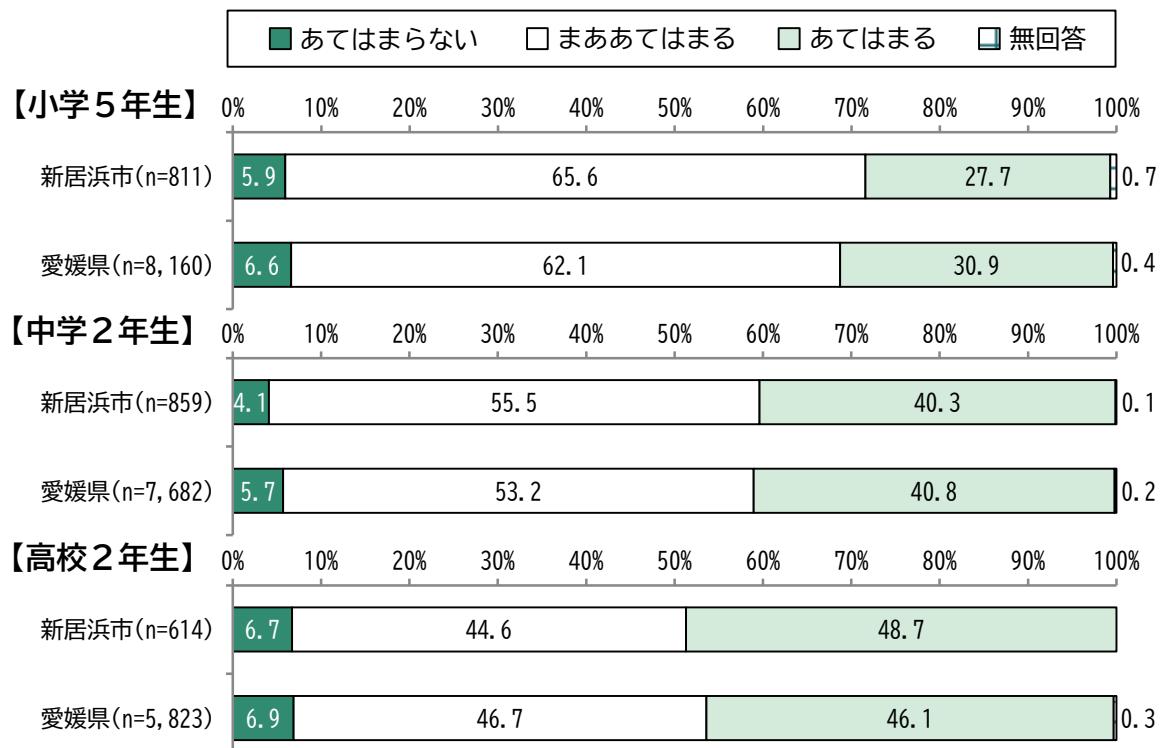


【問18 全体として、最近の生活満足度（単数回答）】

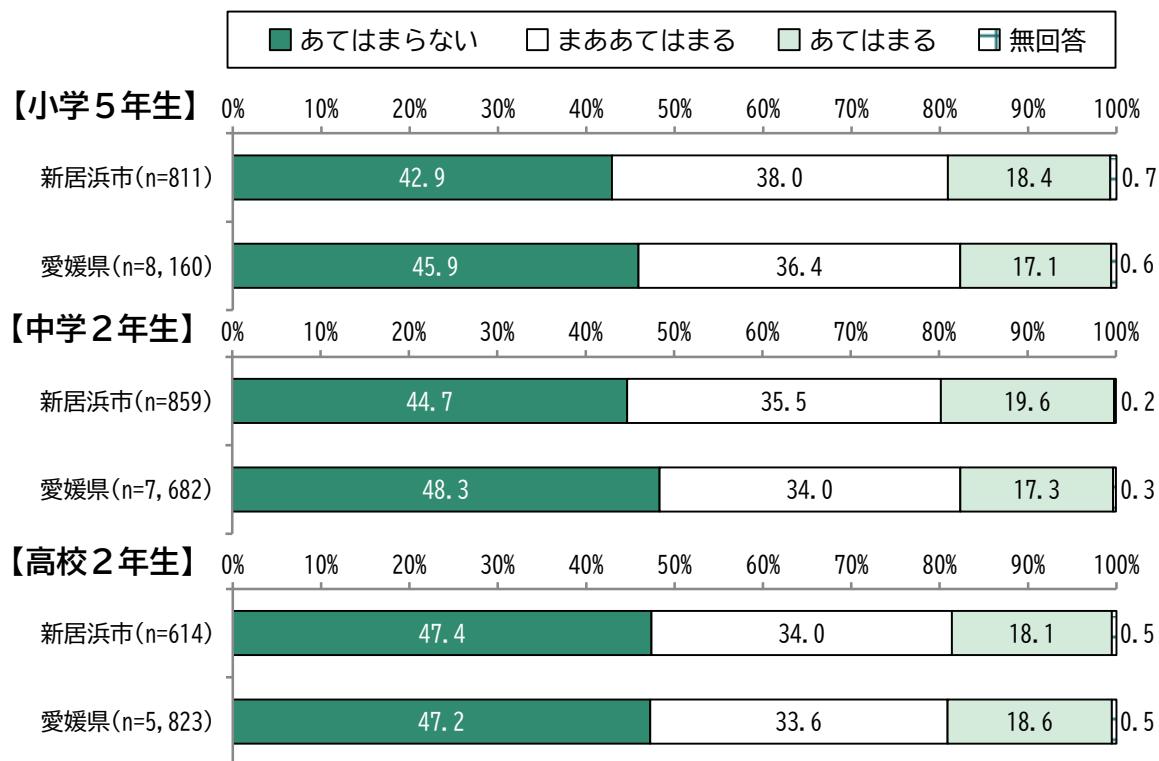


【問19～33 心理的な状態について（単数回答）】

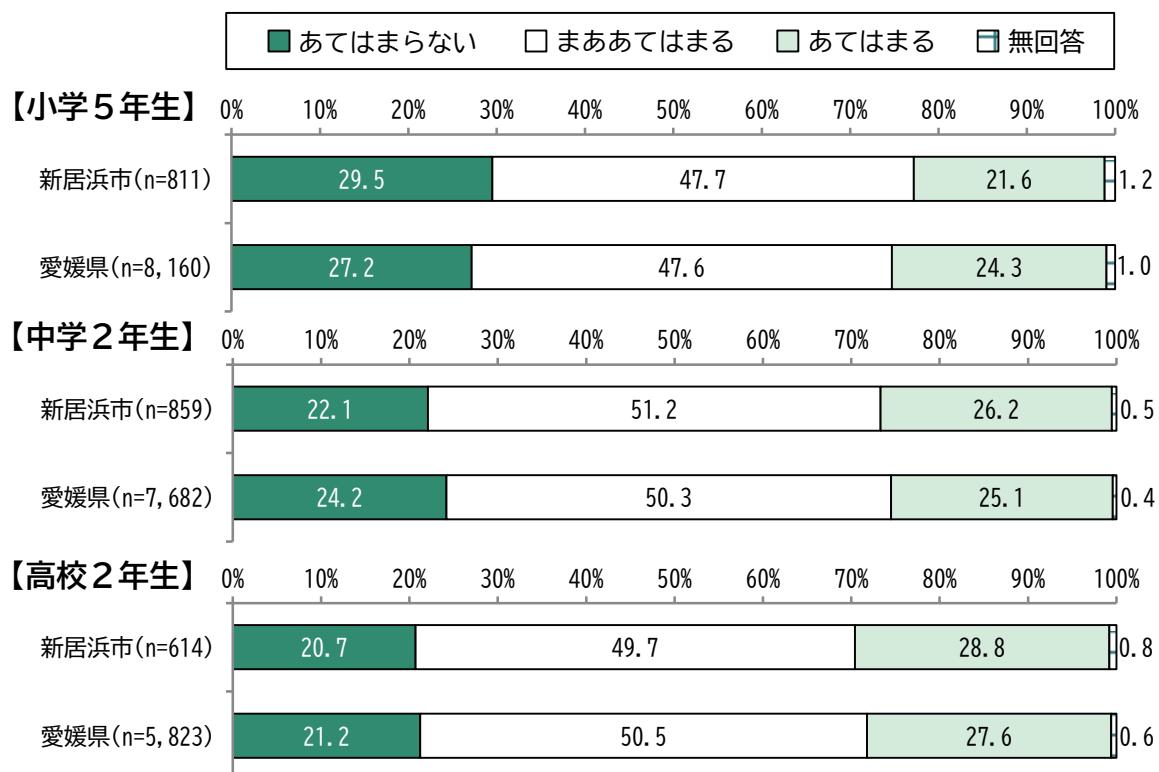
問19 (a) 私は、他人に対して親切にするようにしている。私は、他人の気持ちをよく考える



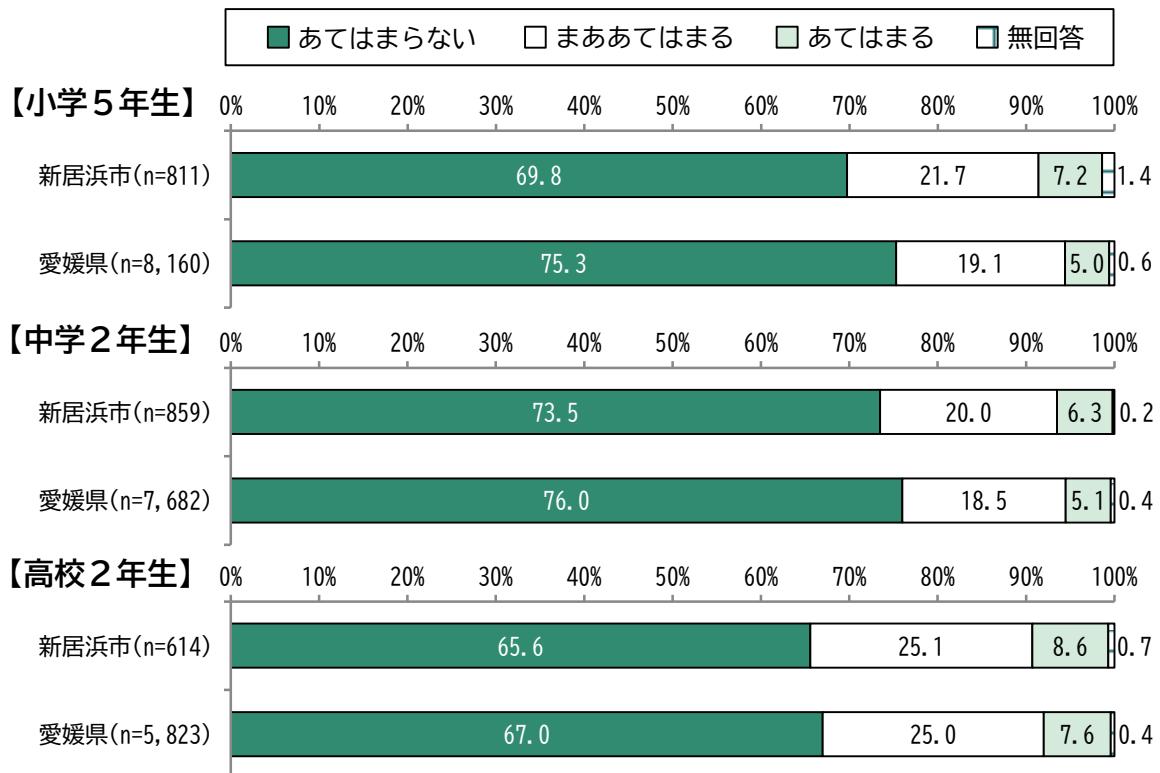
問20 (b) 私は、よく頭やお腹がいたくなったり、気持ちが悪くなったりする



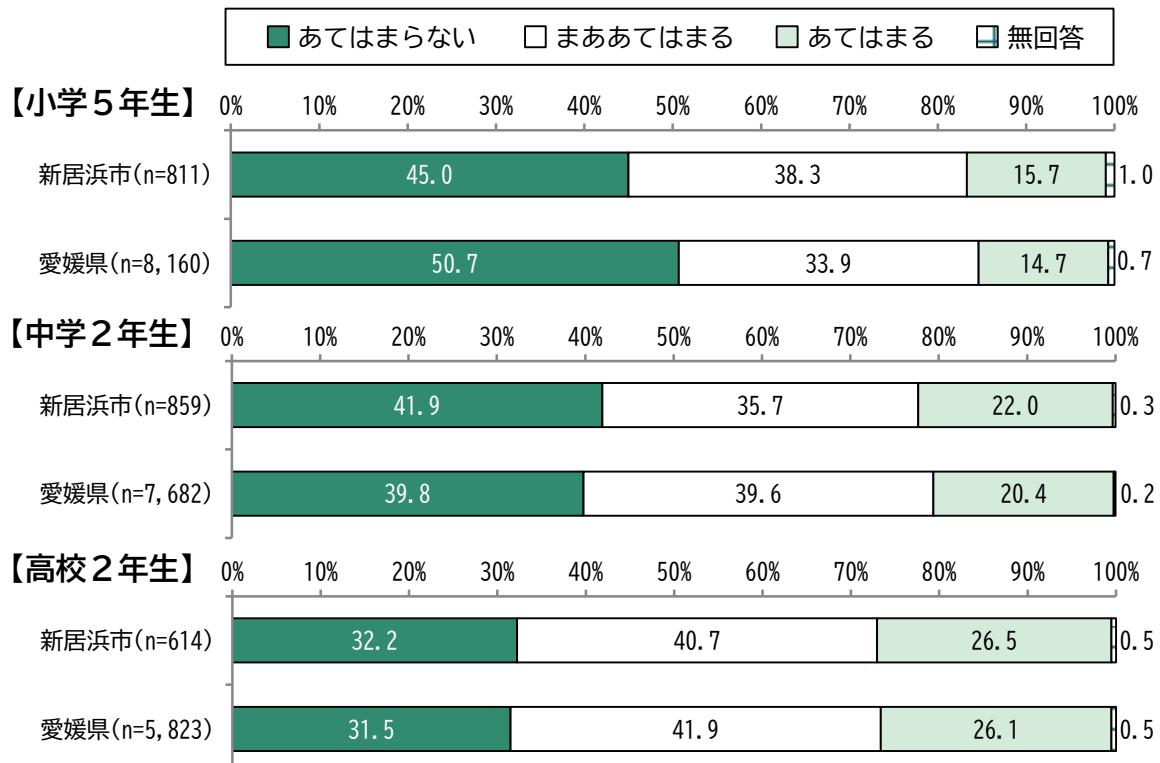
問21 (c) 私は、他の子供たちと、よく分け合う（食べ物・ゲーム・ペンなど）



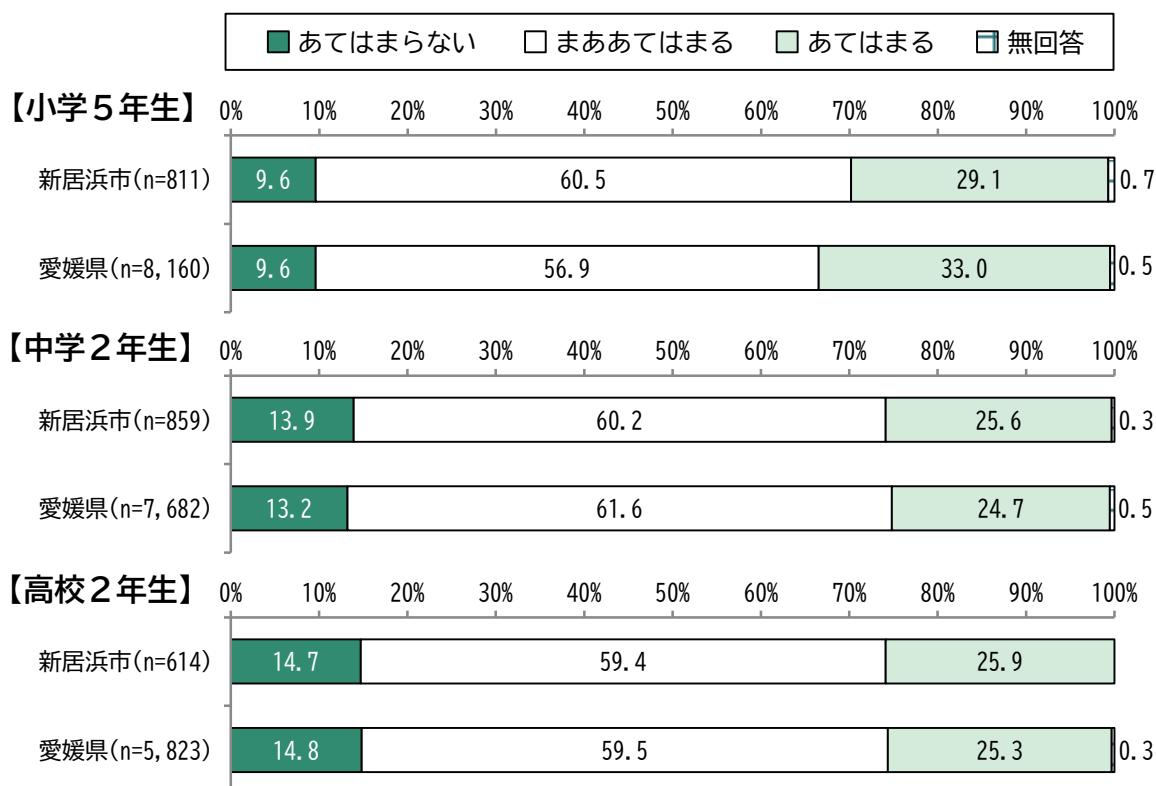
問22 (d) 私は、たいてい一人でいる。だいたいいつも一人で遊ぶか、人と付き合うことを避ける



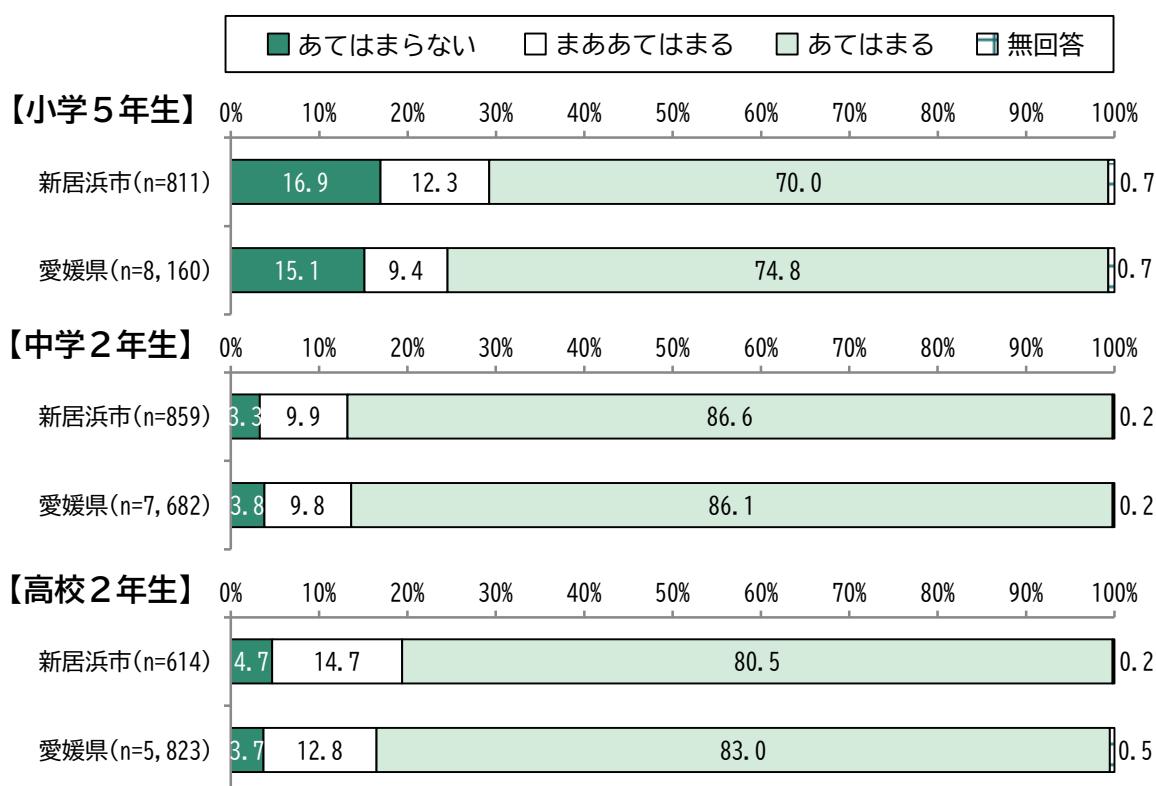
問23 (e) 私は、心配ごとが多く、いつも不安だ



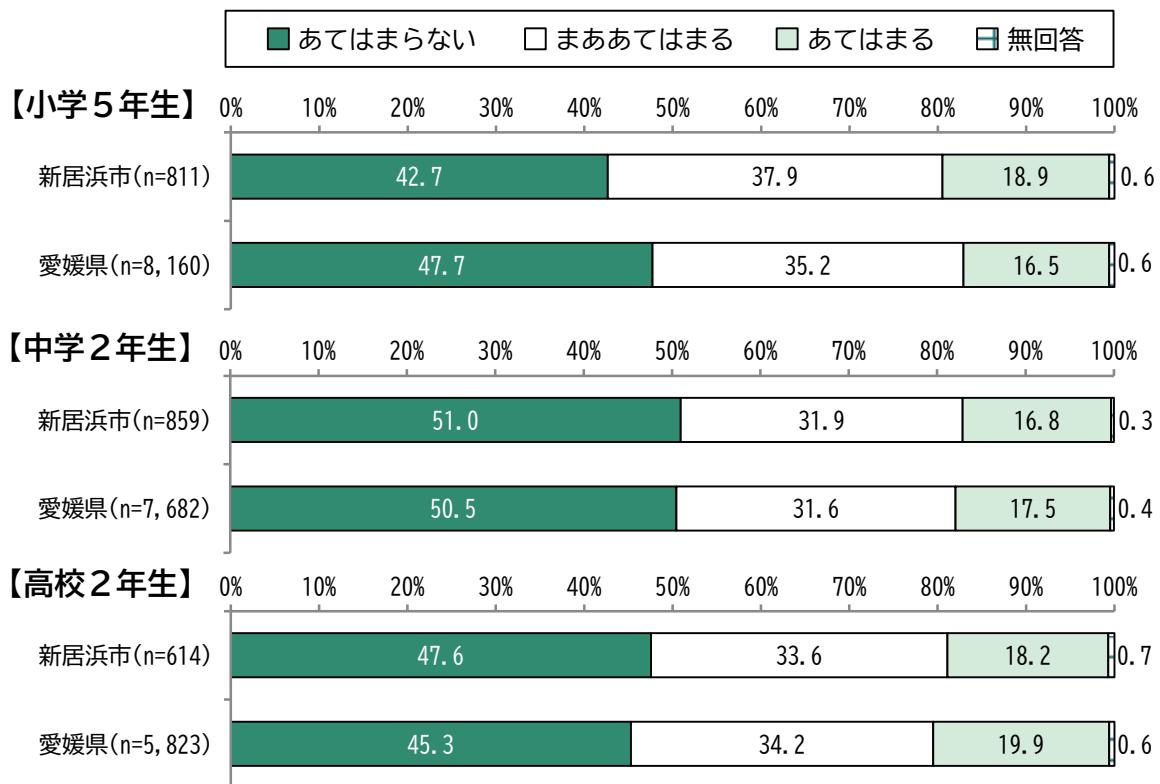
問24 (f) 私は、誰かが心を痛めていたり、落ち込んでいたり、嫌な思いをしているときなど、すすんで助ける



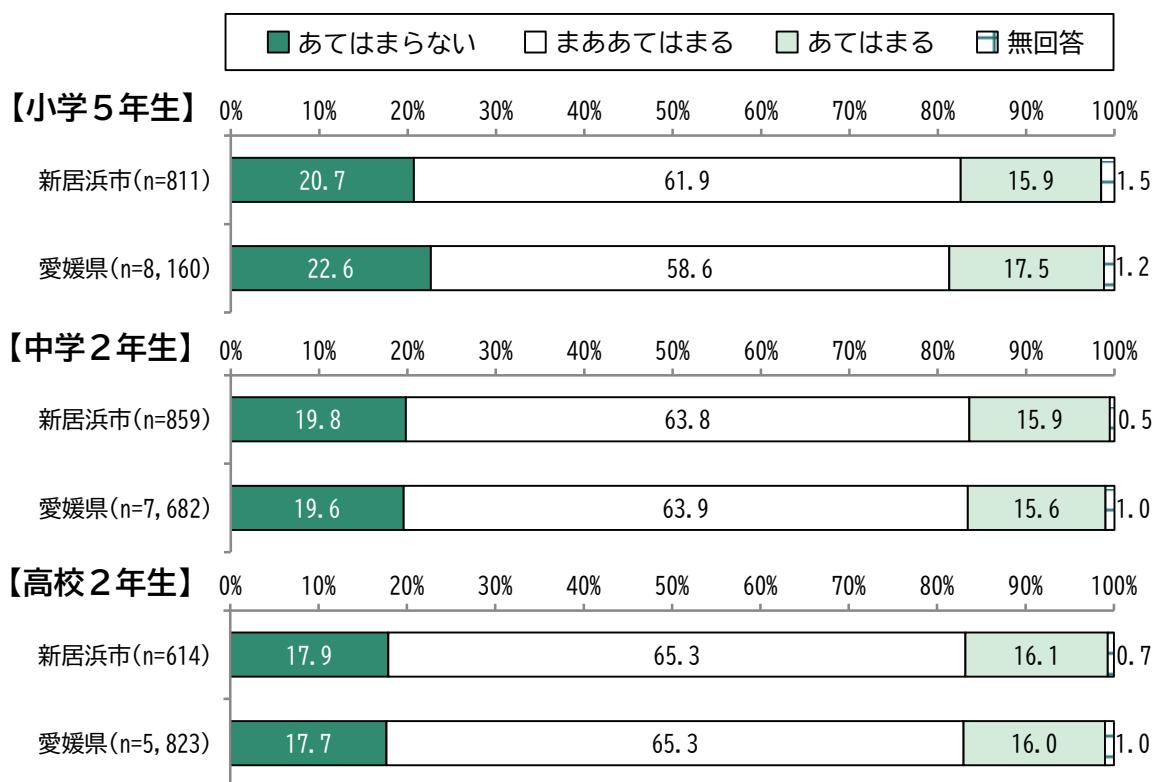
問25 (g) 私は、仲の良い友達が少なくとも一人はいる



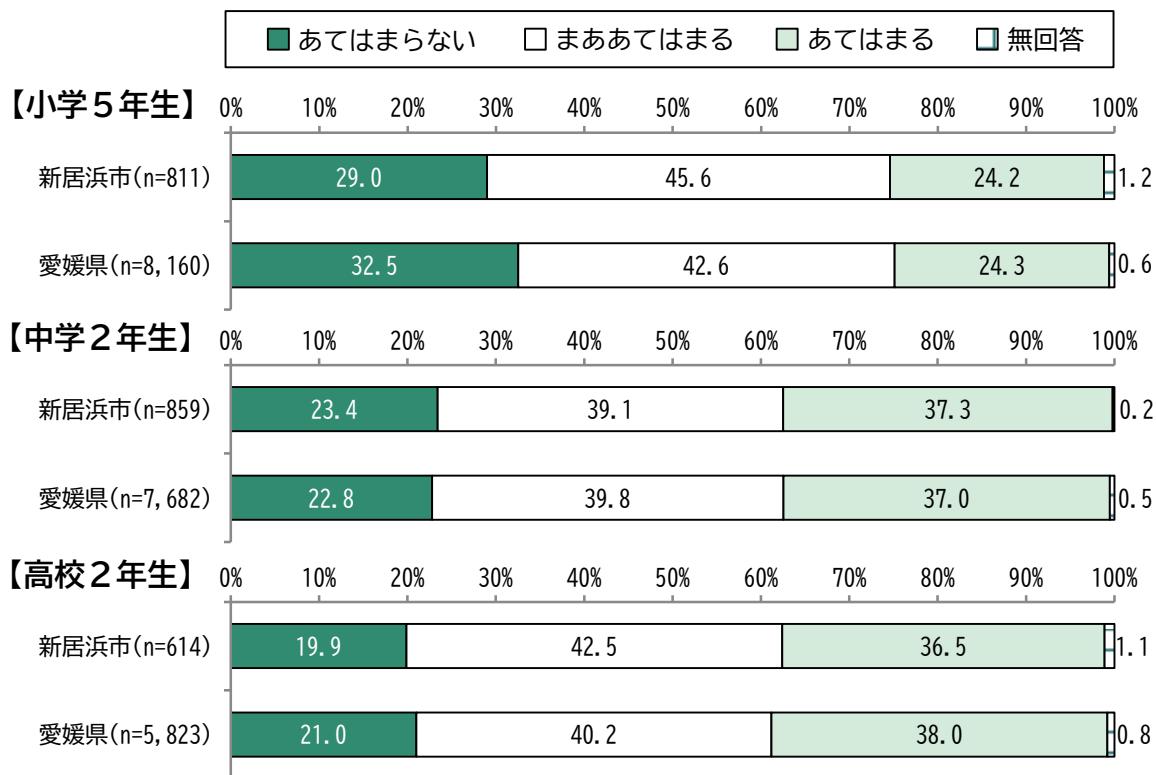
問26 (h) 私は、落ち込んでしづんでいたり、涙ぐんだりすることがよくある



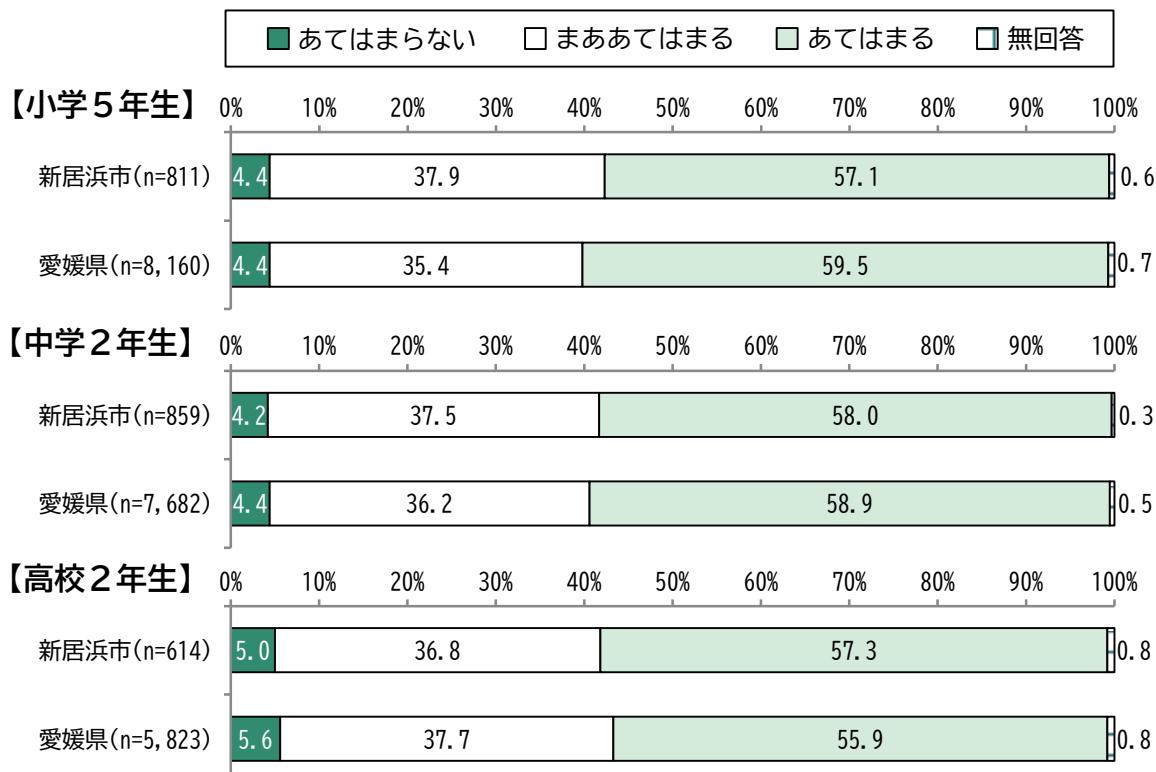
問27 (i) 私は、同じくらいの年齢の子供からは、だいたいは好かれている



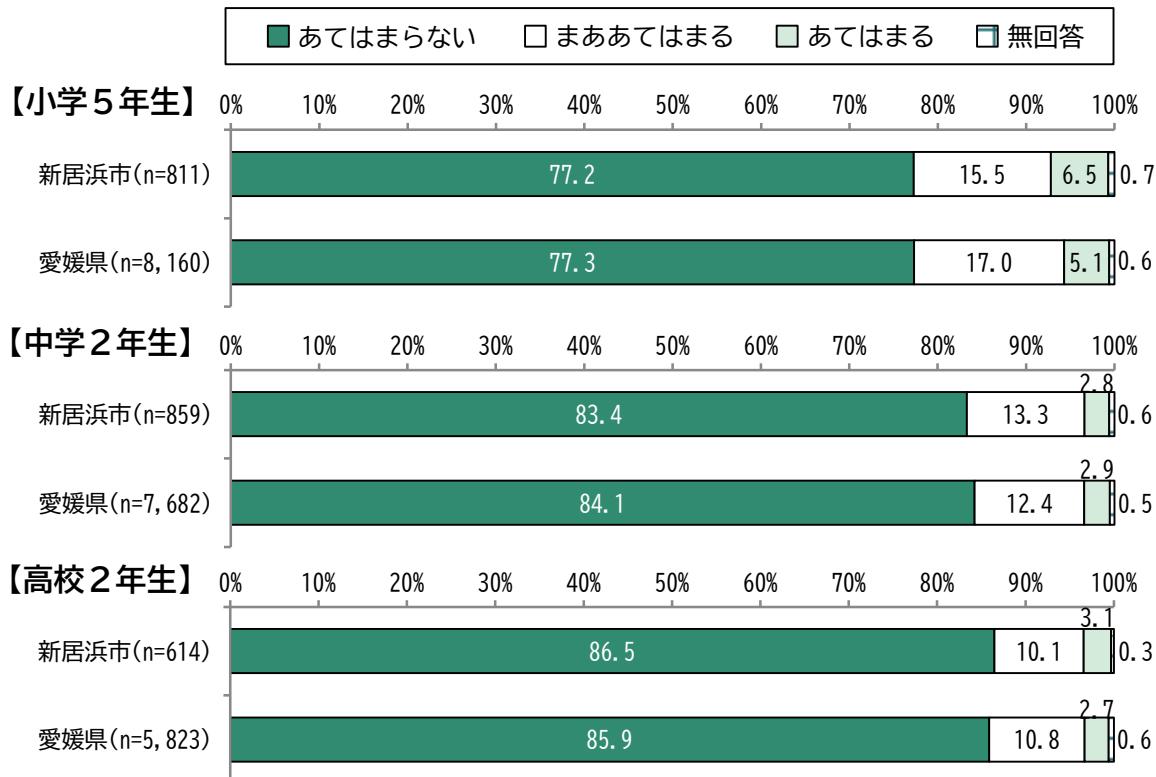
問28 (j) 私は、新しい場面に直面すると不安になり、自信をなくしやすい



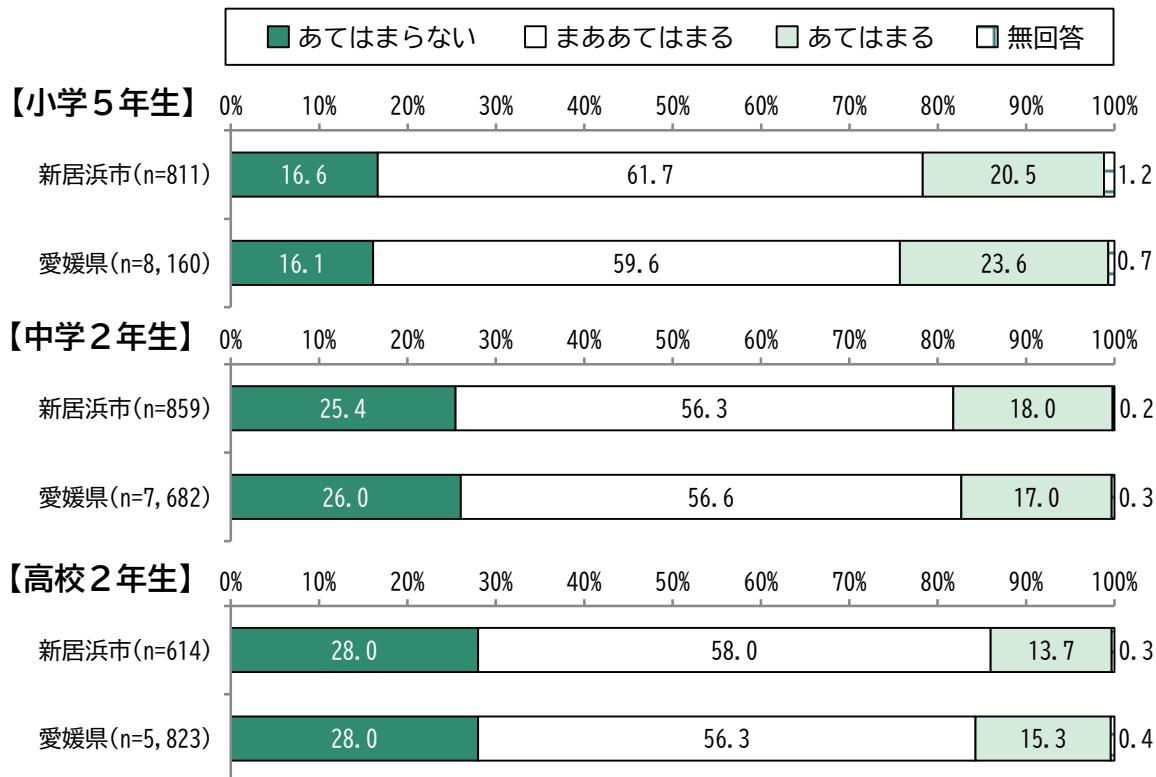
問29 (k) 私は、年下のこどもたちに対してやさしくしている



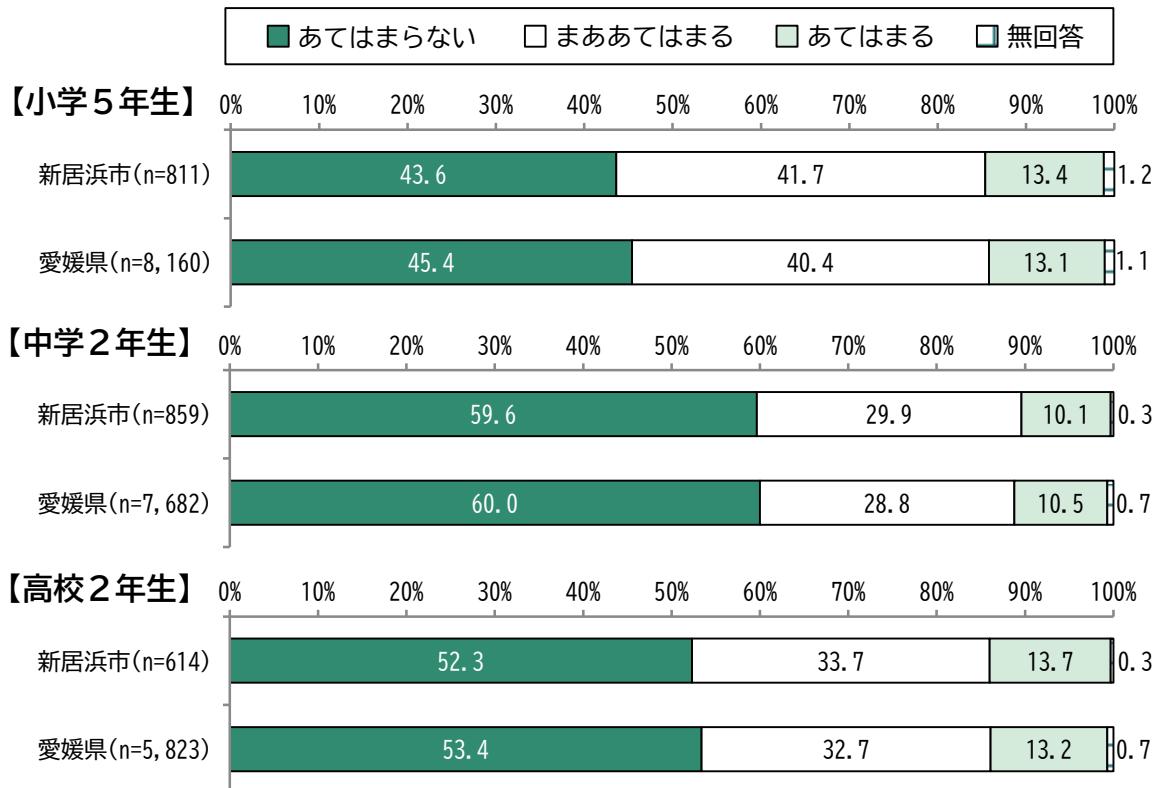
問30 (l) 私は、他のこどもから、いじめられたり、からかわれたりする



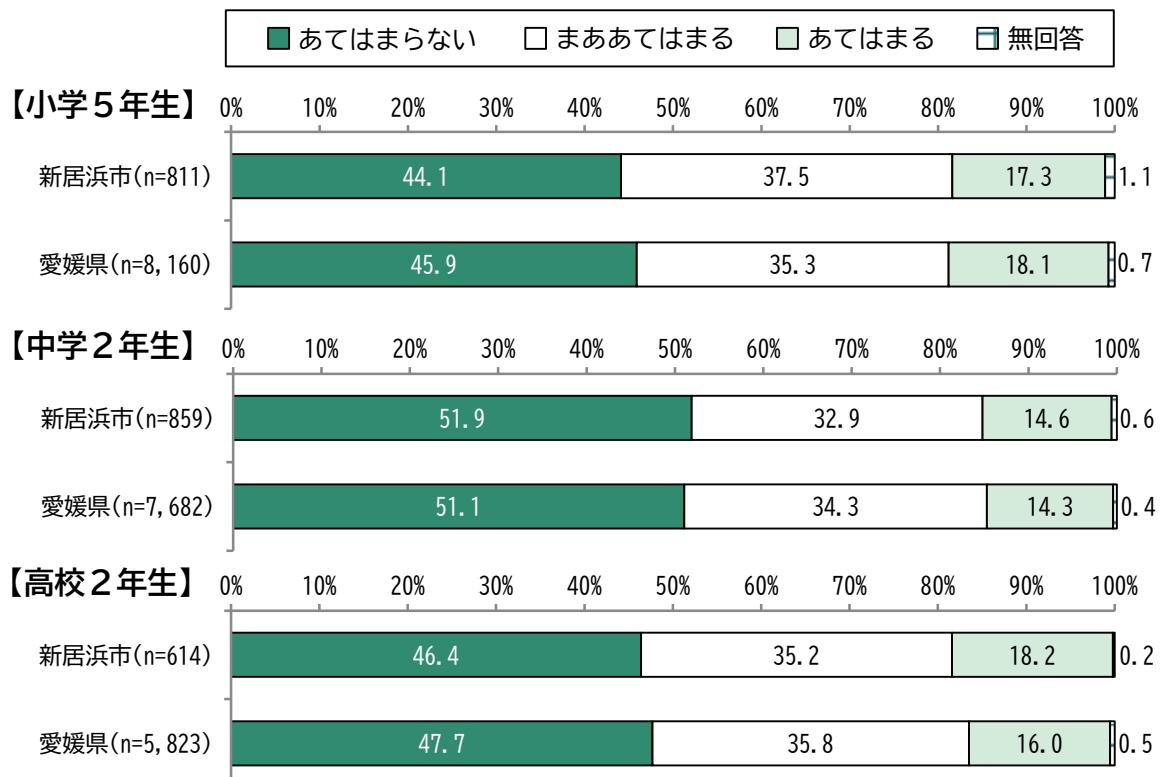
問31 (m) 私は、自分からすすんでよくお手伝いをする（親・先生・他のこどもたちなど）



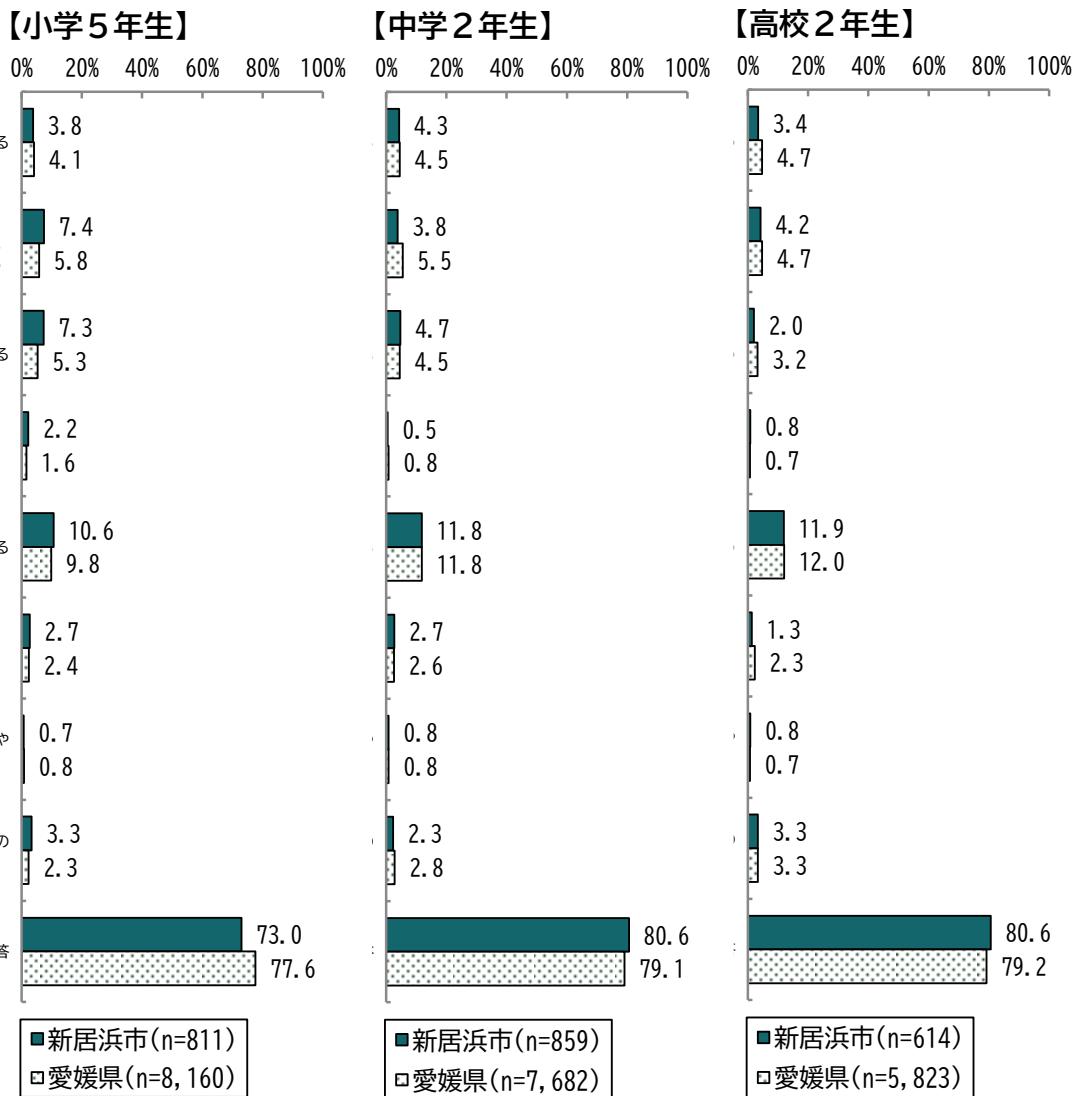
問32 (n) 私は、他のこどもたちより、大人といらる方がうまくいく



問33 (o) 私は、こわがりで、すぐにおびえたりする



【問34 家庭の中での経験など（複数回答）】



【問35～39 支援場所の利用状況と利用意向（単数回答）】

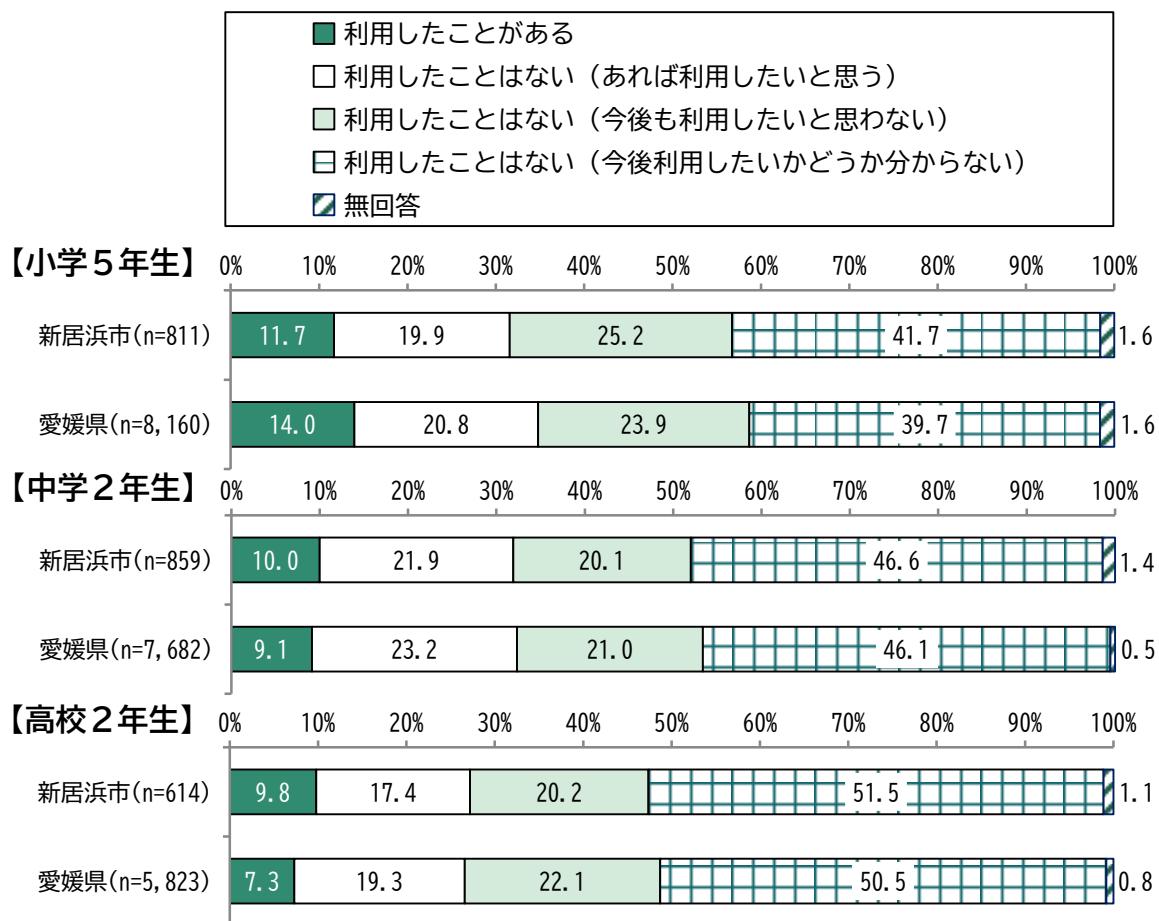
※小学5年生のみの質問

問（自分や友人の家以外で）平日の夜や休日を過ごすことができる場所（学童保育所など）

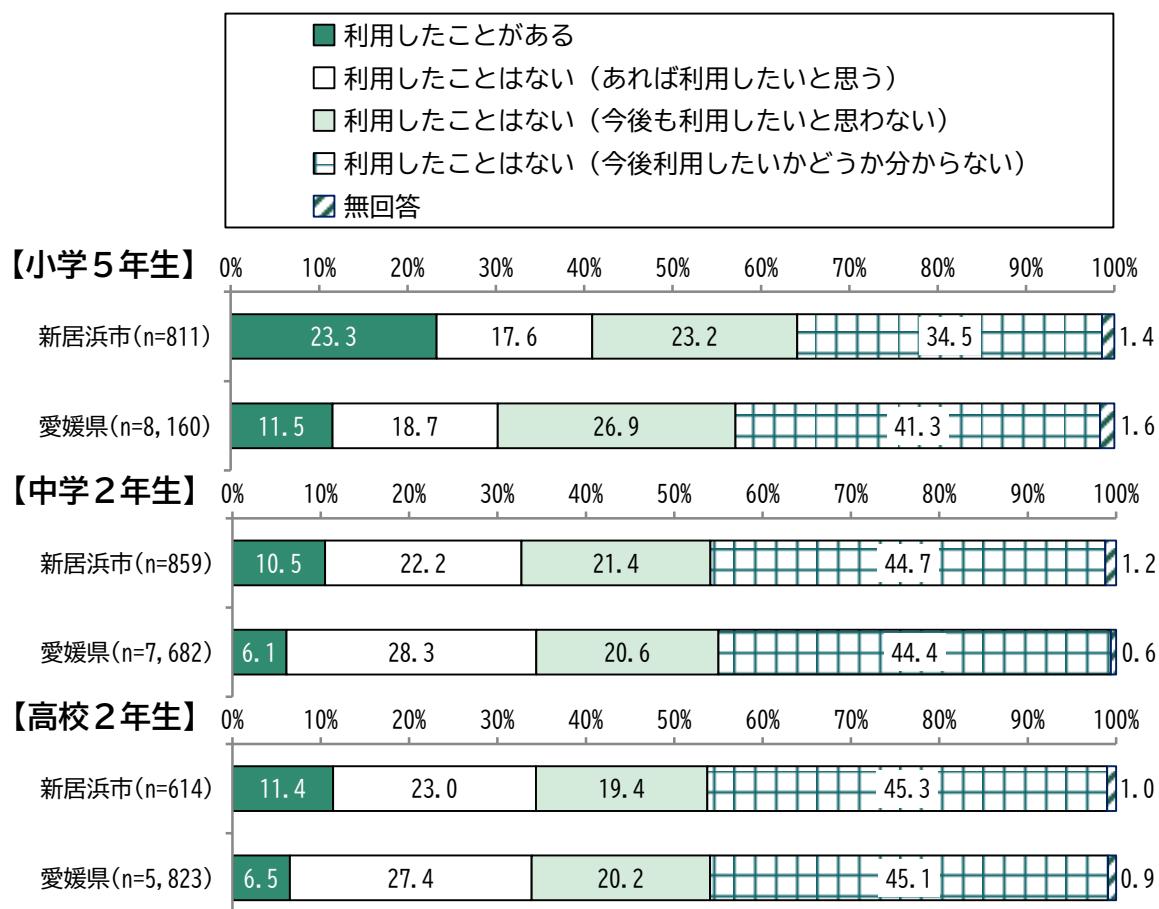
- 利用したことがある
- 利用したことはない（あれば利用したいと思う）
- 利用したことはない（今後も利用したいと思わない）
- 利用したことはない（今後利用したいかどうか分からぬ）
- 無回答



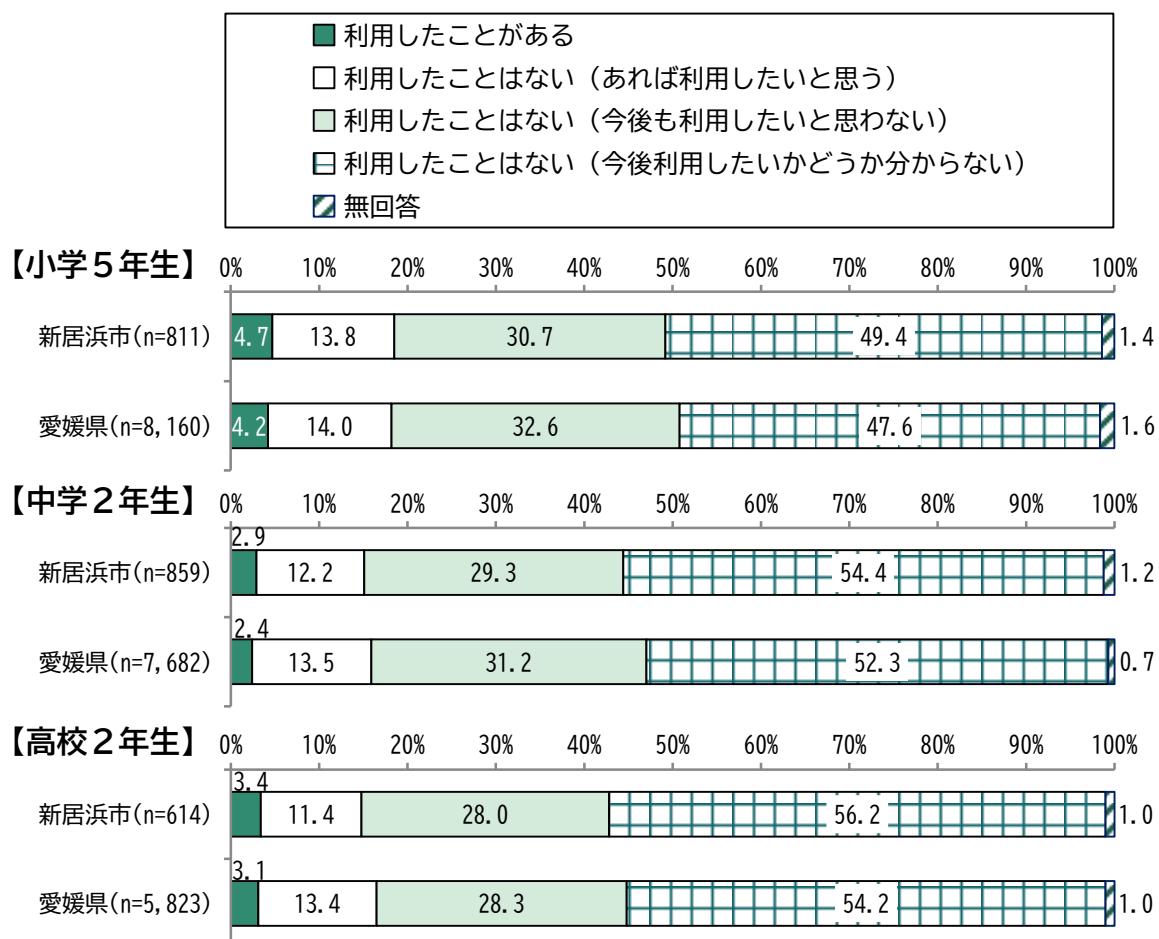
問35 (a) (自分や友人の家以外で) ごはんを無料か安く食べることができる場所



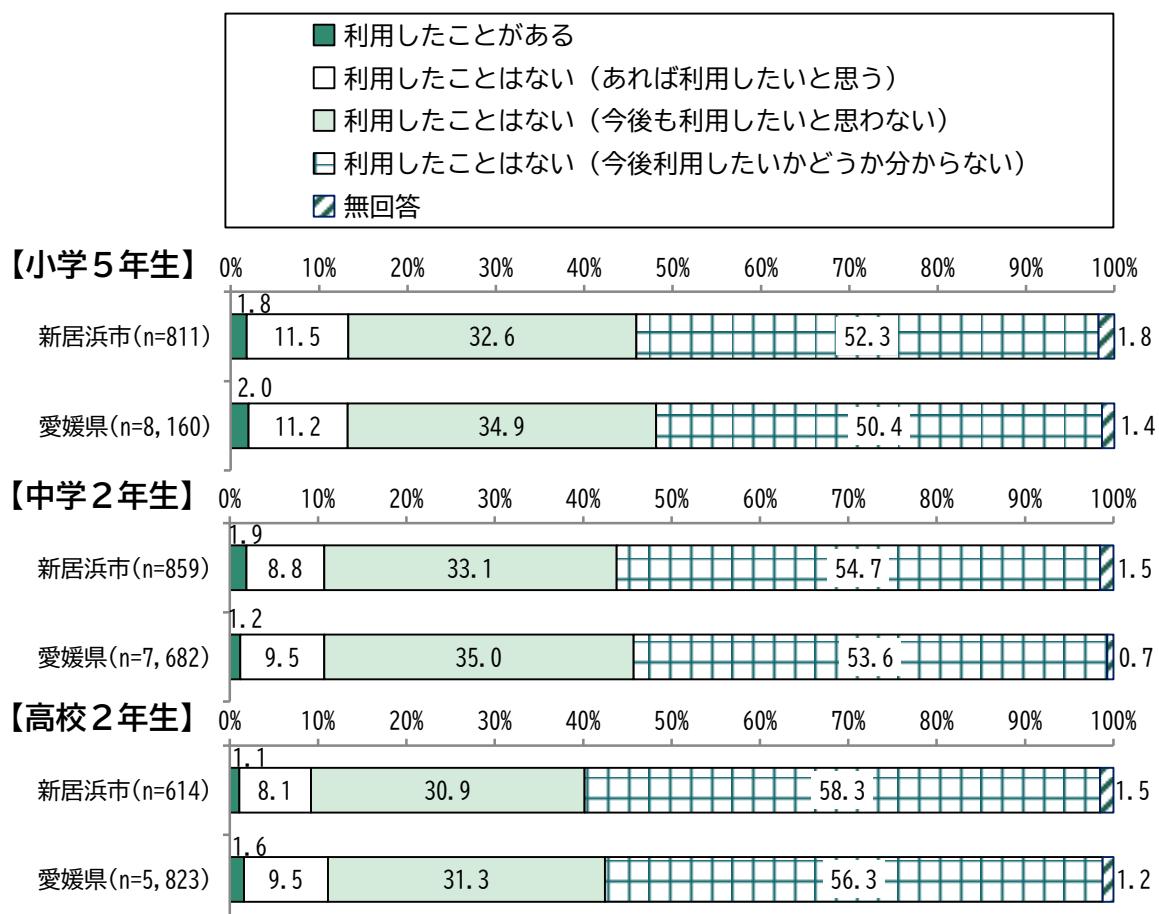
問36 (b) 勉強を無料でみてくれる場所



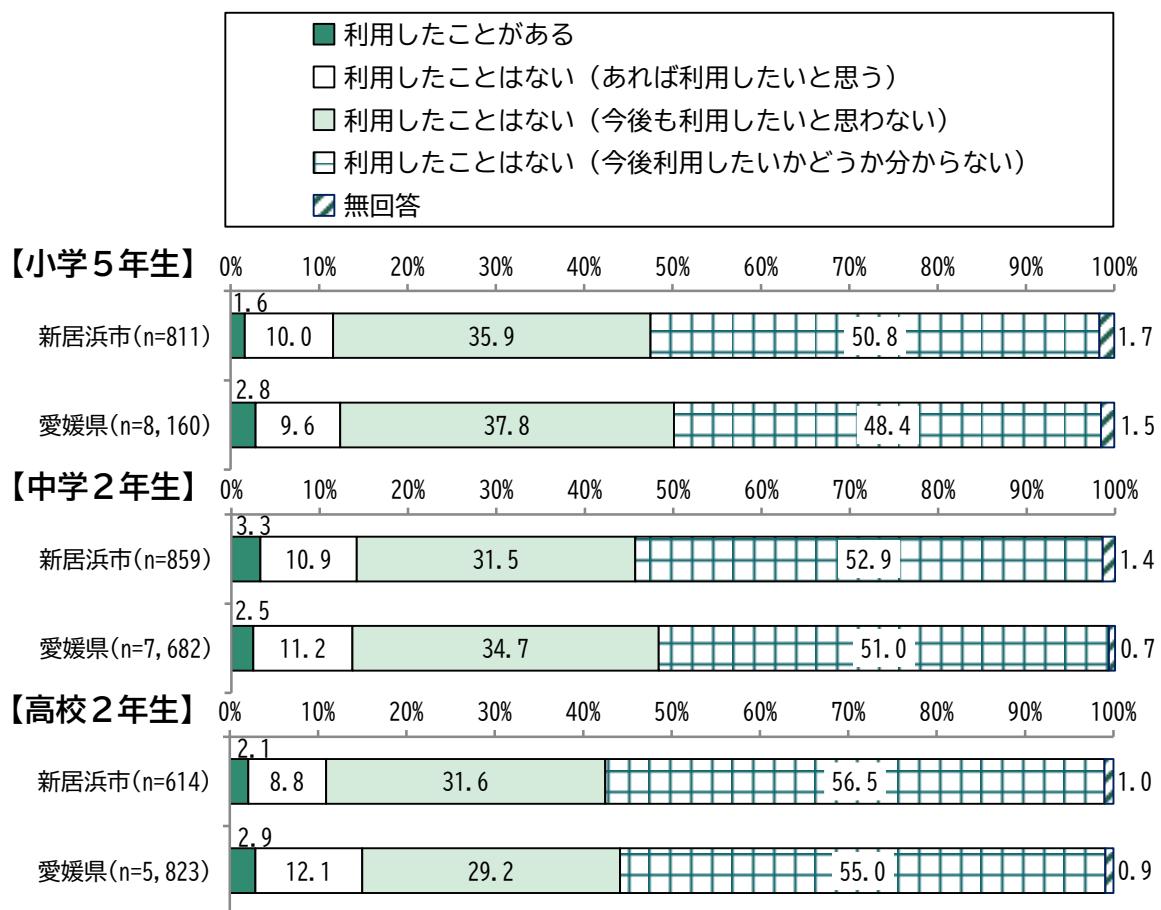
問37 (c) (家や学校以外で) 人と会って何でも相談できる場所



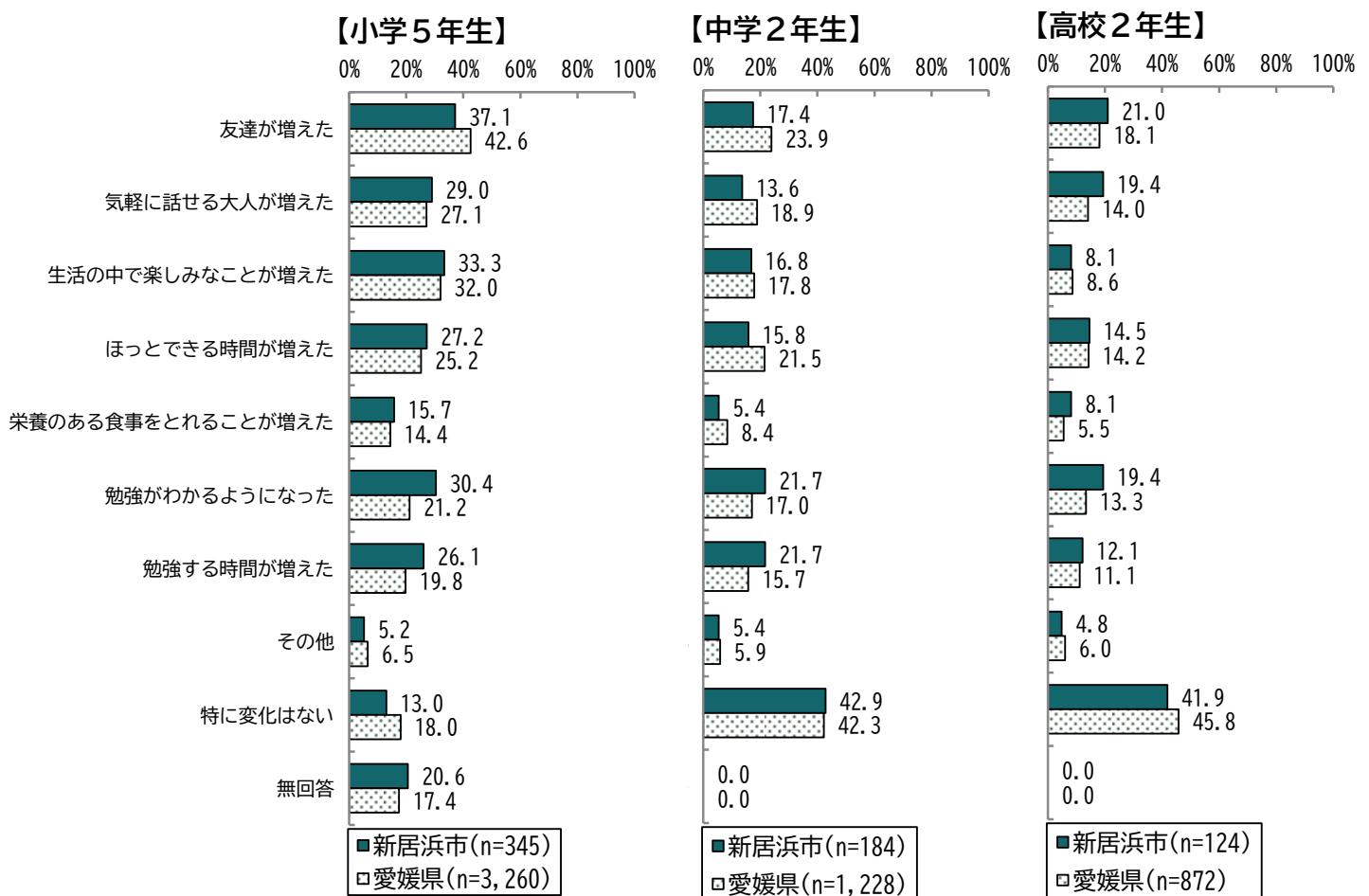
問38 (d) (家や学校以外で) 何でも電話で相談できる場所



問39 (e) (家や学校以外で) 何でもネットで相談できる場所



【問40 そこを利用したことでの変化 (複数回答)】



IV 調査結果のまとめ

1 18歳～39歳の市民

(1) 普段の生活について

- ・「①自分には自分らしさというものがあると思う」「②努力すれば希望する職業につくことができる」「⑦自分の将来について明るい希望を持っている」といった項目では、半数以上があてはまるを感じているが、年齢が上がるほど肯定的な回答が少なくなる傾向がみられます。
- ・全般的に内閣府調査と比較すると、自己肯定感がやや低い傾向となっており、子どもの頃から自尊感情や自己肯定感を育む教育や支援の充実が求められます。
- ・「⑤孤独であると感じる」は、「どちらかといえば」を含めると2割以上が孤独を感じており、子ども・若者の孤独や孤立を防ぐためには、地域において相談や支援につながりやすい環境を整えることが重要であり、教育・福祉・地域団体が連携し、顔の見える関係性を基盤とした伴奏型の支援体制を構築することが求められます。
- ・若者（18歳～39歳）の7割程度が経済面に関する不安や悩みを抱えています。悩みを相談する相手としては、家族や友人・知人にが多い一方で、「A I（ChatGPT、GoogleGeminiなど）」に相談する人が12.3%で「インターネットの相談サイト・SNSの仲間」（1.3%）を上回っており、A Iの活用が身近な相談相手として一定の定着が伺えます。
- ・相談しやすいと思う方法は、1位：SNS・インターネット（43.0%）、2位：対面（42.2%）であり、両者の差は僅かです。3位：A I、4位：電話、5位：メールの順で、インターネットやA Iの需要が高いですが、対面や電話といった従来からの手法も一定の需要があります。相談したい時間帯として最も多く選ばれた選択肢は土・日・祝日を望む人が多くなってはいますが、休日・平日共に幅広い時間帯でニーズが見られます。特定の時間帯に集中しているというより、生活スタイルや働き方に応じて「時間」「方法」ともに多様化していることがわかります。
- ・自分にとって居場所といえるところについては、内閣府調査と比較すると「⑤地域（図書館や公民館、公園など、現在住んでいる場所やそこにある建物）」の割合が低くなっています。また、家庭、学校、職場以外に「行ってみたい場所」として、「一人で過ごせたり、何もせずのんびりできるところ」「好きなことをして自由に過ごせるところ」「いつでも行きたい時に行けるところ」が過半数を占めており、地域の中で若者が気軽に歩いて、気を使うことなく過ごせるような空間が少ないことが伺えます。

(2) 交際・恋愛・結婚に関する考え方について

- ・恋愛に関する考え方について、愛媛県調査と比べると恋愛や結婚には積極的・肯定的と考えられます。出会いの機会であるとよいと思うものについても、「特にない」との回答は愛媛県調査の半数で、紹介、マッチングアプリ、合コンやパーティー、SNS、婚活サイトなど、出会いにあらゆるツールを活用することに肯定的な気質がみてとれます。
- ・結婚や同棲について、結婚肯定派は43.3%、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」は44.9%となっており、女性の方が「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要で

「はない」と考える人が多く過半数となっています。愛媛県調査と比較すると、本市では結婚を肯定的に捕らえる人の割合が高く、「結婚・同棲・恋人はいずれも、必ずしも必要ではない」と考える人の割合は相対的に低い傾向があります。

- ・結婚生活における不安は「お金」に関するものが6割を占めており、若者（18歳～39歳）が結婚に踏み切りにくい要因の1つとなっていると考えられます。親としてこどもに伝えたいことについても「将来を考えてお金を管理することは大切だ」が愛媛県調査より多くなっています。
- ・結婚していない理由は「適当な相手にまだ巡り会わないから」が最も多く、次いで「経済的に余裕がないから」「結婚するにはまだ若すぎるから」「今は趣味や娯楽を楽しみたいから」「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」「結婚する必要性を感じないから」と続いています。経済的要因も一定の影響をもつものの、結婚に対する意識そのものが低いというよりも、出会いの機会の不足やライフスタイル・価値観の多様化が背景にあることが伺えます。結婚観や家族観が多様化する中で、出会いの機会の創出とともに、一人ひとりが生きやすい環境整備を検討していく必要があります。

（3）出産や子育てに関する考え方について

- ・希望することの数と実際のことの数は、実際のことの数より理想とすることの数の方が多く、こどもを産みたくても産めない社会環境がみてとれます。愛媛県調査と比べると、理想とすることの数は「2人」が本市47.1%、愛媛県調査42.0%、「3人」が本市31.3%、愛媛県調査16.0%と本市の方が理想とすることの数が多くなっています。
- ・理想の数までこどもを持たない理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「収入（所得）が増加しないから」が多く、結婚と同様に経済的な不安が出産を妨げる要因の1つとなっていると考えられます。
- ・子育てにかかる経済的な負担として大きな項目は「学校教育費」「学習塾・スポーツクラブなどの習い事の費用」「保育にかかる費用」「食費」がいずれも半数以上を占めています。
- ・少子化対策として市に望む支援について、「出産した世帯への現金給付」「子育てしやすい環境の整備」「教育費に対する支援」が半数以上を占めています。

（4）若者の意見の反映について

- ・国では、すべてのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現に向けて、こども・若者の意見を聴き政策に反映する取り組みが推進されています。本市のアンケート調査では、若者（18歳～39歳）の51.1%が市に対して自分の意見を伝えたり、その意見の実現に向けて参画したいと回答している一方で、48.4%が意見を伝えたり参画したいと思わないと回答しています。
- ・自分の希望や思いを市に伝えやすいと思う方法では、「スマートフォン、タブレットやパソコンを使った方法」が84.0%で最も多く、対面での話し合いよりオンライン上での意見募集・意見交換の形式が多く望まれています。
- ・主に子育て支援や少子化対策について、市の施策に対して自身の意見が反映されている実感がある若者（18歳～39歳）は1割程度で、多くの若者は自分の意見が政策に反映されている実感がないと回答しています。こども・若者の意見聴取に向けた取組を進めていくためには、①

対話の場やアンケートを通じて意見を聴取すること、②こども・若者の最善の利益を考慮し、意見をどのように反映するか検討すること、③どのように反映されたか、反映されなかった場合なぜなのか、こども・若者にフィードバックすることが重要です。1回の取組で終わらせるだけでなく、様々な手法や場面で意見を聴く取組を繰り返す中で政策の質を高め、こども・若者が更に意見を表明したくなる好循環をつくることが求められます。

(5) これからの生活について

- ・現在の生活の満足度は、若者（18歳～39歳）の中で年齢が上がるほど満足度が低くなる傾向がみられます。これは全国的にも共通する傾向であり、就労・家庭・経済的責任の増大などが影響していると考えられます。
- ・本市に「今後も住み続けたい」と回答した人は68.2%に上り、多くの市民が新居浜での生活に一定の愛着や満足を感じていることがうかがえます。特に、「ややそう思う」（47.3%）が最も多く、強い定住傾向というよりも、“現状には概ね満足している”という穏やかな支持層を中心であると考えられます。
- ・25歳～39歳では「市外で生まれ、新居浜市に引っ越してきた」人が4割程度と、子育て世代で市外から新居浜市に転入してきた人が多くなっています。一方で、今後も新居浜市に住み続けたいと思わない人が、20歳～34歳では3割を超えており、将来的な転出の可能性を感じている点は注視すべきです。
- ・新居浜市に住み続けたい理由は「親や親せきが住んでいるから」「友人が多く住んでいるから」「住みやすく心地よいまちだから」が多く、人とのつながりや生活のしやすさが主な原因になっています。一方で、市外に住みたい理由は「住むのに不便だから」「働きたい会社（働く場所）がないから」が多く、生活の利便性や就業機会の不足が課題となっています。全体としては、定住意向が多数を占めつつも、必ずしも強固な“地元志向”に基づくものではなく、生活環境や将来見通しによって変動しうる層が多いことが示唆されます。
- ・新居浜市の情報を知る手段は「市政だより」「SNS」が多く、若者世代にも依然として市広報紙の情報は重視されています。
- ・自身の生活がこれから先「悪くなっていく」と考える人は男性の方が多く、年齢が上がるほどその傾向が強まっています。
- ・自由記述では「経済的支援」「子育て・就労支援」「地域活動・まちづくり」に関する意見が多く、若者の関心は生活の安定と地域のつながりに集中しています。生活基盤の支援と地域コミュニティの強化が求められています。

2 こども（愛媛県調査との比較）

(1) 保護者：子どもとの関わり方

- ・「お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」については、愛媛県調査と比べると、本市の方がこどもとコミュニケーションをとれている割合が高くなっています。一方で、「PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加」については参加状

況が低くなっていることから、子どもに関わる地域活動への参加を一層働きかける必要があります。

(2) 保護者：現在の暮らしの状況

- ・現在の暮らしの状況は、愛媛県調査と同様に「ゆとりがある」と回答した人は少ないものの、世帯年収は全般的に愛媛県調査より高い水準にあります。過去1年に「家族が必要とする食料、衣服が買えなかった」ことや、「公共料金が未払いになった」と回答した割合も愛媛県調査より少ないとから、生活困難世帯は比較的少ないと考えられます。

(3) こども：授業以外の勉強

- ・学校がある日の勉強時間は、小学5年生、中学2年生ともに愛媛県調査より多い一方で、学校がない日の高校2年生の勉強時間は、愛媛県調査より少なくなっています。

(4) こども：予定進路

- ・子どもの予定（希望）進路は、小学5年生、中学2年生、高校2年生のいずれも愛媛県調査と比べて「大学」を希望する割合が愛媛県調査より少なく、「高校」を希望する割合が多くなっています。

(5) こども：学外活動への参加

- ・学外の地域のスポーツクラブや文化クラブへの参加状況は、小学5年生、中学2年生、高校2年生のいずれも愛媛県調査より少なく、保護者同様に地域活動との関わりが少ない結果となっています。
- ・学校の部活動への参加については、小学校5年生では、愛媛県調査より多く、約8割が何らかの部活動に参加しています。

(6) こども：食事の頻度

- ・朝食を食べる頻度は、小学5年生、中学2年生、高校2年生のいずれも愛媛県調査より低く、昼食や長期休業期間（夏休みや冬休みなど）の期間の昼食でも愛媛県調査よりわずかに頻度が低くなっています。子ども・保護者双方に対し1日3食規則正しく食事を摂ることの重要性について、普及啓発を一層進める必要があります。

(7) こども：支援場所の利用状況と利用意向

- ・勉強を無料でみてくれる場所は、小学5年生で利用したことがある割合が2割程度と愛媛県調査の2倍の利用率となっています。中学2年生、高校2年生も愛媛県調査の利用率を上回っており、利用したことで「勉強がわかるようになった」「勉強する時間が増えた」と回答した割合も高くなっています。

(8) まとめ

- ・本市の子どもたちは、学校内での活動や家庭内の学習には一定の成果が見られる一方で、学校外の地域活動や食生活に課題が見られます。学習支援や生活習慣、地域との関わりを支える仕組みを整備し、学ぶ・育つ・つながる環境を地域全体で取り組むことが大切です。